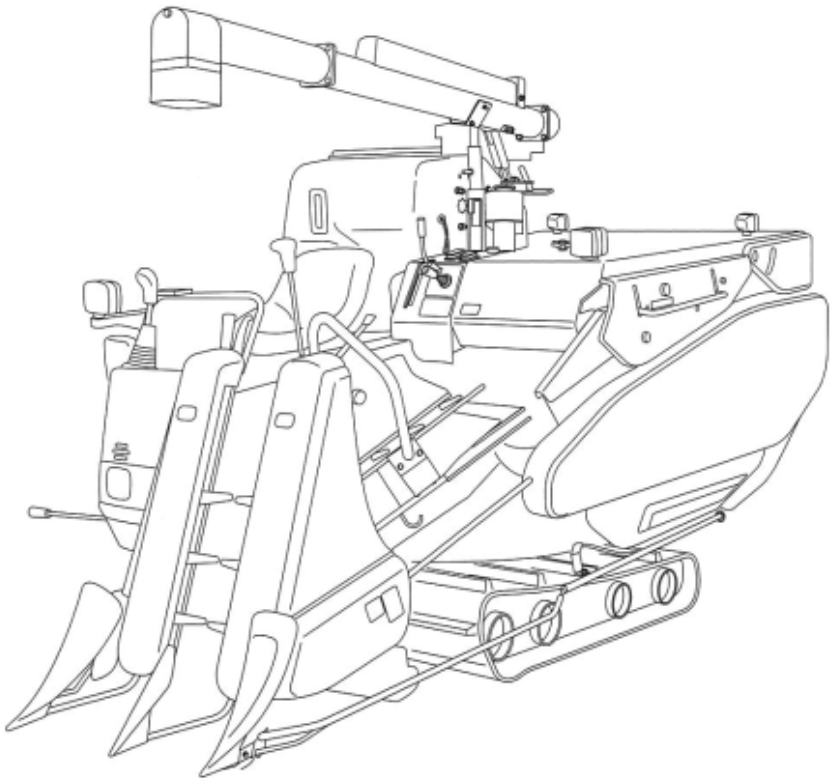
コンバイン

取扱説明書

VMB215



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

コンバイン重要ポイント

1.カッタや回転部の掃除は、

必ずエンジンを止めてから行います。

---

2. 手こぎのときは、停車し、駐車ブレーキをかけ

手や袖口がフィードチェンに触れないようにします。

---

3. ほ場への出入りや、積み・降ろしするときは、

スピードを落とし、周囲の状況を確かめて行います。

---

4. コンバインや作業機を点検調整するときは、

必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、刈取ロックをします。

---

5. 補助者と共同作業を行うときは、

ホーンで合図をし、周囲の安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を ⚠ を付して説明のつどとり上げております。
よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

重要なお知らせ

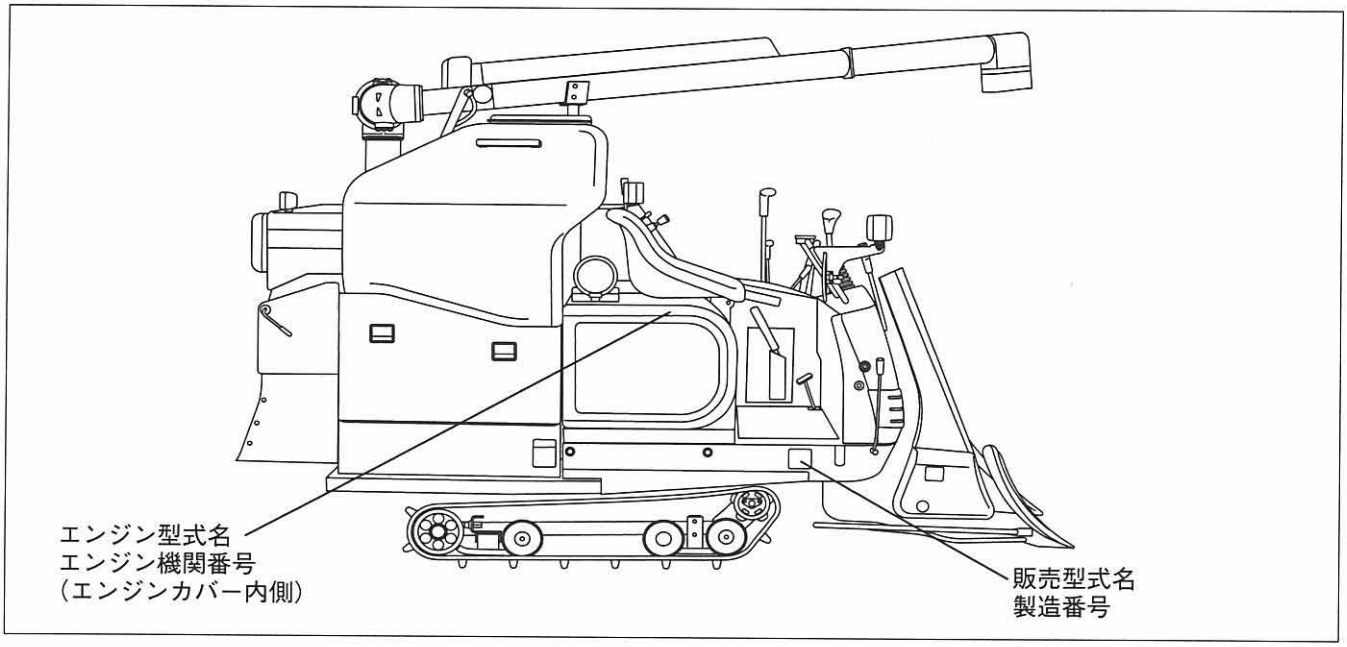
- このたびは、三菱コンバインをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、稲、麦の収穫作業機として使用してください。
  改造や使用目的以外の作業はしないでください。
  改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
  （詳細は保証書をご覧ください。）
- 三菱農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、三菱コンバイン（以降コンバインと記す）を改造したり、あるいは、運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- このコンバインの取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記事事項やコンバインに表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
  よって、コンバインの操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載およびコンバイン本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- コンバインの性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかんによることも、また看過できません。
- コンバインは、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。このコンバインを国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外のコンバインの使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業は行わないでください。
- 本コンバインを譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をコンバインに添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容はコンバインの改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本コンバインとこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買い上げ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買い上げ先」へお問い合わせください。

型式と装備内容について

■商品の使用にあたって

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分のコンバインについて併記してあります。
お買い上げいただきました、コンバインの型式・区分を機体に貼付してあります銘板で確認され、該当する部分をお読みください。

■銘板の位置



HVB-0301

■装備内容

仕　様　内　容		型式区分
穀粒タンク（排出）	ホッパ	―
	手動のびーるオーガ	G型
	電動のびーるオーガ	GZ型
本機装置	こぎ深さ自動制御装置	K・A型
	リフトシャット	A型
	方向自動制御装置	A型
	マルチステアリング	K・A型
	刈取スライド	K・A型
	集中注油	K・A型
	レセルダマチック	K・A型
	操舵微調整（ジャストディレクタ）	A型
クローラ	標準	―
	低接地圧型ロングクローラ	Y型
作業機	標準カッタ	C型
	短寸切カッタ	CB型

警告表示について

本コンバインを正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。
また、コンバインで危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

⚠ 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。
注意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

⚠	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 （右図の場合は爆発注意）	（例）
⊘	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。 （右図の場合は火気厳禁）	（例）
❗	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。 （右図の場合はメガネ着用）	（例） （メガネ着用）

目　次

重要なお知らせ……i
型式と装備内容について……ii
警告表示について……iii
目次……iv

1. 使用上のポイント

1.1　使用上のご注意……1
1.1.1　運転者の条件……1
1.1.2　作業をする前に……2
1.1.3　走行する場合には……4
1.1.4　運搬時の注意事項……6
1.1.5　作業中は……7
1.1.6　作業後は……9
1.1.7　定期点検・整備について……9
1.1.8　電気配線点検時の注意事項…12
1.1.9　格納・保管時は……13
1.1.10　バッテリ取り扱い時の注意事項……14
1.1.11　ブースタケーブル使用時の注意事項……15
1.2　公道走行とナンバープレートについて…16
1.2.1　運転免許証の携帯……16
1.2.2　小型特殊自動車……16
1.2.3　市町村役場への届出と標識（ナンバープレート）の取り付け…17
1.2.4　保険について……17
1.2.5　点検整備……17
1.3　警告ラベルについて……18
1.4　警告ラベル貼付箇所……19

2. 保証とサービスについて

2.1　商品の保証……26
2.2　サービスネット……26

3. 各部の名称とはたらき

3.1　各部の名称……27
3.1.1　全体（ＧＺ型）……27
3.1.2　全体（ホッパ型）……28
3.1.3　レバー・ペダル関係……29
3.1.4　レバー・ノブ関係……30
3.1.5　スイッチ関係……31
3.1.6　コンビネーションメータ……33

4. 作業前点検

4.1　運転席にすわる前に……34
4.2　運転席でメインスイッチを「入」にして…36

5. 運転のしかた

5.1　運転席の調節のしかた……37
5.2　エンジン始動と停止のしかた……37
5.2.1　エンジン始動のしかた……38
5.2.2　エンジン停止のしかた……39
5.2.3　燃料のエアー抜きのしかた…39
5.3　走行のしかた……40
5.3.1　マルチステアリングレバーの使いかた……41
5.3.2　走行のしかた……42
5.3.3　停車・駐車のしかた……44
5.3.4　駐車ブレーキの解除のしかた45
5.4　自動車等への積み・降ろしのしかた……46

6. 作業前の準備

6.1　コンバイン作業ができる作物とほ場……49
6.1.1　作物の条件……49
6.1.2　ほ場の条件……49
6.2　コンバインの準備……50
6.2.1　ナローガイドの準備……50
6.2.2　グレンタンクの準備（G型、GZ型）……50
6.2.3　オーガ受けの準備（G型、GZ型）……51
6.2.4　ホッパの準備（ホッパ型）…52
6.3　作業前の注油……53
6.4　ほ場での準備……54
6.4.1　四すみの手刈り……54

7. 作業前に必要な調節

7.1 フィン角度の調節のしかた……55
7.2 二番選別調節板の調節のしかた……56
7.3 吸引ファン回転数の調節のしかた……57
7.4 排じん量の調節のしかた……58
7.5 こぎ深さ調節（手動）のしかた……58
7.6 刈取定点停止ストッパの調節のしかた…59
7.7 刈刃高さの調節のしかた……60
7.8 デバイダの調節のしかた……61
7.9 短稈作物作業時の調節のしかた……62
7.9.1 引起しチェン爪ガイドの調節のしかた……62
7.9.2 こぎ深さ株元チェンの調節のしかた……64
7.10 カッタ作業のしかた……64
7.11 バラ落とし・ドロッパ作業のしかた…65
7.12 ナローガイド（左）の調節のしかた…66
7.13 エンジン回転の合わせかた……66
7.14 作業速度の選び方……67

8. 作業のしかた

8.1 刈取作業のしかた……68
8.1.1 ほ場への乗り入れ……69
8.1.2 ほ場の刈りかた……69
8.1.3 湿田ほ場の刈りかた……70
8.1.4 倒伏作物の刈りかた……71
8.1.5 条合わせのしかた……72
8.1.6 刈高さの合わせかた……72
8.1.7 刈取スライドの使いかた……73
8.1.8 回行のしかた……74
8.1.9 緊急エンジン停止のしかた…74
8.2 籾の排出のしかた……75
8.2.1 籾の排出のしかた（GZ型）…75
8.2.2 籾の排出のしかた（G型）……77
8.2.3 グレンタンク補助取り出し口の使いかた（G型、GZ型）……79
8.2.4 籾袋の交換のしかた（ホッパ型）……80
8.2.5 手こぎのしかた……81

9. 自動装置について

9.1 自動装置センサとスイッチ……83
9.2 こぎ深さ自動制御装置の使いかた……86
9.2.1 機能……86
9.2.2 操作のしかた……86
9.2.3 センサ位置の調節のしかた…87
9.2.4 取り扱い時の注意事項……88
9.3 方向自動制御装置の使いかた（A型）……89
9.3.1 機能……89
9.3.2 作業できる条件……89
9.3.3 操作のしかた……90
9.3.4 取り扱い時の注意……90
9.4 刈取・フィードチェン自動停止装置（リフトシャット）の使いかた（A型）……91
9.4.1 機能……91
9.4.2 操作のしかた……91
9.5 オーガ自動旋回装置の使いかた（GZ型）92
9.5.1 機能……92
9.5.2 操作のしかた……92

10. 各部の開閉・脱着のしかた

10.1 エンジンカバーの開閉のしかた……93
10.2 こぎ深さ搬送部の脱着のしかた……94
10.3 引起しカバーの脱着のしかた……96
10.4 こぎ胴カバーの開閉のしかた……97
10.5 グレンタンクの脱着のしかた（G型，GZ型）……98
10.6 フィードチェンの開閉のしかた……99
10.7 カッタオープンのしかた……100

11. 点検整備

11.1 定期点検一覧表……102
11.2 オイルの点検と交換のしかた……104
11.2.1 エンジンオイル……104
11.2.2 走行メインギヤーケースオイル105
11.2.3 こぎ胴ギヤーケースオイル…107
11.3 ベルトの点検と調整のしかた……108
11.3.1 ベルトの点検と調整一覧表108
11.3.2 ファンベルトの点検と調整109
11.3.3 走行ベルトの点検と調整…110

11.3.4 刈取ベルトの点検と調整…111
11.3.5 かき込みベルトの点検と調整112
11.3.6 脱穀ベルトの点検と調整…113
11.3.7 グレンタンクベルトの点検と調整(G型,GZ型)…114
11.3.8 グレンタンクカウンタベルトの点検と調整(G型,GZ型)…114
11.3.9 その他の脱穀部のベルトの点検と調整……115
11.4 チェンの点検と調整のしかた……116
11.4.1 チェンの点検と調整一覧表……116
11.4.2 引起しチェンの点検と調整……117
11.4.3 こぎ深さ株元チェンの点検と調整……118
11.4.4 こぎ深さ穂先チェンの点検と調整……119
11.4.5 フィードチェンの点検と調整……120
11.4.6 排ワラチェン(穂先)の点検と調整……121
11.4.7 排ワラチェン(株元)の点検と調整……122
11.5 ワイヤ・ロッドの点検と調整のしかた……123
11.5.1 ワイヤ一覧表……123
11.5.2 駐車ブレーキワイヤの点検……124
11.5.3 駐車ブレーキの点検……124
11.5.4 駐車ブレーキ解除の点検…124
11.5.5 マルチステアリングロッドの点検……125
11.5.6 刈取スライドワイヤの点検と調整……125
11.5.7 アクセルワイヤの点検と調整……125
11.5.8 穀粒排出クラッチワイヤの点検と調整(G型,GZ型)…126
11.5.9 刈取クラッチワイヤの点検と調整(A型) ……126
11.5.10 主変速(HST)レバーの点検と調整……126
11.5.11 副変速レバーの点検と調整126
11.6 その他の点検と調整のしかた……127
11.6.1 燃料フィルタの交換……127
11.6.2 エンジンオイルフィルタの交換……128
11.6.3 転輪・アイドルローラのグリースアップ……128
11.6.4 油圧オイルフィルタの交換……129
11.6.5 エアクリーナの清掃と交換……130
11.6.6 ラジエータの清掃……131
11.6.7 刈取回動軸部の注油……131
11.6.8 ホース類の点検と交換……132
11.6.9 バッテリの点検と交換……135
11.6.10 配線類、バッテリコードの点検……136
11.6.11 ヒューズの点検と交換…137
11.6.12 クローラの点検と調整…138
11.6.13 冷却水の点検と交換……139
11.6.14 刈刃の点検と調整……140
11.6.15 脱穀切刃の点検と交換…142
11.6.16 伸縮ラセンの点検と清掃(GZ型)……143
11.6.17 伸縮ラセンの点検と清掃(G型)……145
11.6.18 滑り止めゴムの清掃(G型)……147
11.6.19 カッタ刃の交換……148

12. 格納時の手入れ

12.1 日常の格納……150
12.1.1 清掃について……150
12.2 脱穀部の清掃のしかた……151
12.2.1 こぎ胴受網の抜きかた……151
12.2.2 揺動流板の掃除のしかた…151
12.2.3 掃除口……152

12.3 長期の格納……154
12.3.1 エンジン関係の手入れのしかた……154
12.3.2 バッテリの保管……154
12.3.3 長期格納時の注油……154
12.3.4 長期格納のグリースアップ155
12.3.5 格納のしかた……155

13. 不調時の診断と処置
……156
13.1 カッタが不調のとき……161
13.2 バラ落としが不調のとき……162

14. 付表
14.1 主要諸元……163
14.2 推奨潤滑油一覧表……167
14.3 純正オイル一覧表……167
14.4 付属工具一覧表……168
14.5 主要消耗部品……169
14.6 オプション一覧……172
14.7 注文部品の紹介……173

1. 使用上のポイント

本コンバインを正しく御使用になるために必要な情報が記載されています。

1.1 使用上のご注意

本製品を正しくお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んで理解し、正しく活用してください。記号の説明については「警告表示について」の説明を参照してください。

1.1.1 運転者の条件

⚠警告

こんなときは、運転をしないでください。

- **過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき**
- **18才未満の人**
- **妊娠しているとき**
- **酒を飲んだとき**

※ 誤動作しやすく思わぬ事故の原因になります。



運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。

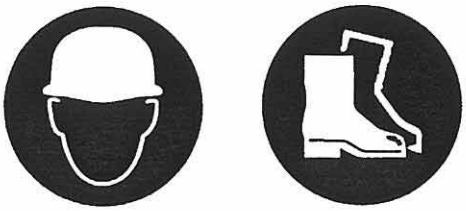
このコンバインを運転し、道路を走行する場合は、小型特殊自動車の運転免許が必要です。

※ 運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。

作業に適した服を着用してください。

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきのない服装をしてください。

※ 機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

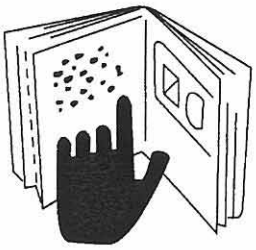


⚠警告

機械を貸すときは正しい使い方を指導してください。

取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

※　借りた人が機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

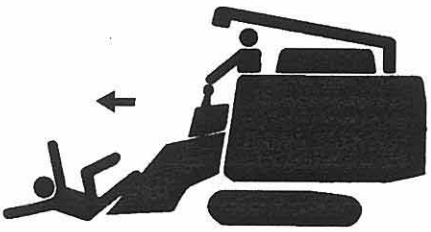


1.1.2　作業をする前に

⚠警告

無理、無駄のないゆとりある作業計画をたててください。

※　守らないと、あせり等から傷害事故を引き起こすことがあります。



夜間作業は危険ですからしないでください。

※　転倒や傷害事故の恐れがありますので早めに作業を切り上げてください。



必ず点検・整備を行ってください。

ブレーキのききが悪かったり、片ぎき等があると、傷害事故を引き起こすことがあります。

※　守らないと、死亡事故や傷害、機械の破損の原因となります。



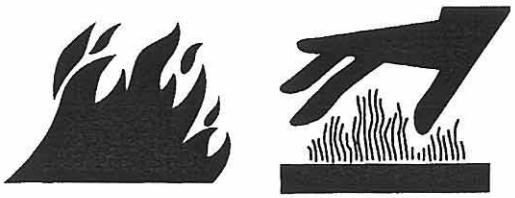
マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリ周辺にたまっているワラくずは、きれいに取り除いてください。

※　守らないと、火災の原因となります。

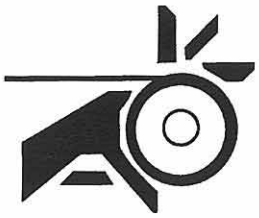


⚠危険

燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
また、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
※　守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になることがあります。

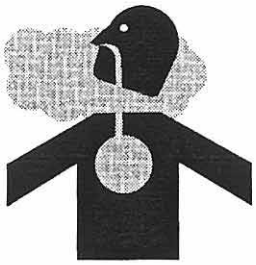


コンバインを運転する前に保護カバー類が外されたままになっていないか確認してください。
※　守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を起こします。

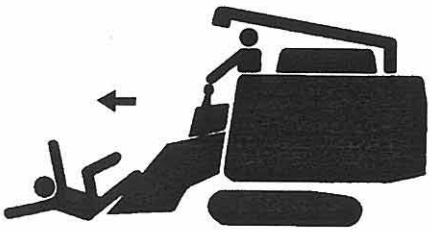


⚠危険

閉め切った屋内ではエンジンを始動しないでください。
エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。
※　排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

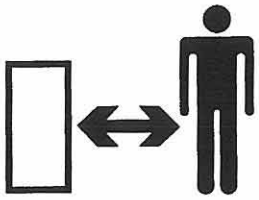


エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります



⚠注 意

コンバインを発進させるときは、前後左右の状況を確認し、コンバインの近辺に人を近づけないようにしてください。
※　傷害事故を引き起こすおそれがあります。



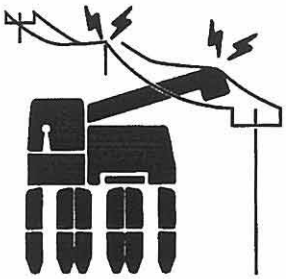
1.1.3　走行する場合には

■移動走行のしかた

⚠警 告

道路走行するとき、「収納」指示部は必ず収納してください。
- バンパをつけてください。
- ナローガイド（左）を収納してください。
- 排出オーガは、オーガ受けに収納してください。（G型、GZ型）
- ヘルメットを着用してください。
- 補助もみ受台を収納してください。（ホッパ型）
- 夜間は、前照灯を点灯し走行してください。

※　守らないと、衝突事故等を引き起こすおそれがあります。



必要以上の高速運転、急発進、急停車および急旋回はしないでください。
凹凸の激しい路面での高速走行は、しないでください。路面状態に応じた適切な速度で走行してください。
※　守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。

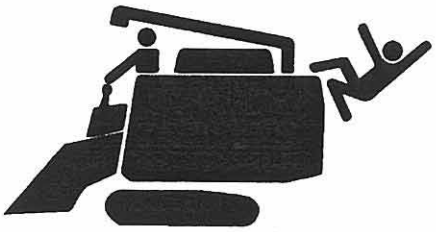


農道では路肩に注意してください。
側溝のある農道や、両側が傾斜している農道を走行するときには、速度を落として十分注意して走行してください。
※　守らないと、路肩が崩れて、転倒するおそれがあります。



⚠警告

運転者は座席に座って運転してください。
また、非常の場合を除いて通行中または作業中のコンバインに飛び乗り、または飛び降りをしないでください。
座席には、運転者以外は乗せないでください。
また、機体の上には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。
※　守らないと、転落事故の原因となります。



坂道では、刈取部をできるだけ下げ、必ず低速でゆっくりと上り下りしてください。
また、坂道では、急な旋回、副変速操作をしないでください。
※　守らないと、転落事故の原因となります。



坂道で駐車しないでください。やむを得ず坂道で駐車するときは、駐車ブレーキをすばやくかけ、さらに木片等で車止めをしてください。
※　守らないと、コンバインが動き出し、事故の原因になります。



コンバインから離れるときは、エンジンを停止し、メインスイッチキーを抜き取り、駐車ブレーキをかけてください。
また、止める所は、平たんで広い地面の硬い場所を選んでください。
※　守らないと、コンバインが自然に動き出し、事故の原因になります。



⚠警告

コンバインを草やワラの上に止めないでください。

※　排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し火災の原因となるおそれがあります。

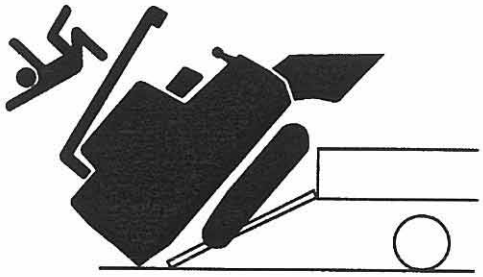


1.1.4　運搬時の注意事項

⚠警告

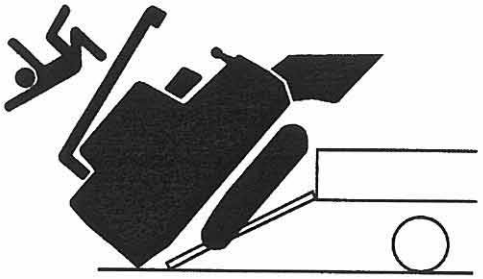
積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。

※　守らないと、積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。



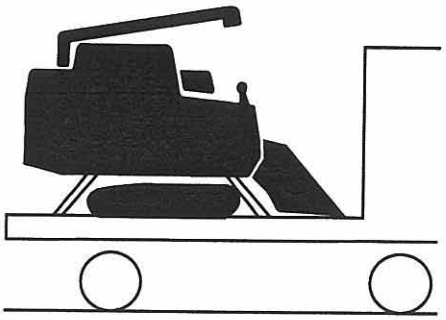
トラックへの積み込み時、長さ・強度・幅の十分あるアユミを使用してください。
アユミは丈夫ですべり止めのある、基準に合ったものを使ってください。

※　守らないと、アユミが折れたりして転倒し、傷害事故を起こすことがあります。



⚠注意

トラック等で運搬するときは、必ず機械に駐車ブレーキをかけロープで荷台に固定してください。
また、運搬中は不用意な急発進・急旋回・急ブレーキをしないでください。
※　守らないと、コンバインが動き出し、転落事故を起こすことがあります。



積み・降ろし途中ではブレーキペダル、マルチステアリングレバーは操作しないでください。
※　守らないと、バランスがくずれて、転倒事故を起こすことがあります。

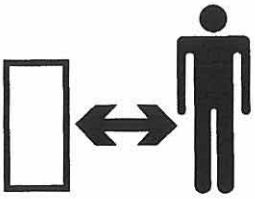


1.1.5　作業中は

気象条件等に注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

⚠警告

作業中は回りの人に注意（特に子供）してください。
作業中は、作業者以外の人を機械に近づけないでください。
作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

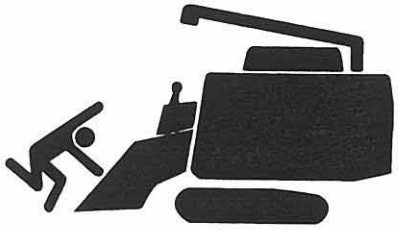
- **あぜを横断するときは、脱穀部を止めて、低速で、あぜと直角にゆっくり走行してください。**
- **あぜの高さが高いところ（段差10cm以上）でのほ場の出入りでは、必ずアユミを使用してください。**
- **タンク内に穀粒がある場合はすべて排出してください。**

※　守らないと、バランスがくずれて転倒し、傷害事故を起こすことがあります。



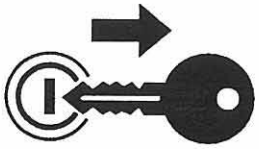
手こぎのときは、指さきや作業服の袖が刈取部に巻き込まれないように注意してください。
手こぎ時には、刈取部、走行部を停止して作業をしてください。

※　守らないと、巻き込まれて、傷害事故の原因になることがあります。



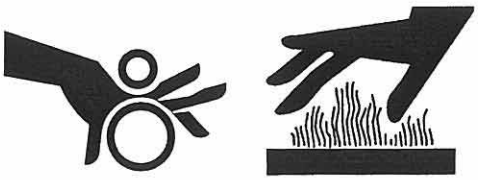
詰まりの除去は、必ずエンジンを止め、メインスイッチキーを抜いてください。

※　守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。



回転部や作業部・マフラ・ラジエータ・エンジン等の過熱部、バッテリ端子等の通電部等危険な箇所には、手を触れないようにしてください。

※　守らないと、傷害事故の原因になることがあります。

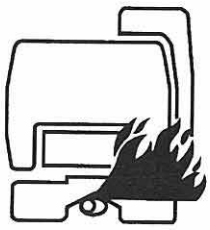


1.1.6 作業後は

⚠危険

エンジン本体、マフラ周辺、ベルトおよびプーリ周辺、バッテリ周辺にたまっているワラくずは、きれいに取り除いてください。

※ 守らないと、火災の原因となります。



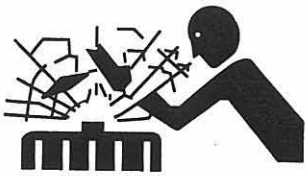
1.1.7 定期点検・整備について

⚠危険

過熱部分の点検・整備は十分冷えてから行ってください。

- エンジン停止後すぐに、点検・整備をしないでください。エンジン等の過熱部分が十分に冷えてから行ってください。
- ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後十分冷えてから注意して開けてください。

※ 守らないと、熱湯が噴出してやけど等、傷害事故の原因となります。



刈刃の調整後、本機取付前に刈刃を手で動かし、作動が重くないことを確認してください。

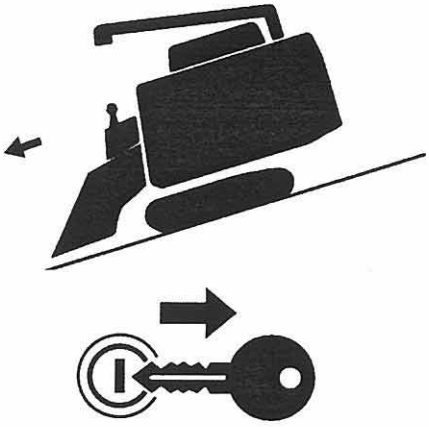
※ 守らないと、発熱してワラ等に着火し、火災の原因となります。



⚠警告

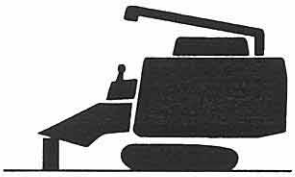
- **点検・整備は明るく、地面が平たんで硬く、広い場所を選び、刈取部を地面に降ろし、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチを抜いて行ってください。**
- **各レバーを「切」にし、エンジンやその他可動物が完全に停止してから行ってください。**

※　守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。



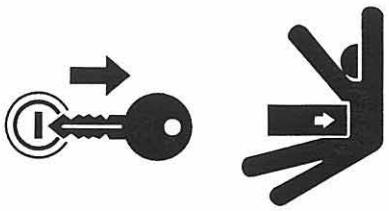
刈取部を上げて点検・整備する場合には、必ず刈取ロック装置を「ロック」位置にし、さらに刈刃の下にスタンド等のしっかりした台を敷いて固定してください。

※　守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。



グレンタンクを外すときは、エンジンを停止しメインスイッチキーを抜いて、平たんな場所で行ってください。

※　守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。



指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は絶対にしないでください。

※　守らないと、傷害事故や機械の故障を引き起こす原因となります。



左右ブレーキは、きき具合が同じになるように調節するか、点検整備に出してください。

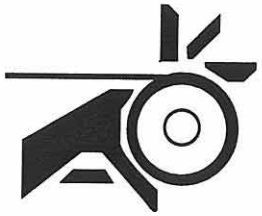
※　片ぎきとなり、死亡事故や重大な傷害事故を引き起こす原因となります。



⚠警告

点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。

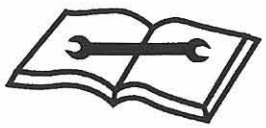
※　守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こす原因となります。



⚠注意

点検・整備は適正な工具を正しく使用して行ってください。
また、コンバインには、点検・整備に必要な工具類を常備してください。

※　守らないと、整備中の傷害事故や整備不良による傷害事故を引き起こす原因となります。



- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃液、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤フィルタ、バッテリ、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、お買い上げ先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

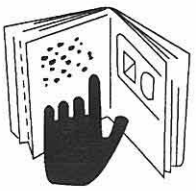
※　廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。



注意

取扱説明書に従って定期点検を実施してください。

※　機械を長持ちさせるとともに、効率的な作業が行える第一歩です。

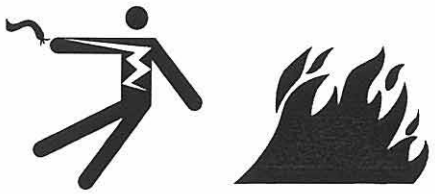


1.1.8 電気配線点検時の注意事項

⚠危険

配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、すみやかに「お買い上げ先」で交換・修理してください。

※ 守らないと、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電し、火災・傷害事故の原因になります。



バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミ等は、きれいに取り除いてください。

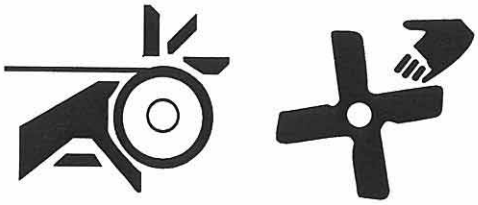
※ 守らないと、火災の原因になります。



⚠警告

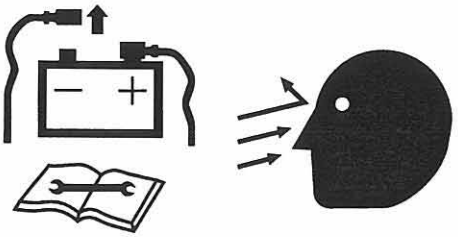
電気配線の点検は、必ずエンジンを停止しメインスイッチキーを抜いて行ってください。

※ 守らないと、手や衣服を回転部に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



接続部の点検は、メインスイッチを「切」にし、バッテリの㊀コードを外して行ってください。

※ 守らないと、スパーク（火花がとぶ）・感電し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.1.9　格納・保管時は

分草杆保護板を取り付け、刈取部はいっぱい下げておいてください。

⚠ 警告

エンジンが過熱している間に、シートをかけないでください。

※　守らないと、火災の原因になることがあります。



マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリ周辺にたまっているワラくずは、きれいに取り除いてください。

※　守らないと、火災の原因となります。



- **燃料パイプの破損や、燃料漏れがないか必ず点検してください。**
- **長期格納するときは、燃料タンクは満タンにしてサビや水の発生を防ぐようにしてください。**

※　守らないと、火災事故を引き起こし、やけどをすることがあります。



長期格納する場合は、バッテリケーブルを外しておいてください。
取り外すときはマイナスコードから外してください。

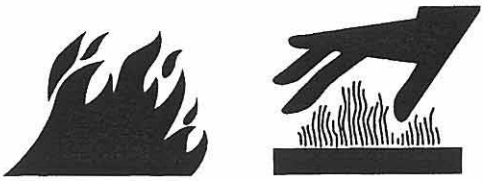
※　守らないと、ネズミ等がかじったとき、ケーブルがショートし、発火して火災の原因になることがあります。



1.1.10 バッテリ取り扱い時の注意事項

⚠危険

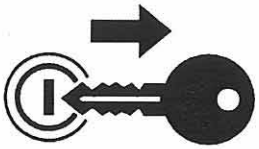
バッテリの取り付け・取り外しは、正しい手順で行ってください。
バッテリを取り外しは、マイナスコードを外した後、プラスコードを取り外してください。
取り付けは、プラスコードを付けた後、マイナスコードを取り付けてください。
※ ショートして、やけどや火災の原因になります。



バッテリ液（電解液）は希硫酸で劇物です。バッテリ液を身体や衣服に付けないようにしてください。
もし、目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。
※ 失明や、やけどをすることがあります。



バッテリの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを抜いてください。
※ 守らないと、電気部品を損傷したり、損傷事故を引き起こす恐れがあります。



バッテリの交換は、指定された容量のバッテリを使用してください。
バッテリ44B19L（32Ah）
※ 守らないと、ショートして、やけどや火災の原因になります。



⚠危険

バッテリの点検時に、ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は通風のよいところで行ってください。

※ 守らないと、引火爆発するおそれがあります。



ハイドロメータの色が透明のとき、補充電をしてエンジンを始動させないでください。

※ 守らないと、爆発して、やけどや火災を引き起こすことがあります。

1.1.11 ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。

⚠危険

ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。

※ 守らないと、ブースタケーブルが熱をもったり、火災や焼損するおそれがあります。



⚠警告

ブースタケーブル接続前に、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、電気部品を損傷したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.2 公道走行とナンバープレートについて

⚠注意

このコンバインは小型特殊自動車（刈取脱穀作業車）として、道路運送車両の保安基準を満たしています。
ご使用の際は以下の点を遵守してください。

1.2.1 運転免許証の携帯

このコンバインを運転し、道路走行する場合は、小型特殊自動車の運転免許が必要です。運転中は、必ず運転免許証を携帯し、道路交通法の定めに従って、安全で正しい運転をしてください。

1.2.2 小型特殊自動車

(1) 道路走行時「取り外し」指示のある作業機および、「収納」指示のある部分は必ずその指示に従ってください。

(2) 次のようなことは絶対にしないでください。
①走行装置などの構造の改造
②型式の異なるエンジンの搭載
③各封印部分の開封
これらの改造変更は、「不法改造」に該当し、違法行為となり、一切の保証はいたしませんのでご注意ください。

(3) 作業灯を点灯させたまま道路を走行することは、違法行為になるとともに、他の車両の交通を阻害し危険です。
道路走行中、作業灯は必ず消灯してください。

(4) オプション部品の結束機などを装着した場合、公道を走ることはできません。装着した状態で移動するときはトラック輸送してください。（カッタは装着したままで走行できます。）

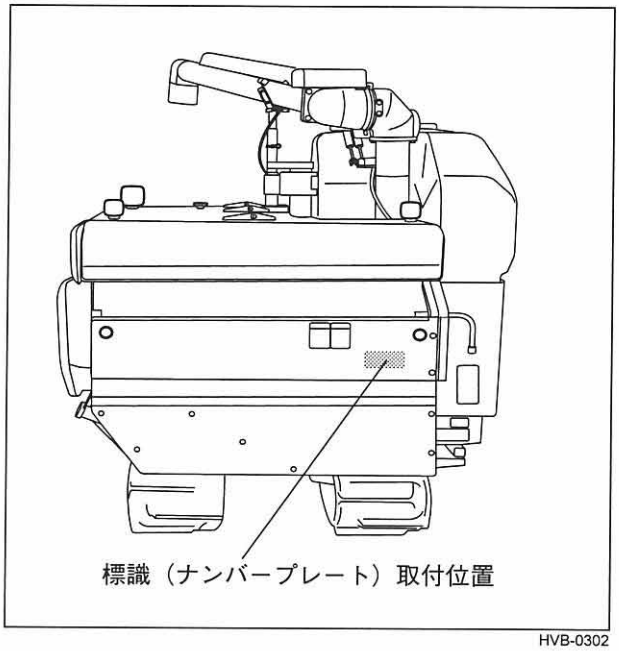
1.2.3 市町村役場への届出と標識（ナンバープレート）の取り付け

（1）このコンバインの所有者となられた方は、市町村条令の定めにより市町村役場に届出て、標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。

（2）届出には、小型特殊自動車取得証明書（「お買いあげ先」で準備いたします）と、軽自動車税及び印鑑を添えて提出してください。なお、届出の手続きは、市町村により多少異なることがありますので、詳細はお買い上げ先にご相談ください。

（3）交付された標識（ナンバープレート）は、コンバイン後部の標識（ナンバープレート）取付場所に確実に取り付けてください。

（4）市町村役場より年一回、納税通知が郵送されますので、軽自動車税を納税してください。



HVB-0302

1.2.4 保険について

農作業用の小型特殊自動車は、自動車損害賠償責任保険に加入することができません。万一の交通事故補償に備えて、任意保険に加入しておかれることをお勧めします。

1.2.5 点検整備

このコンバインは、必要に応じて点検整備を実施し、常に保安基準に適合するよう維持することが求められます。また、灯火類の点灯、ブレーキのききなどは、日常的に点検整備する必要があります。

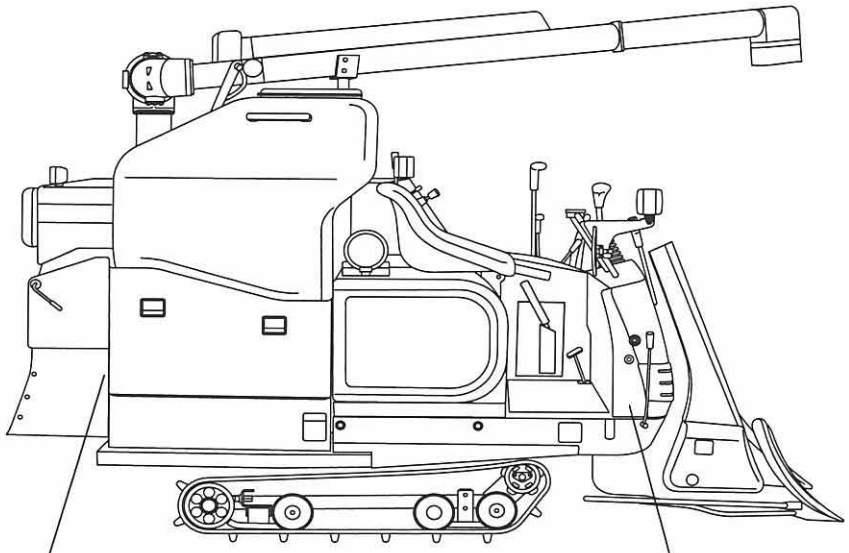
点検整備は、「お買い上げ先」にお申し付けください。

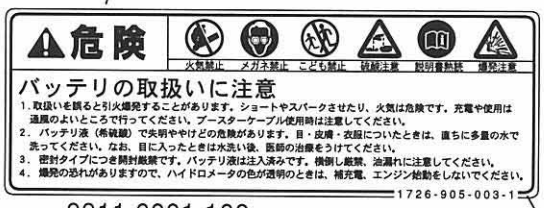
1.3 警告ラベルについて

- 本機には、安全に作業をしていただくため、「警告ラベル」が貼付してあります。
  必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルが破けたり、剥れたり、読めなくなったときは、新しいラベルに貼り替えてください。
- 警告ラベルには洗車時、直接圧力水をかけないでください。剥がれやすくなる場合があります。
- 泥等が付いた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同じラベルを貼付した部品に交換してください。
- 警告ラベルは、お買い上げ先にご注文ください。

1.4 警告ラベル貼付箇所

⚠危険



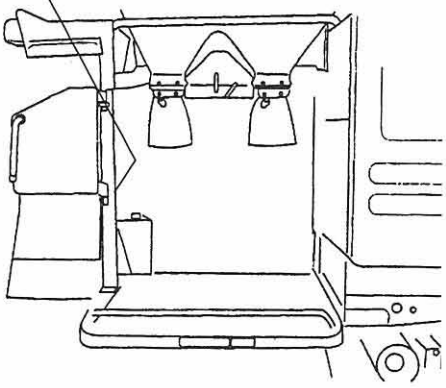


9911 0001 100

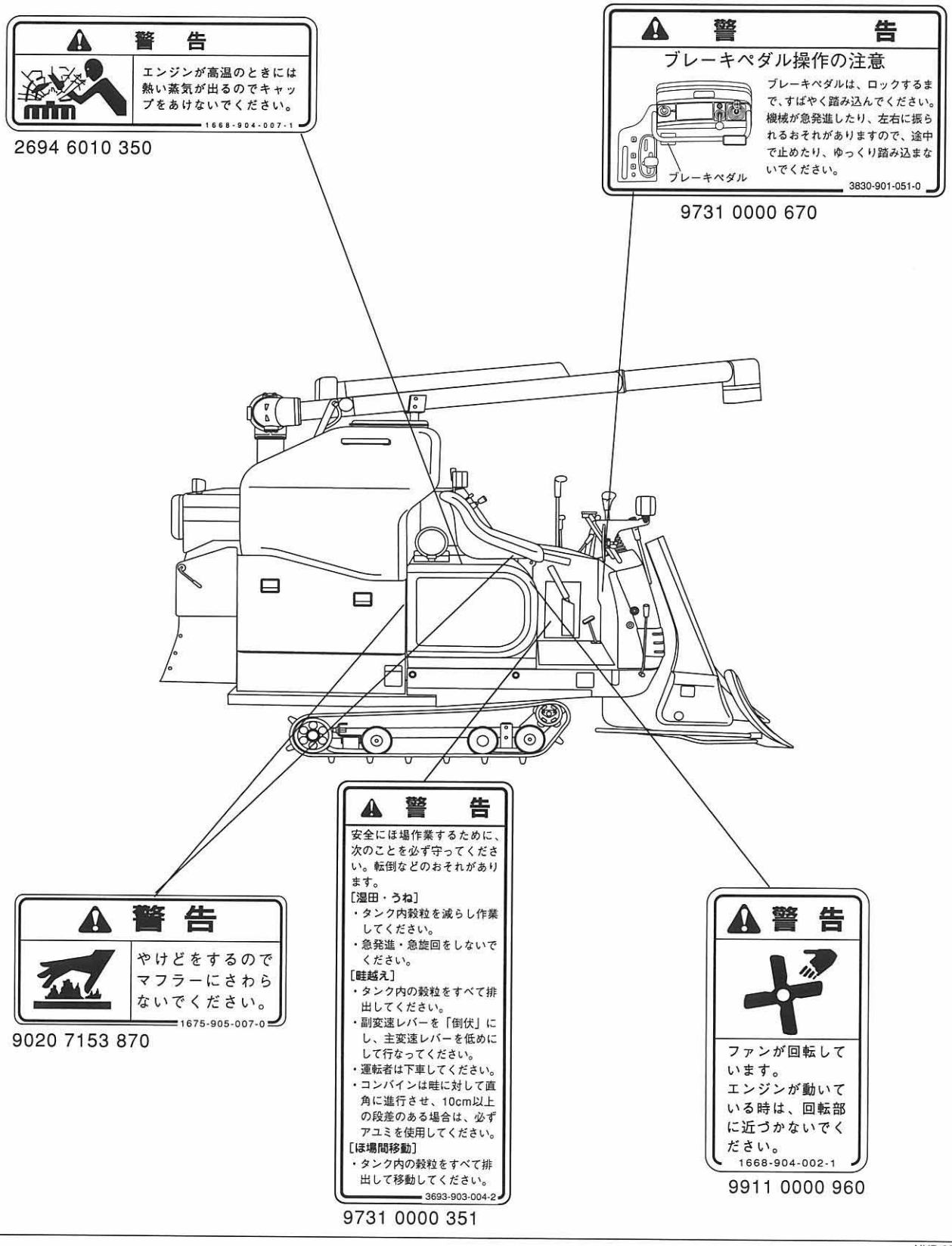


9020 7153 860

〔ホッパ型〕

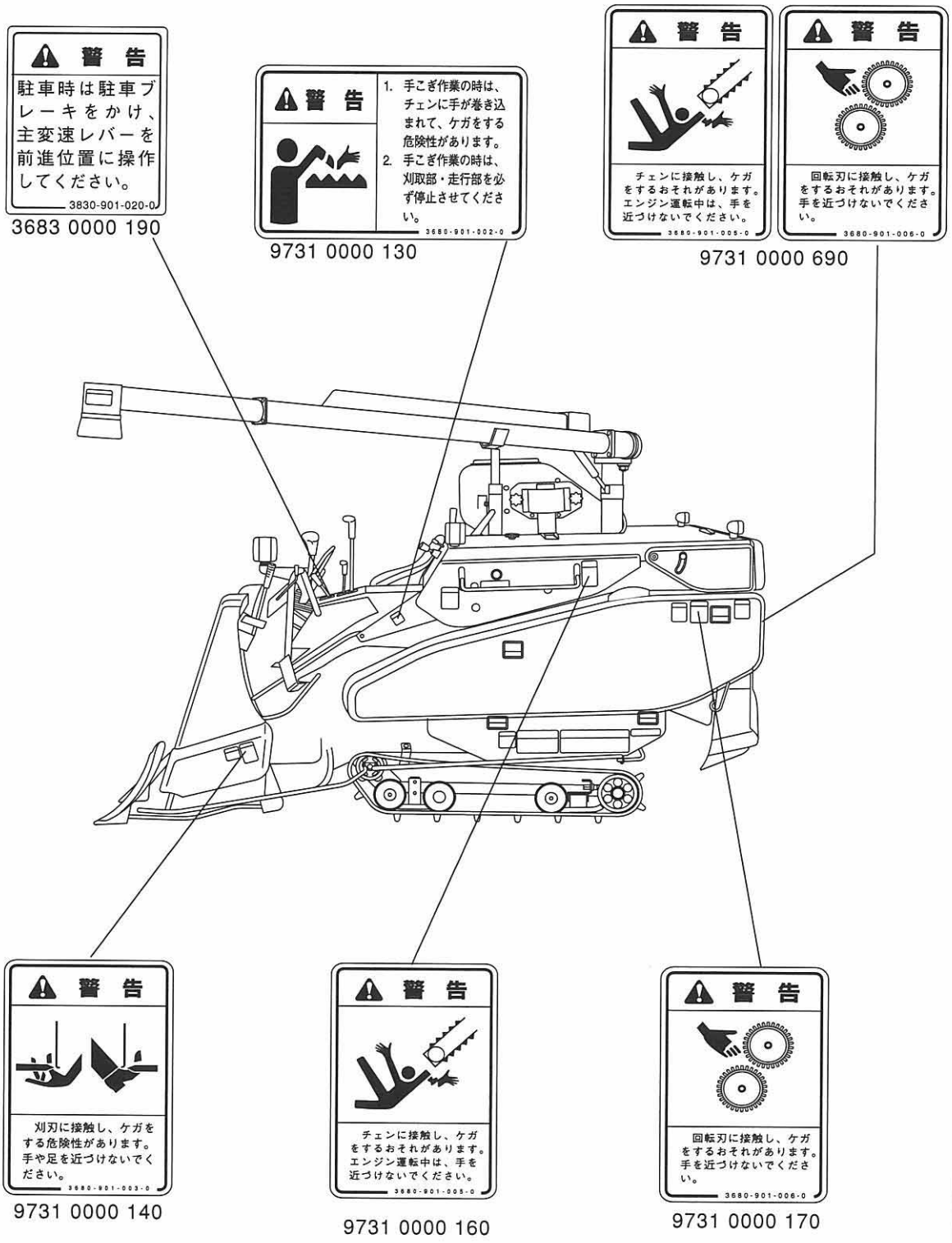


⚠警告


⚠ 警 告
エンジンが高温のときには熱い蒸気が出るのでキャップをあけないでください。
1668-904-007-1
2694 6010 350
⚠ 警 告
ブレーキペダル操作の注意
ブレーキペダル
ブレーキペダルは、ロックするまで、すばやく踏み込んでください。機械が急発進したり、左右に振られるおそれがありますので、途中で止めたり、ゆっくり踏み込まないでください。
3830-901-051-0
9731 0000 670
⚠ 警 告
やけどをするのでマフラーにさわらないでください。
1675-905-007-0
9020 7153 870
⚠ 警 告
安全にほ場作業するために、次のことを必ず守ってください。転倒などのおそれがあります。
[湿田・うね]
・タンク内穀粒を減らし作業してください。
・急発進・急旋回をしないでください。
[畦越え]
・タンク内の穀粒をすべて排出してください。
・副変速レバーを「倒伏」にし、主変速レバーを低めにして行なってください。
・運転者は下車してください。
・コンバインは畦に対して直角に進行させ、10cm以上の段差のある場合は、必ずアユミを使用してください。
[ほ場間移動]
・タンク内の穀粒をすべて排出して移動してください。
3693-903-004-2
9731 0000 351
⚠ 警 告
ファンが回転しています。
エンジンが動いている時は、回転部に近づかないでください。
1668-904-002-1
9911 0000 960

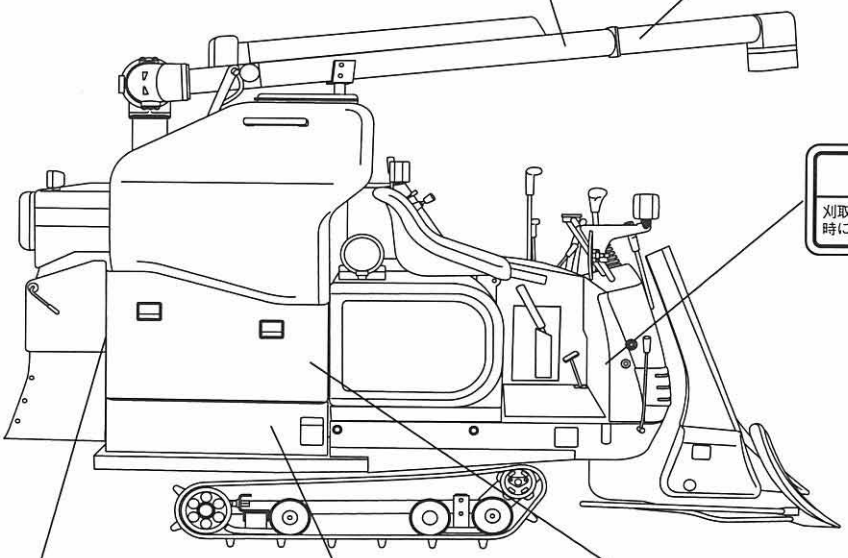
HVB-0304

⚠警告


⚠ 警 告
駐車時は駐車ブレーキをかけ、主変速レバーを前進位置に操作してください。
3830-901-020-0
3683 0000 190
⚠ 警 告
1. 手こぎ作業の時は、チェンに手が巻き込まれて、ケガをする危険性があります。
2. 手こぎ作業の時は、刈取部・走行部を必ず停止させてください。
3680-901-002-0
9731 0000 130
⚠ 警 告
チェンに接触し、ケガをするおそれがあります。エンジン運転中は、手を近づけないでください。
3680-901-005-0
⚠ 警 告
回転刃に接触し、ケガをするおそれがあります。手を近づけないでください。
3680-901-006-0
9731 0000 690
⚠ 警 告
刈刃に接触し、ケガをする危険性があります。手や足を近づけないでください。
3680-901-003-0
9731 0000 140
⚠ 警 告
チェンに接触し、ケガをするおそれがあります。エンジン運転中は、手を近づけないでください。
3680-901-005-0
9731 0000 160
⚠ 警 告
回転刃に接触し、ケガをするおそれがあります。手を近づけないでください。
3680-901-006-0
9731 0000 170

HVB-0305

⚠注意



⚠ 注　意
・故障の原因となりますので、刈取作業中や移動する場合は、必ずオーガを縮めてオーガ受けに収納してください。
3807-902-012-1

3683 0000 140
（GZ型）

⚠ 注　意
スクリュに接触し、ケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、手を近づけないでください。
3680-901-007-0

9731 0000 180
（G型、GZ型）

⚠ 注　意
刈取部を上げて、点検整備を行う時には、必ずロックしてください。
3805-901-035-0

9731 0000 250

⚠ 注意
バッテリを外すときは必ず、アース側⊖を先に外してください。
1668-904-003-1

9911 0000 970
（G型、GZ型）

⚠ 注　意
スクリュに接触し、ケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、手を近づけないでください。
3680-901-007-0

9731 0000 180
（G型、GZ型）

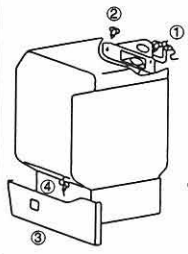
⚠ 注　意
駆動しているベルトに接触しケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、カバーを開けないでください。
カバーは必ず取付けて使用ください。
3823-901-001-0

9731 0000 600
（G型、GZ型）

⚠注意

⚠注意 タンクを脱着するときは、必ずエンジンを停止してください。

グレンタンク脱着のしかた



○タンク内に穀粒が入っているときは穀粒を取出した後取り外してください。

1. カプラ①を外してください。
2. タンク上部のノブボルト② 2ヶ所を外してください。
3. ロワータンクカバー③を外してください。
4. タンク下部のロック④を外してください。

◎タンクを取り付ける時は、上部のノブボルト②を取り付けた後に下部のロック④をし、ロワータンクカバー③とカプラ①を取り付けてください。

3820-901-071-0

3683 0000 180
(G型、GZ型)

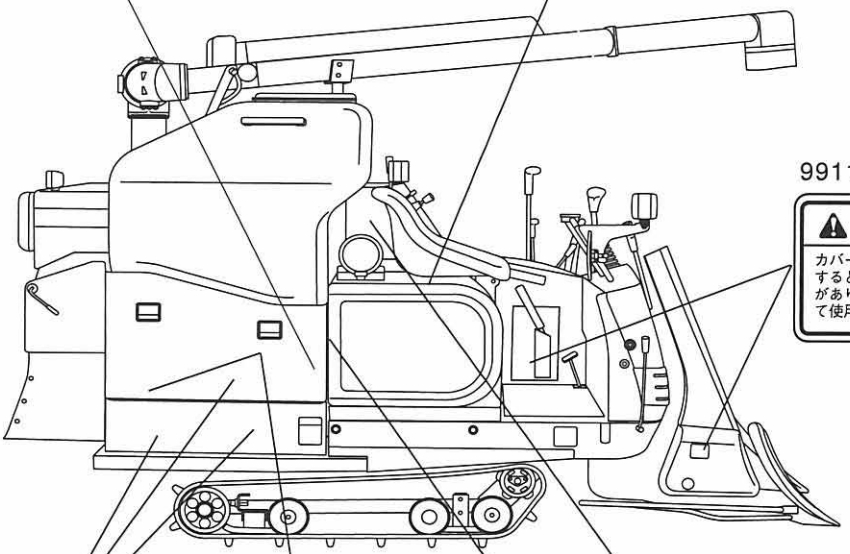
⚠注意

安全で正しい運転をするために取扱説明書をよく読んで下さい。

1. 保護カバー類はすべて所定の位置に取付けてください。
2. 機械から離れたり、点検調整したりする前にはエンジンを停止し、機械が動かないようにしてください。(特に刈取上下ロックは確実にしてください。)
3. 機械の手入れは各部の動きが止ってからしてください。
4. 動力の伝導部・回転部・作動部には、手足や衣服等を近づけないでください。
5. 機械には他の人を近づけないでください。
6. エンジンの始動前・機械の運転開始前にはまわりに人がいないことを確認してください。
7. 土手の上り下り畦越え等の移動は注意してください。
8. バンパ・ナローガイド・補助もみ受台(ホッパ仕様)等は所定の位置で走行してください。
9. 駐車ブレーキペダルは、走行中及び、トラックへの積み降ろし中は踏まないでください。
10. 路肩の軟弱な道路、ガケ際等は転落等の重大事故につながるので、走行しないでください。
11. 道路交通法の規定により、トラック運搬時は地上高 3.8m 以下(特にキャビン付)で運行してください。

3873-901-002-0

9731 0000 220



⚠注意

カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。

1675-905-012-0

9911 0000 920

⚠注意



ケガをするおそれがありますので運転中は手を入れないでください。

3533-901-015-0

9731 0000 070
(G型、GZ型)

⚠注意



ギヤーに巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。
メインスイッチを「切」にして点検してください。

3680-901-011-0

9731 0000 200
(G型、GZ型)

⚠注意



駆動しているベルトに接触しケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、カバーを開けないでください。
カバーは必ず取付けて使用ください。

3823-901-001-0

9731 0000 600
(G型、GZ型)

⚠注意



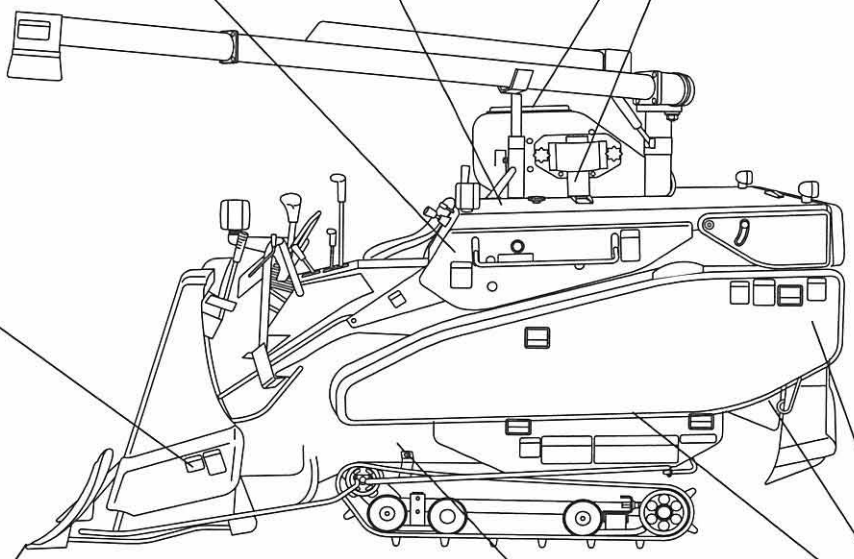
ケガをするおそれがありますので運転中は手を入れないでください。

3533-901-015-0

9731 0000 070
(G型、GZ型)

HVB-0307

⚠注意



⚠ 注 意
回転部に接触し、ケガをするおそれがあります。エンジン運転中は、カバーを開けないでください。
3680-901-004-0
9731 0000 150

⚠ 注 意
脱穀部の上には乗らないでください。
3680-901-009-0
9731 0000 190

⚠ 注 意
ケガをするおそれがありますので運転中は手を入れないでください。
3533-901-015-0
9731 0000 070

⚠ 注 意
カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。
1675-905-012-0
9911 0000 920

⚠注意 移動時は装着してください
3533-901-028-0
9731 0000 080

⚠ 注 意
移動時は収納してください。
3662-901-121-0
9731 0000 110

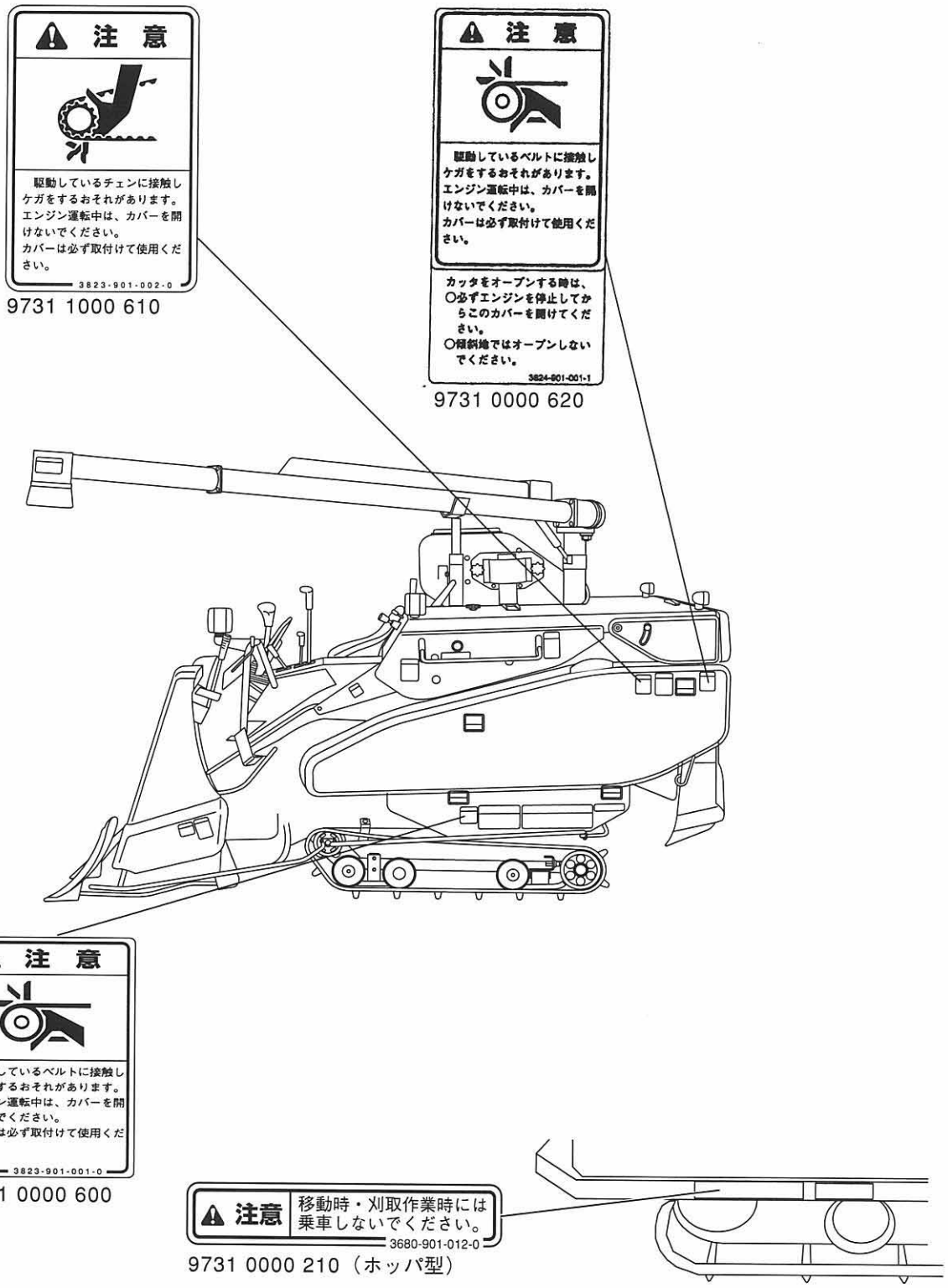
⚠ 注 意
ケガをするおそれがありますので運転中は手を入れないでください。
3533-901-015-0
9731 0000 070

⚠ 注 意
バッテリーを外すときは必ず、アース側⊖を先に外してください。
1688-904-003-1
9911 0000 970

⚠ 注 意
駆動しているベルトに接触しケガをするおそれがあります。エンジン運転中は、カバーを開けないでください。カバーは必ず取付けて使用ください。
3823-901-001-0
9731 0000 600

HVB-0308

⚠注意


⚠ 注 意
駆動しているチェンに接触しケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、カバーを開けないでください。
カバーは必ず取付けて使用ください。
3823-901-002-0
9731 1000 610
⚠ 注 意
駆動しているベルトに接触しケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、カバーを開けないでください。
カバーは必ず取付けて使用ください。
カッタをオープンする時は、
○必ずエンジンを停止してからこのカバーを開けてください。
○傾斜地ではオープンしないでください。
3824-901-001-1
9731 0000 620
⚠ 注 意
駆動しているベルトに接触しケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、カバーを開けないでください。
カバーは必ず取付けて使用ください。
3823-901-001-0
9731 0000 600
⚠注意 移動時・刈取作業時には乗車しないでください。
3680-901-012-0
9731 0000 210（ホッパ型）

2. 保証とサービスについて

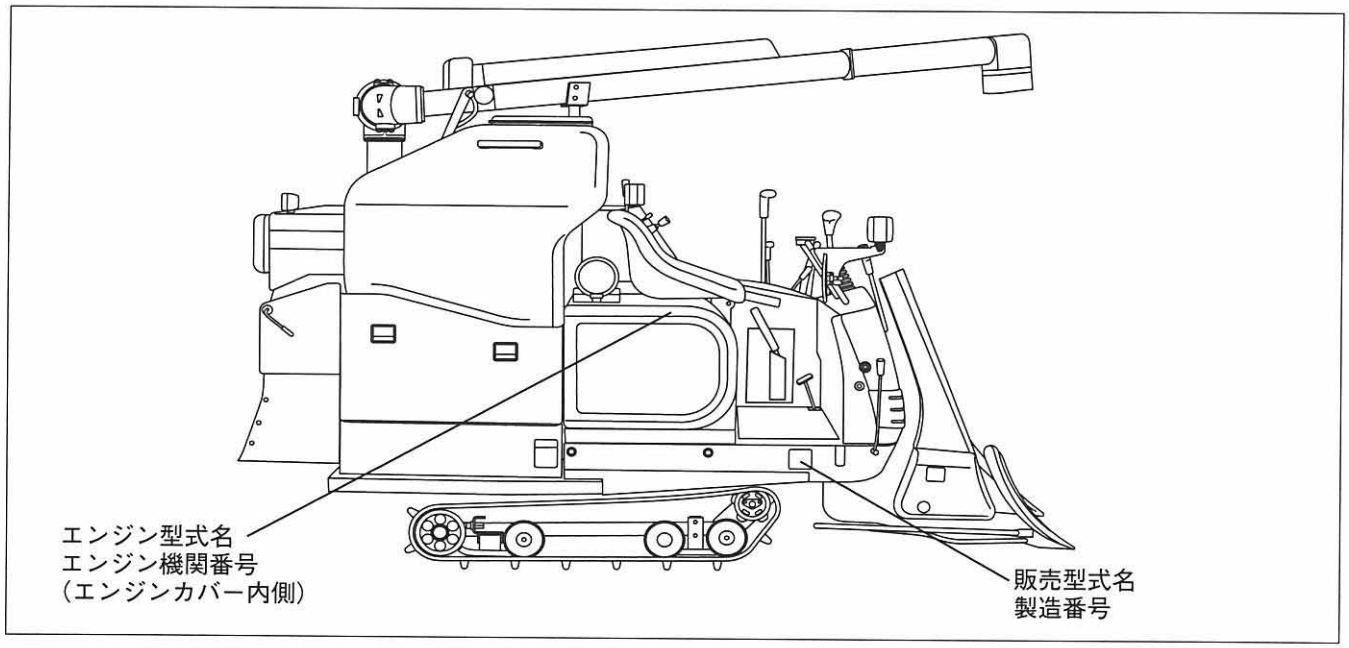
2.1 商品の保証

この商品には、三菱保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、、お買い上げ先へお気軽にご相談ください。その際、

(1) 販売型式名と製造番号
(2) エンジン型式とエンジン機関番号
をご連絡ください。



HVB-0301

■補修用部品供給年限について

- この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

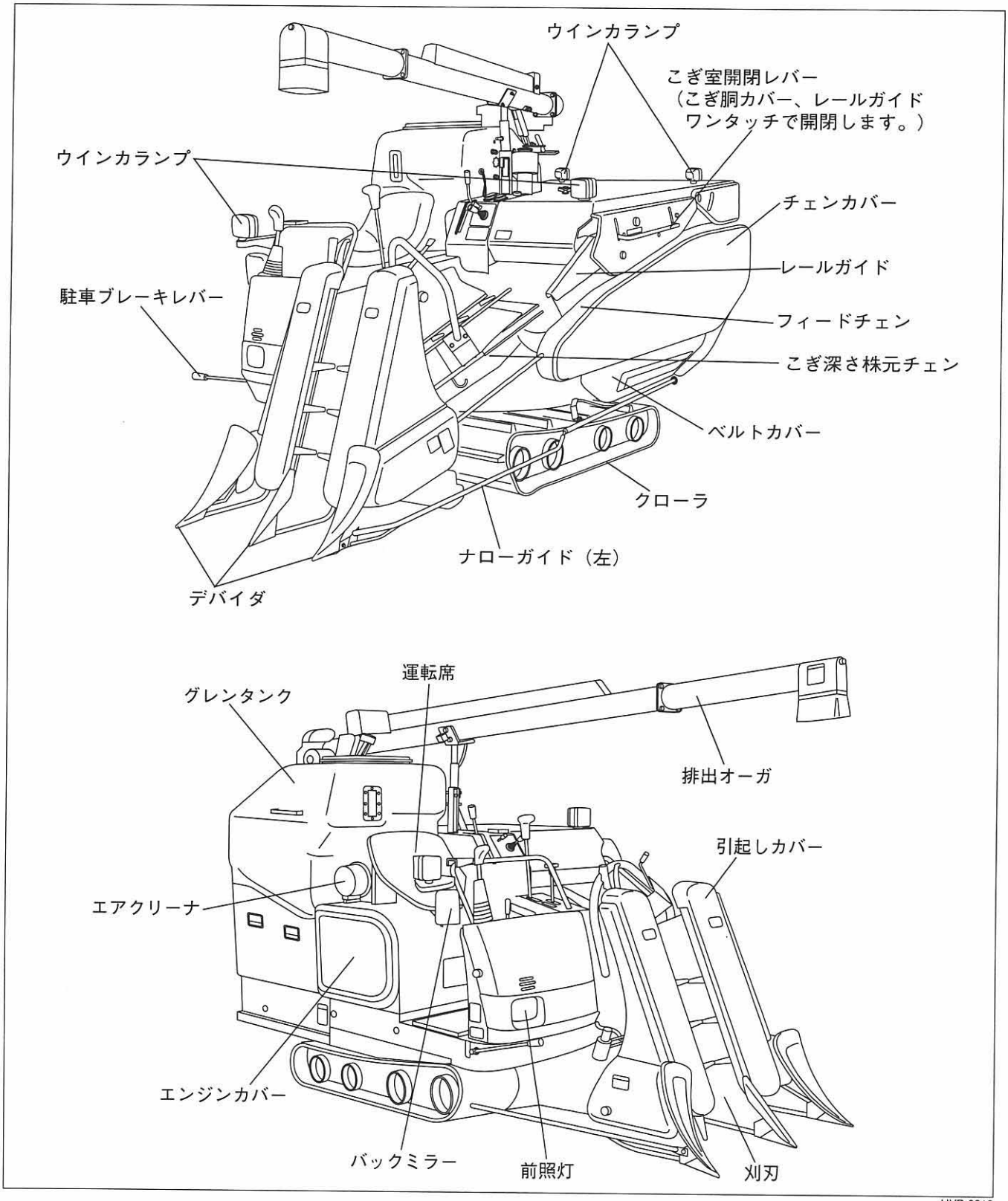
■塗装について

本商品は、作業時間の経過と共に塗装表面が摩耗して下地が見えてくる場合がありますが、品質上何ら支障ありませんので、ご了承ください。

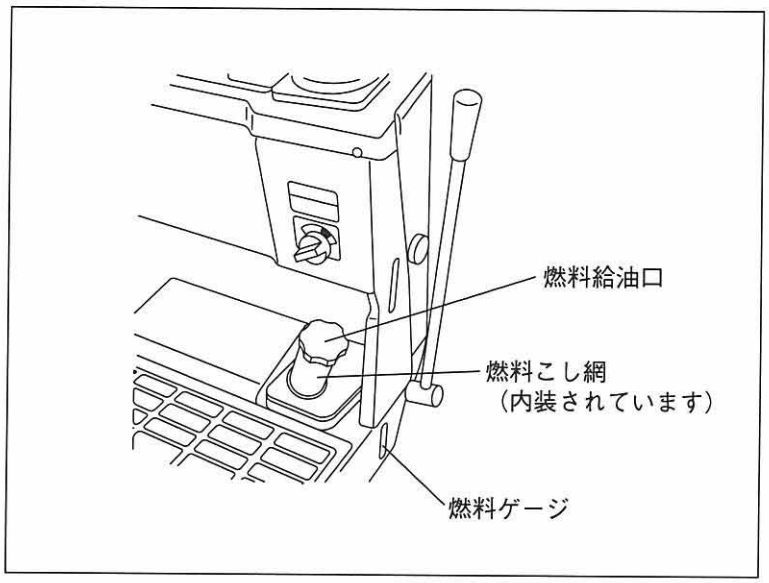
3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称

3.1.1 全体（GZ型）

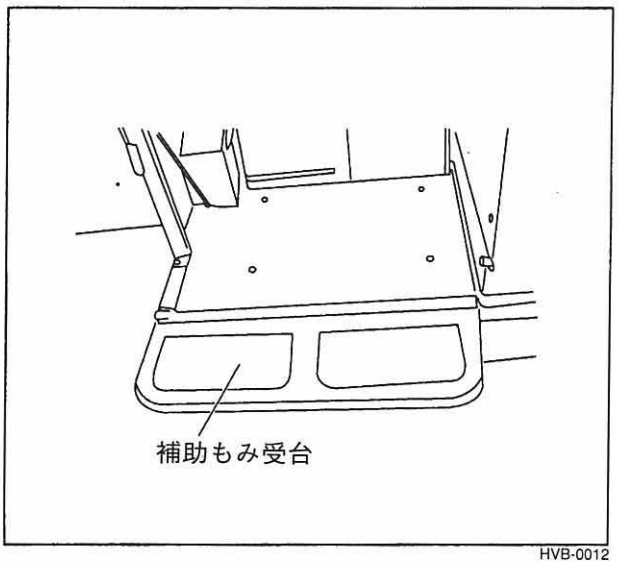


HVB-0310

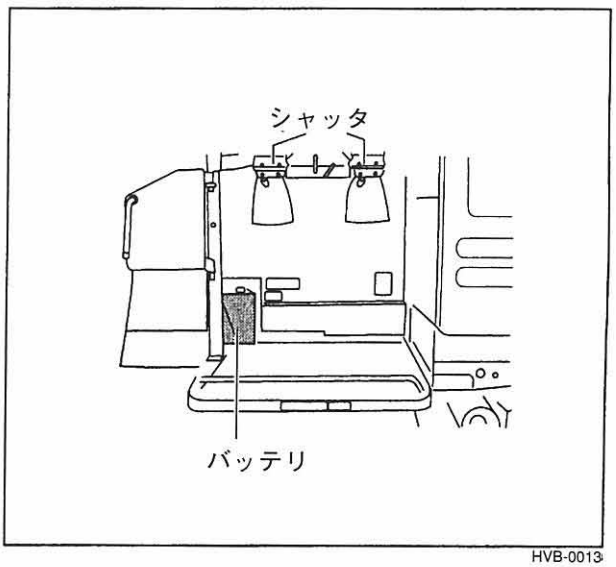


HVB-0311

3.1.2　全体（ホッパ型）



HVB-0012

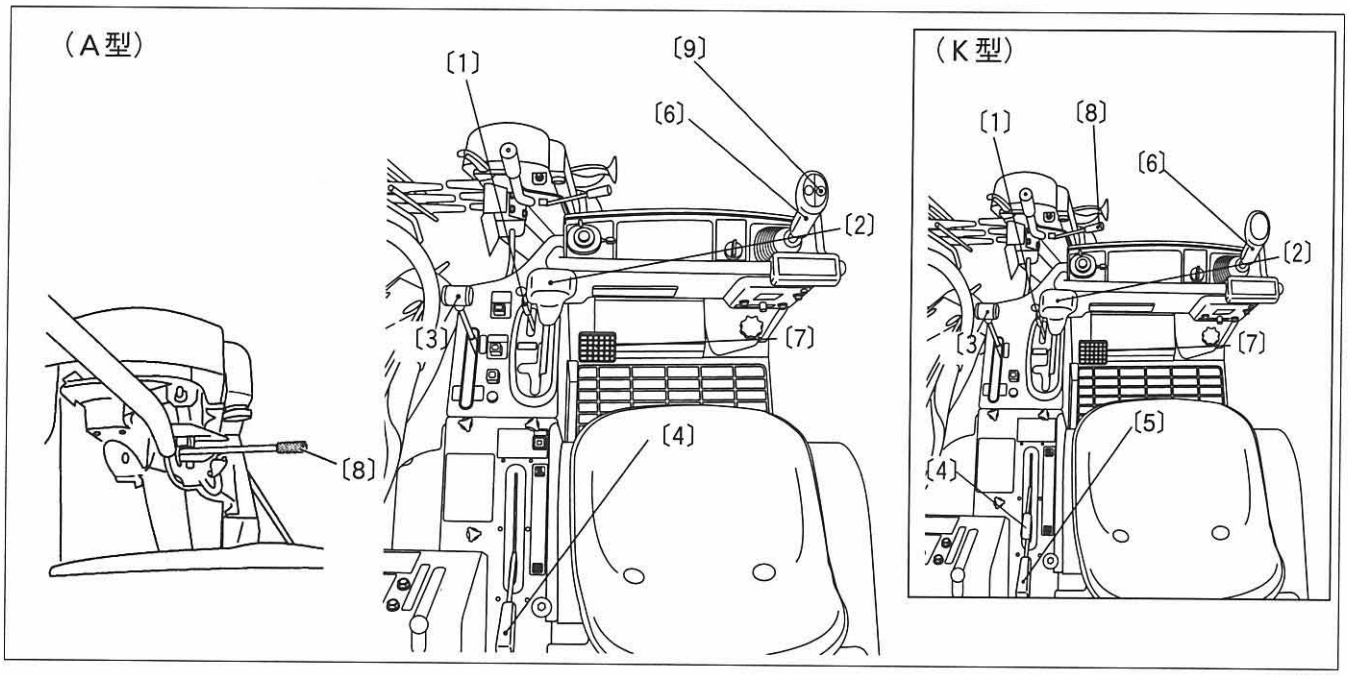


HVB-0013

3.1.3 レバー・ペダル関係

⚠ 警告

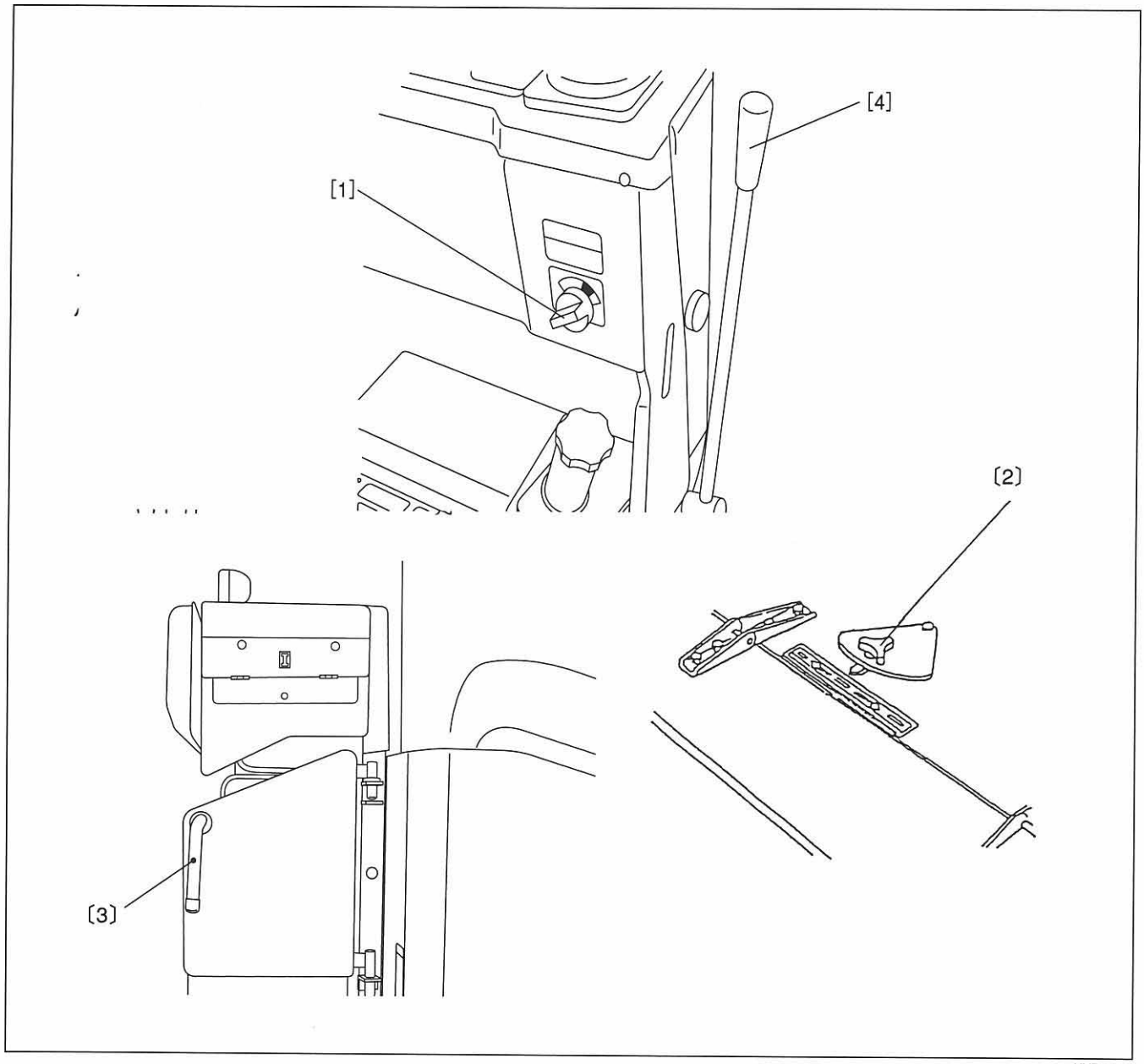
ブレーキペダルは、エンジン始動時と緊急停止用です。それ以外では使用しないでください。
※　途中で止めたり、ゆっくりと踏み込むと機械が急発進したり、左右に振れたりして、傷害事故を引き起こす原因となります。



HVB-0312

番号	名　称	機　能
[1]	アクセルレバー	レバーを後方に引くと、エンジン回転が上がり、前方に押すと、エンジン回転が下がります。
[2]	主変速レバー	レバーを前方に押すと「前進」、後方に引くと「後進」します。中立位置で左に倒すと駐車ブレーキの解除ができます。
[3]	副変速レバー	「倒伏」「標準」「走行」の速度が選べます。
[4]	脱穀クラッチレバー	レバーを「脱穀·入」にすると、脱穀部が回ります。
[5]	刈取クラッチレバー（K型）	レバーを「入」にし、前進すると刈取部が回ります。
[6]	マルチステアリングレバー	レバーを前後に操作すると、刈取部が上下し、左右に操作すると、倒し量に応じて機体の方向修正と旋回ができます。
[7]	ブレーキペダル	踏みこむとブレーキがかかり、ブレーキペダルがロックされます。 解除するときは、主変速レバーを中立「●位置」で左に倒します。
[8]	注油レバー	刈取部の主な注油箇所に同時に注油できます。
[9]	ジャストディレクタ（A型）	左、右のボタンでゆるやかな方向修正ができます。

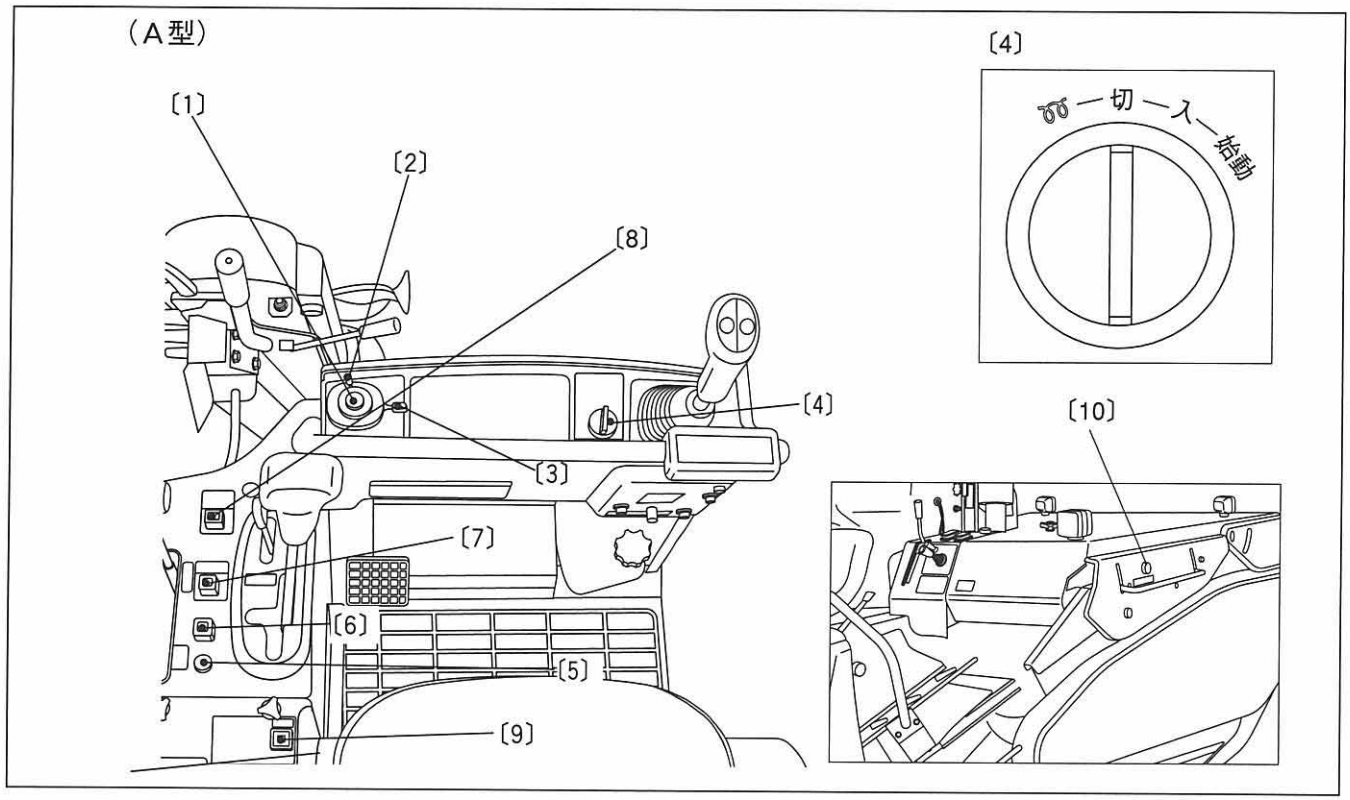
3.1.4 レバー・ノブ関係



HVB-0313

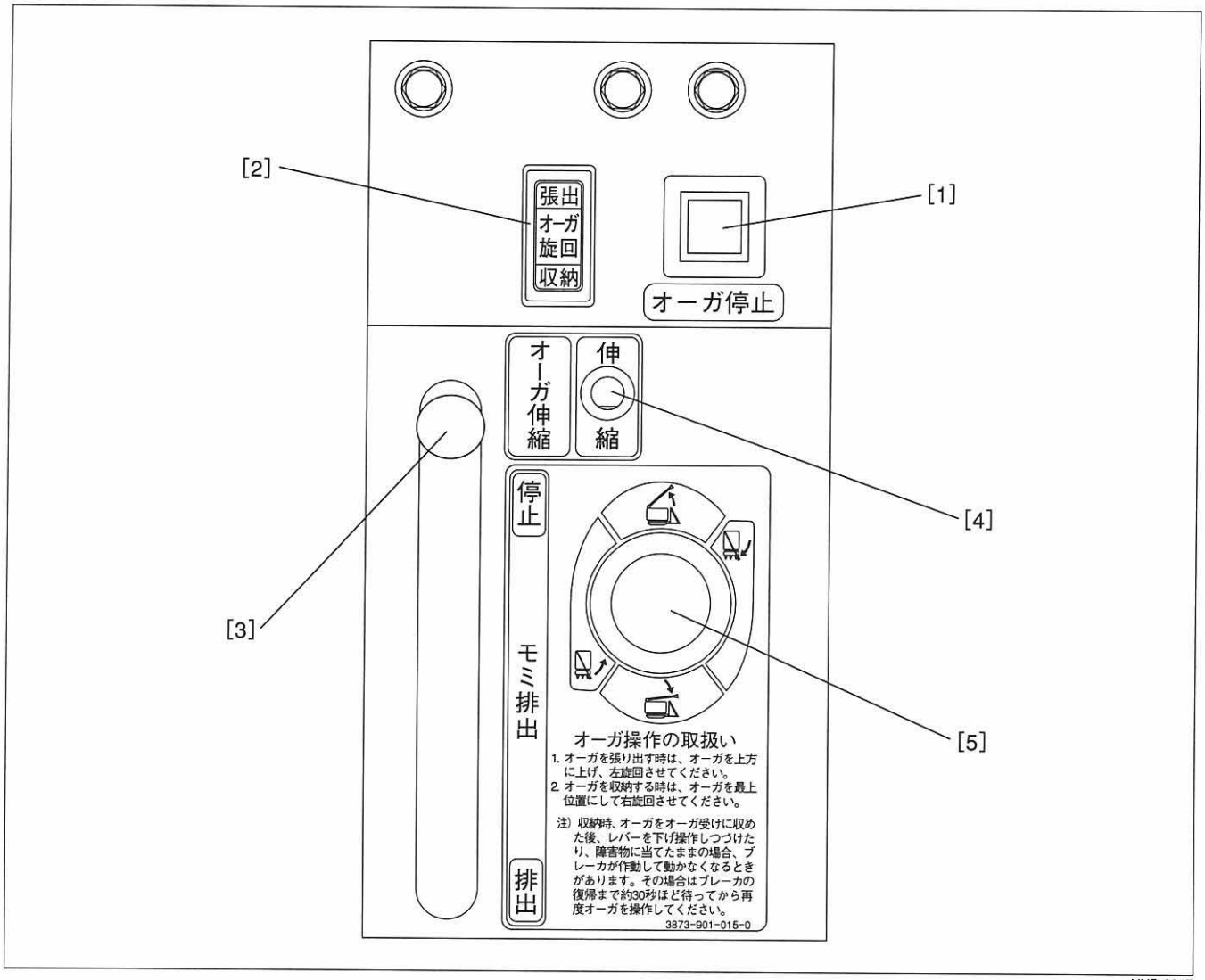
番号	名　称	機　能
[1]	刈取ロックノブ	ノブを「ロック」側にすると、刈取部は下がりません。マルチステアリングレバーが前後方向（刈取上下方向）に動かなくなります。
[2]	排じん量調節ノブ	こぎ室内のワラ屑の送りを調節します。作物の条件に応じて調節できます。
[3]	作業機切換レバー	カッタ作業とドロッパ作業、ノッタ作業の切り換えができます。
[4]	駐車ブレーキレバー	レバーを前方へ一杯に倒すと、駐車ブレーキがかかります。ブレーキがかかった後、手をはなすとレバーが途中まで戻ります。解除するときは、主変速レバーを中立「●位置」で左に倒します。

3.1.5 スイッチ関係



HVB-0314

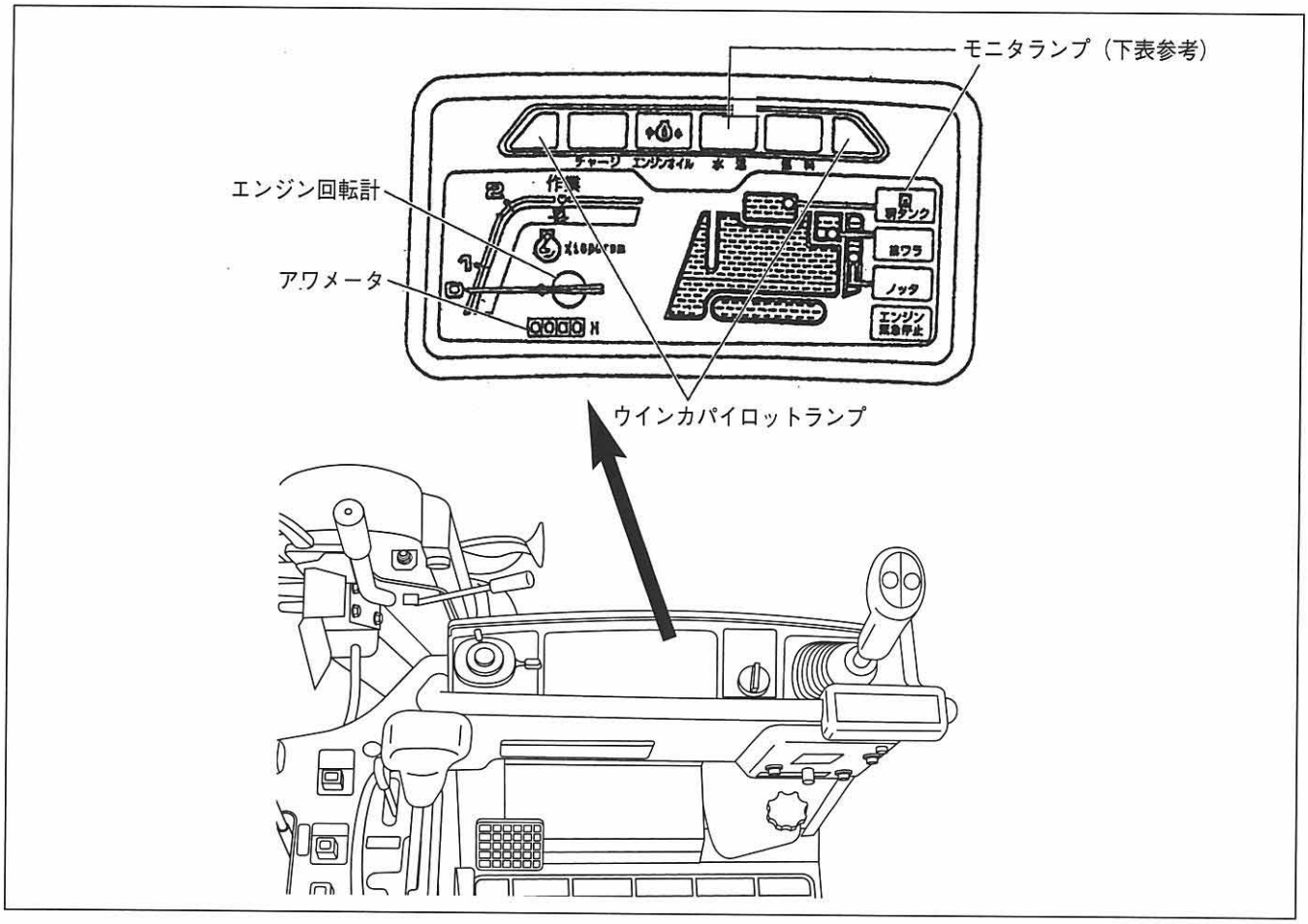
番号	名　称	機　能
[1]	ホーンボタン （ホーン停止ボタン）	ボタンを押すと、ホーンが鳴ります。又警報ブザーが鳴ったとき、このボタンを押すと鳴りやみます。
[2]	前照灯スイッチ	スイッチを「 ≡D 」にするとパネルと前照灯が点灯します。
[3]	ウインカスイッチ	スイッチを右に回すと右の、左に回すと左のウインカが点滅します。右折又は左折が終ったらすぐにスイッチを中央の位置に戻してください。
[4]	メインスイッチ	「 ∞ （予熱）」……エンジンを予熱します。 「切」……エンジンを停止するとき使用します。 「入」……電装品が作動します。 「始動」……エンジンを始動するときに使用します。 セルモータが回転し、エンジンが始動します。
[5]	こぎ深さ手動スイッチ	表示マークの方向にスイッチを操作し、こぎ深さを手動調節できます。
[6]	こぎ深さ自動スイッチ	スイッチを押すとスイッチが点灯し、こぎ深さが自動的に調節されます。
[7]	方向自動スイッチ （A型）	スイッチを押すとスイッチが点灯し、刈取する条にそって自動的に方向が制御されます。（条刈りのみ）
[8]	リフトシャットスイッチ （A型）	スイッチを押すとスイッチが点灯し刈取作業中、コーナー部で刈取部を上げると刈取部およびフィードチェンが自動的に停止します。刈取部を下げると再び回転します。
[9]	刈取スイッチ （A型）	脱穀レバー「入」にした状態で刈取スイッチを「入」にし、主変速レバーを前方に押すと刈取部が回ります。
[10]	緊急エンジン停止スイッチ	作業中、スイッチを押すと、エンジンが止まります。（脱穀クラッチレバー「入」時のみエンジンが停止します。）



HVB-0017

番号	名　称	機　能
[1]	オーガ停止スイッチ（GZ型）	排出オーガを自動で動かしているときに停止させるスイッチです。
[2]	オーガ自動旋回スイッチ（張出／収納）（GZ型）	排出オーガを自動で張り出したり、収納することができます。
[3]	籾排出レバー（G型、GZ型）	レバーを「排出」にすると、タンク内の穀粒が排出されます。
[4]	オーガ伸縮スイッチ（GZ型）	排出オーガを伸縮させます。
[5]	オーガ操作レバー（G型、GZ型）	排出オーガ位置を手動で操作するときに使用します。 排出オーガを上下、左右に動かせます。

3.1.6 コンビネーションメータ



HVB-0315

〔モニタランプのはたらき〕

モニタ名称	表示・警報			異常の内容
	点灯	ブザー	エンジン停止	
チャージ	○	―	―	エンジン運転中、充電していません。
エンジンオイル	○	―	―	エンジンオイルが不足です。
水温	○	○	―	エンジンが過熱しています。
燃料	○	―	―	燃料が残り少なくなっています。
籾タンク	○（点滅）	○（断続）	―	籾タンクが満杯です。
排ワラ	○	○	○	排ワラ搬送が詰まっています。
ノッタ	○	○	○	ノッタが詰まっています。
	○	○	―	ノッタのヒモ切れです。
エンジン緊急停止	○	○	○	緊急エンジン停止が作動しています。（作業時のみ）

補　足

- **警報ブザーを止めるときはホーンボタンを押してください。**
- **警報ブザーは脱穀クラッチ「入」のときのみ鳴ります。**

4. 作業前点検

⚠警告

駐車ブレーキをかけ、平たんな広く地面の硬い場所を選んでください。
※　機体が動き出し、衝突事故などを引き起こす原因となります。

燃料を補給するときは火気厳禁です。、くわえタバコ等をしないでください。
※　爆発や火災などを引き起こす原因となります。

給油、注油および回転部等の点検は、必ずエンジンを止め、メインスイッチキーを抜いてから行ってください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

燃料、オイルがこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
※　爆発や火災などを引き起こす原因となります。

点検時にカバーを開けたり、取り外したりした場合は、必ず元に戻してから作業してください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

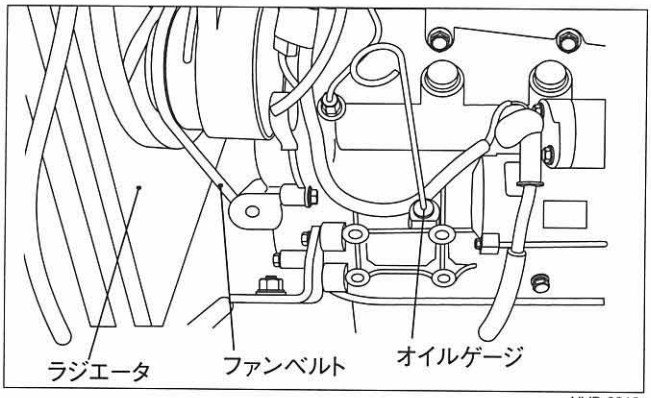
補　足

- **処置しても異常が直らないときはお買いあげ先に調整の依頼をしてください。**

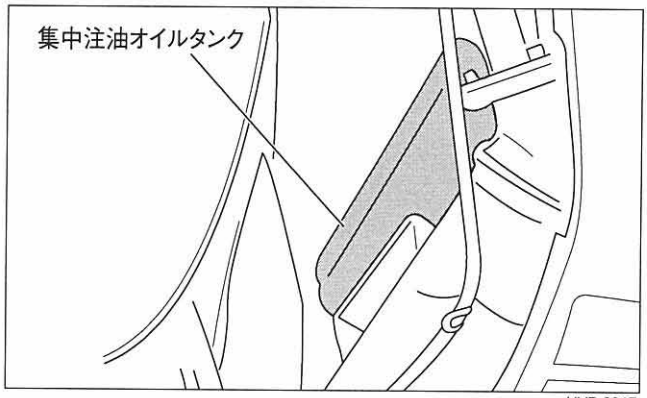
4.1　運転席にすわる前に

点検箇所	点検項目	処　置	参照ページ
エンジンオイル	オイルゲージの上下限線の間に油量がありますか。	補給します。 ディーゼルエンジンオイル 10W−30（CC級以上）	104
冷却水	ラジエータキャップを外して冷却水が見えますか。	給水口いっぱいまで冷却水を補給します。	139
ラジエータの防塵装置 （エンジンカバーをオープンして）	ラジエータカバー網が目づまりしていませんか。	網面についているホコリなどを掃除します。	35
	ラジエータフィンは目づまりしていませんか。	フィンについているホコリなどを掃除します。	35
標識（ナンバープレート） 反射器バックミラー	汚れはありませんか。	汚れをふきとります。	−
燃料タンク	作業に必要な量がありますか。 （燃料ゲージを見てください）	ディーゼル軽油を補給します。 （JIS2号）（寒冷地はJIS3号） 燃料ゲージに油面が見えない場合は、早めに燃料を補給してください。 燃料タンク内に水、ゴミ等が入らないよう給油時は燃料こし網を取らないでください。 給油後は燃料キャップを確実に締めてください。	−
エンジン・マフラ周辺	ワラ屑・ホコリが溜まっていませんか。	エンジンカバー、グレンタンクを開きホコリなどを掃除します。	−

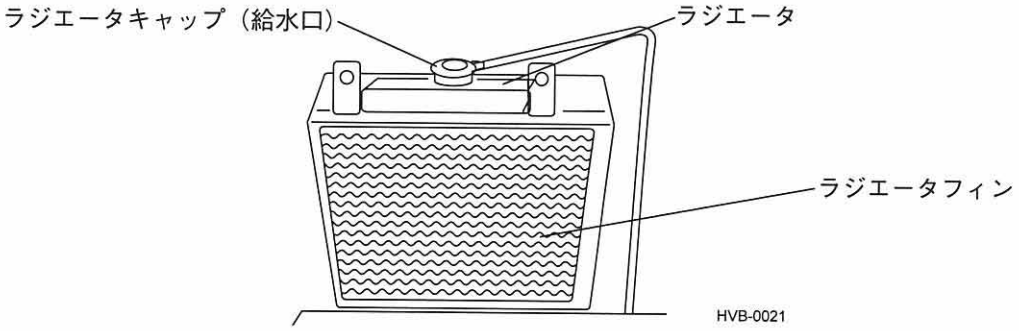
点検箇所	点検項目	処　置	参照ページ
クローラ （☞ 27ページ）	亀裂はありませんか。	交換はお買い上げ先に相談してください。	138
	たるみはありませんか。	張り量を調節します。（転輪とクローラのスキマ10～15mm）	
集中注油オイルタンク	オイルタンクに十分油量がありますか。	補給します。 エンジンオイル30＃	53
ファンベルト	指で押したときのたわみ量は適正ですか。	張り量を調節します。 （たわみ量14～15mm程度）	109
マルチステアリングレバー （☞ 29ページ）	操作したときに、旋回しなかったりレバーの遊びが大きくないですか。（☞ 41ページ）	お買い上げ先に調整を依頼してください。	―
ブレーキペダル （☞ 29ページ）	駐車ブレーキの効きは悪くないですか。 （☞ 38ページ）	お買い上げ先に調整を依頼してください。	―



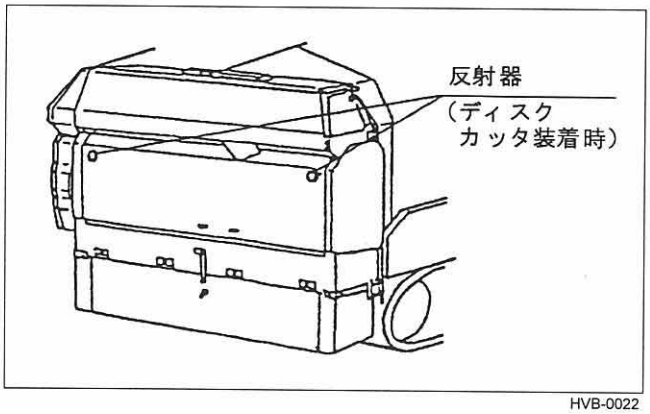
HVB-0316



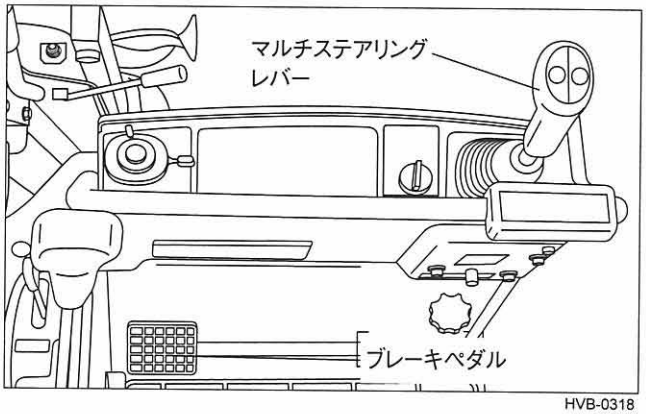
HVB-0317



HVB-0021



HVB-0022



HVB-0318

4.2 運転席でメインスイッチを「入」にして

点検箇所	点検項目	処　置	参照ページ
前照灯、ウインカランプ（☞27ページ）	前照灯スイッチ、ウインカスイッチを操作すると、点灯、点滅しますか。（☞31ページ）	球切れ、ヒューズ切れ、配線のはずれを処置します。	137
ホーン	ホーンボタンを押せば鳴りますか。（☞31ページ）	ヒューズ切れ、配線のはずれを処置します。	137
バックブザー	エンジンを始動して主変速レバーを「後進」にすると、ブザーが鳴りますか。	ヒューズ切れ、配線のはずれを処置します。	137

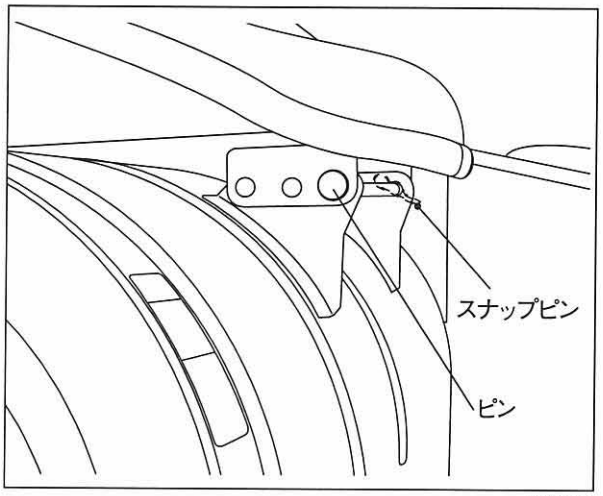
5. 運転のしかた

5.1 運転席の調節のしかた

運転席は前後に調節できます。体形に合わせて調節してください。

1 スナップピンを取り外してピンを抜き取り、体形に合った位置に穴を合わせて、ピンを差込みます。

2 スナップピンを差込み固定します。



HVB-0319

5.2 エンジン始動と停止のしかた

⚠警告

始動する前に、周囲の人にホーンで合図してください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

保護カバー類が取り付けてあるか、確認してください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

主変速レバー・副変速レバーを「中立」、各クラッチレバーを「切」にして始動してください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

室内で始動する場合は、十分に換気をしてください。
※　排気ガスなどによる中毒を引き起こす原因となります。

5.2.1 エンジン始動のしかた

1 主変速レバーを「中立」(「●」位置) にします。

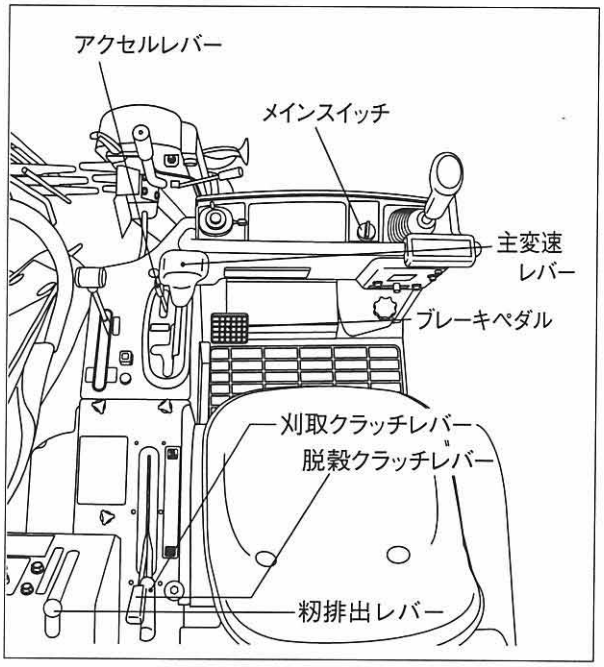
2 刈取・脱穀クラッチレバーを「切」にします。(G型、GZ型は、籾排出レバーも「切」にします。)

3 駐車ブレーキをかけます。(ブレーキペダルを踏み、ロックする。)

4 アクセルレバーを一杯引きます。

5 メインスイッチを「ꕥ (予熱)」位置に回し、5～10秒間予熱します。(☞31ページ)

6 メインスイッチを「始動」位置に回し、エンジンを始動します。



HVB-0320

補　足

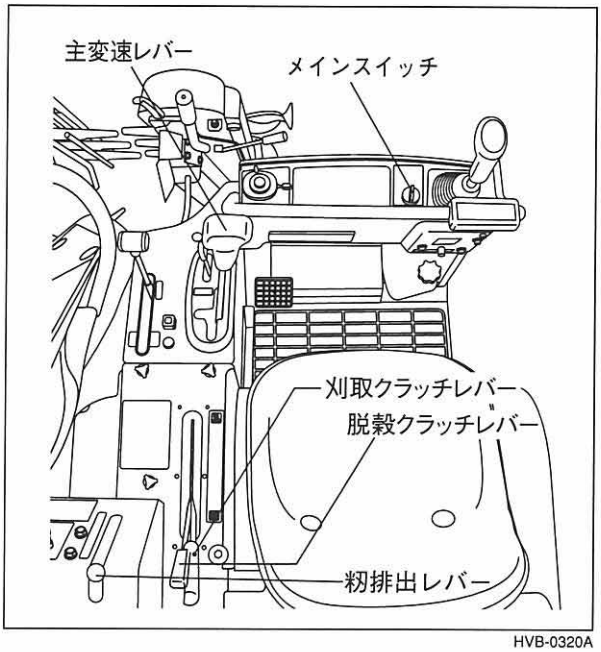
- **エンジン始動時に主変速レバーが「中立」(「●」位置) になっていない場合は、必ず主変速レバーを「中立」(「●」位置) にしてから、操作してください。**
- **10秒程スタート操作をしてもエンジンが始動しない場合は、メインスイッチを「切」にして、20秒以上休止してから再び操作してください。**
- **脱穀クラッチレバーが「入」のときはエンジンを始動できません。**
- **駐車ブレーキがロックされていないときは、エンジンが始動できません。**

5.2.2 エンジン停止のしかた

1 主変速レバーを「中立」(「●」位置) にします。

2 脱穀、刈取クラッチレバーを「切」にします。(G型，GZ型は、籾排出レバーも「切」にします。)

3 メインスイッチを「切」にすると、エンジンは止ります。



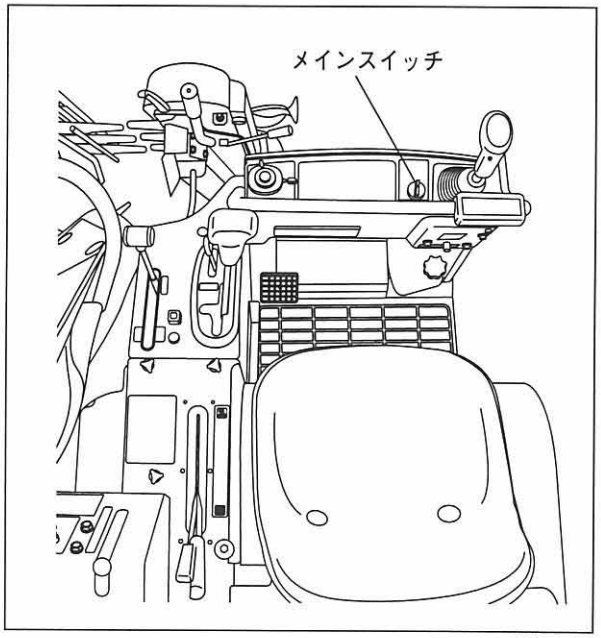
HVB-0320A

5.2.3 燃料のエアー抜きのしかた

燃料タンクが空になり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まってしまいます。もし、このようなことが起こったら燃料を満タンにしたうえで、メインスイッチを「入」位置のままで20～30秒待ってから「始動」位置にしてください。自動的にエアー抜きが行われ、エンジンがかかります。

1 エンジンの始動手順に従って、メインスイッチを「入」の位置にし、20～30秒待った後、メインスイッチを「始動」にします。

2 エンジンが始動するまで「始動」操作をします。



HVB-0320B

5.3 走行のしかた

⚠警告

急発進、急制動、急旋回はしないでください。
※　衝突・転倒・転落事故などの原因となります。

機体の上には、人、穀粒、物等を乗せないでください
※　衝突・転倒・転落事故などの原因となります。

機械の周囲に人がいないことを必ず確認し「ホーン」で合図してください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

道路で右・左折するときは、ウインカで合図し、低速で行ってください。
※　傷害事故などを引き起こす原因となります。

必ず減速してからゆるやかに旋回してください。
※　衝突・転倒・転落事故などの原因となります。

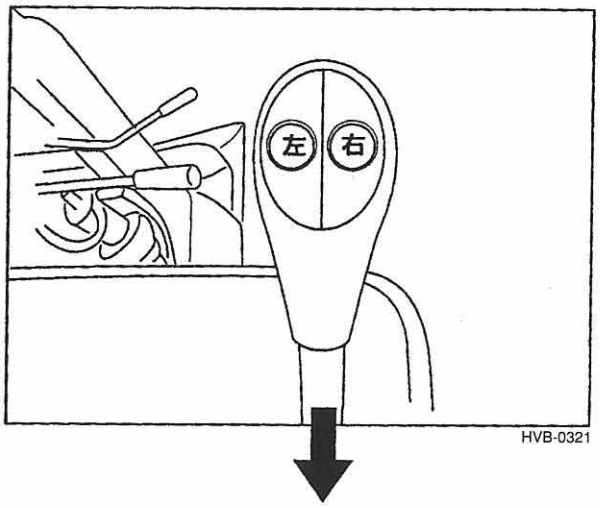
コンバインから離れるときは、平たんな場所に駐車し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めて、メインスイッチキーを抜いてください。
※　機体が動き出し、衝突事故などを引き起こす原因となります。

坂道で駐車しないでください。やむをえず坂道で駐車する時は、駐車ブレーキをかけてから木片等で車止めをしてください。
※　機体が動き出し、衝突事故などを引き起こす原因となります。

側溝のある農道や両側が傾斜しているあぜ道を走行する時は、速度を落として十分注意してください。
※　衝突・転倒・転落事故などの原因となります。

5.3.1 マルチステアリングレバーの使いかた

マルチステアリングレバーで刈取部の上下と、機体の方向修正、旋回ができます。

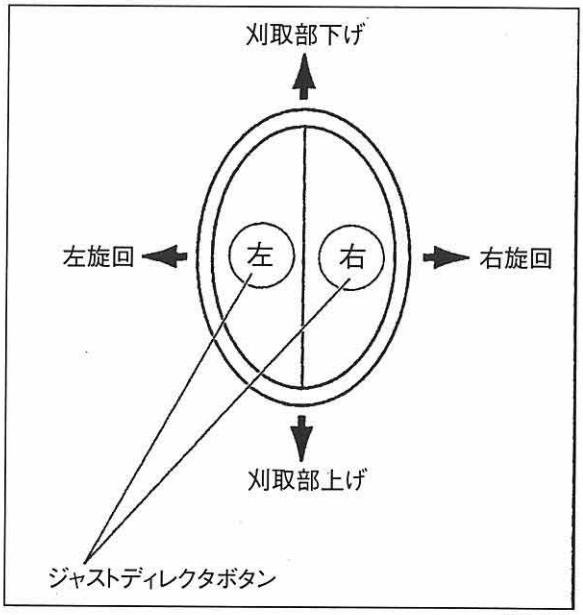


HVB-0321

(1) レバーを前、後に操作すると、刈取部の上下ができます。

(2) レバーを左、右に操作すると、方向修正から旋回までできます。
レバーの倒し量に応じて、ブレーキ力が変わりますので、ゆるやかな方向修正からコーナー旋回まで、条件に合わせて操作してください。
- ●ゆるやかな方向修正
  左、右に軽く倒します。
- ●コーナー旋回
  左、右にいっぱい倒します。

(3) 刈取作業時、ジャストディレクタボタンを押すと、ゆるやかな方向修正ができます。(A型)



HVB-0322

5.3.2 走行のしかた

⚠警告

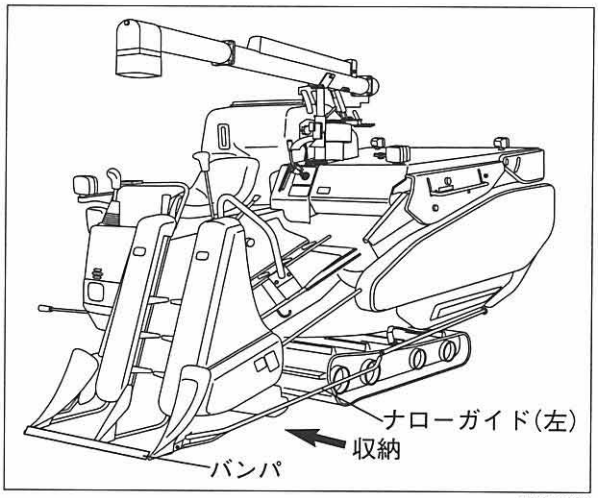
道路を走行するときは常に分草杆保護板を付けてください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

⚠注意

必ず減速してから、ゆるやかに旋回してください。
※ 衝突・転倒・転落事故などの原因となります。

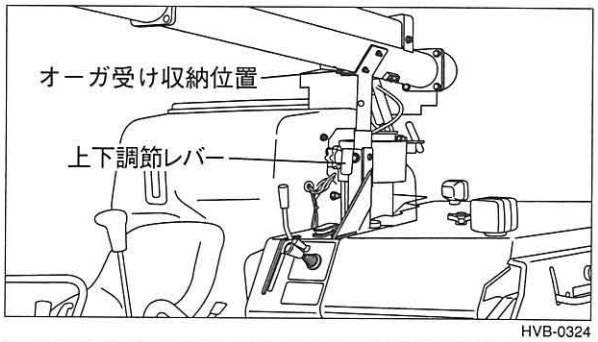
1 バンパをつけます。

2 ナローガイド（左）を収納します。



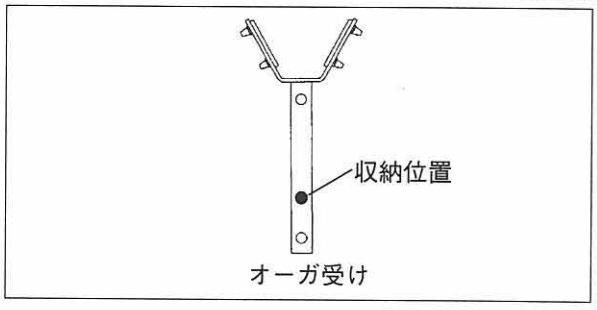
HVB-0323

3 排出オーガをオーガ操作レバー（☞ 32ページ）で上昇させ、上下調節レバーで、オーガ受けを収納位置にし、排出オーガを収納します。（G型、GZ型）



HVB-0324

4 補助もみ受台を収納します。（ホッパ型）（☞ 52ページ）



5 メインスイッチを操作して、エンジンをかけます。

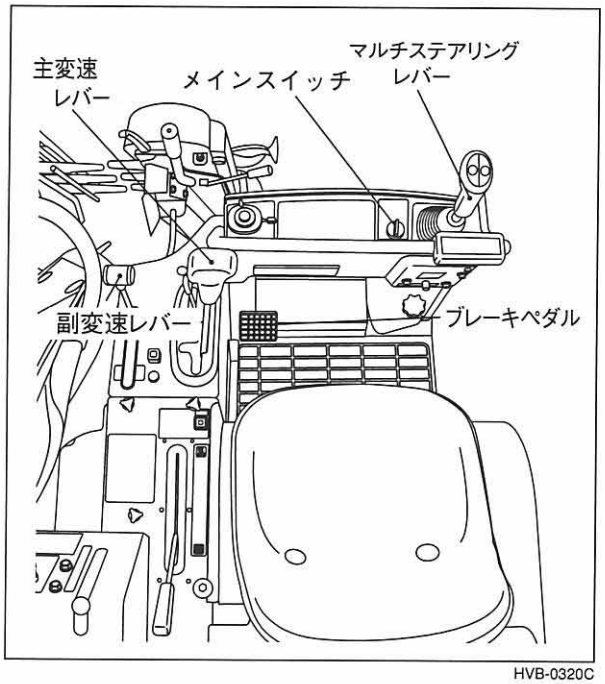
6 マルチステアリングレバーを操作して、刈取部を上げます。

7 副変速レバーを「走行」、「標準」、「倒伏」のいずれかにします。

8 駐車ブレーキを解除します。（☞ 45ページ）

9 主変速レバーを前方に押すと前進します。また、主変速レバーを後方に引くと後進します。

10 主変速レバーの押し量に応じて、無段階に走行速度を調節できます。



HVB-0320C

補　足

- **副変速レバーを操作する時は、主変速レバーを「中立」（「●」位置）にしてください。**
- **主変速レバーは、エンジン回転数2000r.p.m（min^{-1}）以上で使用してください。**
  それ以下の回転数で使用すると油圧無段変速装置（HST）の寿命が低下します。

5.3.3 停車・駐車のしかた

⚠ 警告

停車のときは必ず主変速レバーを「中立」（「●」位置）に戻してから、ブレーキペダルを踏んでください。
※　傷害事故を引き起こす原因となります。

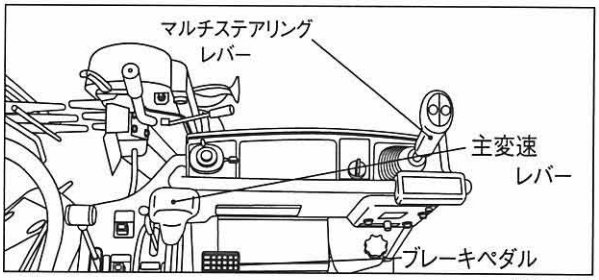
コンバインから離れるときは、平坦で水平な場所に駐車し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めて、メインスイッチキーを抜いてください。
駐車ブレーキをかけたときは、主変速レバーを前進位置に操作してください。
※　機体が動き出し、衝突事故などを引き起こす原因となります。

駐車ブレーキレバー・ブレーキペダルは途中で止めたりせず、すばやく操作してください。
※　機体が左右に振れたり、下がったり、転倒や傷害事故の原因となります。

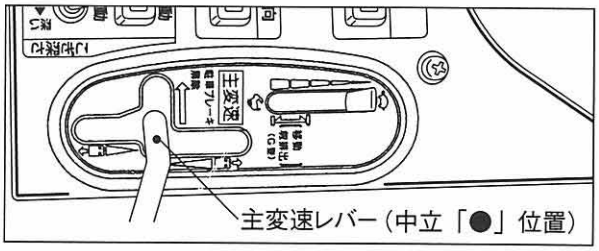
坂道で駐車しないでください。
やむを得ず駐車する場合は、駐車ブレーキをすばやくかけ、さらに木片等で車止めをしてください。
※　機体が動き出し、傷害事故などを引き起こす原因となります。

駐車ブレーキをかけた状態で更に駐車ブレーキレバーを押し下げないでください。
※　部品が変形して駐車ブレーキが効かなくなります。

1 主変速レバーを「中立」（「●」位置）にします。



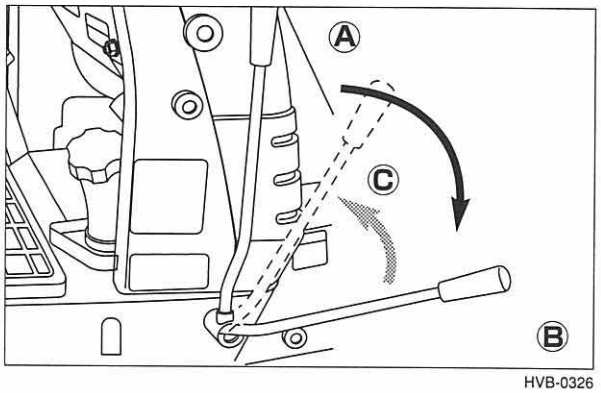
HVB-0320D



HVB-0325

2 駐車ブレーキをかけます。
Ⓐ → Ⓑ にします。
（駐車ブレーキレバーはブレーキをかけた後、手をはなすと Ⓒ の位置まで戻ります。）

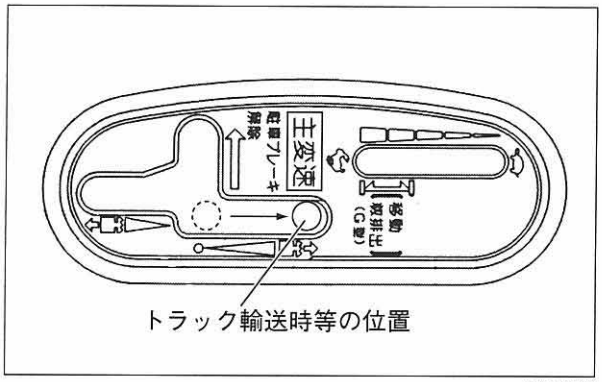
3 マルチステアリングレバーで、刈取部を地面まで下げます。



HVB-0326

4 メインスイッチを「切」にして、エンジンを止め、キーを抜きます。

5 トラック輸送時等は、主変速レバーを前進位置にします。
トラック輸送時の振動により駐車ブレーキが解除される恐れがあります。
駐車時にも同様に主変速レバーを前進位置にします。



HVB-0327

5.3.4 駐車ブレーキの解除のしかた

⚠警告

坂道で駐車ブレーキを解除する場合はエンジンをかけ、副変速レバーを「倒伏」に入れた後、すばやく解除し、車止めを外してください。
※ 機体が動き出し、傷害事故などを引き起こす原因となります。

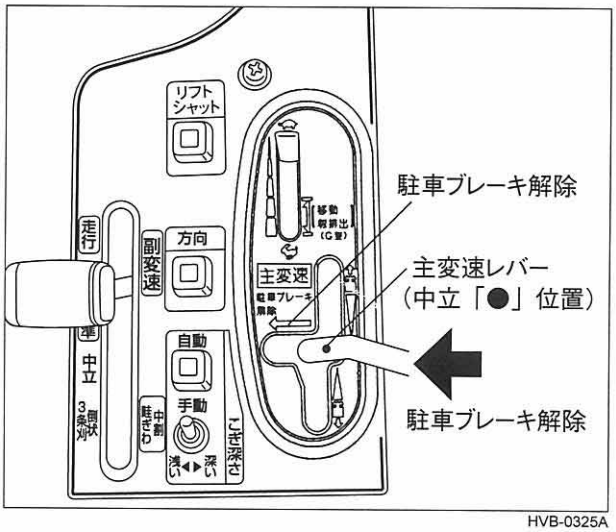
駐車ブレーキレバーは途中で止めたりせず、すばやく操作してください。
※ 機体が左右に振れたり、下がったり、転倒や傷害事故の原因となります。

駐車ブレーキを解除するときは付近に人がいないことを確認してから解除してください。
※ 思わぬ事故を引き起こす原因となります。

⚠注意

駐車ブレーキ解除時、駐車ブレーキレバーが勢いよく戻りますのでレバーに触れないでください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

1 主変速レバーを「中立」（●位置）で矢印方向に倒すと、駐車ブレーキは解除されます。



HVB-0325A

5.4 自動車等への積み・降ろしのしかた

⚠危険

アユミの上では、マルチステアリングレバー、副変速レバー、ブレーキペダル、駐車ブレーキレバーを操作しないでください。
※ 機体が急降下し落下する危険があります。方向を変えるときはいったん地上又は荷台の上に戻って方向を修正し、再度上がり下がりをし直してください。

積み降ろしの時は、機体の前後・左右には立たないでください。
※ 機体が動き出し、衝突事故などを引き起こす原因となります。

周囲に危険のない平たんで、地面のかたい場所を選んでください。
※ 衝突・転倒・転落事故などの原因となります。

アユミは、すべり止めのついたものを使用し、荷台に段差のないよう確実にかけてください。(アユミの基準： ☞47ページ)
※ 衝突・転倒・転落事故などの原因となります。

積込むトラックはエンジンを止めて、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
※ 機体が動き出し、衝突事故などを引き起こす原因となります。

積込みは、グレンタンクを空にしてから行ってください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

アユミから荷台に移るときや荷台からアユミに移るときは急に機体の角度が変わりますので、十分注意してください。
※ 衝突・転倒・転落事故などの原因となります。

⚠警告

刈取部はいっぱい上げてください。
※ アユミに刈取部が引掛り転倒・転落事故などを引き起こす原因となります。

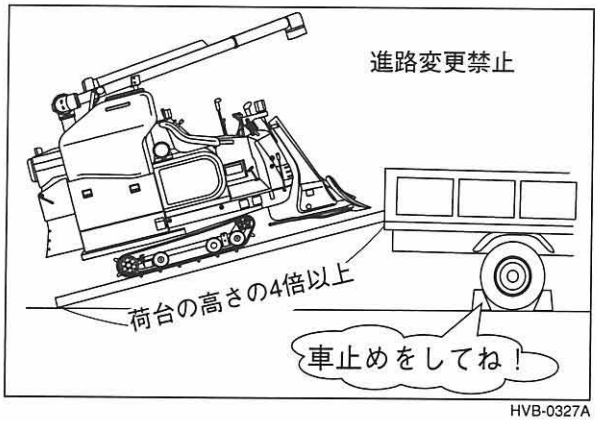
アユミの上では、刈取部の上下操作をしないでください。
※ アユミに刈取部が引掛り転倒・転落事故などを引き起こす原因となります。

積込みは前進で、積降ろしは後進で行ってください。
※ 衝突・転倒・転落事故などの原因となります。

1 基準に合ったアユミを用意します。

補　足

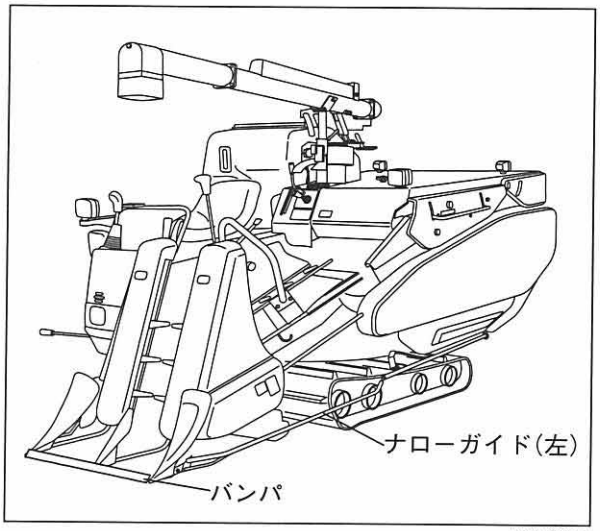
- **アユミの基準**
  - **a）長さ……車の荷台高さの 4 倍以上。**
  - **b）幅……40cm以上。**
  - **c）強度……750kg以上。（片側 1 枚）**
  - **d）数量…… 2 枚使用。**
  - **e）すべらないよう処理してあること。**
  - **f ）一方の端にトラックの荷台に引掛けるフックがあること。**



HVB-0327A

2 バンパを取付け、ナローガイド（左）を収納します。

3 補助もみ受台を収納します。（ホッパ型）
オーガ受けを収納位置にし、（☞ 42ページ）
排出オーガをオーガ受けに収納します。
（G型、GZ型）



HVB-0323A

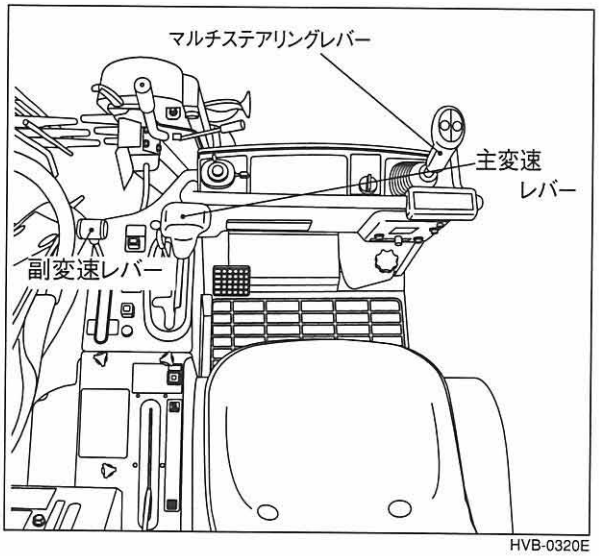
4 マルチステアリングレバーで、刈取部をいっぱい上げます。

5 アユミの前でいったん停止し、左右のクローラを合わせ、機体から降りてアユミと平行になっているか確認します。

6 副変速レバーを「倒伏」位置にして、主変速レバーを前進方向にゆっくり動かし微速にて積み込みます。
（1）積込みは「前進」で行います。
（2）降ろすときは、「後進」で行います。

補　足

- **主変速レバーの操作はエンジン回転数 2000r.p.m（min^{-1}）以上で使用してください。**

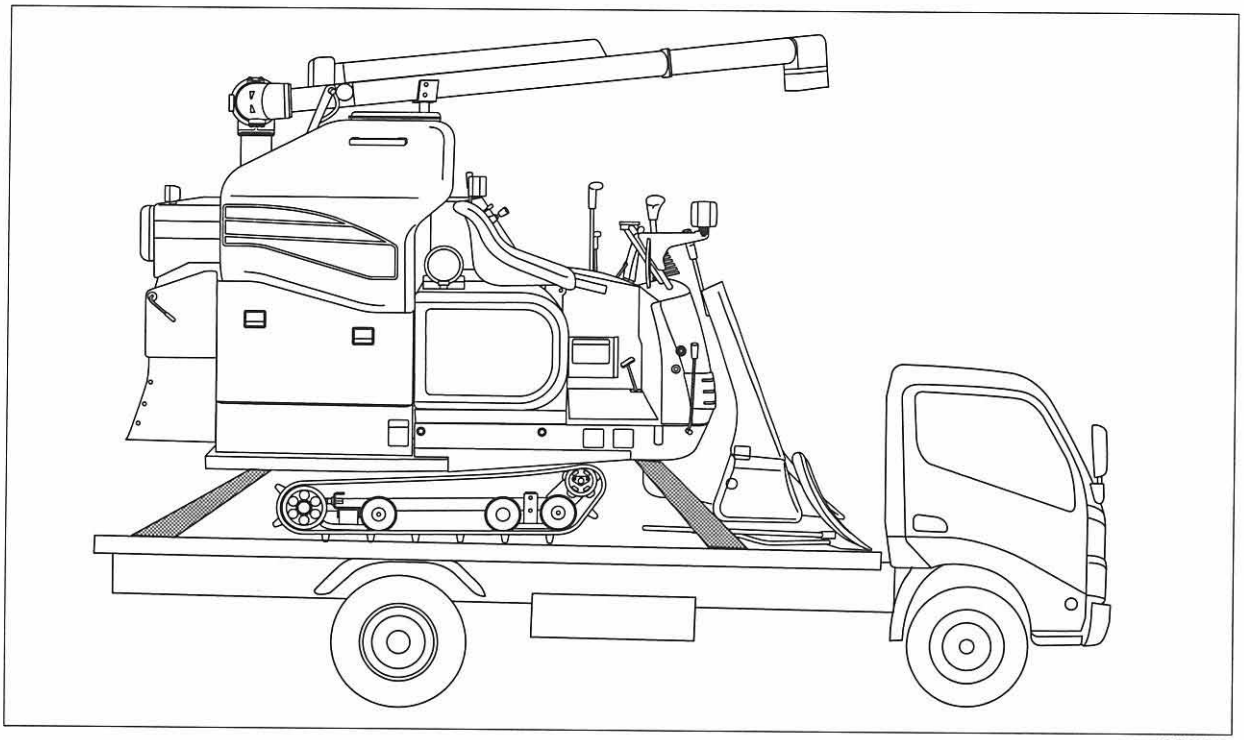


HVB-0320E

7 荷台に載せ終ったら刈取部を接地するまでおろして、駐車ブレーキをかけ、４本のフックをロープで引っ張り、機体を固定します。（フックは走行フレームの左右の前後にあります。）

補　足

- **ロープは、所定のフック以外には掛けないでください。機械破損や故障の原因となります。**



HVB-0328

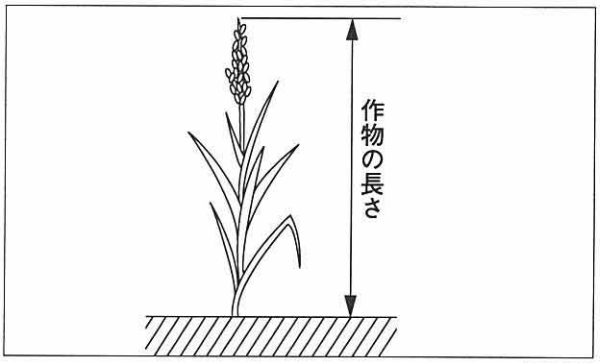
6. 作業前の準備

6.1 コンバイン作業ができる作物とほ場

作物とほ場の状態が下記条件より悪いときは、正常なコンバイン作業はできません。

6.1.1 作物の条件

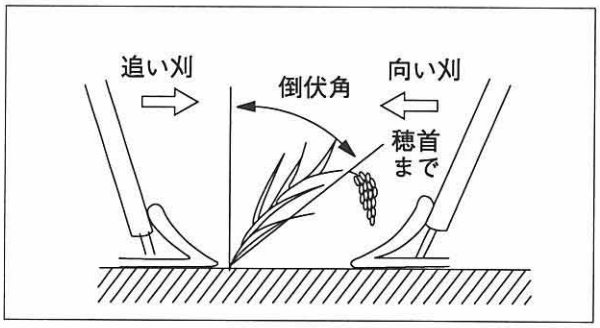
(1) 作物の長さ
55cm～120cm



HVB-0037

(2) 作物の倒れ（倒伏角）
追い刈……85° 以内
向い刈……70° 以内

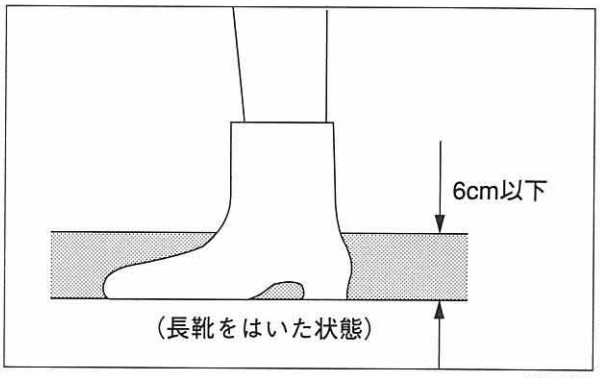
(3) 作物のぬれ
にぎって手がぬれない状態まで乾燥させます。



HVB-0038

6.1.2 ほ場の条件

(1) ほ場のぬかるみ度合い
足の沈みが6cmまでです。



HVB-0039

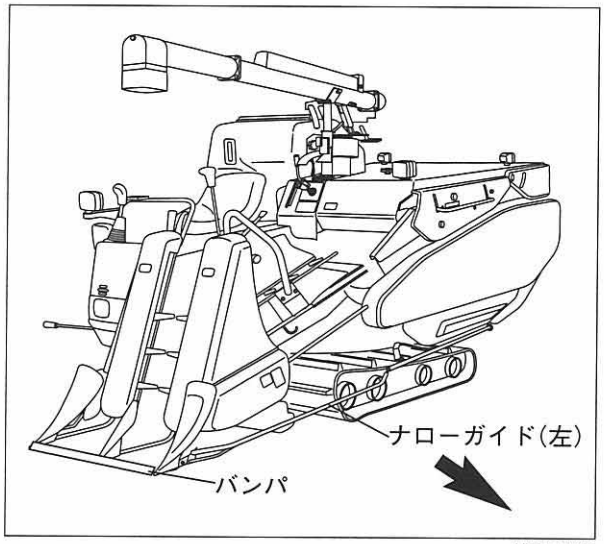
6.2 コンバインの準備

6.2.1 ナローガイドの準備

(1) バンパを取り外します。
(2) ナローガイド（左）を、一杯引き出します。

補 足

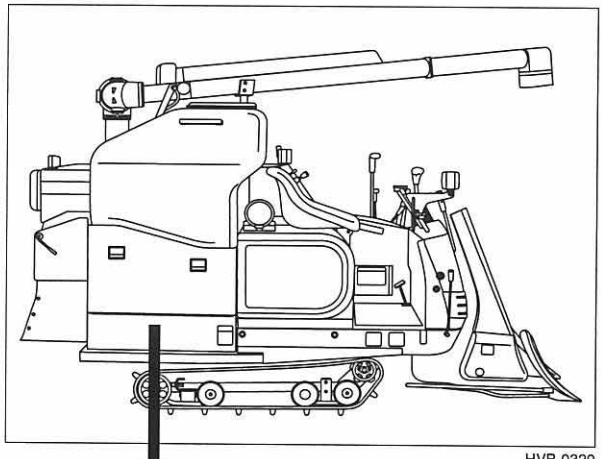
- **雑草の多いほ場では、ナローガイド（左）を一杯引き出さないと、搬送作物の詰まりの原因となります。**
- **短稈時は、中間で止めて、未刈稈がナローガイドの中に入らないようにしてください。**

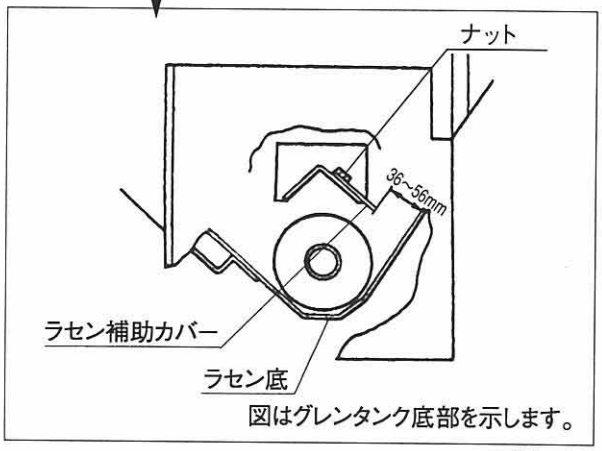


HVB-0323B

6.2.2 グレンタンクの準備（G型、GZ型）

(1) 標準出荷位置のラセン補助カバーとラセン底とのスキマは、56mmとなっています。
※脱プの多い場合や､詰まりが発生する場合には、ラセン補助カバーのナットをゆるめてラセン補助カバーとラセン底とのスキマが少なくなるよう調整します。ラセン補助カバーとラセン底とのスキマは、36～56mmの範囲で調整してください。


HVB-0329



HVB-0040A

6.2.3 オーガ受けの準備（G型、GZ型）

⚠注意

道路走行、あぜ越え・自動車への積み降ろしのときは、オーガ受けを収納位置にして排出オーガを縮めてから収納してください。

※ 衝突・転倒・転落事故などの原因となります。

オーガ受けを格納位置にして作業しないでください。

※ 機体部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

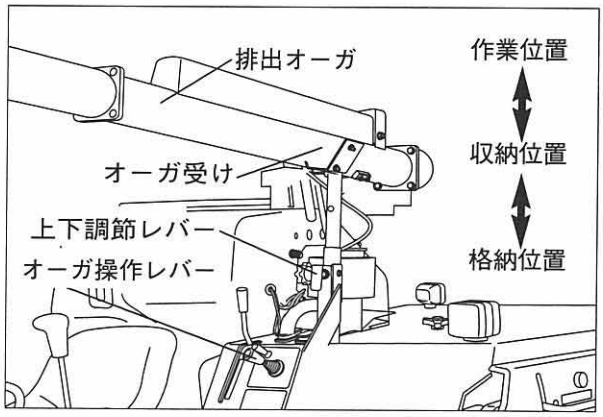
補 足

- **収納位置、格納位置で作業すると、オーガ籾出口から籾がこぼれる場合があります。**

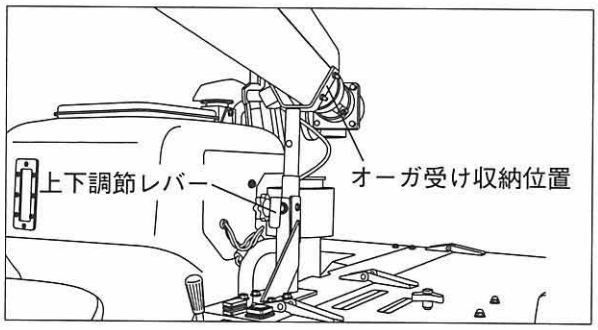
1 オーガ操作レバー（☞ 32ページ）を操作して、排出オーガを上昇させます。

2 上下調節レバーを引いて、オーガ受けを作業位置にします。

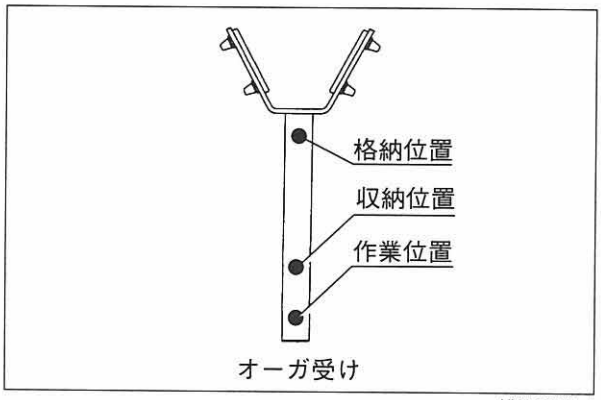
3 排出オーガをオーガ受けに収納します。



HVB-0029A



HVB-0029



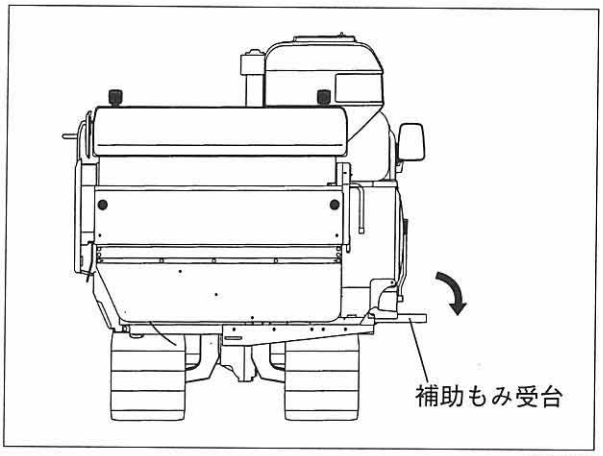
HVB-00401-A

6.2.4 ホッパの準備（ホッパ型）

1 補助もみ受台を広げます。

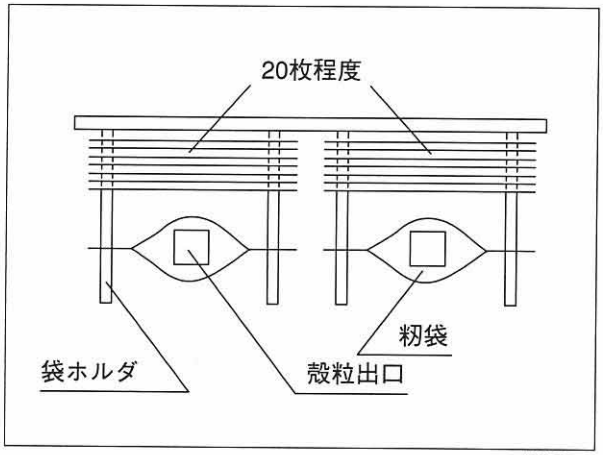
補　足

- **中割り作業、あぜの高い枕刈時は折りたたんでください。**



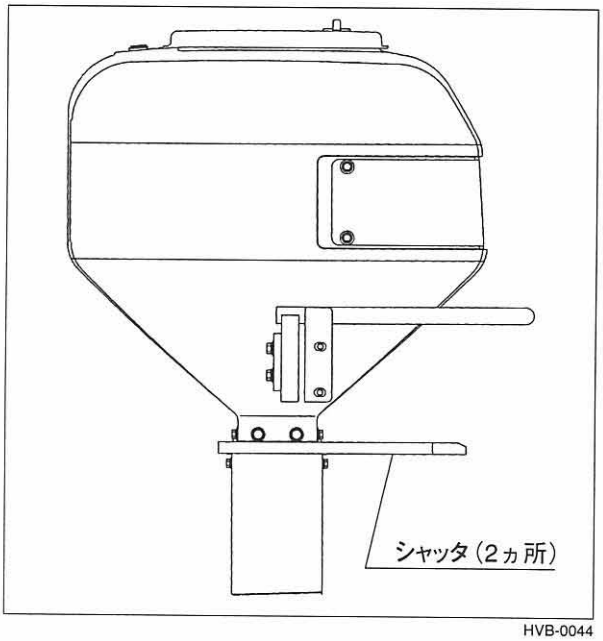
HVB-0042

2 ファスナーを開けた籾袋を、籾ホルダに20枚程度装着し、2ヵ所の穀粒出口に1枚づつ取り付けます。



HVB-0043

3 シャッタ2ヵ所を引き出します。



HVB-0044

6.3 作業前の注油

⚠ 警告

脱穀部の注油を行うときは、必ずエンジンを止めて、メインスイッチキーを抜いてから行ってください。

※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

補 足 ● **作業前は注油してください。**

■刈取部の注油

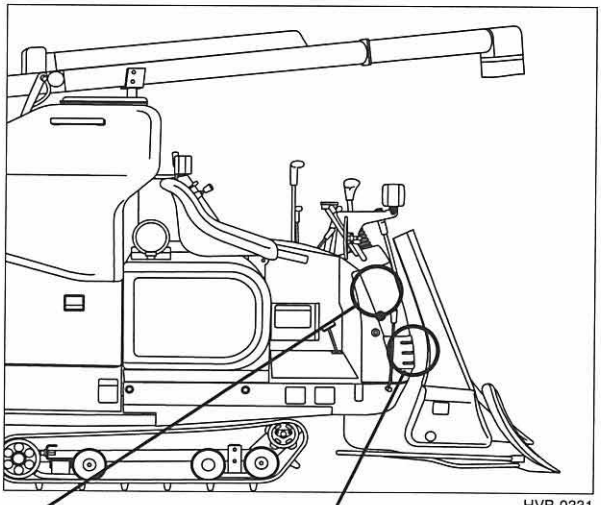
1 駐車ブレーキをかけます。
メインスイッチを操作してエンジンを始動し、副変速レバーを「中立」にします。

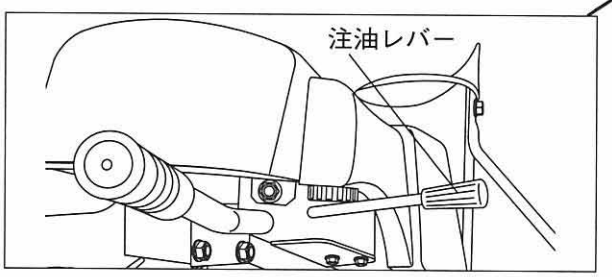
2 脱穀クラッチレバー・刈取クラッチレバー（A型は刈取スイッチ）を「入」にし、主変速レバーを前進側に倒して刈取部を回します。

3 「注油レバー」を押すと自動的に注油されます。
オイルが各部に回っていることを確認してください。

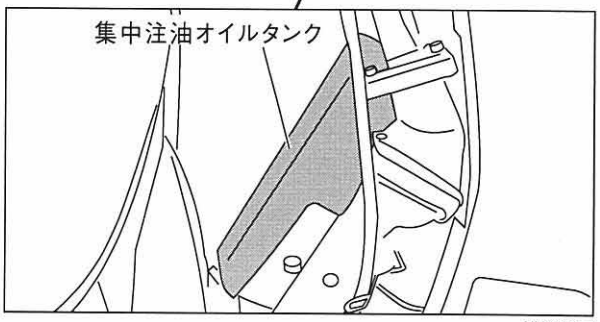
補 足

● **オイルタンクのオイルの量を確認してから注油をしてください。**


HVB-0331



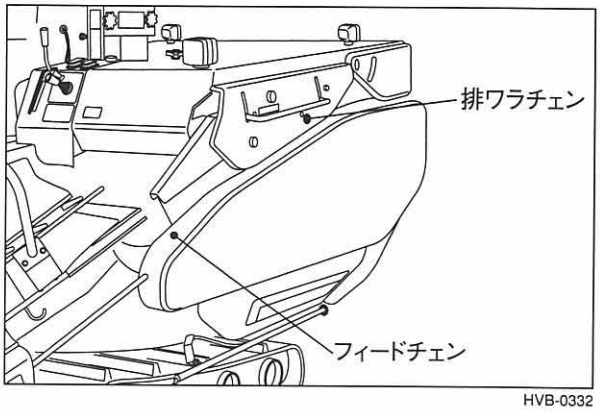
HVB-0330



HVB-0317

■脱穀部の注油

オイル差しで、フィードチェン・排ワラチェンに注油します。



HVB-0332

6.4 ほ場での準備

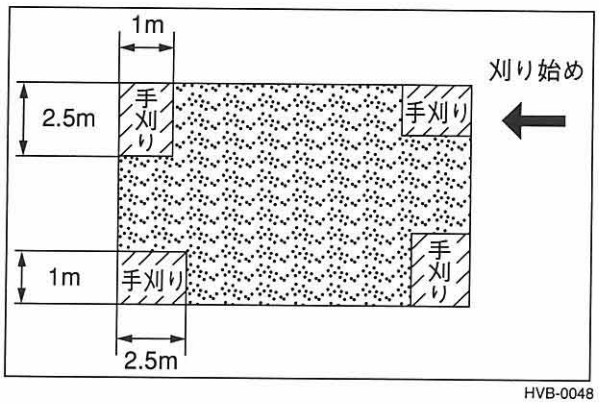
6.4.1 四すみの手刈り

(1) 能率よく作業をするため、四すみを回行できるよう手刈りします。

補 足

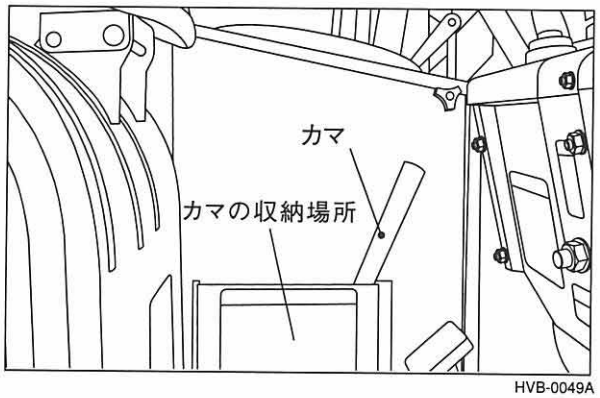
【一般的なほ場の刈りかた】

- **ほ場の端から左回り刈りをします。**



HVB-0048

(2) カマの収納場所：
ステップ左のカバーに収納します。



HVB-0049A

7. 作業前に必要な調節

⚠ 警告

調節するときは必ずエンジンを停止して、メインスイッチキーを抜いてから行ってください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

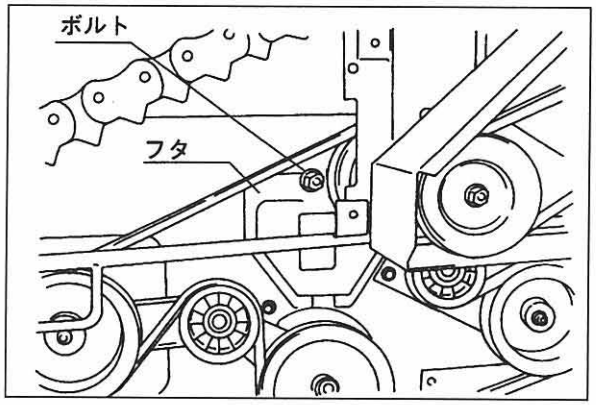
取り外したカバーは、調節後、必ず元の位置に組み付けてください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

7.1　フィン角度の調節のしかた

(1) フィン調節レバーは、刈取作業でのロスを減らして良い選別を得るために、選別部のフィンの角度を調節するものです。フィン調節レバーの標準位置は、最閉じから3段目です。

(2) 作物の種類や条件によって脱穀部のフィン調節レバーを下表のように調節します。

レバー操作	「閉じる」⟷「開く」	
現　象 （状態）	選別が悪い	ロスが多い
	枝こう付着粒が多い	脱プが多い



HVB-0050

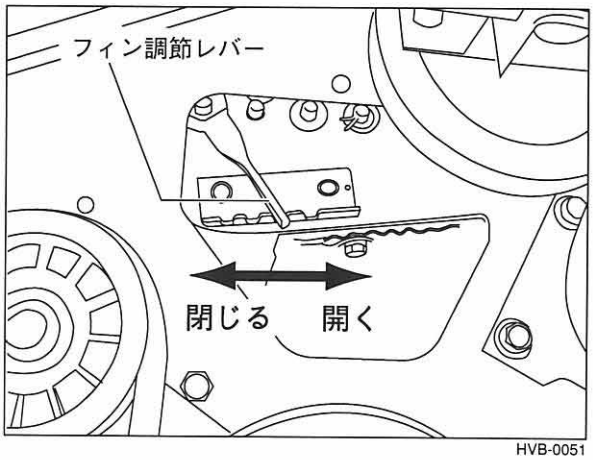
■調節のしかた

1 チェンカバー・ベルトカバーを外します。
（☞ 27ページ）

2 ボルトを外してフタを開きます。

3 フィン調節レバーを調節します。

4 フタ、チェンカバー、ベルトカバーを取り付けます。



HVB-0051

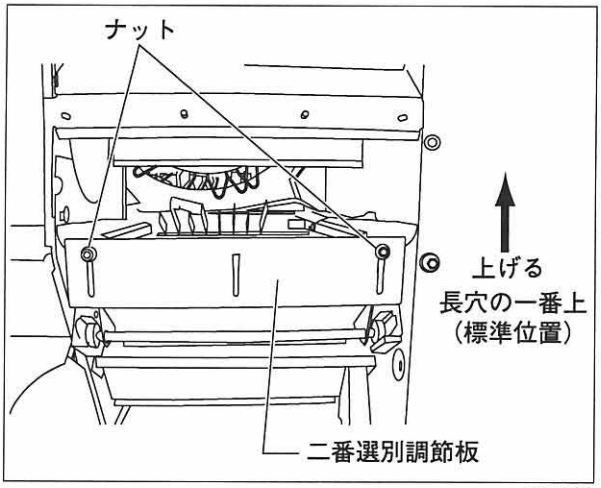
7.2 二番選別調節板の調節のしかた

低・中速作業時にロスが多いときは調節板の高さを変え、ロスを低減することができます。

補　足

- **高速作業時やぬれた作物等で調節板を上げると揺動棚の循環量が過多となり、2番ラセンの詰まりやロスが増える原因となります。**

作業の状態	二番選別調節板
もみの飛散が多い	上げる



HVB-0052

■調節のしかた

1 カッタをオープンします。

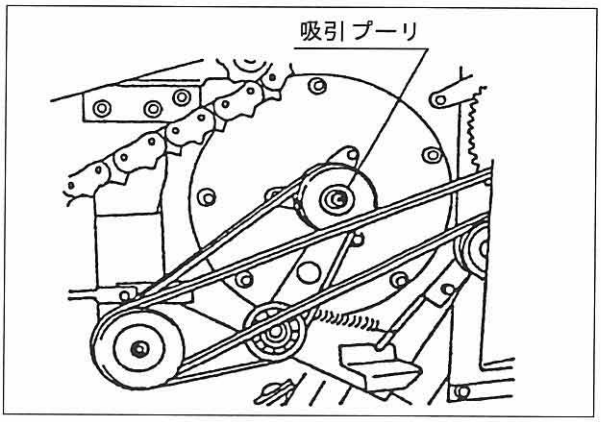
2 二番選別調節板のナット2本をゆるめて長穴位置をずらし、調節します。

3 調節が終りましたらカッタを閉めます。

7.3 吸引ファン回転数の調節のしかた

良い選別を得るためや機外への損失を少なくするために吸引ファンの回転数を変え、風力を調整するものです。下記のような状態を除いては、標準（工場出荷時状態）で使用します。

作物の状態	機械の状態	回転数の調節
●早朝、雨の後などでぬれた作物 ●青葉が多い作物 ●雑草が多いほ場	●二番や揺動棚に詰まりが生じる ●選別が悪い	●吸引回転数を上げる
●完熟過ぎの作物 ●作柄の悪い作物	●三番飛散が多い	●吸引回転数を下げる



HVB-0053

■調節のしかた

1 カッタベルト、吸引ベルトを外します。

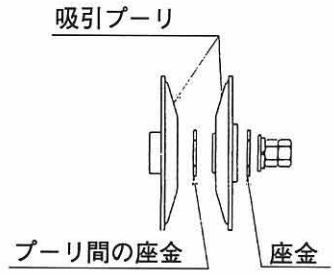
2 吸引プーリの取付ナットを外し、プーリ間の座金枚数で調節します。

補　足

- **調節後取付ナットは確実に締め付けます。**
- **調節後テンションスプリングの張りを調節します。（☞115ページ）**

3 調節が終りましたらカッタベルト、吸引ベルトを取り付けます。

回転数の調節	座金枚数
回転数を上げる	2
標　　準	1
回転数を下げる	0

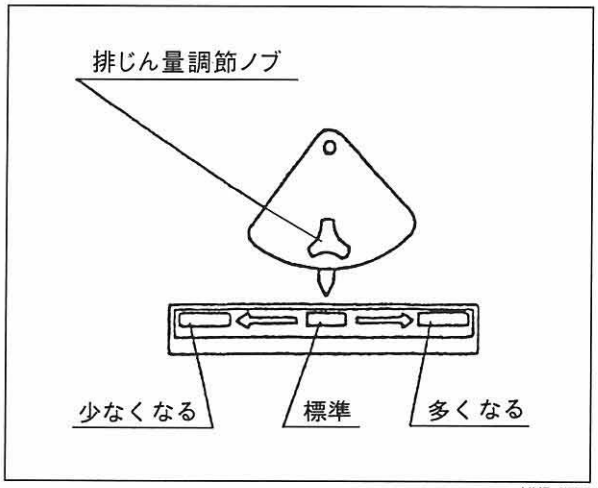


HVB-0054

7.4 排じん量の調節のしかた

「標準」（工場出荷時状態）位置で作業を始め、その後、作業の状態をみて調節します。

作業の状態	レバー位置
●枝梗付着が多い ●もみの飛散が多い	「少なくなる」側
●通常作業	「標準」
●こぎ室内で常時ゴトゴト音がする	「多くなる」側



HVB-0055

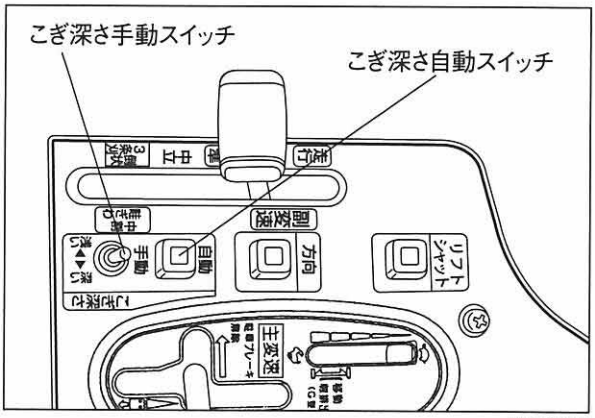
補　足

- **「少なくなる」側で作業するときは、こぎ室内でゴトゴト音がしないよう、作業速度を落とします。**

7.5 こぎ深さ調節（手動）のしかた

こぎ深さ自動スイッチを「切」にしてこぎ深さ手動スイッチを、左右に操作して行います。
（低速作業時、雑草が多い時、倒伏作物の刈取り等、こぎ深さ自動制御装置では、穂先が、こぎ深さ指示マークに合わない時に操作してください。）

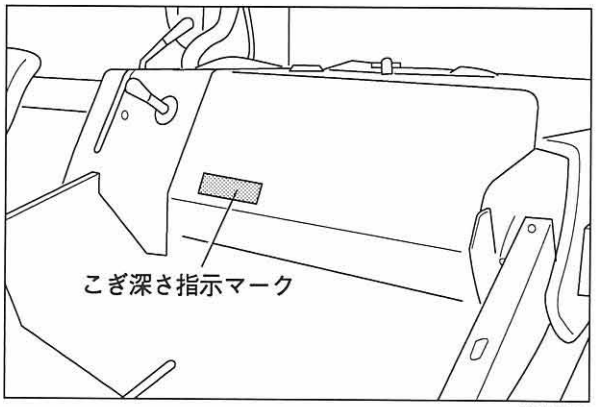
(1) こぎ深さ自動スイッチを「切」にします。
(2) こぎ深さ手動スイッチを左右に操作します。
　深くする……スイッチを右へ倒す。
　浅くする……スイッチを左へ倒す。



HVB-0325B

補　足

- **こぎ深さ自動制御装置で作業中でも、こぎ深さ手動スイッチで優先的に調節できますから、刈りはじめや作物の長さが急に変わる場合にも操作してください。**
  （主変速レバーが中立（「●」位置）に近いときはこぎ深さ自動制御装置は作動しません。このとき、こぎ深さ自動スイッチを「切」にする必要はありませんが、こぎ深さ手動スイッチでこぎ深さの調節をしてください。）
- **穂先がこぎ深さ指示マークに合うように調節してください。**



HVB-0056

7.6 刈取定点停止ストッパの調節のしかた

⚠ 警告

平たんな硬い場所でエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、メインスイッチを抜き手袋をして作業してください。

※ 機体が動き出し、衝突事故などを引き起こす原因となります。

不用意に刈刃に触れないでください。

※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

刈取部を上げて作業する場合

・刈取ロックノブを刈取ロック方向にしてください。

・刈取部の下にスタンド等の台を置き、安全を確認して行ってください。

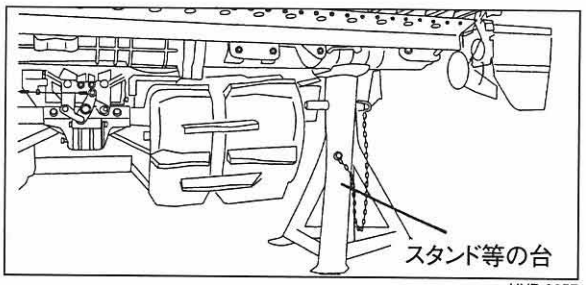
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

定点停止ストッパにより、刈高さを「規制」または「解除」にすることができます。ほ場や作物の条件に合わせて次のように調節してください。

定点停止位置	デバイダ先端	作物・ほ場条件
規　制	地面より高い位置で止まる	●作業になれるまで ●立毛稲 ●乾田
解　除	地面より下に下がる	●湿田 ●倒伏



HVB-0058



HVB-0057

■調節のしかた

(1) 刈取部を上げて、刈取ロックノブを刈取ロック方向にします。

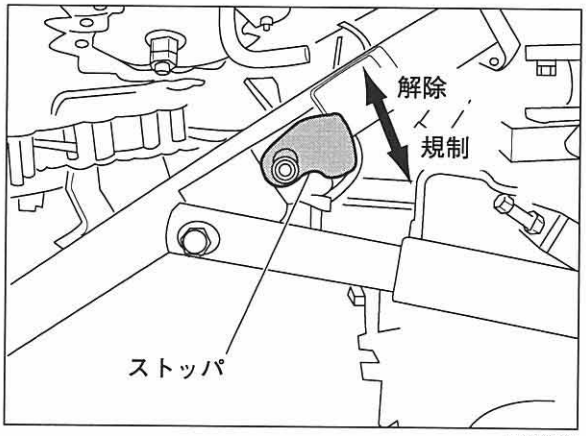
(2) 刈取部の下にスタンド等の台をおきます。

(3) エンジンを停止します。

(4) ストッパを「規制」または「解除」の方向に動かします。

補　足

- **機械になれるまでは、刈取部の上下操作を誤りがちで、刈刃で泥を切ったり、デバイダが土に突っ込んだりすることがありますので、定点停止位置は「規制」位置にして使用してください。**



HVB-0333

7.7 刈刃高さの調節のしかた

⚠警告

平たんな硬い場所でエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、メインスイッチを抜き手袋をして作業してください。
※ 機体が動き出し、衝突事故などを引き起こす原因となります。
手袋を使用し、直接刈刃に触れないでください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。
刈取部を上げて作業するときは、①刈取ロックノブを刈取ロック方向にし（☞ 30ページ）、②さらに刈取部の下にスタンド等の台を置き、安全を確認して行ってください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

1 刈刃高さは、「標準」「低刈り」の2段の調節ができます。

2 工場出荷時は「標準」位置にセットされています。

3 作物刈取後、野菜栽培等を行うために、低刈りをしたい場合は「低刈り」位置にセットして作業します。

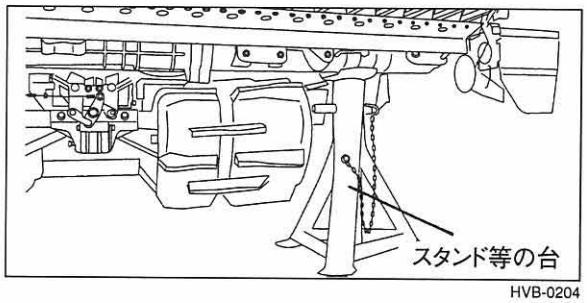


HVB-0058

4 通常の刈取り作業は、「標準」位置で作業します。

補 足

- **「低刈り」位置で、うねのあるほ場や湿田での刈り取りでは、搬送通路に雑草や泥が溜り、巻き付きや搬送の乱れが発生しやすくなります。**

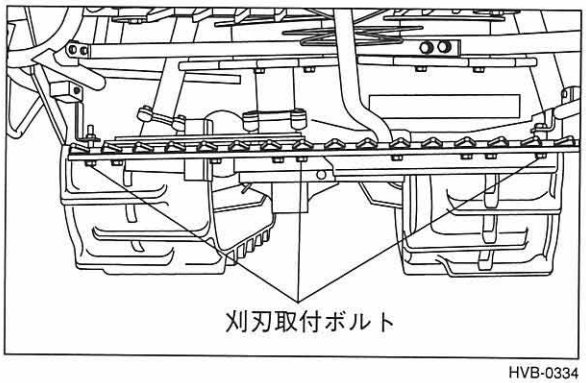


HVB-0204

■「低刈り」の調節のしかた

1 刈取部を上げ、刈取ロックし、エンジンを停止します。（刈取部の下にスタンド等の台を置く）

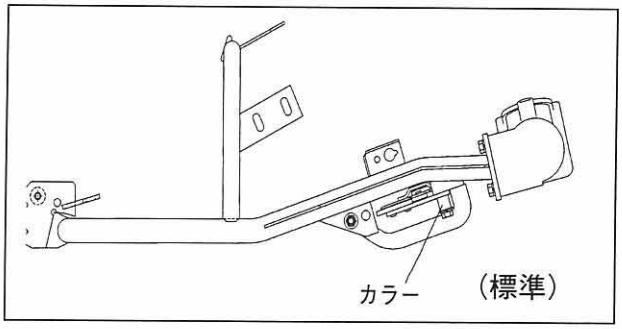
2 中央の刈刃取付ボルトとカラーを外します。



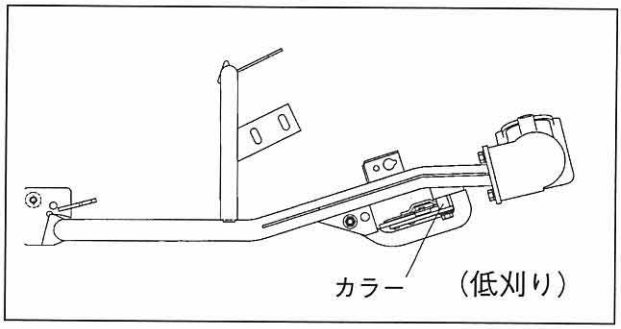
HVB-0334

3 左右の刈刃取付ボルトとカラーを交互に外し、カラーを刈刃の上に挿入し、軽く締め付けます。

4 中央の刈刃取付ボルトも同様にカラーを刈刃の上に挿入し、3本（中央と左右）の刈刃取付ボルトを締め付けます。



HVB-0335



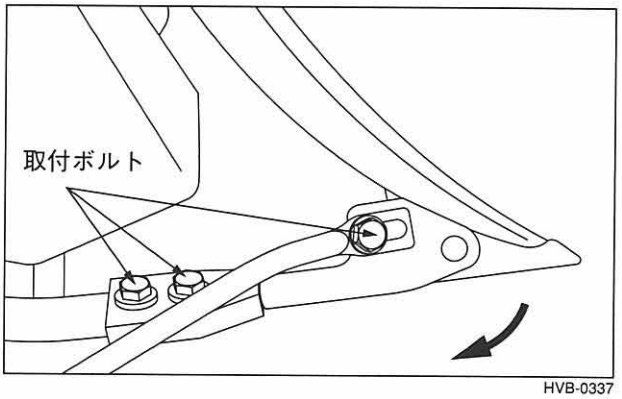
HVB-0336

7.8 デバイダの調節のしかた

■刈取幅の調節のしかた

植付条間の広いほ場や中割作業で調節してください。

1 デバイダ（右）の取付ボルト（3個）をゆるめ、矢印方向に広げて締め付けます。



HVB-0337

■上下調節のしかた

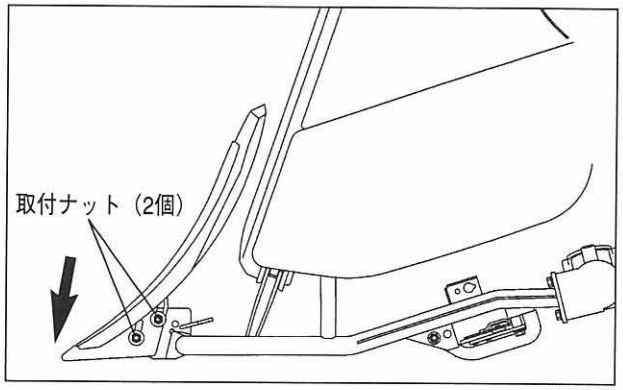
倒伏、湿田、うねのあるほ場で調節してください。

1 各デバイダの取付ナット（2個）をゆるめます。

2 うねの高さ等に応じて矢印方向に適量動かし、取付ナット（2個）を締め付けます。

補　足

- **各デバイダの地面から高さは、必ずそろえてください。**

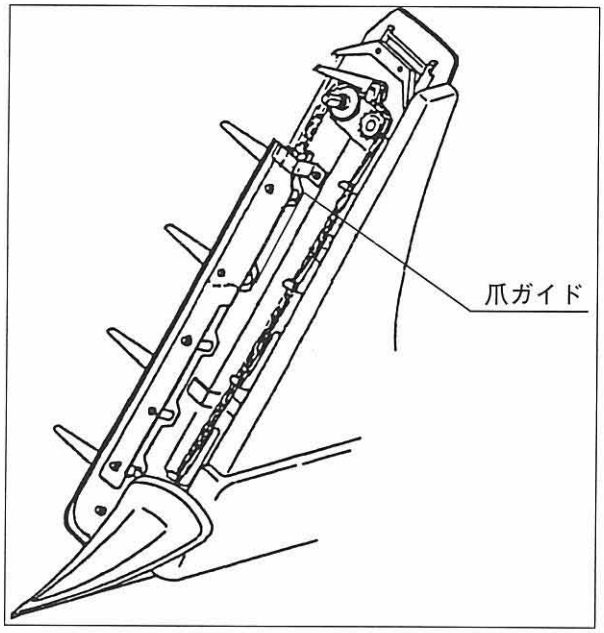


HVB-0338

7.9 短稈作物作業時の調節のしかた

7.9.1 引起しチェン爪ガイドの調節のしかた

短稈刈取作業時、引起し部で穂の脱粒が発生する場合は調節してください。



HVB-0064

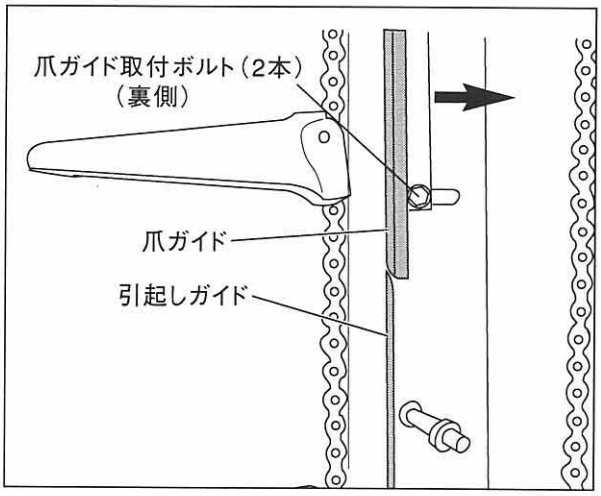
■調節のしかた

1 引起しカバーを外します。（☞ 96ページ）

2 爪ガイド取付けボルト（2本）をゆるめ、爪ガイドを矢印方向へずらします。

3 ずらした後で取付ボルト（2本）を締め付けます。

4 引起しカバーを取り付けます。



HVB-0065A

補　足

- **出荷位置に戻す場合は、爪ガイドの先端部が引起しガイドより出ない位置で、取付けボルトを締め付けてください。**

7.9.2 こぎ深さ株元チェンの調節のしかた

■調節のしかた

短稈時、こぎ残しが発生する場合調節してください。

■調節のしかた

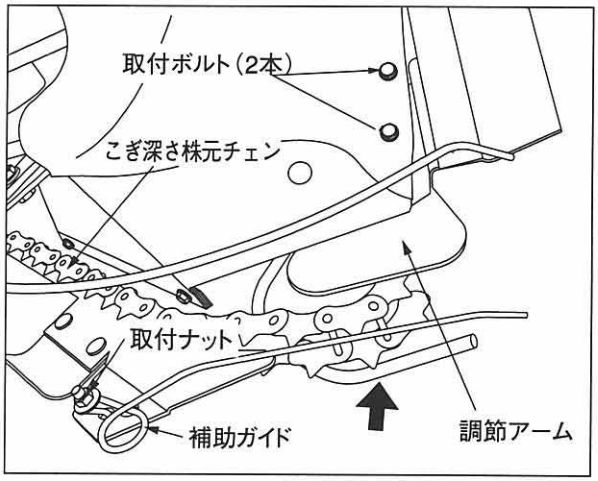
1 調節アームの取付けボルト（2本）をゆるめます。

2 調節アームを矢印方向（↗）長穴いっぱいにずらします。

3 取付けボルト（2本）を締め付けます。

4 補助ガイドの取付ナットをゆるめます。

5 補助ガイドとこぎ深さ株元チェンが軽く接するようにして、取付けナットを締め付けます。



HVB-0339

7.10 カッタ作業のしかた

⚠警告

カッタ部の掃除や調節をするときは、必ずエンジンを停止してメインスイッチキーを抜いてから行ってください。

※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

カッタ部を掃除するときは手袋をして、カマなどを利用し直接回転刃にさわらないでください。

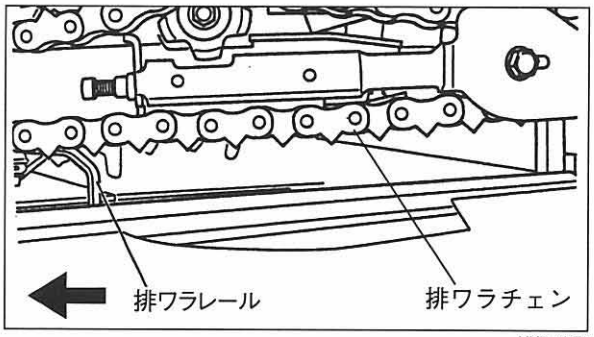
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

⚠注意

排ワラチェンでワラ搬送中は、作業機切換レバーの操作は絶対にしないでください。

※ 機体部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

1 排ワラチェン部の排ワラレールを矢印方向いっぱいに押し込みます。

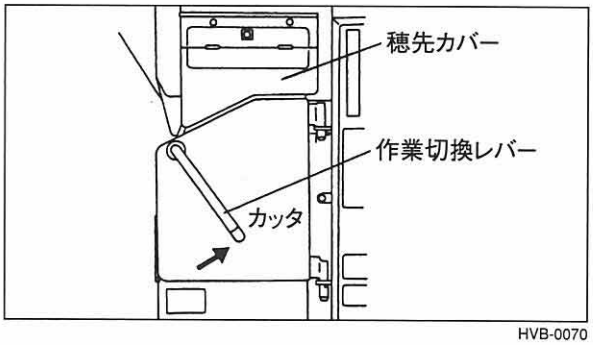


HVB-0069

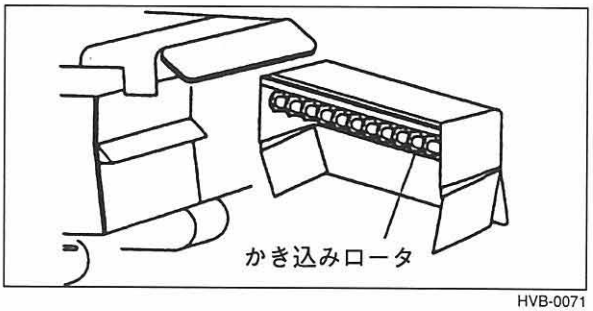
2 作業切換レバーを「カッタ」側に切換えます。

補 足

- **湿田や倒伏稲でのカッタ作業後は、早めにカッタ内部を点検し、カッタ部を開けて巻付いたワラ、泥を取り除いてください。**
- **かき込みロータにワラが巻付いたり、泥が付着したままで作業すると、カッタの切れが悪くなったり、カッタ刃の摩耗を早める原因になります。**



HVB-0070



HVB-0071

7.11 バラ落とし・ドロッパ作業のしかた

⚠注意

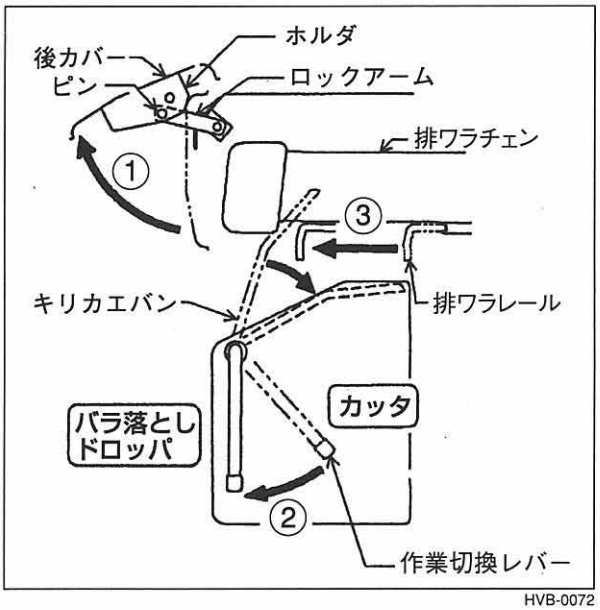
作業の切換をするときは、必ずエンジンを停止してメインスイッチキーを抜いてから行ってください。

※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

1 後カバーを開け、ロックアームを押しながらピンをホルダの下側の穴に通して固定します。（左右2ケ所）

補 足

- **バラ落とし・ドロッパ作業をするときは、必ず後カバーを開けてください。後カバーを開けずに作業を行うと、ワラが詰まる恐れがあります。**

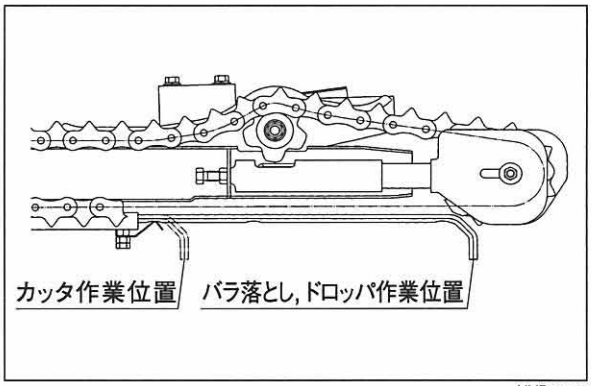


HVB-0072

2 作業切換レバーを操作してキリカエバンを閉じます。

3 排ワラレールを後ろに引き出します。

4 穂先カバーをオープンします。
（☞ 64ページ）

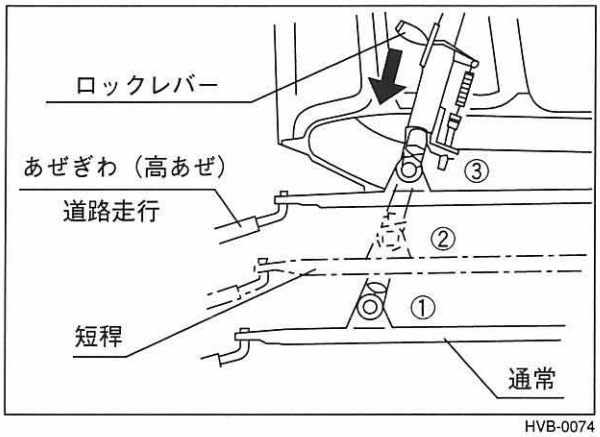


HVB-0073

7.12 ナローガイド（左）の調節のしかた

ほ場や作業の条件に合わせて次のように調節してください。

ほ場条件・作業条件	ナローガイド(左)の位置
通常の作業	①の位置 (一杯に引き出した位置)
短稈刈りの作業	②の位置 (中間の位置)
あぜぎわ刈（高あぜ） 道路走行時	③の位置 (一杯に押し込んだ位置)

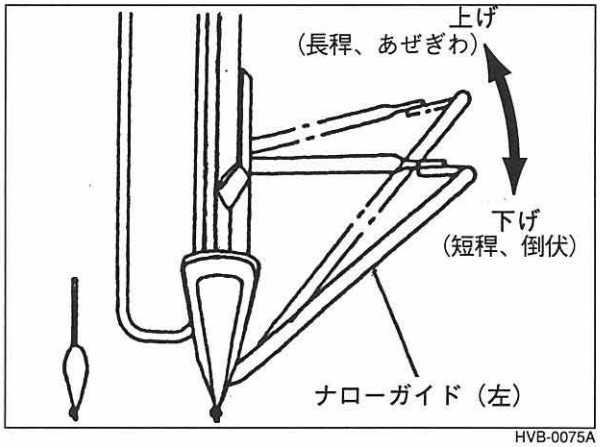


HVB-0074

■調節のしかた

1 ロックレバーを矢印方向に引いて、ナローガイド（左）を調節します。

2 上下調節で高さを調節します。



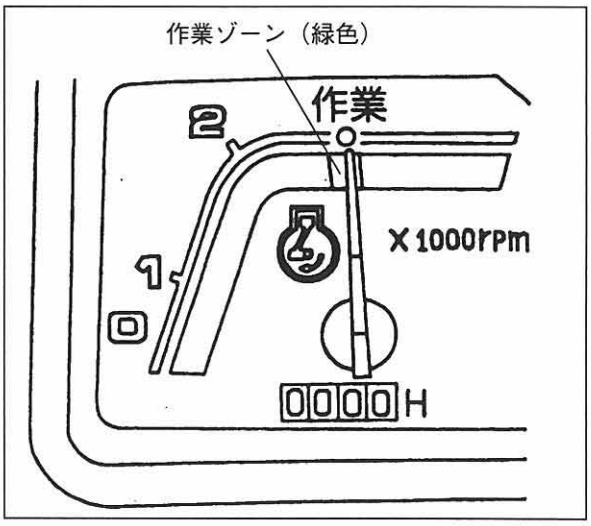
HVB-0075A

7.13 エンジン回転の合わせかた

エンジン回転計の針が作業ゾーン（緑色）にくるようにアクセルレバーで調整します。

補　足

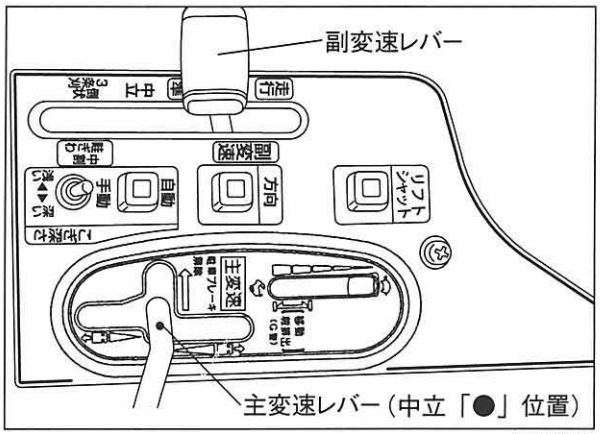
- **回転が高すぎると脱プやロスが多くなります。また、回転が低すぎると選別不良、こぎ残し、脱穀内部への詰まりや、能率低下の原因になります。**
- **脱プの多い品種の場合は、作業ゾーンの下限近くで作業してください。**



HVB-0340

7.14 作業速度の選びかた

作物の条件、ほ場の条件に合わせて、作業速度を選んでください。



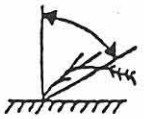
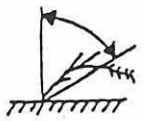
HVB-0325C

1 主変速レバー
作物条件に合せて、倒し量で速度を調節します。

2 副変速レバー
作物条件、ほ場の条件に合わせて「標準」と「倒伏」を切換えます。

補　足

- **副変速レバー「走行」位置での刈取作業は、故障の原因となりますので、行わないでください。**

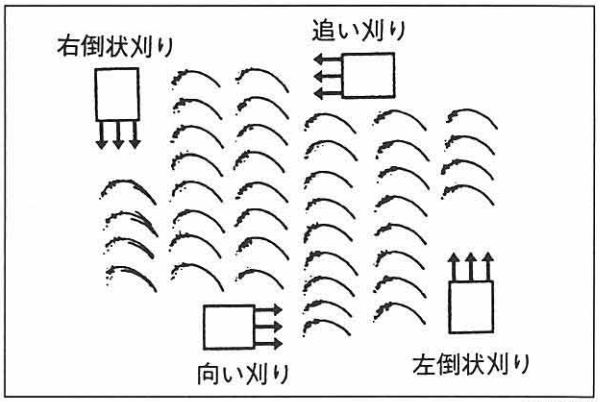
作物条件 ＼ 作物条件		立毛		倒伏	
		 倒伏角60°以下		 倒伏角60°以上	
		標準作物	脱粒しやすい稲 稈折れしやすい麦	標準作物	脱粒しやすい稲 稈折れしやすい麦
刈取方向	追い刈り	○		○	
	向い刈り	○		△	
	左倒伏刈り	○		○	
	右倒伏刈り	○		△	
副変速		標　準	標　準	標　準 ※倒　伏	標　準 ※倒　伏
主変速		作物に合わせて速度調節			

※倒伏：標準でうまく刈れないときに使用してください。

記号の見方
〔○→良好な作業ができます。
△→刈り残し、穀桿の詰まりに注意しながら作業してください。〕

補　足

- **収量・成熟度合やその他の要因で適正な作業速度は変化します。この表はあくまでも目安ですのでその作物と機体に合った速度で作業を行ってください。**
- **倒伏して、刈刃に土が詰まる場合は、刈刃が「標準」位置にセットされているか確認してください。（☞ 60ページ）**
- **完全倒伏での向い刈りまたは右倒伏刈りは作業できません。刈取方向を変えて作業してください。**



HVB-0077

8. 作業のしかた

8.1 刈取作業のしかた

⚠警告

後進するときは、後方の状況を確認し、低速で後進してください。
※　衝突・転倒・転落事故などの原因となります。

異常が発生したときは、直ちにエンジンを止め、メインスイッチキーを抜き、点検してください。
※　傷害事故などを引き起こす原因となります。

ワラくずを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

二人以上の共同作業では、補助者の安全を確認しながら、運転してください。
※　傷害事故などを引き起こす原因となります。

作業に適した服装で作業してください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

全てのカバーが装着されていることを確認してください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

うねのあるほ場で作業する場合は傾斜が大きくなると転倒する恐れがありますので、速度を落し十分注意して作業してください。
※　転倒事故、機体の破損、変形などを引き起こす原因となります。

刈取作業するときは、周囲の状況に十分注意をはらい、特に子供は近づけないでください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

エンジン回転中は、回転部に手や身体を絶対に近づけないでください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

停止するときは、堆積したワラくずの上に止めないでください。
※　爆発や火災などを引き起こす原因となります。

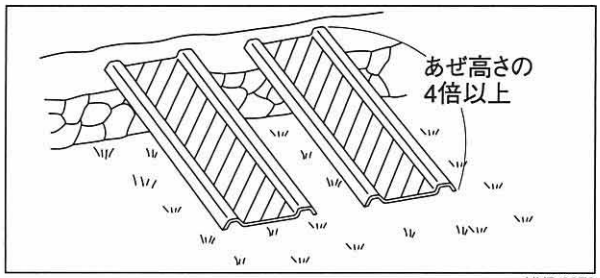
8.1.1 ほ場への乗り入れ

⚠警告

アユミを使うときや前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは、微速であぜに対して上り方向は前進、下り方向は後進で直角に走行してください。

アユミは、☞ 47ページに記載の〈アユミの基準〉を満足するものを使用してください。
アユミはコンバインの重量で傾かない平坦な硬い場所を選んで、使用してください。
副変速は絶対に「倒伏」にしてください。
※ 衝突・転倒・転落事故などの原因となります。

(1) 副変速レバーを「標準」または「倒伏」にし、主変速レバーを「前」側に押してゆっくりした速度で、あぜに直角に前進でのり越えます。
(2) 10cm以上の高いあぜを越える場合は、アユミを使用します。



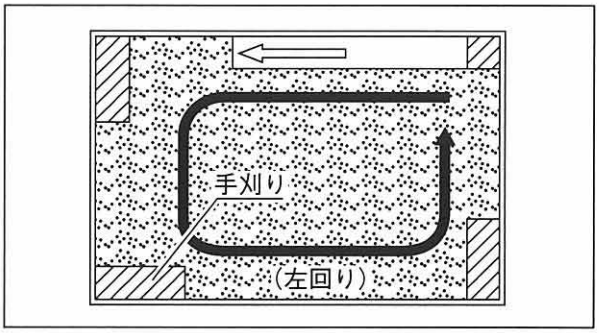
HVB-0078

8.1.2 ほ場の刈りかた

左回りが基本です

■一般的なほ場の刈りかた

(1) ほ場の端から左回り刈りをします。
(2) 能率よく作業するため、四すみを回行できるように手刈りします。
(3) カマ収納場所はステップ左のカバーにあります。



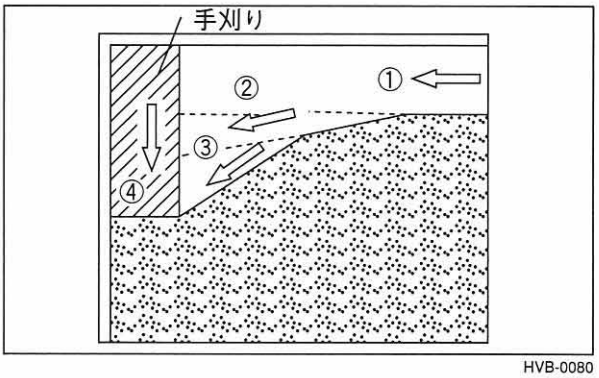
HVB-0079

■回り刈り時コーナ部の刈りかた

2～3回直進・バック②③を繰り返し、コーナ部を大きく刈取った後、回行します。

補 足

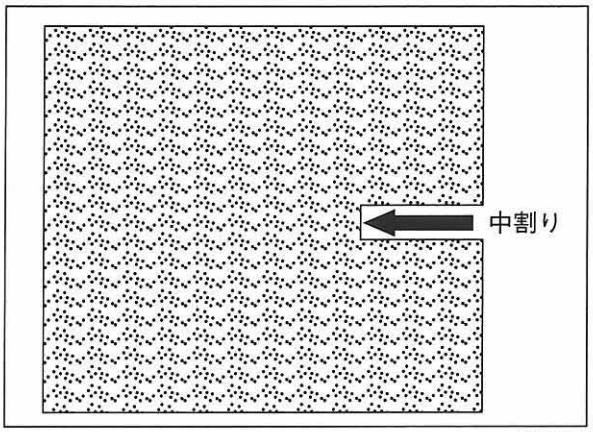
- **コーナー刈取りをするときは、刈りながらの方向修正はしないでください。**
  刈跡が不ぞろいになったり、刈り残しが発生する場合があります。
- **あぜがコンクリートのときはクローラをいためる場合がありますので、あぜ際2条を残してください。**



HVB-0080

■広いほ場の刈りかた

ほ場の端から左回りで5～6周刈り取った後、中割り作業をし、長手方向のみ刈ると、能率的な作業ができます。



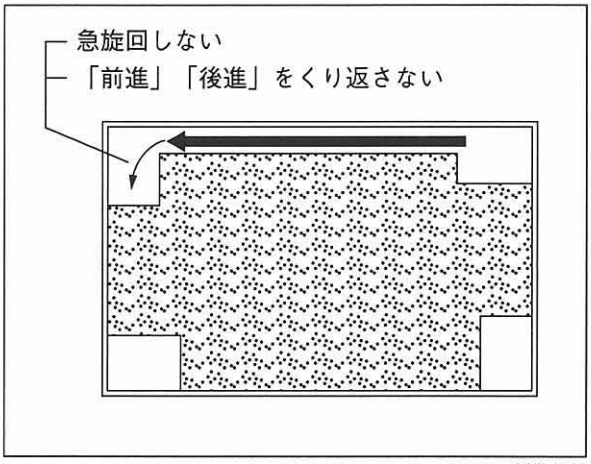
HVB-0081

8.1.3 湿田ほ場の刈りかた

(1) 四すみは、通常より広く手刈りし、急旋回や、同じ場所で何回も回行する事のないようにして、機体の沈下をさけます。

補 足

- **タンク内の籾はできるだけ早目に排出するようにします。**

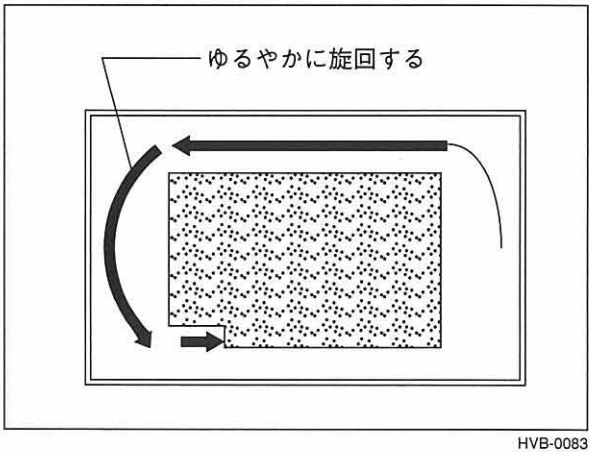


HVB-0082

(2) 左回り刈りで5～6周して、ほ場の両端で旋回できるようになったら、後は、長手方向のみ刈ります。

補 足

- **旋回はマルチステアリングレバーをこきざみに操作して行います。**



HVB-0083

8.1.4 倒伏作物の刈りかた

⚠注意

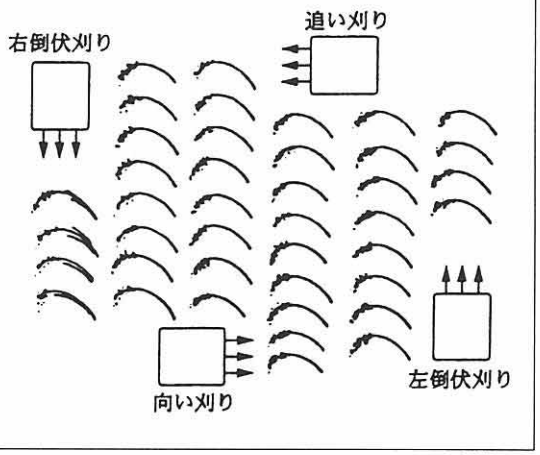
刈刃後方に堆積した土・ワラは、エンジンを止めてケガのないように注意しながら取り除いてください。

※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故などを引き起こす原因となります。

(1) 刈り残しがないように、マルチステアリングレバーで、デバイダが地面に接するよう調節します。

(2) できるだけ追い刈り、左倒伏刈りで作業します。（下図参照）

倒伏度合 ＼ 刈る方向	完全倒伏	中倒伏	ほぼ立毛
追い刈り	△	○	○
向い刈り	×	△	○
左倒伏刈り	△	○	○
右倒伏刈り	×	△	○



HVB-0084

記号の見かた

○→良好な作業ができます。

△→刈り残し、穀稈の詰まりに注意しながら作業してください。

×→作業できません。

補 足

- 倒伏して刈刃に土が詰まる場合は、刈刃が「標準」位置にセットされているか確認してください。（☞ 60ページ）
- 完全倒伏作業では副変速レバーを「倒伏」位置にして作業してください。（☞ 29ページ）
- 完全倒伏での向い刈りまたは右倒伏刈りは作業できません。刈取方向を変えて作業してください。

8.1.5 条合わせのしかた

■通常の刈り取りのとき

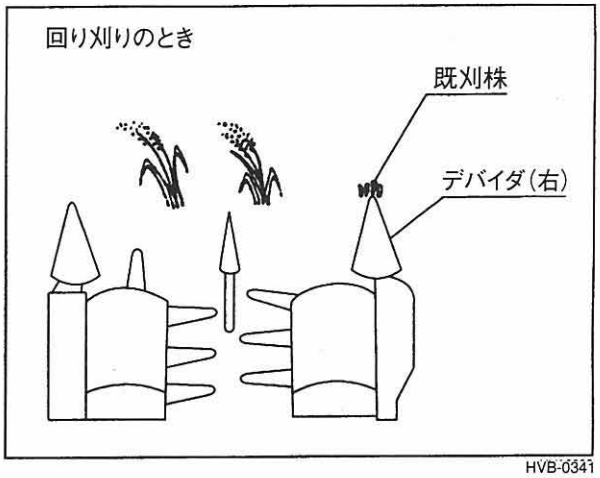
刈取部を左にスライドします。（☞ 73ページ）
デバイダ（右）を既刈株の上に合わせます。

■あぜぎわ、中割のとき

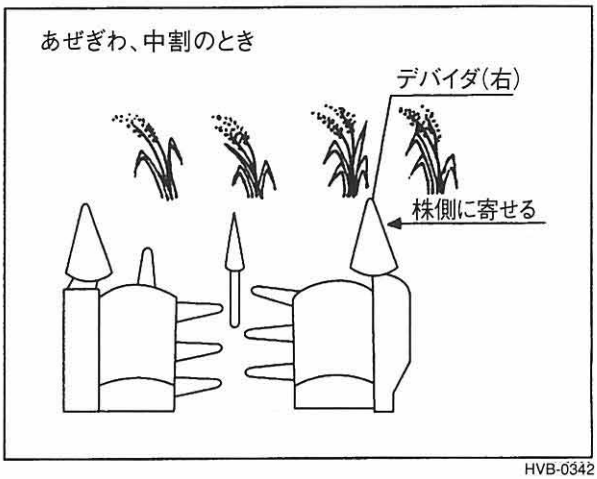
刈取部を右にスライドします。（☞ 73ページ）
デバイダ（右）をできるだけ株側に寄せて、倒伏速で3条刈ります。（☞ 29ページ）

補　足

- **刈取りスライド位置を作業に合せて変更してください。**
- **条合わせをするときは、マルチステアリングレバーをこきざみに操作します。（ジャストディレクタボタンでも操作できます。(A型)）**
- **あぜぎわは、デバイダが突っ込まないよう低速で刈ってください。**
- **植付条間の広いほ場での中割作業やあぜぎわ作業では、デバイダ（右）を調節して作業してください。（☞ 61ページ）**



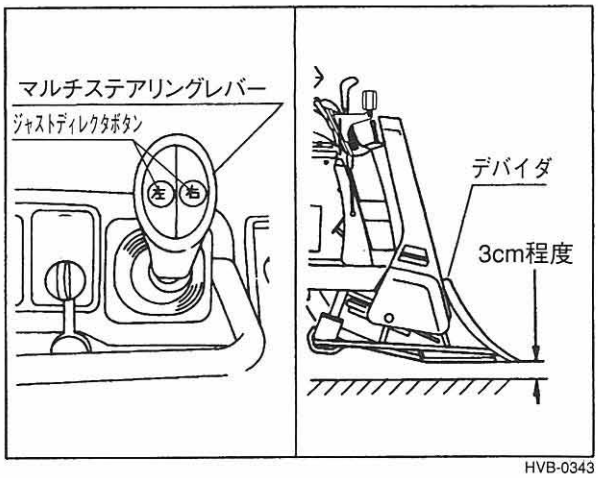
HVB-0341



HVB-0342

8.1.6 刈高さの合わせかた

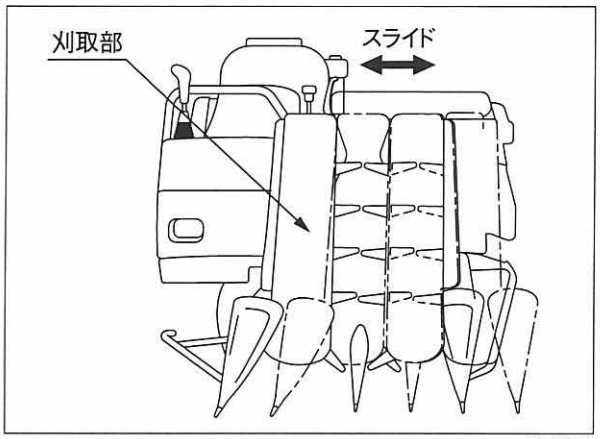
マルチステアリングレバーで、刈取部のデバイダを地面から3 cm程度の高さまで下げます。



HVB-0343

8.1.7 刈取スライドの使いかた

刈取スライドは、スライドロックレバーを解除することによって刈取部が右⇔左にスライドする装置です。

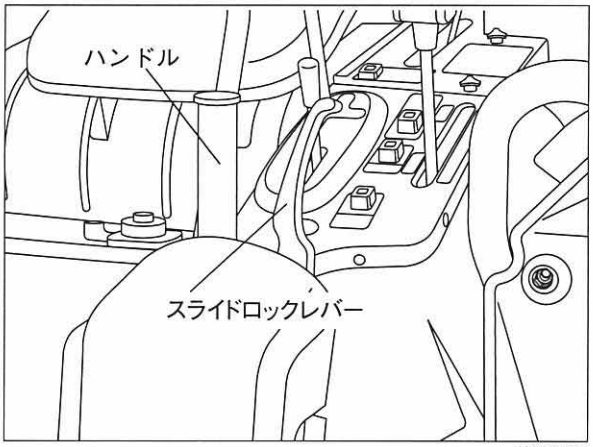


HVB-0344

1 刈取部のデバイダを地面から５cm程度の高さまで上げます。

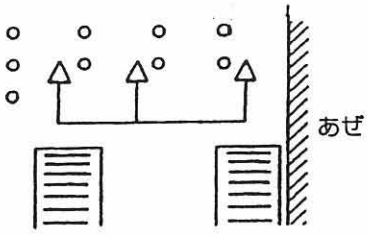
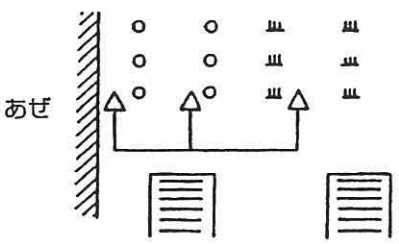
2 スライドロックレバーを握って固定を解除します。
※解除しにくい場合は手で刈取部を少し揺らすと解除しやすくなります。

3 スライドロックレバーを握ったままハンドルを持って刈取部を「左」または「右」に動かします。少し動かしたのちスライドロックレバーを離し固定されるまで刈取部を動かします。



HVB-0345

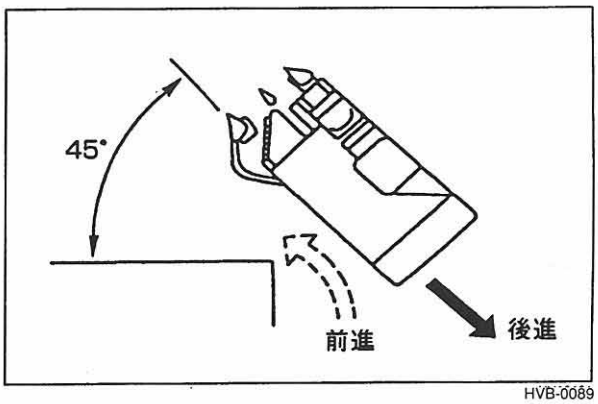
刈取スライドは、左・右と2箇所の位置で作業ができますが、作業に応じて下図のように使い分けてください。

作　業　内　容	刈取部の位置	刈取スライドの使い方
・中割 ・あぜぎわ順回り刈り（左回り） ・路上走行 ・トラックなどへの積み降ろし		刈取部を右スライド位置で使います。 （運転席に近付ける）
・通常回り刈り ・あぜぎわ逆回り刈り（右回り） ・麦うね刈り ・斜め刈り		刈取部を左スライド位置で使います。 （運転席から遠ざける）

8.1.8 回行のしかた

1 刈り終ると、マルチステアリングレバーで刈取部を上げます。

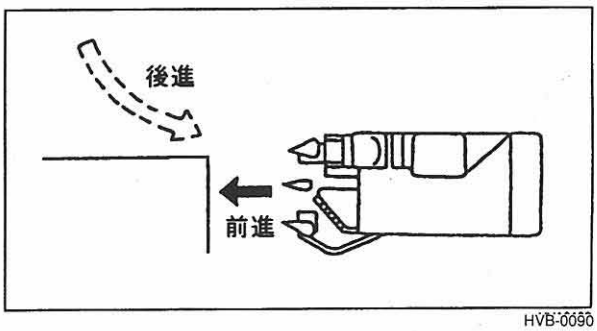
2 マルチステアリングレバーを操作し、45°程度回行した位置でストップします。



HVB-0089

3 主変速レバーを「後進」側に引き、マルチステアリングレバーを操作して条合わせをします。

4 刈取部を下げ前進します。



HVB-0090

8.1.9 緊急エンジン停止のしかた

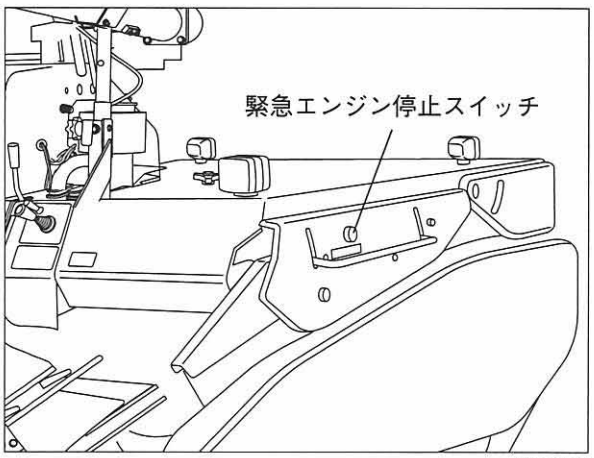
⚠注意

脱穀クラッチが入っていない時は、緊急エンジン停止スイッチを押してもエンジンは停止しません。

1 作業中に（脱穀クラッチレバー「入」の時）、緊急エンジン停止スイッチを押すとブザーが鳴ってエンジンが停止します。

2 メインスイッチを「切」にすると解除されます。

3 脱穀クラッチレバーを「切」にしてから再始動します。



HVB-0346

8.2 籾の排出のしかた

⚠注意

籾排出時は機体を平たんな場所に停車し脱穀・刈取クラッチレバーを「切」にして駐車ブレーキをかけてから排出作業を行ってください。
オーガ旋回時は、周囲に十分注意してください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

籾排出終了後は、必ずオーガを縮めてオーガ受けに収納してください。
※ 機体部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

オーガ排出口のビニールが破損したときは、必ず交換してください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

排出オーガを伸ばした状態で排出を中断し、排出オーガを収納する場合は、排出オーガ内に籾が残っているので、排出オーガを一度上昇させて収納してください。
※ 機体部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

オーガの排出口に手を入れないでください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

走行しながら排出オーガの操作をしないでください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

オーガを最下げにして作業する場合、扱胴カバーとウインカに干渉する場合がありますので、注意してください。
※ 機体部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

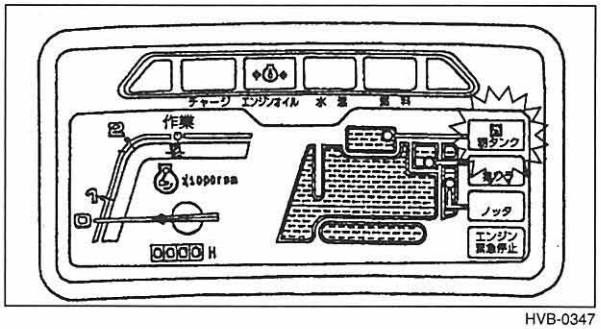
8.2.1 籾の排出のしかた（GZ型）

1 タンク内に籾が満杯になるとブザーが鳴り、同時にモニタの籾タンクが点滅します。

2 刈取作業を中止します。

補 足

- **ブザーが鳴った後も作業を続けると、詰まりが発生し、故障の原因となります。**

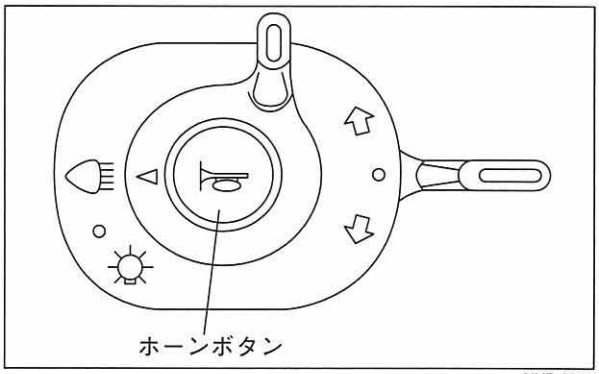


HVB-0347

3 ホーンボタンを押して、ブザーを止めます。

4 排出場所に移動します。

5 主変速レバーを「中立」（「●」位置）にして駐車ブレーキをかけます。



HVB-0348

6 オーガ操作レバー、またはオーガ自動旋回スイッチとオーガ伸縮スイッチを操作して、排出オーガを籾排出位置に合せます。

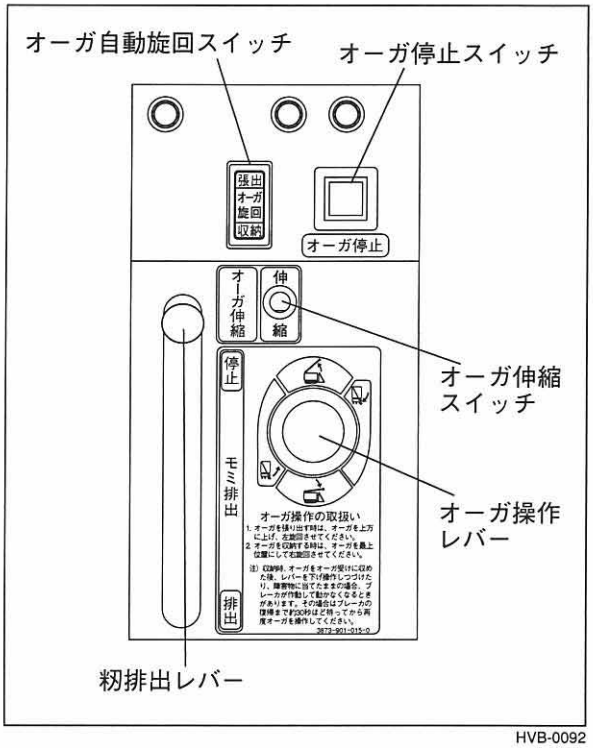
7 アクセルレバーでエンジン回転を作業ゾーンに合わせます。

8 籾排出レバーを「排出」位置にして穀粒を排出します。
排出後は籾排出レバーを必ず「停止」位置にします。

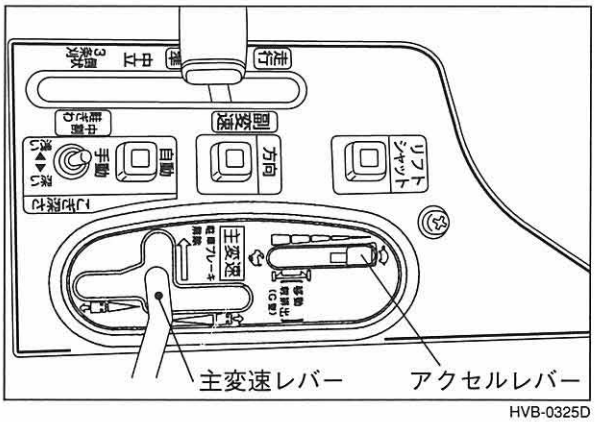
9 オーガ操作レバーとオーガ伸縮スイッチ、またはオーガ自動旋回スイッチを操作して、排出オーガをオーガ受けに収納します。

補　足

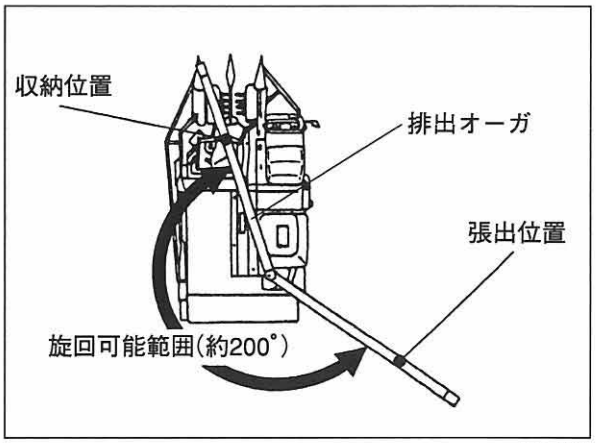
- **籾排出レバーを「排出」にすると、ギヤの遊びの分だけオーガが下がる場合がありますので、オーガを少し高めにセットするようにしてください。**
- **排出オーガ収納時、排出オーガがオーガ受けに収納された状態でオーガ操作レバーを下げ操作し続けないでください。また、排出オーガを障害物に当てたまま、オーガ操作レバーを操作しないでください。ブレーカが作動して動かなくなります。ブレーカ作動時は30秒後に再操作してください。**
- **オーガ受け収納時、排出オーガを旋回させないでください。ブレーカが作動したり、破損するおそれがあります。**



HVB-0092



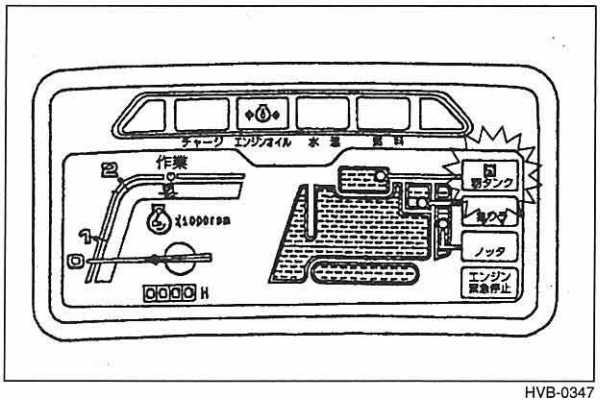
HVB-0325D



HVB-0093

8.2.2 籾の排出のしかた（G型）

1 タンク内に籾が満杯になるとブザーが鳴り、同時にOKモニタの籾タンクが点滅します。



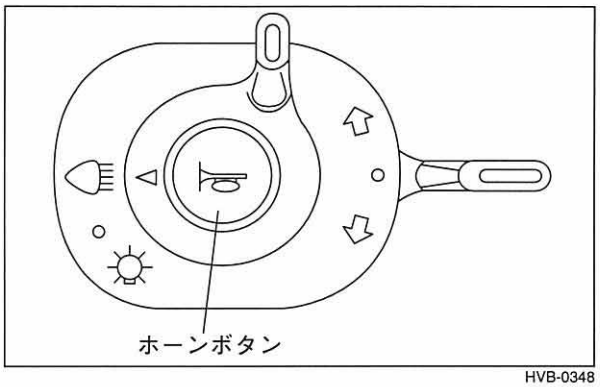
HVB-0347

2 刈取作業を中止します。

補　足

- **ブザーが鳴った後も作業を続けると、詰まりが発生し、故障の原因となります。**

3 ホーンボタンを押して、ブザーを止めます。



HVB-0348

4 排出場所に移動します。

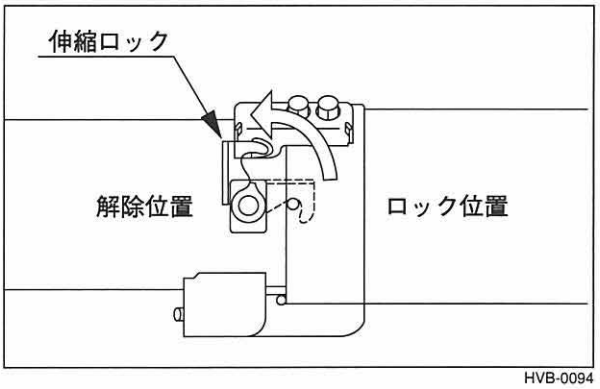
5 主変速レバーを「中立」（「●」位置）にして駐車ブレーキをかけます。

6 排出オーガの伸縮ロックを解除します。

7 解除レバーを握って、排出オーガを任意の長さまで伸ばします。

補　足

- **解除レバーを奥までしっかり握らないと、排出オーガの伸縮操作が重い場合があります。**



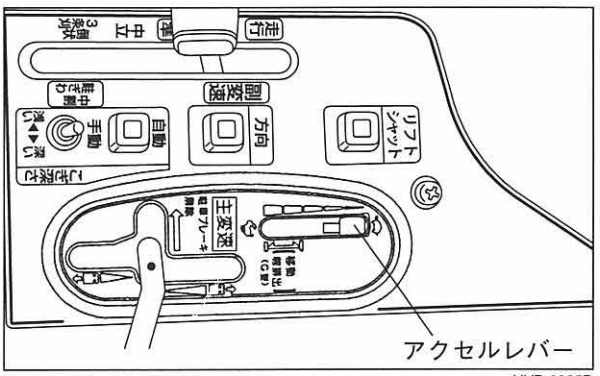
HVB-0094

8 オーガ操作レバーを操作して、排出オーガを排出位置に合せます。

9 アクセルレバーでエンジン回転を作業ゾーンに合わせます。

10 籾排出レバーを「排出」にして穀粒を排出します。排出後は必ず「停止」にします。

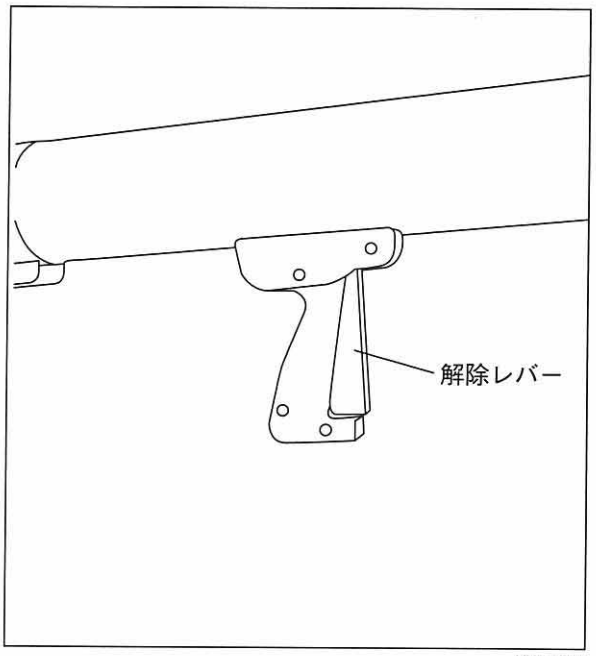
11 排出オーガを縮め、収納し、伸縮ロックをかけます。



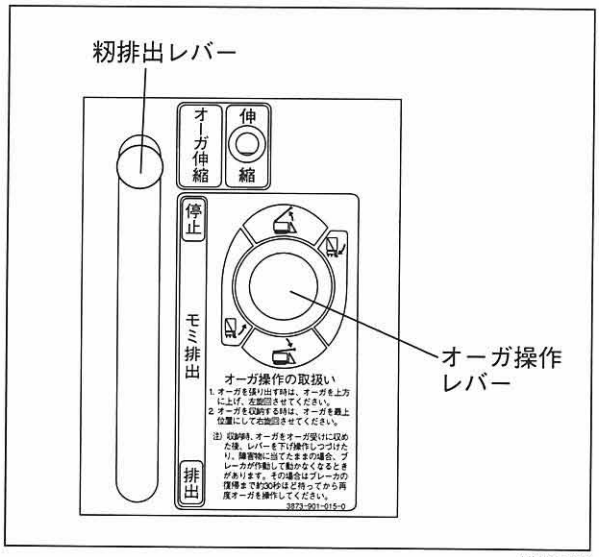
HVB-0325D

補　足

- 籾排出終了時には、排出オーガ内に穀粒が残らないように完全に排出してください。排出オーガ内に穀粒が残っていると、オーガの伸縮操作が重くなる場合があります。
- 排出オーガ収納時、排出オーガがオーガ受けに収納された状態でオーガ操作レバーを下げ操作し続けないでください。また、排出オーガを障害物に当てたまま、オーガ操作レバーを操作しないでください。ブレーカが作動して動かなくなります。ブレーカが作動時は30秒後に再操作してください。
- オーガ受け収納時、オーガ操作レバーを左右操作させないでください。ブレーカが作動したり破損するおそれがあります。
- 籾排出レバーが「排出」になっているときは、伸縮操作が重いので、伸縮させないでください。



HVB-0095



HVB-0096

8.2.3 グレンタンク補助取り出し口の使いかた(G型)(GZ型)

⚠注 意

掃除口から籾を排出するときは必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてから行ってください。

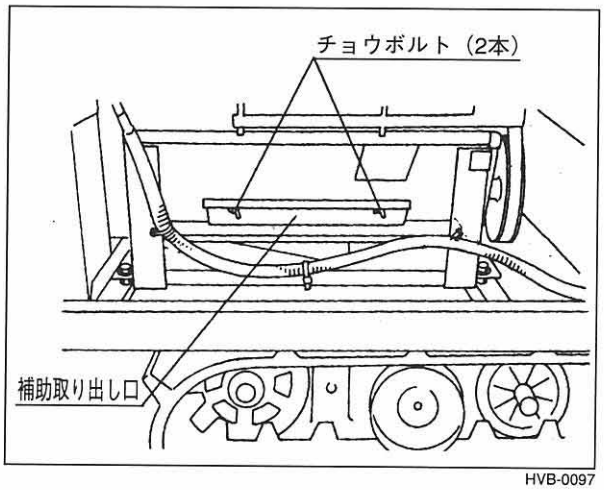
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

オーガでの排出ができない場合は下記要領でタンク内の穀粒を取り出してください。

1 ロワータンクカバーを外します。
(☞ 98ページ参照)

2 チョウボルト（2本）を外し、ラセン底の掃除口を開けて穀粒を取り出します。

3 排出が終了したら、ラセン底の掃除口を閉じて、ロワータンクカバーを取り付けます。



HVB-0097

8.2.4 籾袋の交換のしかた（ホッパ型）

⚠注意

刈取作業をしているとき、および走行中は補助もみ受台に乗らないでください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

1 籾タンクが満量になるとブザーが鳴ります。

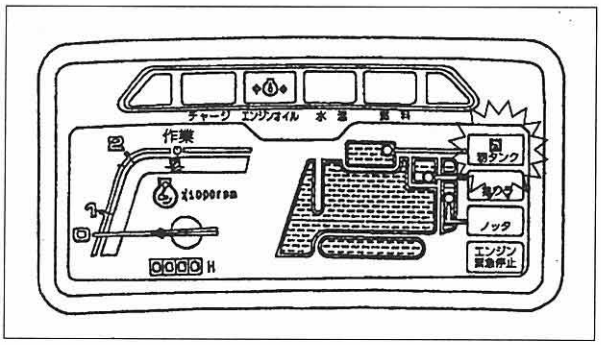
2 刈取作業を中止します。

3 ホーンボタンを押して、ブザーを止めます。

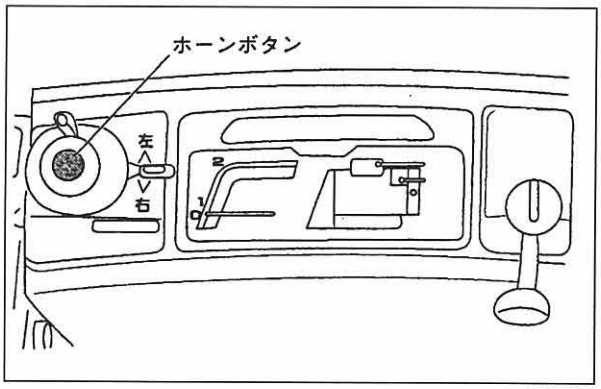
補 足

- **ブザーが鳴った後も作業を続けると、詰まりが発生し、故障の原因となります。**

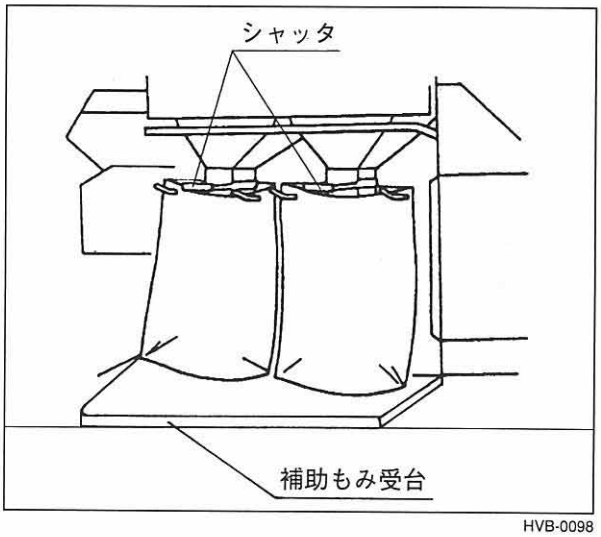
4 シャッタを「閉」位置にして籾袋を交換します。



HVB-0347



HVB-0349



HVB-0098

8.2.5 手こぎのしかた

⚠警告

手こぎ作業中万一詰まりが発生した場合は必ずエンジンを停止してから取りのぞいてください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

作業に適した服を着用してください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

フィードチェンに手や服が触れないようにしてください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

刈取部・走行部を必ず停止させてから作業してください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

手こぎの場合は一度に多量の作物をかかえて供給しないでください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

危険な状況が発生した場合は、緊急エンジン停止スイッチを押してくだい。
緊急エンジン停止スイッチは脱穀クラッチレバー「入」のときしか作動しません。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

機体を再度動かす時は主変速レバーを「中立」(「●」位置) にしてから駐車ブレーキを解除してください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

1 機体を平たんな場所に停車してから、駐車ブレーキをかけます。（☞ 44ページ）

2 副変速を「中立」にします。

3 マルチステアリングレバーで刈取部を下げます。

4 レールガイドを上へ開けます。

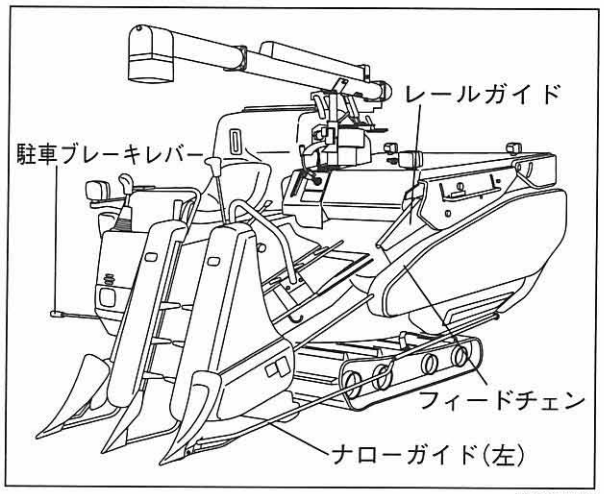
5 ナローガイド（左）を収納します。

6 脱穀クラッチレバーを「入」にして、エンジン回転数を定格にします。

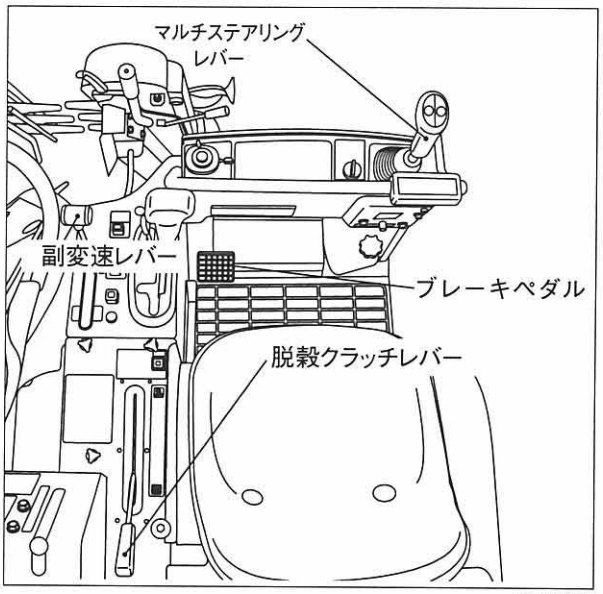
7 作物をフィードチェンに少しずつ供給します。

補　足

- **一カ所で多量に手こぎをすると、カッタ内部にワラが巻き付いたり、揺動流板や吸引に詰まる場合があります。時々、機体を移動させてください。**
- **手こぎ作業で、危険な状況が発生した場合は、緊急エンジン停止スイッチを押してください。エンジンが停止します。**
  （脱穀クラッチレバーが「入」になっていないとエンジンは停止しません。）
- **こぎ深さ手動スイッチでこぎ深さ搬送部をいっぱい深こぎ側に下げると、作業がしやすくなります。**



HVB-0323C

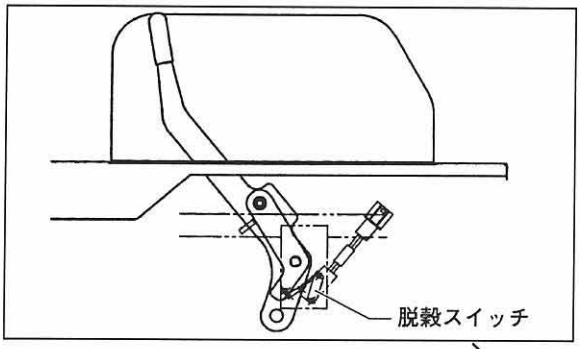


HVB-0320E

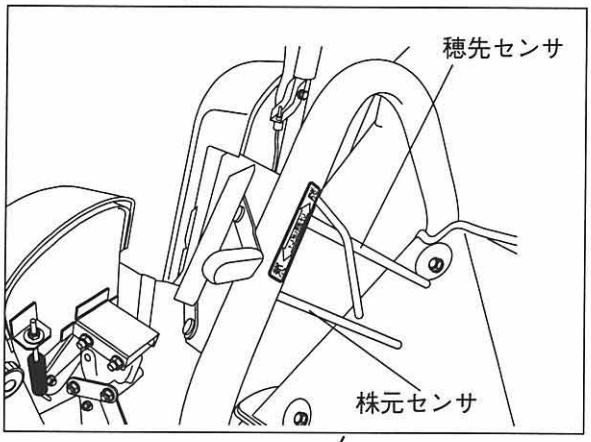
9. 自動装置について

9.1 自動装置センサとスイッチ

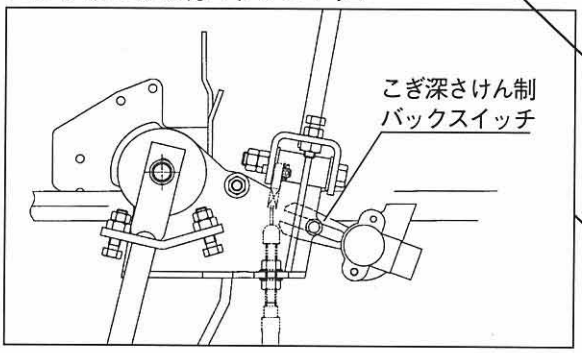
■脱穀スイッチ

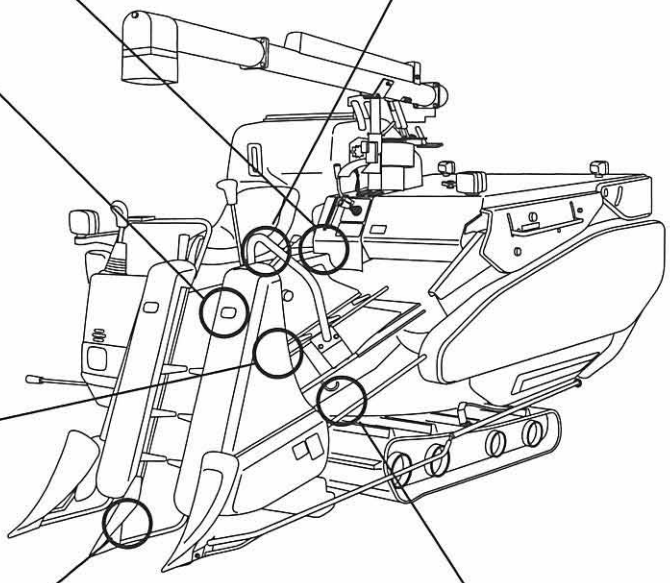


■穂先センサ、株元センサ

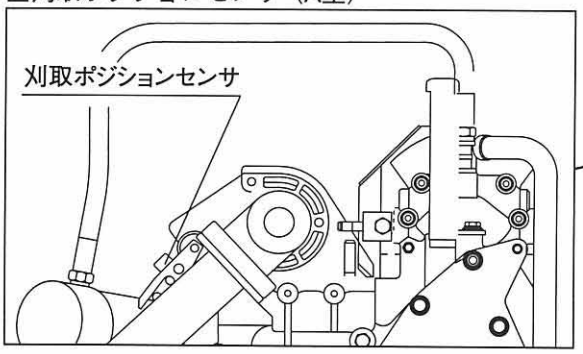


■こぎ深さけん制バックスイッチ

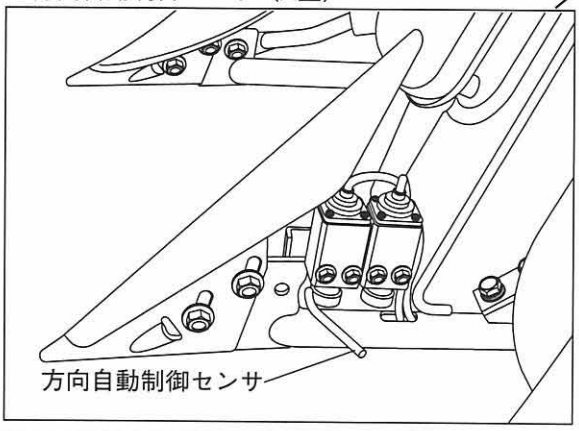




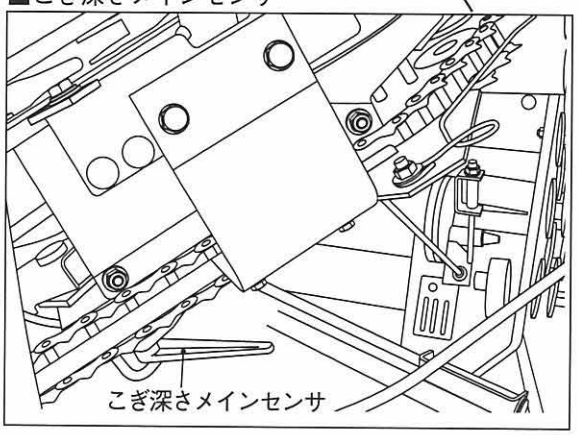
■刈取ポジションセンサ（A型）



■方向自動制御センサ（A型）

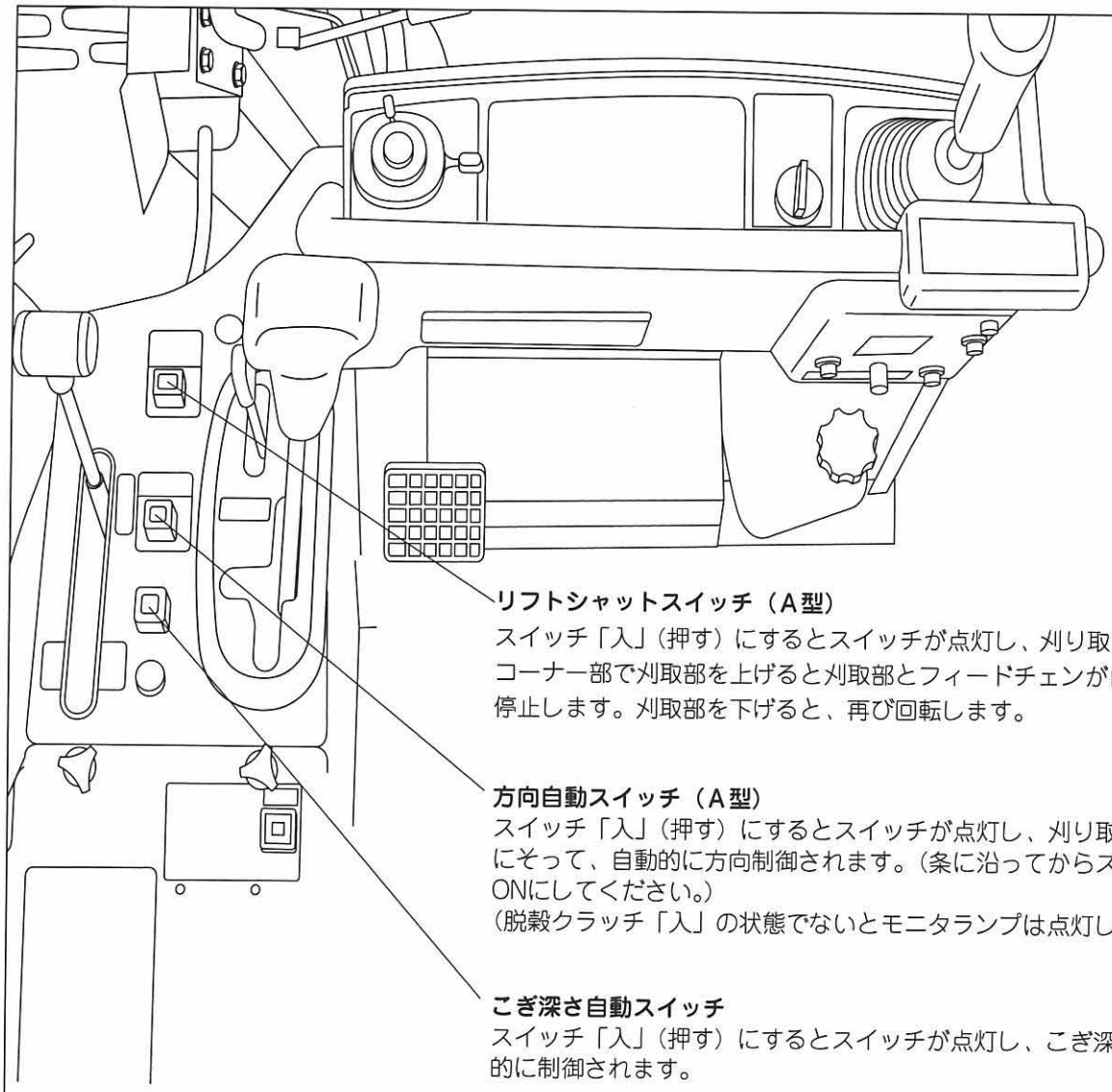


■こぎ深さメインセンサ



HVB-0350

9. 自動装置について



リフトシャットスイッチ（A型）
スイッチ「入」（押す）にするとスイッチが点灯し、刈り取り作業中、コーナー部で刈取部を上げると刈取部とフィードチェンが自動的に停止します。刈取部を下げると、再び回転します。

方向自動スイッチ（A型）
スイッチ「入」（押す）にするとスイッチが点灯し、刈り取りする条にそって、自動的に方向制御されます。（条に沿ってからスイッチをONにしてください。）
（脱穀クラッチ「入」の状態でないとモニタランプは点灯しません）

こぎ深さ自動スイッチ
スイッチ「入」（押す）にするとスイッチが点灯し、こぎ深さが自動的に制御されます。

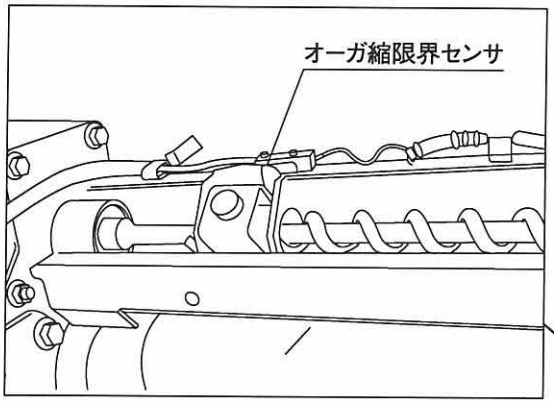
HVB-0351

補　足

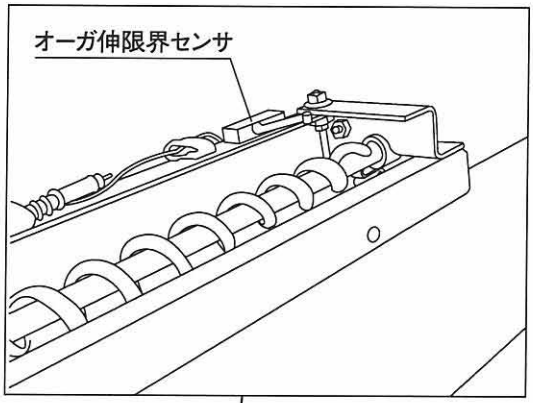
- **方向自動スイッチ・リフトシャットスイッチは、ほ場を1～2周刈り取り後使用してください。**

〈G型、GZ型〉

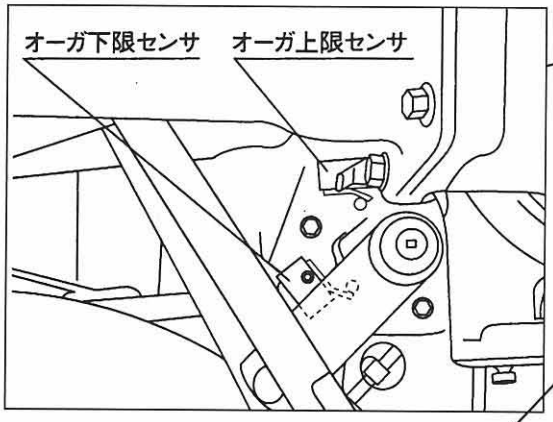
■オーガ縮限界センサ（GZ型）

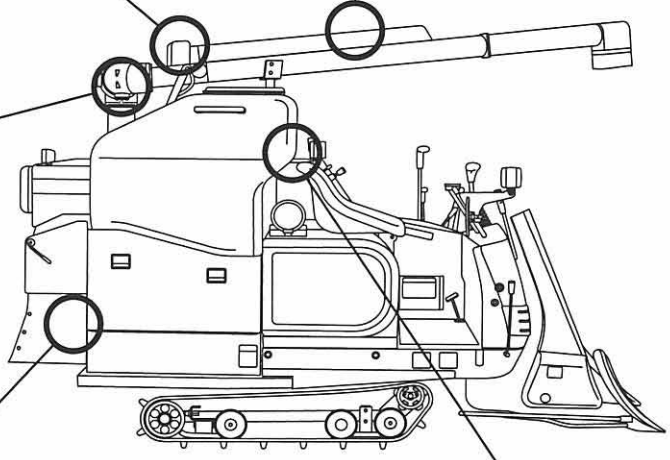


■オーガ伸限界センサ（GZ型）

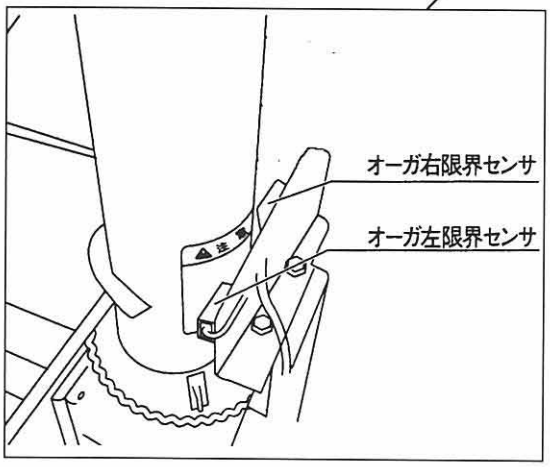


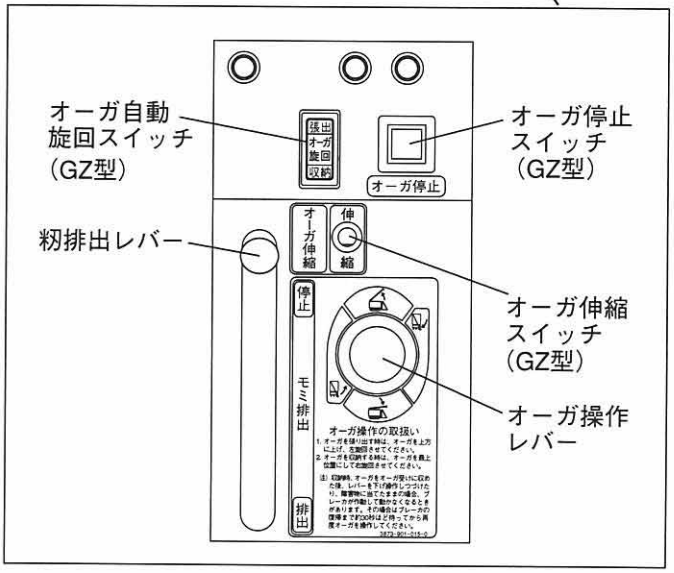
■オーガ上限センサ、オーガ下限センサ





■オーガ旋回関係センサ





HVB-0352

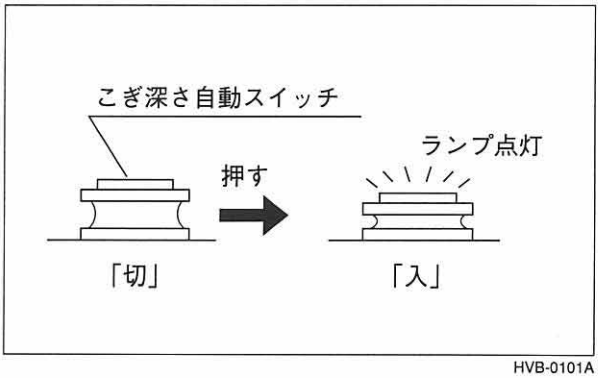
9.2 こぎ深さ自動制御装置の使いかた

9.2.1 機能

脱穀部に供給する作物の、こぎ深さを自動的に制御する装置です。

9.2.2 操作のしかた

1 こぎ深さ自動スイッチを「入」にします。



HVB-0101A

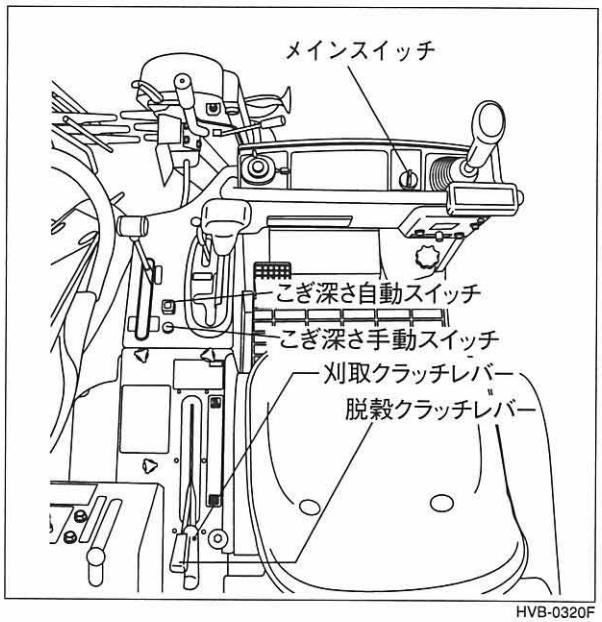
2 脱穀クラッチレバーを「入」、さらに刈取クラッチレバーを「入」にして作業を始めます。

3 手動優先回路を組んでいますから、こぎ深さ自動スイッチが「入」の状態でも、こぎ深さ手動スイッチの操作が優先します。

4 ほ場の刈りはじめ、作物の長さが急激に変わる場合、及び雑草の多い場合はこぎ深さ手動スイッチで調節します。

補　足

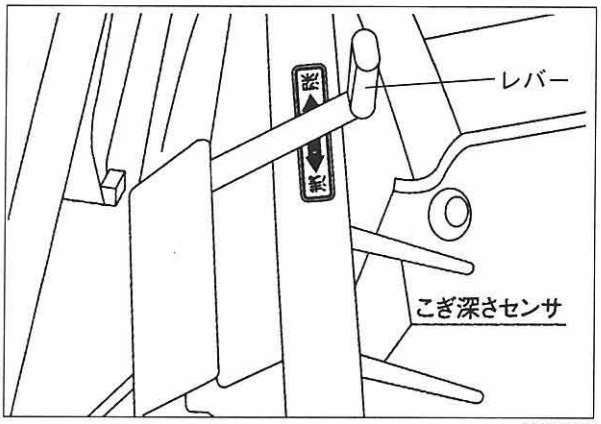
- **誤作動防止のため低速作業ではこぎ深さ自動制御装置は動作しません。こぎ深さ手動スイッチで調節します。**



HVB-0320F

9.2.3 センサ位置の調節のしかた

作物の条件によりこぎ深さが変化する時は、こぎ深さ指示マークに穂先先端が合うようにセンサ位置を調節してください。



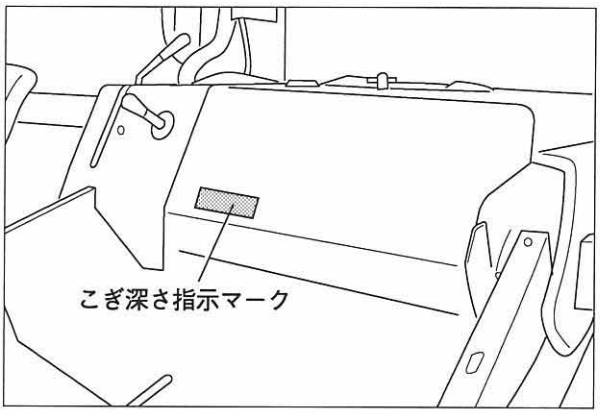
HVB-0353

■調節のしかた

レバーを動かしてセンサを移動します。

- 深くしたい場合…センサを「深」側へ
- 浅くしたい場合…センサを「浅」側へ

作業の条件	レバー操作
遅れ穂が多くこぎ残りが出る	深　側
標準刈り	こぎ深さ指示マークに穂先先端が合うように調整
倒伏稲で深くなりすぎる	浅　側



HVB-0056

補　足

- **浅こぎになりすぎるとこぎ残りが発生しやすくなります。**
- **深こぎになりすぎると脱穀部の負荷が大きくなりすぎるため、ロスが多くなり、ゴトゴト音が発生して作業能率が上がりません。**

9.2.4 取り扱い時の注意事項

注意

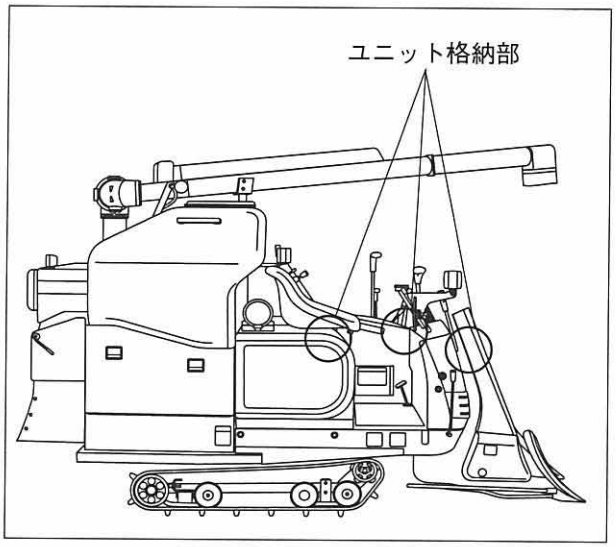
コンバインを水洗いするときは、センサ部、モータ部、ユニット格納部に水をかけないでください。(☞ 83、84、85ページ)

※ 機械部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

(1) 次のような場合は、こぎ深さ自動スイッチを「切」にして、手動で調節します。
- ●作物より長い雑草が多い場合
- ●軟弱稈で搬送が乱れる場合
- ●雑草の多いほ場で、センサに雑草の引っかかりが多発する場合
- ●麦作業で、センサに桿切れの引っかかりが多発する場合
- ●ほ場の刈りはじめや、作物の長さが急激に変わる場合

(2) センサにワラや雑草が引っかかっていると誤作動することがありますので、取り除きます。

(3) 主変速レバーが「中立」(「●」位置) に近いときは、こぎ深さ自動制御装置は作動しません。このとき、こぎ深さ自動スイッチを「切」にする必要はありませんが、こぎ深さ手動スイッチでこぎ深さの調節をします。

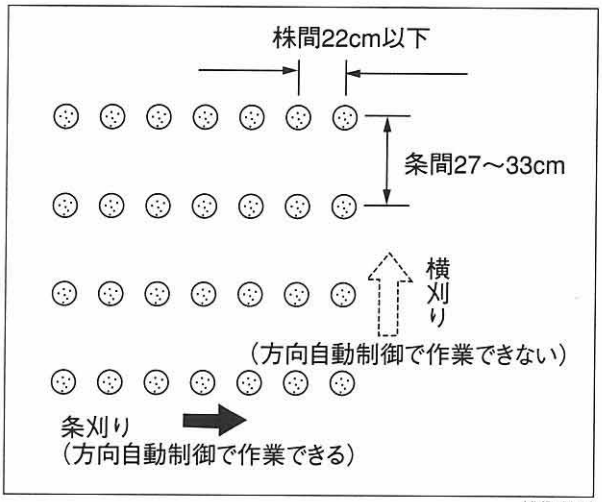


HVB-0329A

9.3 方向自動制御装置の使いかた（A型）

9.3.1 機能

条に沿って自動的に方向を制御する装置です。



HVB-0354

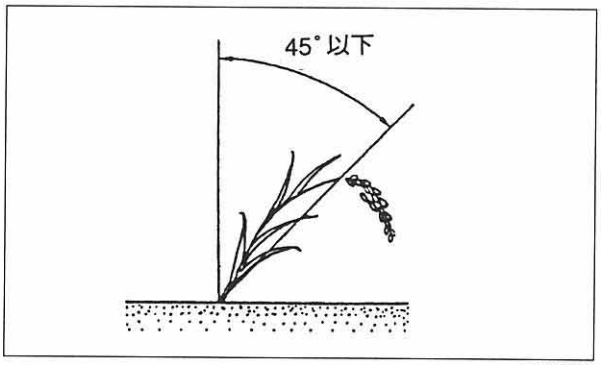
9.3.2 作業できる条件

■作付けと作業できる方向

（1） 条間……27～33cm
（2） 株間……22cm以下

■倒伏の度合い

45° 以下



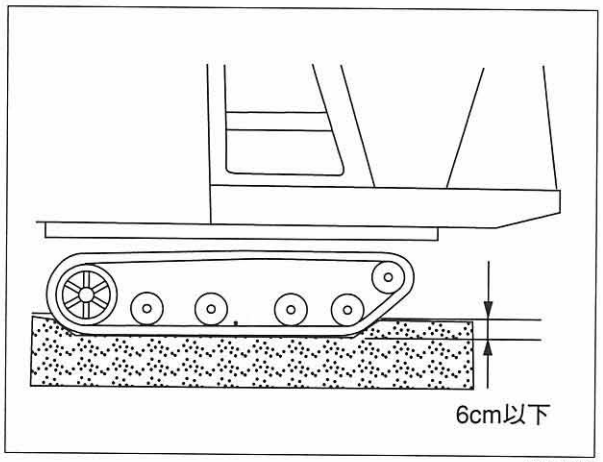
HVB-0355

■湿田のぬかるみ度合い

6cm以下

■以上のほかに、次のような条件では十分に作動しない場合があります。

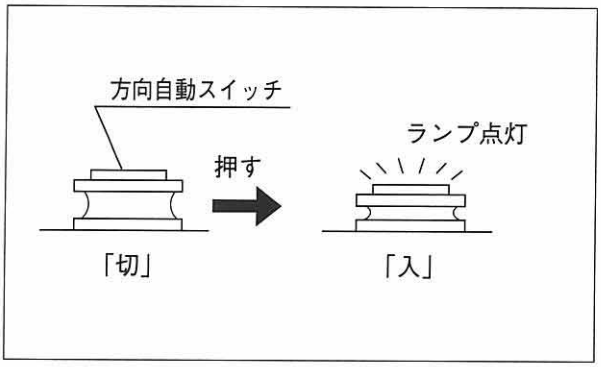
（1） 1株の本数が10本以下の場合
（2） 連続して欠株がある場合
（3） 雑草が多い場合
（4） 条がカーブしている場合



HVB-0356

9.3.3 操作のしかた

1 脱穀クラッチレバーを「入」にします。
（刈取スイッチを「入」にします。）
マルチステアリングレバーで条合わせをして刈りはじめます。



HVB-0101A

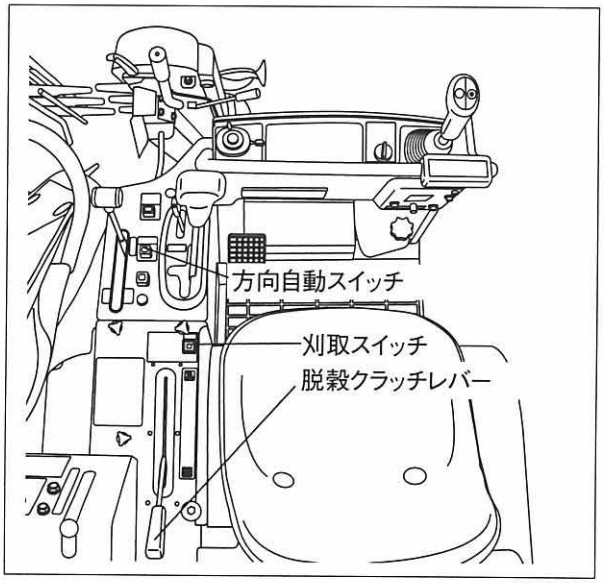
2 条に沿って刈りはじめたら、方向自動スイッチを押して「入」にします。

3 条の終わりにきたら、マルチステアリングレバーで刈取部を上げて回行します。

4 横刈り時は方向自動制御装置で作業できません。方向自動スイッチを「切」にして、マルチステアリングレバーで方向修正します。

補　足

- **方向自動スイッチが「入」のときに機体を後進させると方向自動スイッチは自動的に「切」となります。方向自動スイッチを使うときは、再度スイッチを入れてください。**



HVB-0320G

5 横刈りが終わり、再び条に沿って刈りはじめたら方向自動スイッチを「入」にします。

6 後は、3～5の操作をくり返します。

9.3.4 取り扱い時の注意

（1）方向自動スイッチは、必ず条に沿って刈りはじめてから押して「入」にします。
刈りはじめから「入」にすると機体がガクガクしたり、条はずれをおこす場合があります。

（2）あぜぎわ刈りをする時は、デバイダやナローガイドの破損防止のため方向自動制御装置は使わないようにします。

(3) 方向センサ部に泥の詰まりや雑草の引っかかりがないか、ときどき確認します。
（☞ 83ページ）

9.4 刈取・フィードチェン自動停止装置（リフトシャット）の使いかた（A型）

補　足

- **湿田や道路面と段差のあるほ場への進入時等、刈取部が機体に対して相対的に高い位置になる場合は、停止動作により刈取部とフィードチェンが回らない場合があります。リフトシャットスイッチを「切」にしてください。**
- **コーナーや往復刈りの刈り始めにカッタの切ワラやドロッパの集束ワラが隣のほ場やほ場の側溝に落下する場合があります。作業のしかたに注意してください。**
- **ほ場を1～2周し刈取作業を行い、その後使用してください。**

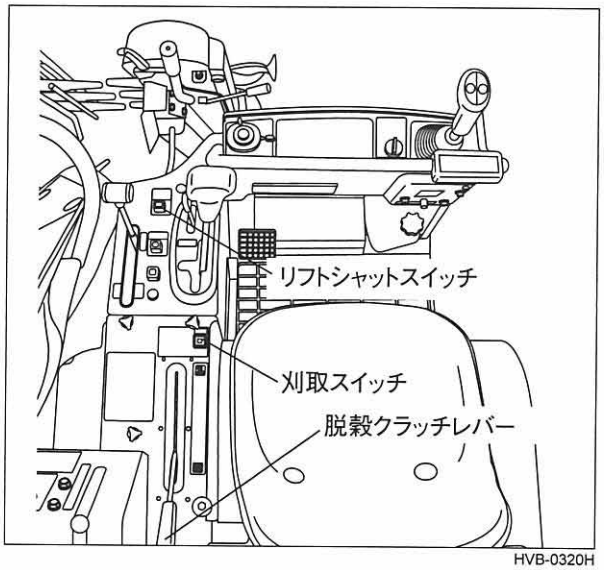
9.4.1 機能

（1）刈取部が一定量上昇すると、自動的に刈取部とフィードチェンを停止して搬送を止めます。
その状態から刈取部を一定高さまで下げると、自動的に刈取部とフィードチェンが「入」になり、搬送部が動きだします。
（2）あぜぎわを小回りするとき、そのつど刈取クラッチを切る必要がありません。
（3）コーナーで回行するとき、静かに作業できます。

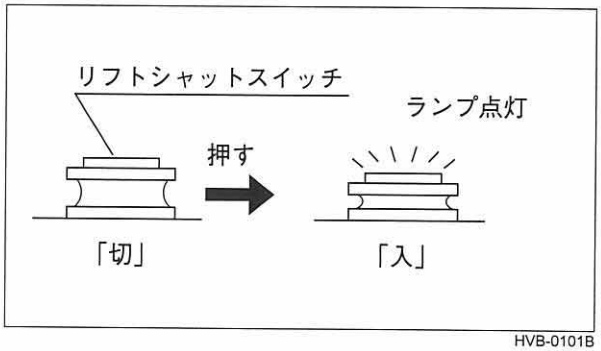
9.4.2 操作のしかた

1 脱穀クラッチレバーを「入」、刈取スイッチを「入」にします。

2 リフトシャットスイッチを押して「入」にして、作業をはじめます。



HVB-0320H



HVB-0101B

9.5 オーガ自動旋回装置の使いかた（GZ型）

9.5.1 機能

(1) オーガ自動旋回スイッチ（張出側）のワンタッチ操作で、排出オーガが収納位置から張出位置まで移動します。
(2) オーガ自動旋回スイッチ（収納側）を押すとオーガが伸びた状態でも、自動で収縮した後でオーガ受けに収納されます。
(3) 自動旋回中でも、オーガ停止スイッチで排出オーガが停止します。また「張出」「収納」操作は、スイッチのワンタッチ操作で再開します。
(4) 自動旋回中でも、オーガ操作レバー（手動）操作が優先され、自動旋回は停止します。

9.5.2 操作のしかた

⚠注意

周囲に障害物がないか確認してください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

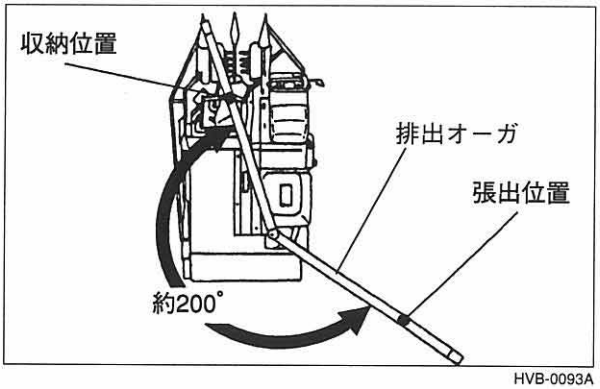
排出オーガを張り出した状態で、高速走行や急旋回をしないでください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

排出オーガを伸ばした状態で排出を中断し、排出オーガを収納する場合は、排出オーガ内に籾が残っているので、排出オーガを一度最上昇させて収納してください。
※ 機体部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

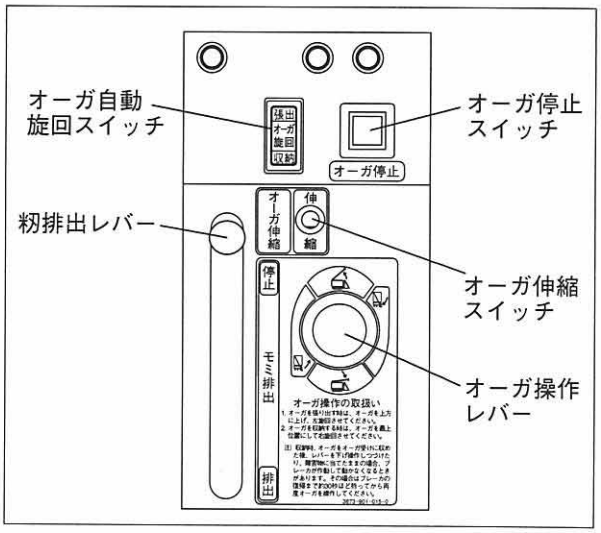
1 オーガ自動旋回スイッチの「張出」側を押します。

2 張出位置で停止したら、オーガ操作レバーとオーガ伸縮スイッチを操作し、排出オーガ先端を希望の位置にセットし、駐車ブレーキをかけ、籾排出レバーを「排出」位置にして籾の排出を行います。

3 籾の排出が終わったら、籾排出レバーを「停止」位置にしてオーガ自動旋回スイッチの「収納」側を押します。排出オーガが自動的に縮んでから収納位置まで移動します。



HVB-0093A



HVB-0104

10. 各部の開閉・脱着のしかた

⚠警告

各部の開閉作業時は、機体を平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、メインスイッチを抜いて、周囲の状況を確認してから行ってください。
※　傷害事故などを引き起こす原因となります。

エンジンが冷えてから作業してください。
※　やけどなどの原因となります。

開けたカバーは必ず閉じてください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

10.1　エンジンカバーの開閉のしかた

■開けかた

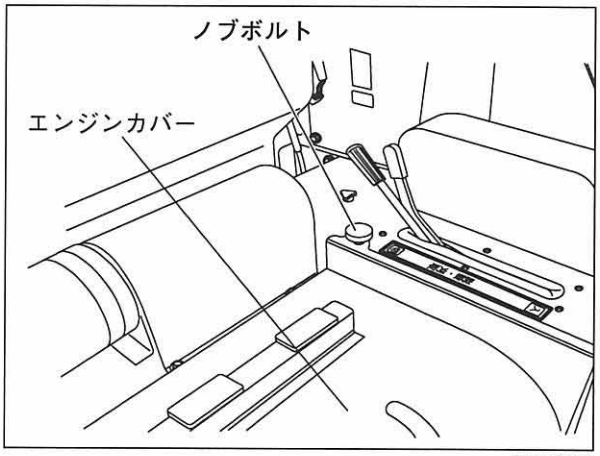
1 ノブボルトを外します。

2 エンジンカバーを機体右側に開けます。

■閉じかた

1 エンジンカバーを閉じます。

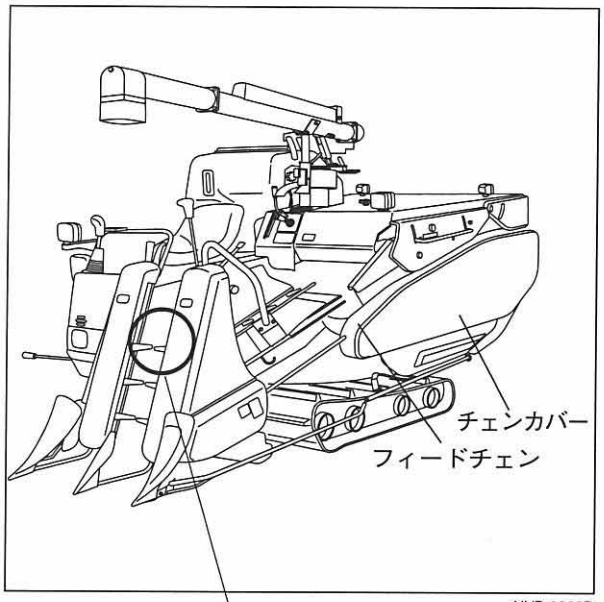
2 ノブボルトを締め付けます。



HVB-0105A

10.2 こぎ深さ搬送部の脱着のしかた

走行部、刈取部のベルト等を点検するときは、こぎ深搬送部を外すと便利です。



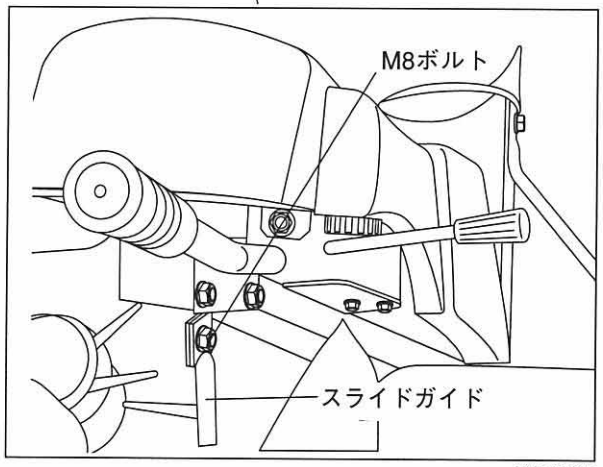
HVB-0323D

■外しかた

1 こぎ深さ手動スイッチで、こぎ深さ搬送部をいっぱい深こぎ側に下げます。

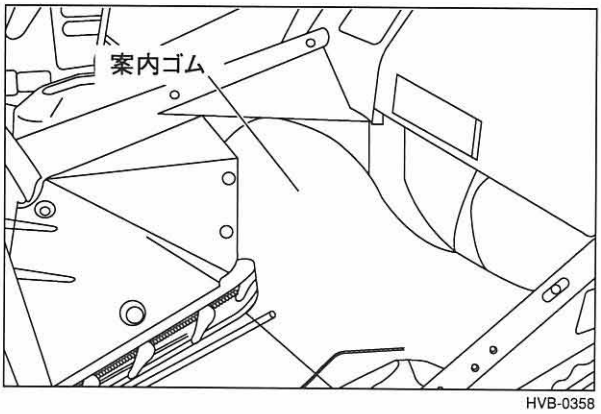
2 チェンカバーを外し、フィードチェーンをオープンします。（☞ 99ページ）

3 M8ボルトを外し、スライドガイドと座金を取り外します。

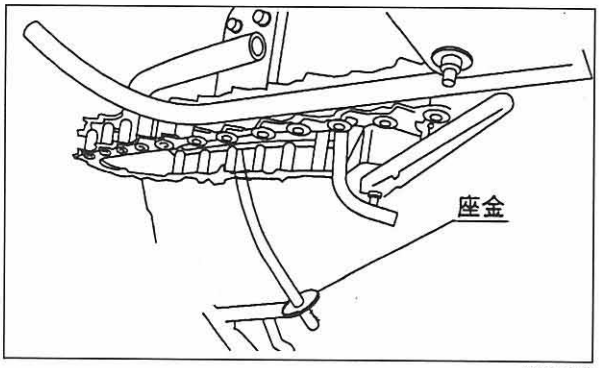


HVB-0330A

4 案内ゴムを前方へ巻き込みます。



HVB-0358



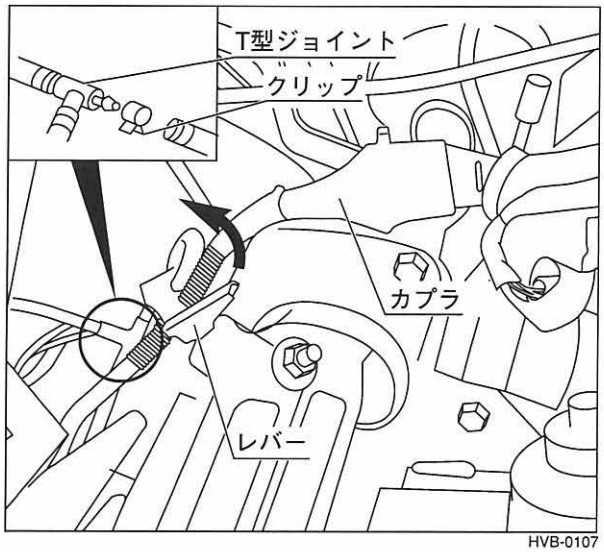
HVB-0359

5 配線カプラを抜きます。

6 クリップを外し、注油ホースをT型ジョイントから抜きます。

7 レバーを引き上げ、ロックはずしこぎ深さ搬送部を手前に5cm程引き抜きます。

8 こぎ深さ株元チェンとパイプを持ち、手前を少し引き下げながら上方へ持ち上げて外します。



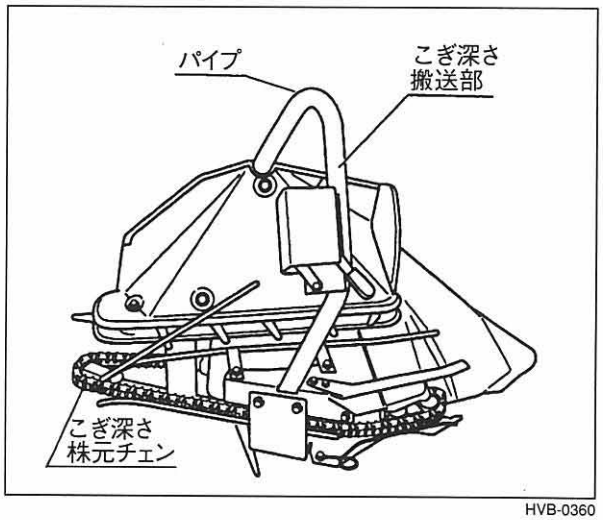
HVB-0107

■取り付けかた

注 意

こぎ深さ搬送部は確実に押し込み、引いても抜けないことを確認してください。
※ 機体部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

1 外しかたの逆の手順で行います。この際レバーを押す必要はありません。
(取り外したボルト、クリップは元の位置に取り付けてください)

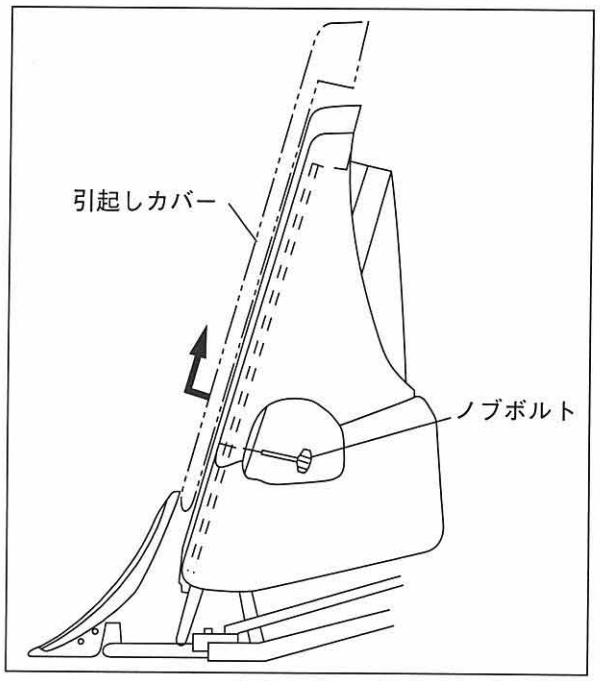


HVB-0360

10.3 引起しカバーの脱着のしかた

1 引起しケース後側のノブボルトを外します。

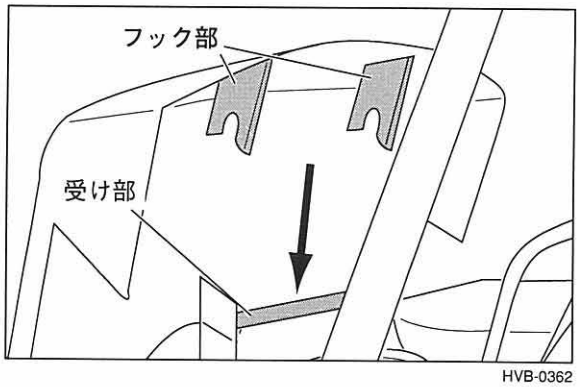
2 引起しカバーの下側を少し前に出してから、上方へ持ち上げて外します。



HVB-0361

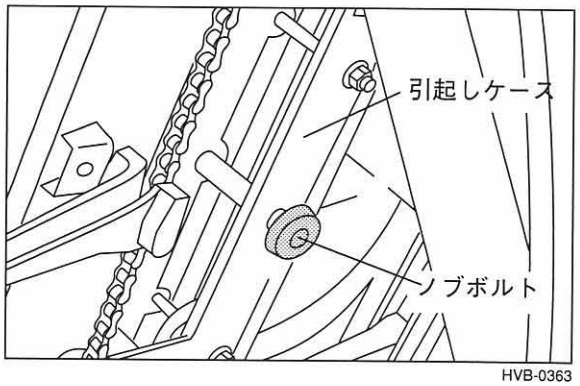
■取付けかた

1 引起しカバーのフックを、引起しケースの受け部へ確実に引掛けます。



HVB-0362

2 引起しケース後側のノブボルトで締めつけます。



HVB-0363

10.4 こぎ胴カバーの開閉のしかた

⚠警告

平たんで安全な場所で、必ずエンジンを停止してメインスイッチを抜いてから行ってください。

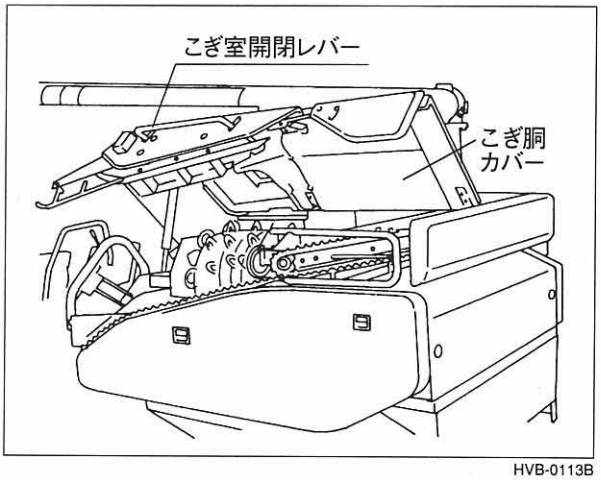
※ 機体が動き出し、衝突事故などを引き起こす原因となります。

注意

こぎ胴カバーを確実に閉めてください。

※ 破損やこぎ室の異音発生の原因になります。

作業中ワラ詰まりが発生したときにオープンすると、ワラが簡単に取り除けます。



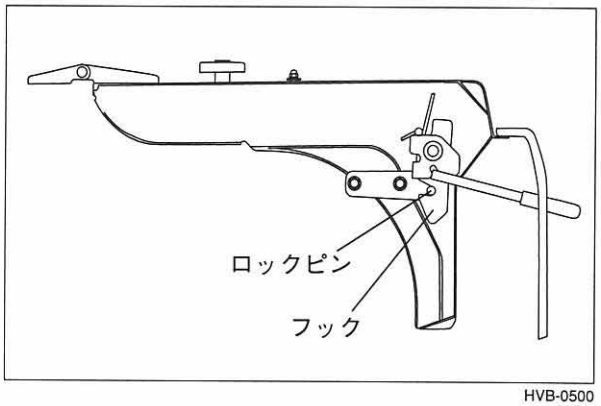
HVB-0113B

■開けかた

1 こぎ室開閉レバーで、こぎ胴カバーを開きます。

■閉じかた

1 こぎ室開閉レバーで、こぎ胴カバーを閉じます。
(こぎ胴カバーのフックが確実にロックピンに掛っているか確認してください。)



HVB-0500

10.5 グレンタンクの脱着のしかた（G型、GZ型）

⚠警告

必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

取り外したカバー類は必ず取り付けてください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

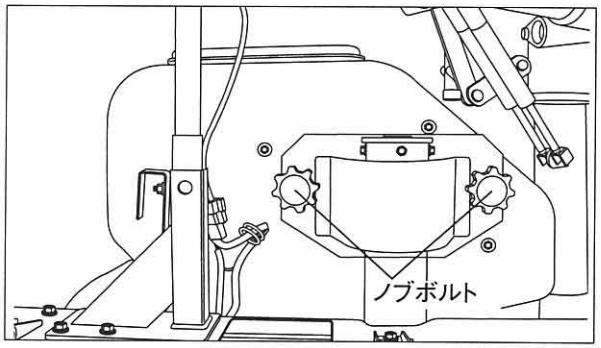
傾斜地では外さないでください。
※ 機体が動き出し、衝突事故などを引き起こす原因となります。

グレンタンク内に穀粒が入っているときは、外さないでください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

■外しかた

1 グレンタンク上部のグレンセンサカプラを外します。

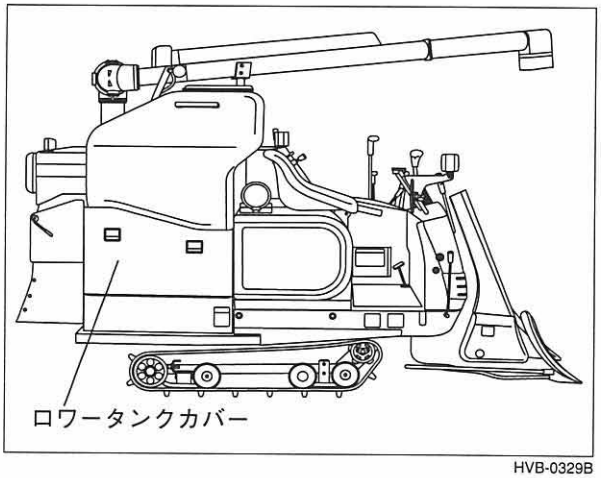
2 グレンタンク上部のノブボルト（2本）を外します。



HVB-0114A

3 ロワータンクカバーを外します。

4 グレンタンクを上方向に引き上げながら、手前に引き出します。



HVB-0329B

■取りつけかた

1 グレンタンクを取り付けるときは、外しかたと逆の手順で取り付けます。
（グレンセンサカプラを取り付け、ノブボルト（2本）を締付けてください。）

10.6 フィードチェンの開閉のしかた

⚠警告

作業をするときは、必ずエンジンを停止し、メインスイッチを抜いてから行ってください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

傾斜地では開けないでください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

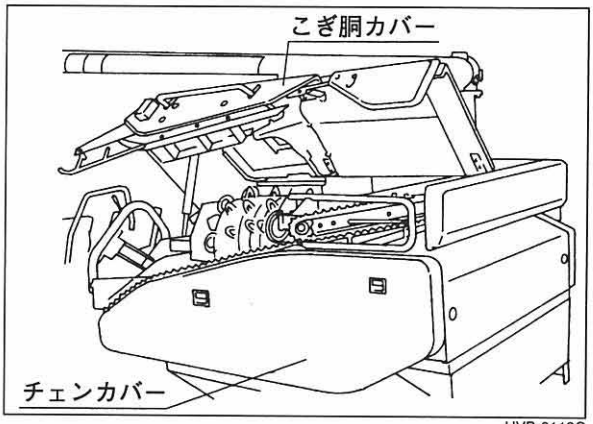
■開けかた

1 こぎ胴カバーを開けます。(☞ 97ページ)

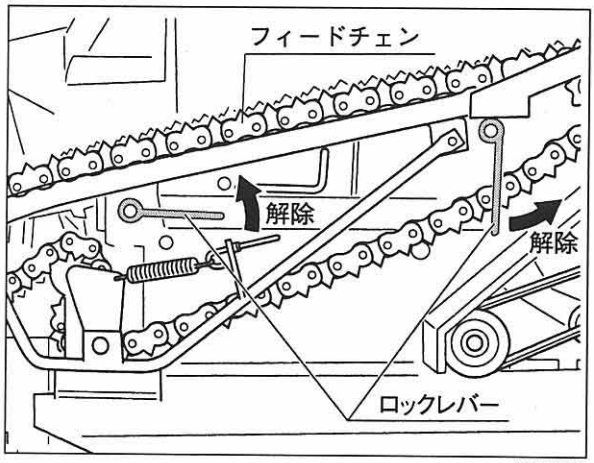
2 チェンカバーを外します。

3 ロックレバー（2カ所）を矢印方向に解除して、ロックを外します。

4 フィードチェンを手前側に開きます。



HVB-0113C



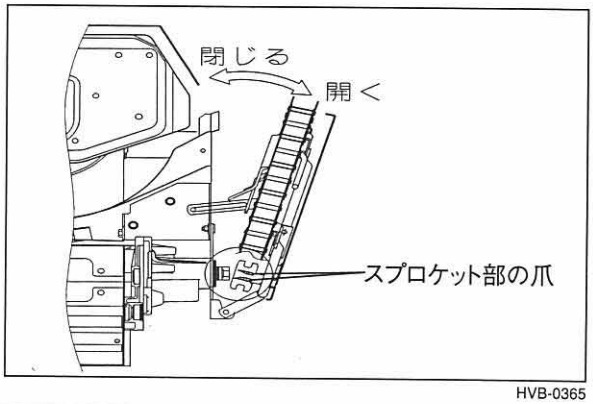
HVB-0364

■閉じかた

1 閉じるときは、逆の手順で行います。このときはロックレバーを確実に掛け、チェンカバーを取り付けます。

補　足

- **閉じるときはスプロケット部の爪の位相に注意して組み付けます。(爪の位相が合って組み付かないときは、フィードチェンを手で回し位相をずらして組み付けます。)**



HVB-0365

10.7 カッタオープンのしかた

⚠警告

平たんで安全な場所で、必ずエンジンを停止してメインスイッチを抜いてから行ってください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

カッタを開けて掃除やメンテナンスをするときは必ずオープンロッドをホルダに差し込んでください。
※ カッタが自然に動き、傷害事故などを引き起こす原因となります。

取外したカバー類は必ず取付けてください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

傾斜地では開けないでください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

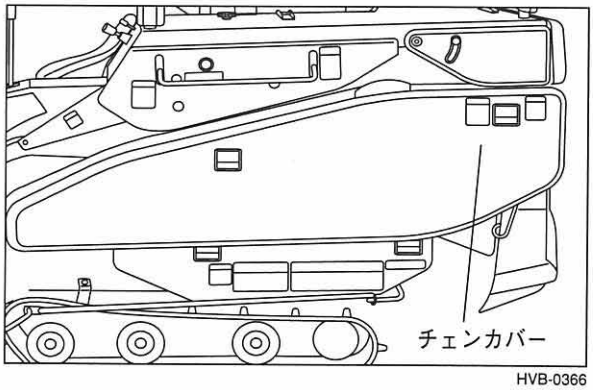
■開けかた

1 チェンカバーを取り外します。

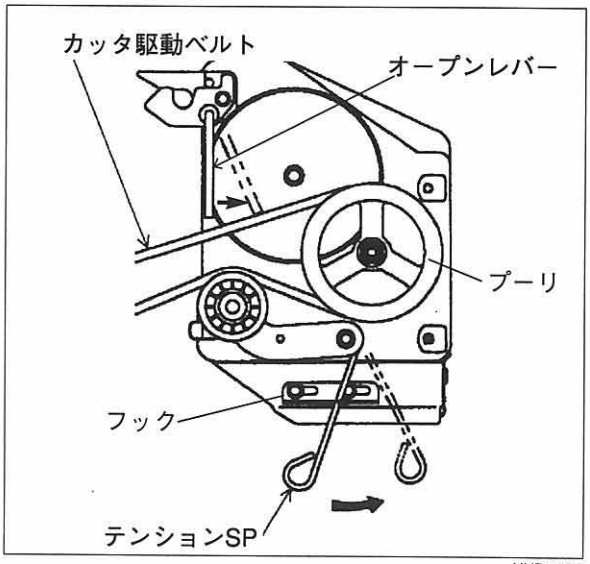
2 キリカエバンを閉じます。(バラ落とし状態にします。)(☞ 65ページ)

3 テンションSPをフックから外し、カッタ駆動ベルトをカッタ側のプーリから取り外します。

4 後カバー、穂先カバーを開けます。
(☞ 64, 65ページ)



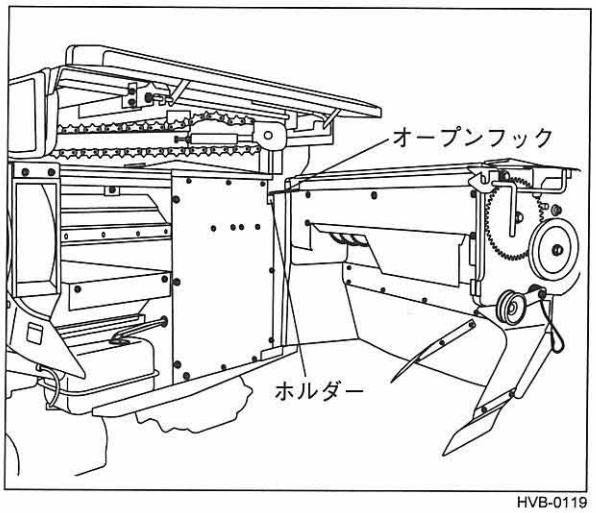
HVB-0366



HVB-0118

5 オープンレバーを矢印方向に引いて、カッタ部を開けます。

6 オープンフックをホルダーに確実に差し込みます。



HVB-0119

■閉じかた

1 閉じるときは、開けかたと逆の手順で行い、チェンカバーを取り付けます。

11. 点検整備

⚠ 警告

点検・整備・掃除する時は平たんな場所に機械を置いて、駐車ブレーキをかけエンジンを停止し、メインスイッチを抜いて各部の回転が止まってから行ってください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。
※　守らないと、排気ガスなどによる中毒を引き起こすおそれがあります。

取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。
※　守らないと、機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

エンジン周辺で作業する時は、エンジンが十分冷えてから行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

刈取部を上げて作業する時は、必ず刈取ロックノブを「ロック」位置に回し、さらに刈取部の下にスタンド等の台を置き、刈取部が下がらないようにしてください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

運転中および停止直後は、絶対にラジエータキャップを開かないでください。
※　守らないと、熱湯がふき出して火傷等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

補　足

- エンジンオイル量は、作業前に毎日点検してください。
- 廃却物をみだりに廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
- コンバインから廃液を抜く場合は容器で受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、「お買い上げ先」または「産業廃棄物処理業者」等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

11.1 定期点検一覧表

○：点検・補給・調整・清掃　　●：交換

※機械の使用状況やほ場の状態により、交換時期などは変化します。以下の表は、点検・交換の目安時間です。
運転・作業中に異常を感じた場合は、すみやかに点検を実施し、**「お買い上げ先」**に相談してください。

点検項目		点検時間	時間					それ以降の点検・交換		参照ページ
			シーズン前	50	100	200	300	○	●	
オイル	エンジンオイル	点検・交換	○	●	●	●	●		100時間ごと	104
	走行メインギヤーケースオイル	点検・交換	○	●	以降100時間ごと交換				100時間ごと	105
	こぎ胴ギヤーケースオイル	点検・交換	○		●	●	●		100時間ごと	107

点検項目		点検時間	時間					それ以降の点検・交換		参照ページ
			シーズン前	50	100	200	300	○	●	
ベルト	ファンベルト	点検・交換	○	○	○	●	○	100時間ごと	200時間ごと	109
	走行ベルト	点検・交換	○	○	○	●	○			110
	刈取ベルト	点検・交換	○		○	●	○			111
	かき込ベルト	点検・交換	○		○	●	○			112
	脱穀ベルト	点検・交換	○		○	●	○			113
	唐箕ベルト	点検・交換	○		○	●	○			115
	揺動ベルト	点検・交換	○		○	●	○			115
	一番ベルト	点検・交換	○		○	●	○			115
	カッタベルト	点検・交換	○		○	●	○			115
	排ワラベルト	点検・交換	○		○	●	○			115
	吸引ベルト	点検・交換	○		○	●	○			115
	グレンタンクベルト(G、GZ型)	点検・交換	○		○	●	○			114
	グレンタンクカウンタベルト(G、GZ型)	点検・交換	○		○	●	○			114

⚠注意

ベルトは初期10時間程度作業したら調整してください。チェン及びワイヤは、初期20時間程度作業したら調整してください。エアクリーナはシーズン前毎に清掃してください。エンジンオイルおよび冷却水の量は、作業前に毎日点検してください。

点検項目		点検時間	時間 シーズン前	50	100	200	300	それ以降の点検・交換 ○	●	参照ページ
チェン	引起しチェン	点検・調整	○		○	○	○	100時間ごと	400時間ごと	117
	こぎ深さ株元チェン	点検・調整	○		○	○	○			118
	こぎ深さ穂先チェン	点検・調整	○		○	○	○			119
	排ワラチェン（穂先）	点検・調整	○		○	○	○			121
	排ワラチェン（株元）	点検・調整	○		○	○	○			122
	フィードチェン	点検・調整	○		○	○	○			120
ワイヤ・レバー	アクセルワイヤ	点検・調整	○	○	○	○	●	100時間ごと	300時間ごと	125
	駐車ブレーキワイヤ	点検・調整	○	○	○	○	●			124
	穀粒排出クラッチワイヤ	調整	○	○	○	○	●	100時間ごと	300時間ごと	126
	刈取クラッチワイヤ（A型）	調整	○	○	○	○	●			126
	マルチステアリングロッド	点検・調整	○	作業前				作業前		124
	ブレーキ解除ワイヤ	点検・調整	○	○	○	○	●	100時間ごと	300時間ごと	124
	主変速（HST）レバー	点検・調整	○	作業前				1作業前		126
	副変速レバー	点検・調整	○	作業前						126
その他	灯火類，ホーン	点検	○	作業前				作業前		－
	燃料フィルタ	点検・交換	○	以後100時間ごと交換					100時間ごと	127
	エンジン側燃料フィルタ	点検・交換	○	以後400時間ごと交換					400時間ごと	127
	エンジンオイルフィルタ	点検・交換	○	●	以後100時間ごと交換				100時間ごと	128
	転輪、アイドルローラ	グリースアップ	○	格納時グリースアップ						128
	油圧オイルフィルタ	点検・交換	○	●	以後100時間ごと交換				100時間ごと	129
	エアクリーナ	点検・交換	○	以後100時間ごと交換					100時間ごと	130
	ホース類	点検・調整	○	2年ごと交換						132
	バッテリ	点検	○	作業前				作業前		135
	配線類・バッテリ⊕コード	点検	○	作業前				作業前		136
	ヒューズ	点検	○	作業前				作業前		137
	クローラ	調整・交換	○			●			200時間ごと	138
	ホイルスプロケット	交換				●			200時間ごと	－
	冷却水	交換	○		格納時交換				格納時交換	139
	刈刃	点検・交換	○		○	●	○	100時間ごと	200時間ごと	140
	脱穀切刃	点検・交換	○		○	●	○	100時間ごと	200時間ごと	142
	こぎ歯	交換	○						線径の1/2になったら交換	－
	こぎ胴受網	交換	○						線径の1/2になったら交換	－
	カッタ刃	交換	○			●			200時間ごと	148
	伸縮ラセン	清掃	○							145

11.2 オイルの点検と交換のしかた

⚠警告

各オイルの点検・交換は必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてから行ってください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

取り外したカバー類は、すべて取付けてからエンジンを始動してください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

補 足 ● **オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。「お買い上げ先」または「産業廃棄物処理業者」等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**

11.2.1 エンジンオイル

⚠警告

エンジンオイルの点検・交換の際、エンジン及びマフラがよく冷えたことを確認してから点検・交換を行ってください。
※ やけどなどの原因となります。

注意

エンジンオイル量は、作業前に毎日点検してください。
エンジンオイルは、1～2回目50時間、3回目以降は100時間ごとに交換してください。
エンジンオイルは、上限以上に入れないでください。

■点検のしかた

1 エンジンカバーを開けます。
（☞ 93ページ）

2 オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、改めて差し込んでから再び抜き、「上限」と「下限」の間においるがあるか点検します。

3 「下限」以下の場合は給油口より、オイルを「上限」まで補給します。

4 エンジンカバーを閉めます。

補 足

- **オイルゲージはいっぱいまで差し込んで検油してください。**
- **エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。**
- **使用するエンジンオイルは必ず「三菱純正オイル」を使用してください。**

■交換のしかた

オイルの種類	規定量
ディーゼル エンジンオイル 10W-30CC級以上	2.2L

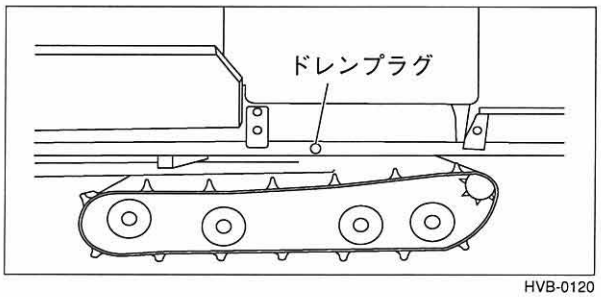
1 コンバインを平たんな場所に停車します。

2 オイル受けを用意します。

3 給油口のキャップを外します。

4 ドレンプラグを外し、オイルを排出します。

5 排出し終れば、ドレンプラグを締め付け、給油口よりオイルを2.2ℓ給油し、給油キャップを取り付けます。

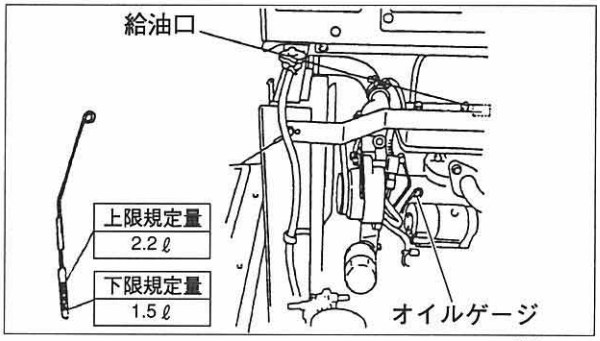


HVB-0120

6 交換後、約3分してオイルゲージにてオイル量を点検します。

補　足

- **オイルゲージはいっぱいまで差し込んで検油してください。**



HVB-0121A

11.2.2 走行メインギヤーケースオイル

⚠警告

刈取部を上げて点検・交換を行う場合は、機体が水平になる場所で必ず刈取部をロックし、さらに刈取部の下にスタンド等の台を置いてください。

※　刈取部が下がり思わぬ事故を引き起こす原因となります。

■点検のしかた

1 検油口のボルトを外し、油面が検油口に達しているか調べます。

2 検油口以下の場合は補給が必要ですが、検油口以上に入れないでください。(油量は検油口よりオイルが流れ始めれば適量です。)

3 検油口のボルトを締め付けます。

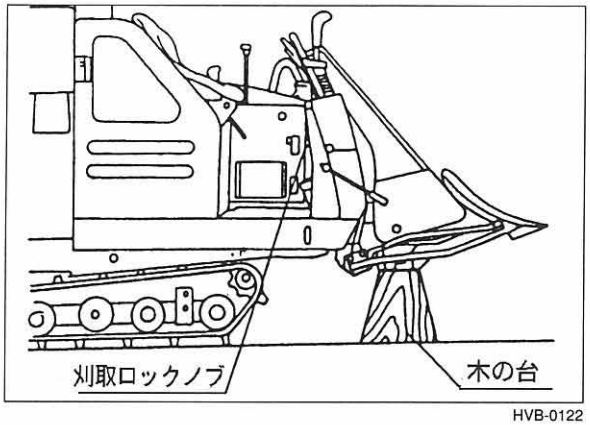
補　足

- **使用するギヤーオイルは必ず「三菱純正オイル」を使用してください。**

補　足

- **走行メインギヤーケースオイルは、1回目50時間、2回目以降は100時間ごとに交換します。**

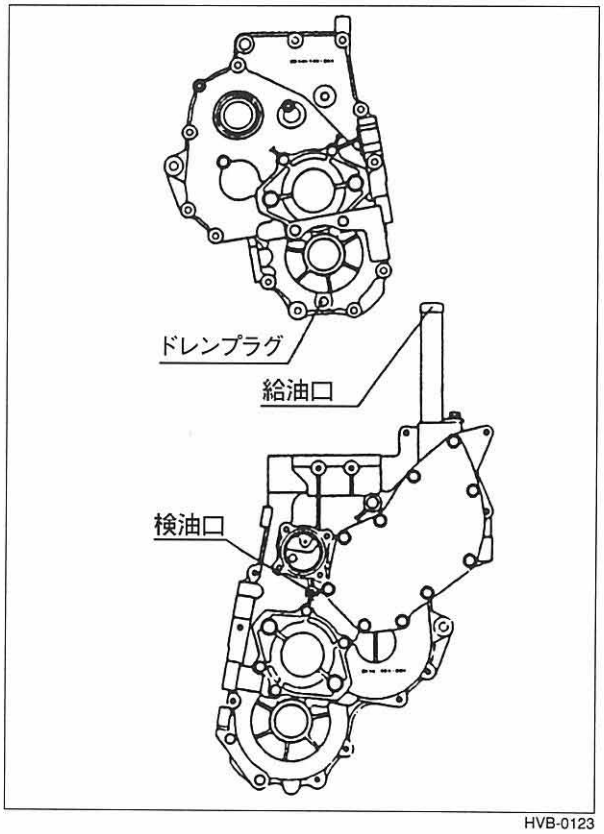
オイルの種類	規定量
ギヤオイルSAE80W GL-4以上	4.5 L



HVB-0122

■交換のしかた

1. オイル受けを用意します。
2. 刈取部を最上げにし、刈取ロックをかけ（☞30ページ）、刈取部下にスタンド等の台を置きます。
3. 給油口のキャップとドレンプラグを外し、オイルを排出します。
4. 排出し終れば、ドレンプラグを締め付け、検油口のボルトを外します。
5. 給油口よりオイルを給油します。検油口からオイルが流れ出しはじめれば適量です。
6. 検油口のボルトを締め付けます。
7. 給油口のキャップを取り付けます。



HVB-0123

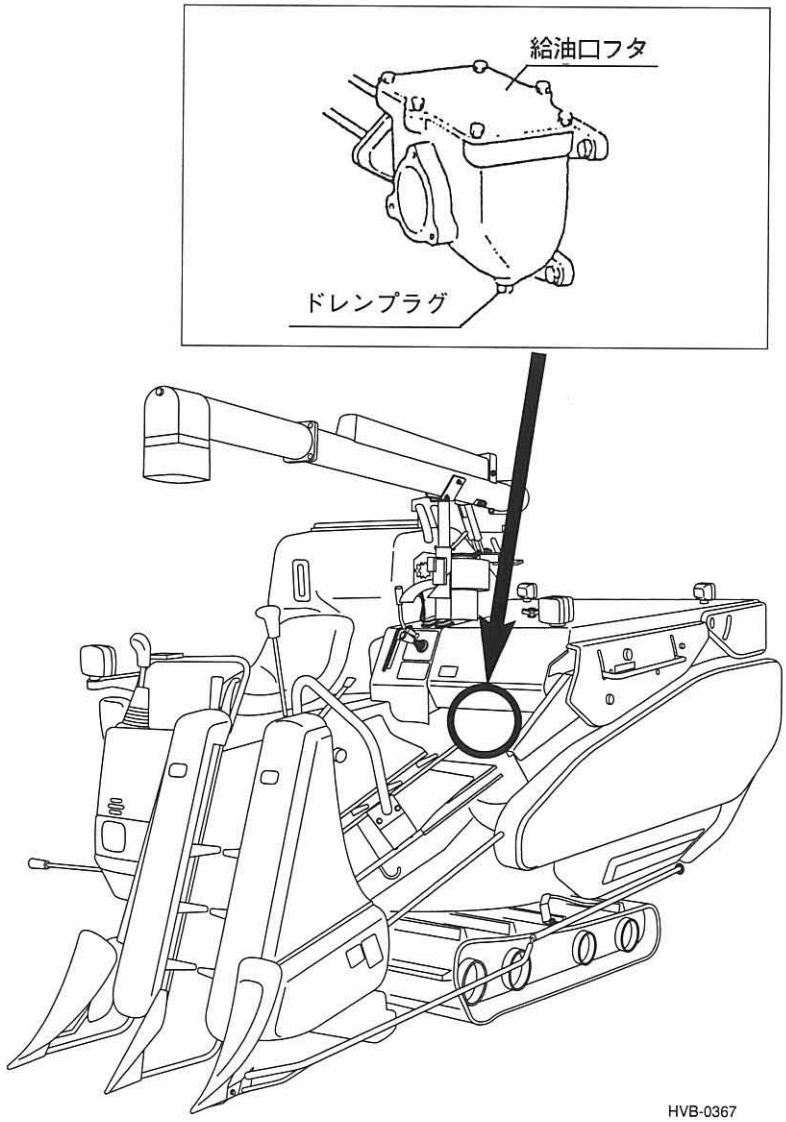
11.2.3 こぎ胴ギヤーケースオイル

ドレンプラグよりオイルを排出し、給油口より規定量を給油します。

補 足

- **こぎ胴ギヤーケースオイルは、100時間ごとに交換してください。**

	オイルの種類	規定量
こぎ胴ギヤーケース	ギヤオイル SAE90 GL5以上	0.25L



11.3 ベルトの点検と調整のしかた

⚠ 警 告

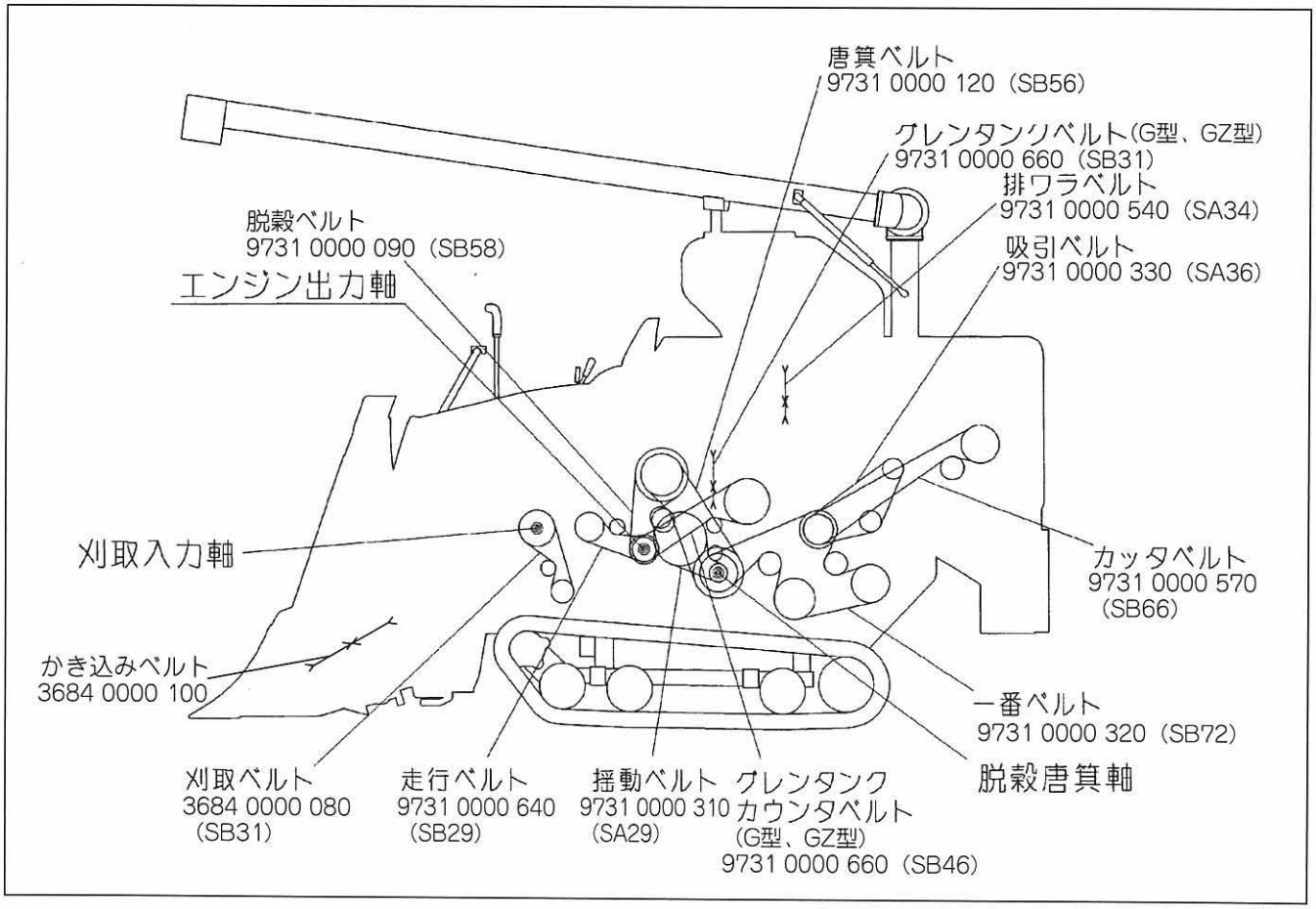
平たんな場所で必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてから回転が確実に止ったことを確認してから行ってください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

取り外したカバー類は、点検・調整後、必ず元の位置に組み付けてください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

11.3.1 ベルトの点検と調整一覧表

補 足
- 各ベルトは、作業前および100時間ごとに点検し、200時間ごとに交換してください。ファンベルト、走行ベルトは、作業前および50時間、100時間、以後100時間ごとに点検し、200時間ごとに交換してください。
- 新しいベルトは、初期伸びがありますので、10時間程度作業したら調整してください。

■ベルトの一覧表



HVB-0368

■ベルトの点検と調整一覧表

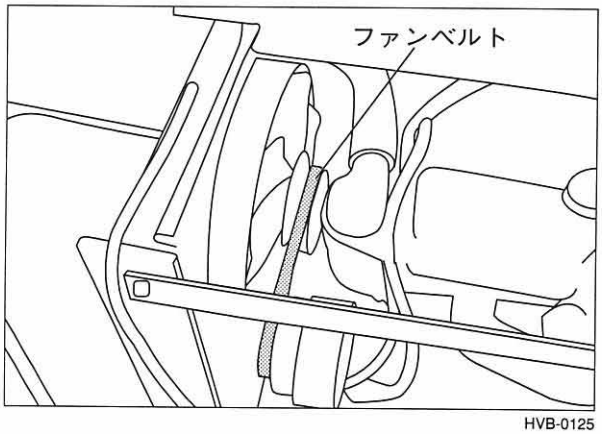
ベルト名		点検・調整		参照ページ
		点検のしかた	規定量（mm）	
走行部	ファンベルト	ベルトを約10kgで押したときのたわみ量	14～15	109
	走行ベルト	テンションスプリングのスキマ	0.7～0.9	110
刈取部	刈取ベルト	テンションスプリングのスキマ（クラッチ入の状態）	0.6～0.8	111
	かき込みベルト	ベルトの中央を約5kgで引張ったときのたわみ量	0～5	112
脱穀部	脱穀ベルト	テンションスプリングのスキマ（クラッチ入の状態）	0.3～0.5	113
	グレンタンクベルト（G型、GZ型）	テンションスプリングのスキマ	0.5～0.7	114
	唐箕ベルト	テンションスプリングのスキマ	0.6～0.8	115
	揺動ベルト	テンションスプリングのスキマ	1.0～1.2	115
	一番ベルト	テンションスプリングのスキマ	0.8～1.0	115
	排ワラベルト	テンションスプリングのスキマ	1.0～1.2	115
	吸引ベルト	テンションスプリングのスキマ	0.6～0.8	115
	グレンタンクカウンタベルト（G型、GZ型）	テンションスプリングのスキマ	1.0～1.2	114
作業機	カッタベルト	ベルトの中央を約10kgで押したときのたわみ量	10～15	115

11.3.2 ファンベルトの点検と調整

⚠ 警告

エンジンがよく冷えてから点検・調整を行ってください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

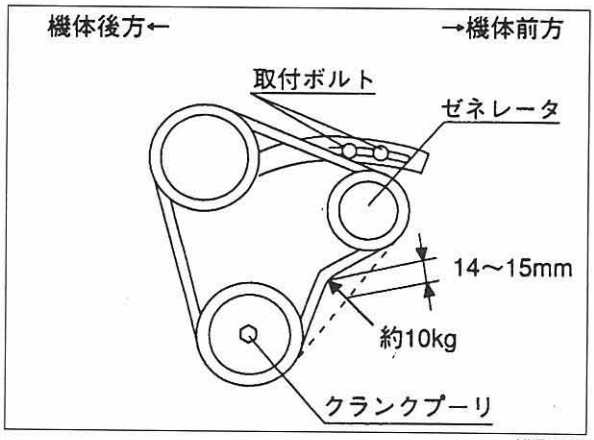
ベルトの中央を約10kgで押して、たわみ量が14～15mm程度になるよう調整してください。



HVB-0125

■調整のしかた

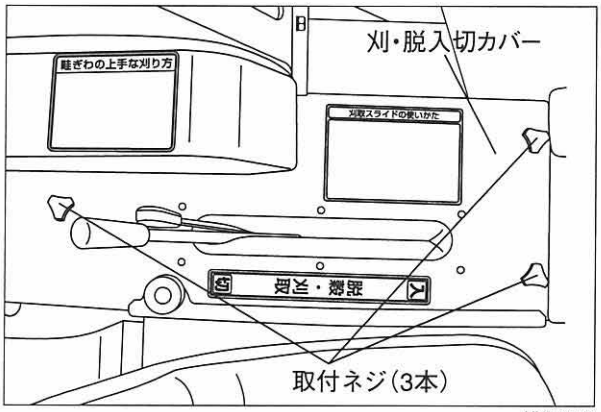
1. エンジンカバーを開けます。（☞ 93ページ）
2. ゼネレータ取付ボルトをゆるめます。
3. ゼネレータを傾けてベルトを張り、取付ボルトを締め付けます。
4. エンジンカバーを閉じます。



HVB-0126

11.3.3 走行ベルトの点検と調整

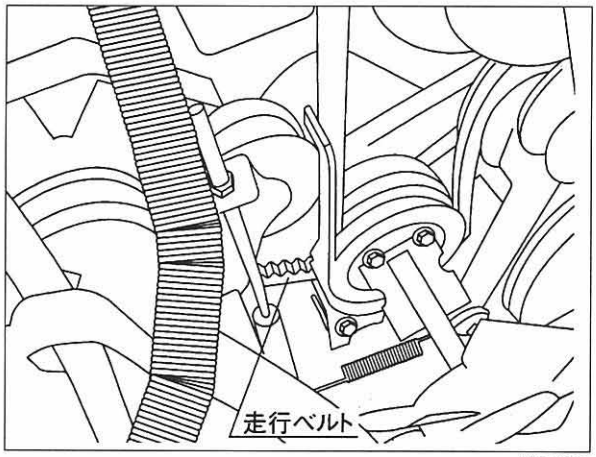
テンションスプリングのスキマが0.7～0.9mmになるように調整してください。



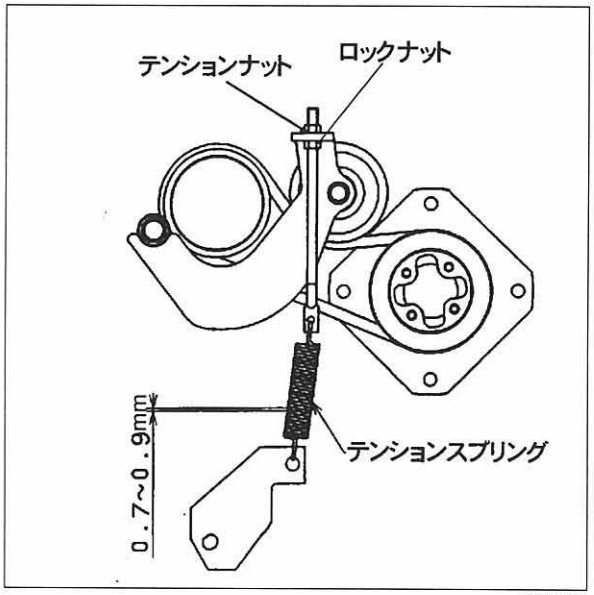
HVB-0368

■調整のしかた

1. エンジンカバーを開けます。
（☞ 93ページ）
2. 刈、脱入切カバーを外します。(取付ネジ3本)
3. ロックナットをゆるめます。
4. テンションナットをまわし、テンションスプリングのスキマを0.7～0.9mmにします。
5. ロックナットを締め付けます。
6. 刈、脱入切カバーを取り付けます。
7. エンジンカバーを閉じます。



HVB-0369



HVB-0370

11.3.4 刈取ベルトの点検と調整

注　意

テンションスプリングを張りすぎてベルトがつれ回りしないようにしてください。
※　機体部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

■調整のしかた

1 メインスイツチを「入」にします。（A型）

2 脱穀クラッチレバーを「入」にします。

3 刈取クラッチレバーを「入」にします。
刈取スイッチを「入」にします。（A型）

4 ロックナットをゆるめます。

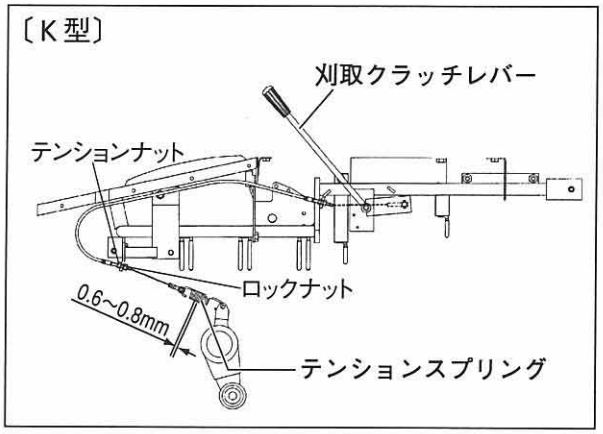
5 テンションスプリングのスキマが0.6～0.8mmになるようにテンションナットを回しケーブルの調整をします。

6 ロックナットを締め付けます。

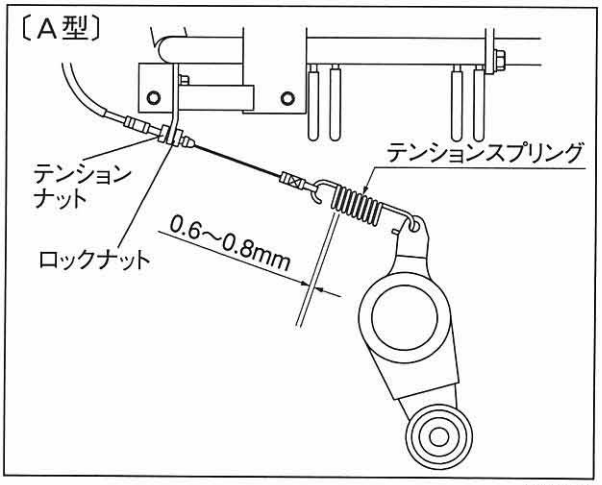
7 刈取クラッチレバーを「切」にします。
刈取スイッチを「切」にします。（A型）

8 脱穀クラッチレバーを「切」にします。

9 メインスイツチを「切」にします。（A型）



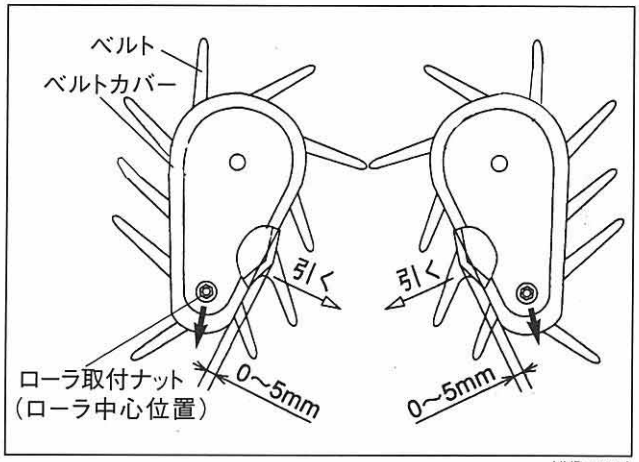
HVB-0130A



HVB-0371

11.3.5 かき込みベルトの点検と調整

ベルトの中央部を手で引張ったとき（約5kg）に、ベルトカバーとベルト内面のスキマが0～5mmあるか確認してください。



HVB-0131A

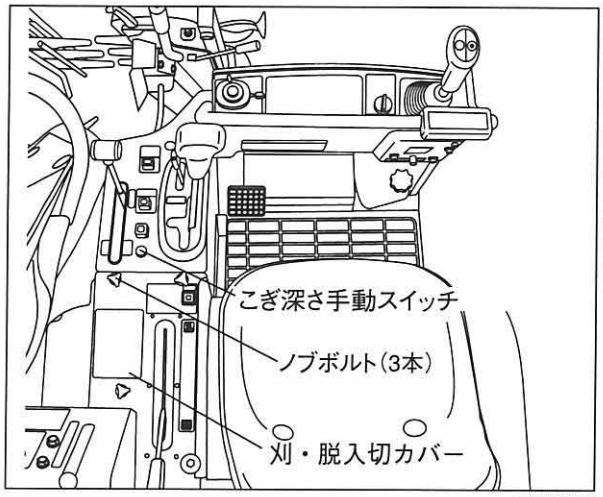
■調整のしかた

1 先端のローラ取付ナットをゆるめます。

2 ローラ中心位置を矢印方向にずらしてベルトの中央部を手で引張り、ベルトカバーとベルト内面のスキマが0～5mmになるよう、ローラ取付ナットを締め付けます。

11.3.6 脱穀ベルトの点検と調整

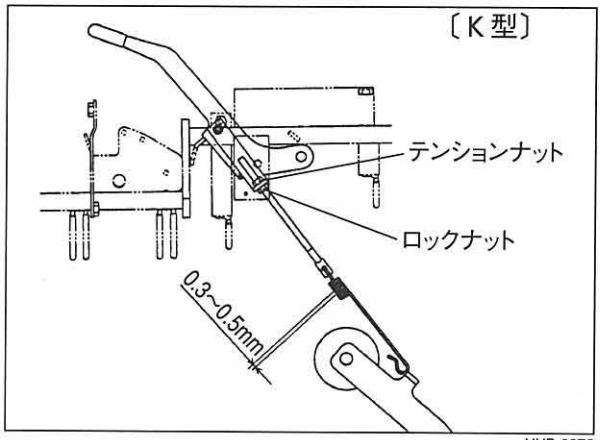
テンションスプリングのスキマが0.3~0.5mmになるように調整してください。(脱穀クラッチレバーを「入」の状態)



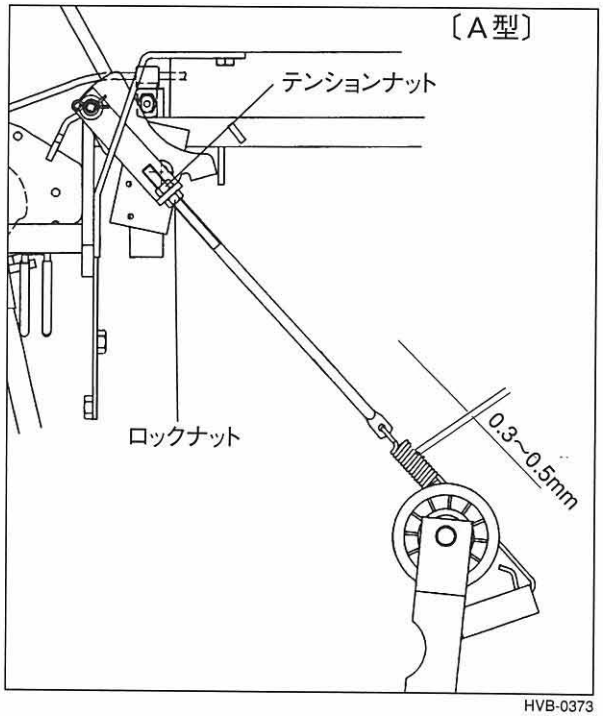
HVB-0320ii

■調整のしかた

1. ノブボルト（3本）を外し、刈・脱入切カバーを外します。
2. こぎ深さ手動スイッチを操作してこぎ深さ搬送部をいっぱい「深こぎ」側にします。
3. 脱穀クラッチレバーを「入」にします。
4. テンションスプリングのスキマが0.3~0.5mmになるように、ロックナットをゆるめてテンションナットで調整します。
5. ロックナットを締め付けます。
6. 脱穀クラッチを「切」にし、刈・脱入切カバーをノブボルト（3本）で取り付けます。



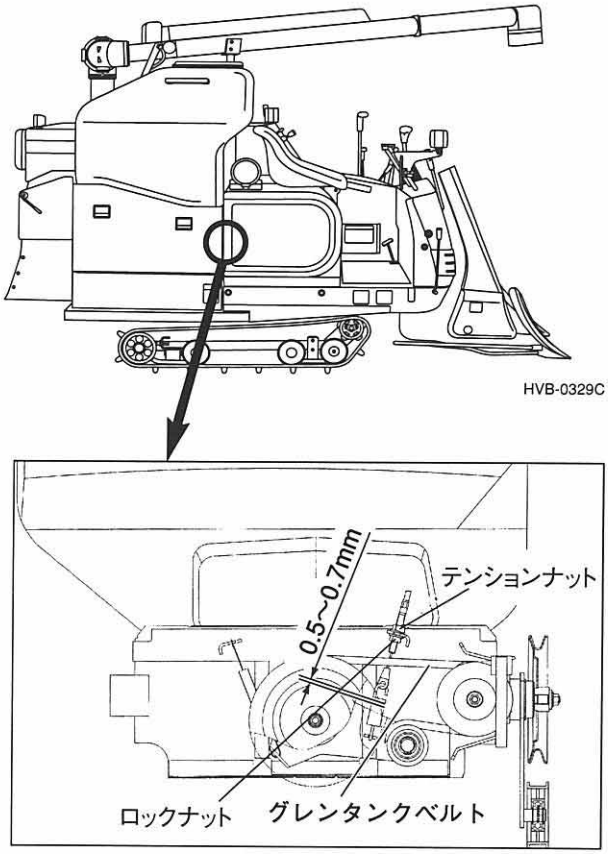
HVB-0372



HVB-0373

11.3.7 グレンタンクベルトの点検と調整（G型、GZ型）

テンションスプリングのスキマが0.5～0.7mmになるよう調整してください。



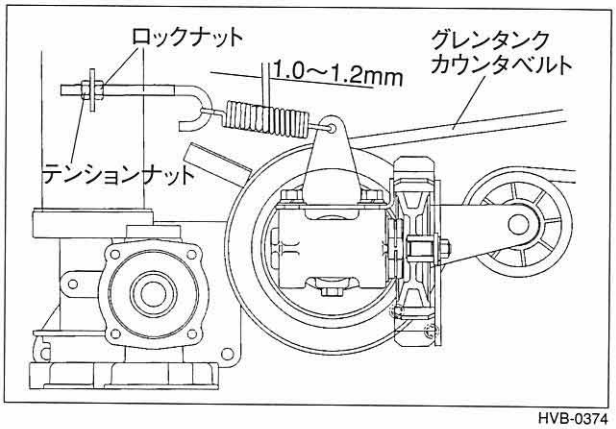
HVB-0329C
HVB-0132A

■調整のしかた

1. グレンタンクを外します。（☞ 98ページ）
2. 籾排出レバーを「排出」にします。
3. スプリングのスキマが0.5～0.7mmになるようにロックナツトをゆるめて、テンションナットで調整します。
4. ロックナットを締め付けます。
5. グレンタンクを取り付けます。

11.3.8 グレンタンクカウンタベルトの点検と調整（G型、GZ型）

テンションスプリングのスキマが1.0～1.2mmになるよう調整してください。



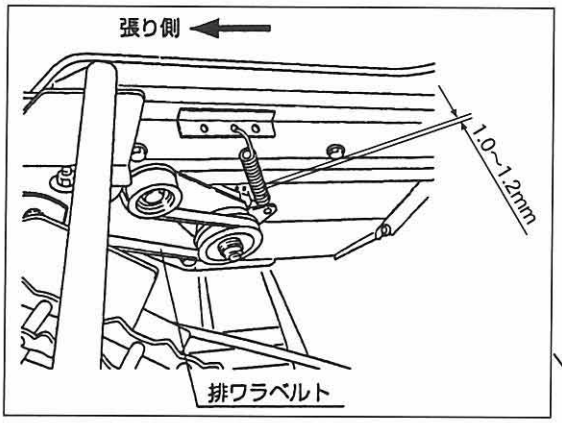
HVB-0374

■調整のしかた

1. グレンタンクを外します。（☞98ページ）
2. テンションナットでスプリングのスキマが1.0～1.2mmになるよう調整します。
3. ロックナットを締め付けます。
4. グレンタンクを取り付けます。

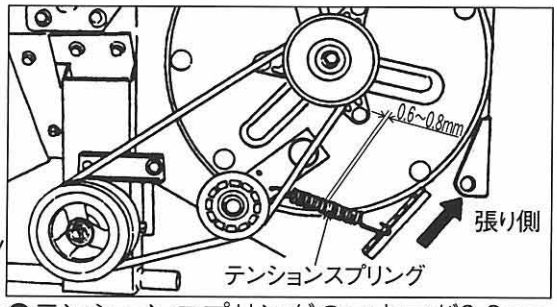
11.3.9 その他の脱穀部のベルトの点検と調整

排ワラベルト



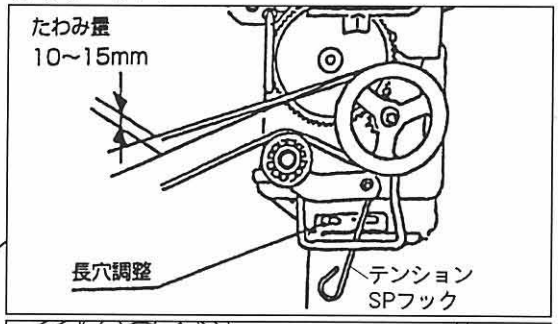
●テンションスプリングのスキマが1.0mm以下になった場合には、スプリングフックを張り側の穴へ掛け替えます。

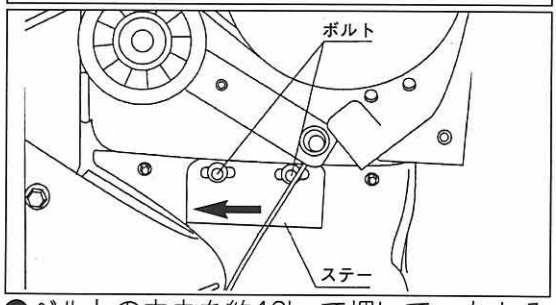
吸引ベルト



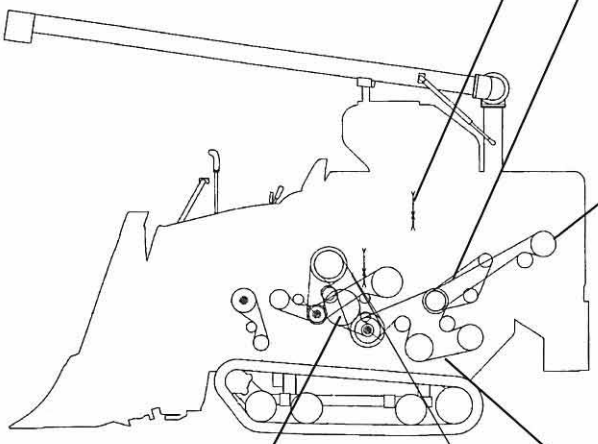
●テンションスプリングのスキマが0.6mm以下になった場合には、スプリングフックを張り側の穴へ掛け替えます。

カッタベルト

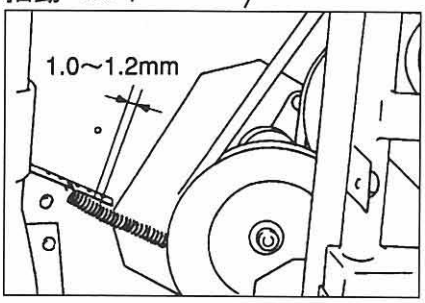




●ベルトの中央を約10kgで押して、たわみ量が10~15mm程度になるように、ステーを矢印の方向に移動させて調節します。

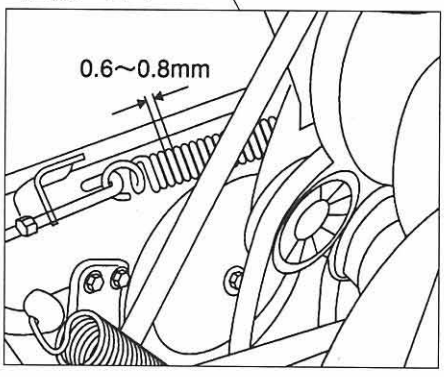


揺動ベルト

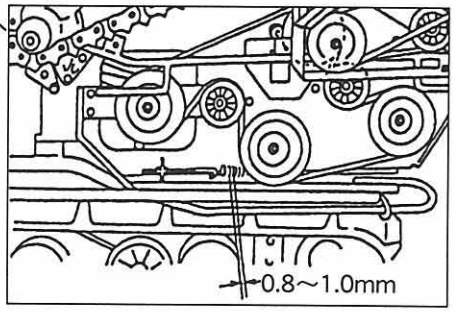


●テンションスプリングのスキマが1mm以下になった場合には、スプリングフックを張り側の穴へ掛け替えます。

唐箕ベルト



一番ベルト



HVB-0375

11.4 チェンの点検と調整のしかた

⚠警告

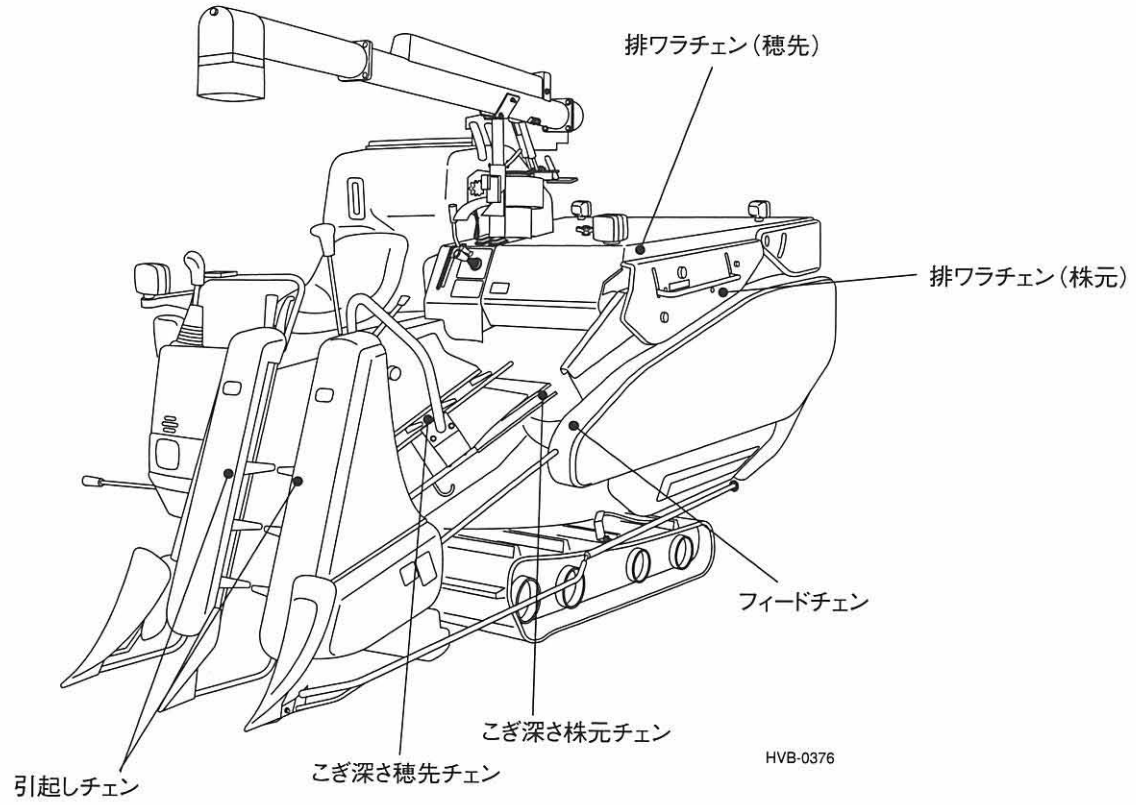
平たんな場所で必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

点検・整備のため、取り外したカバー類は、必ず元の位置に組み付けてください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

11.4.1 チェンの点検と調整一覧表

補 足

- **各チェンは、シーズン前および100時間ごとに点検します。**

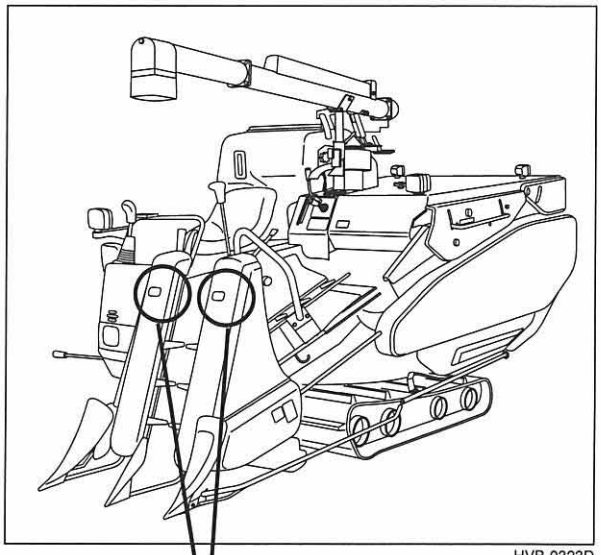


■チェンの点検と調整一覧表

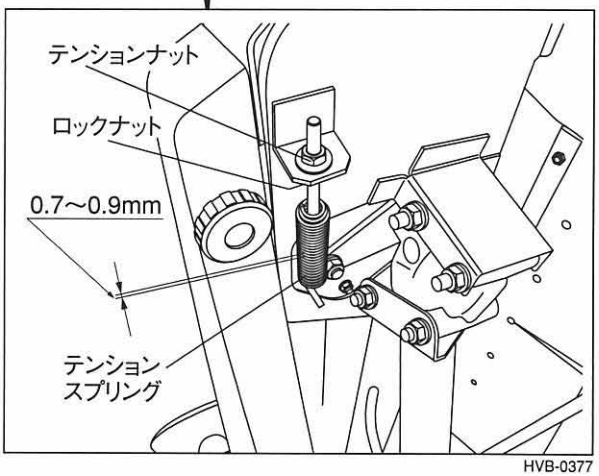
チェン名		点検・調整		参照ページ
		点検のしかた	規定量（mm）	
刈取部	引起しチェン	テンションスプリングのスキマ	0.7～0.9	117
	こぎ深さ株元チェン	チェンの中央を約5kgで押したときのたわみ量	10～15	118
	こぎ深さ穂先チェン	チェンを軽く指で押す	元に戻ること	119
脱穀部	排ワラチェン（穂先）	穂先ラグを持ち上げてチェンのゆるみをみる	ゆるみがないこと	121
	排ワラチェン（株元）	チェンを手で下に引いた時のテンションアームの動き	0.5～1.5	122
	フィードチェン	テンションスプリングのスキマ	0.4～0.6	120

11.4.2 引起しチェンの点検と調整

テンションスプリングのスキマが0.7～0.9mmになるように調整します。



HVB-0323D



HVB-0377

■調整のしかた

1 テンションロッドのロックナットをゆるめます。

2 テンションナットを回して、テンションスプリングのスキマを0.7～0.9mmにします。

3 ロックナットを締め付けます。

11.4.3 こぎ深さ株元チェンの点検と調整

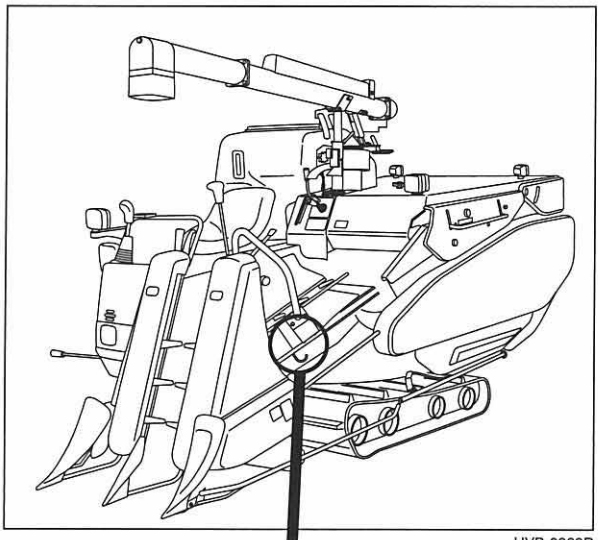
チェンの中央部を指で押したとき（約5kg）に、チェンのたわみ量が10～15mmであるか、確認してください。

■調整のしかた

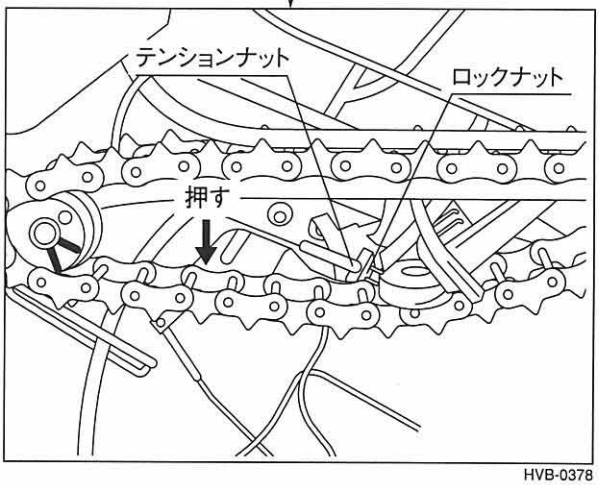
1 ロックナットをゆるめます。

2 テンションナットを回して、チェンの中央部を指で押したときたわみ量が10～15mmになるように調整します。

3 ロックナット を締め付けます。



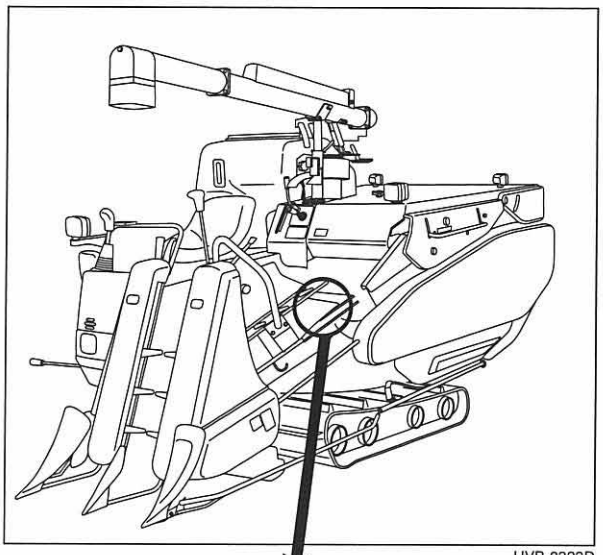
HVB-0323D



HVB-0378

11.4.4 こぎ深さ穂先チェンの点検と調整

爪の出口部（A部）からチェンを指で軽く押し、チェンがゆるんで元に戻らない場合には調整します。



HVB-0323D

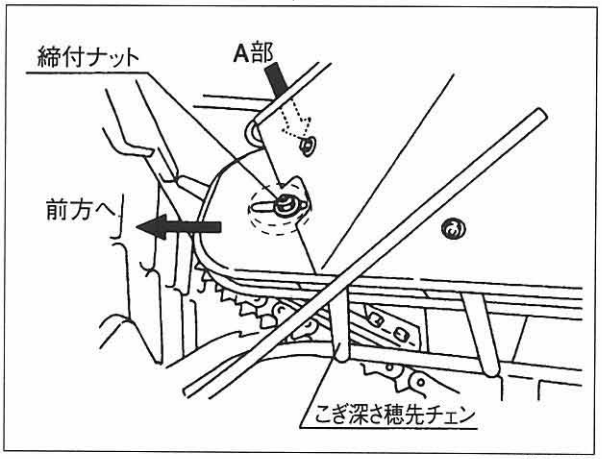
■調整のしかた

1 先端ローラ部の締付ナット（上下2個）をゆるめます。

2 上下締付ナット部を矢印方向へ引き出します。

3 爪出口部（A部）からチェンを指で押したとき、チェンのたわみが10～15mmになり、指をはなすと元に戻ることを確認します。

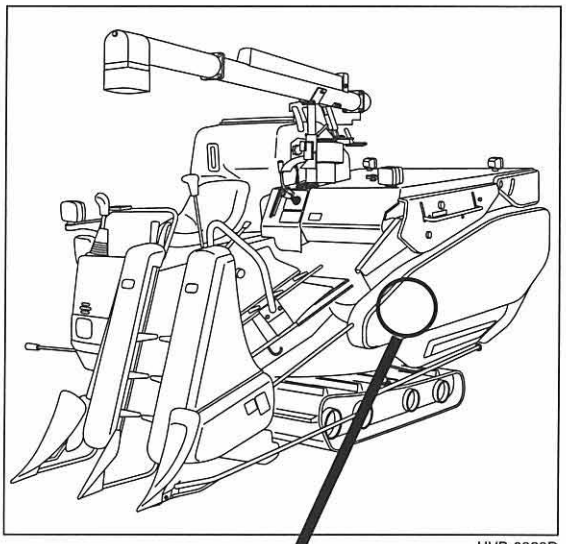
4 締付ナット（2個）を締め付けます。



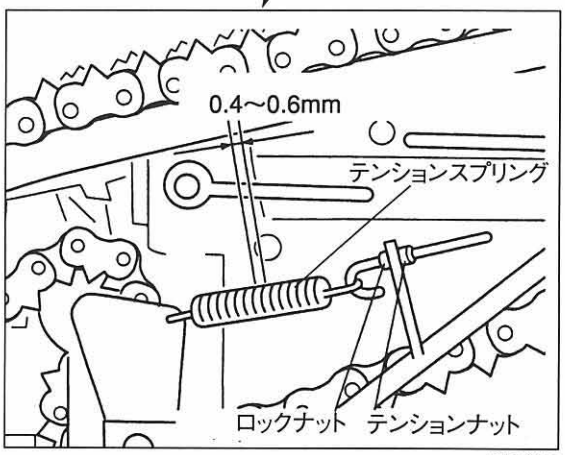
HVB-0139A

11.4.5 フィードチェンの点検と調整

テンションスプリングのスキマが0.4～0.6mmになるように調整します。



HVB-0323D



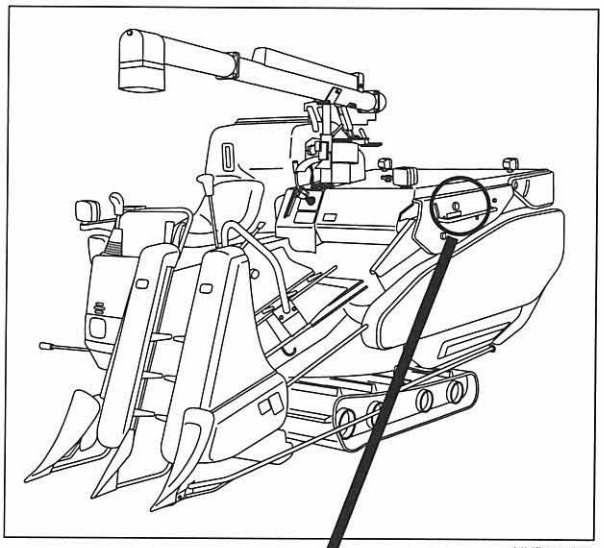
HVB-0140

■調整のしかた

1. こぎ胴カバーを開け、チェンカバーを取り外します。（☞ 97ページ）
2. ロックナットをゆるめます。
3. テンションナットを回して、テンションスプリングのスキマを0.4～0.6mmにします。
4. ロックナットを締め付けます。
5. チェンカバーを取り付け、こぎ胴カバーを閉じます。

11.4.6 排ワラチェン（穂先）の点検と調整

穂先爪を持ち上げ、チェンのゆるみがないように調整します。

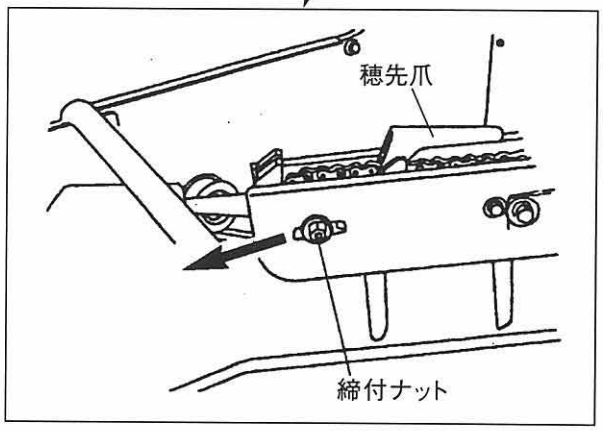


HVB-0323D

■調整のしかた

1 締付ナット（2個）をゆるめます。
（スプリングにより、自動的に張れるようになっています。）

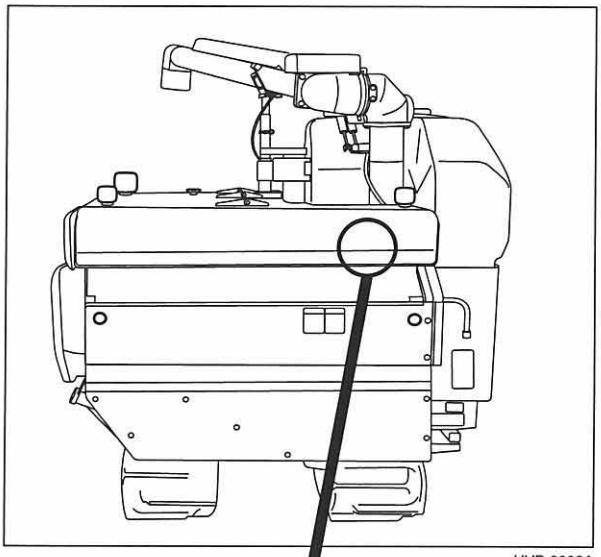
2 締付ナットを締め付けます。



HVB-0141

11.4.7 排ワラチェン（株元）の点検と調整

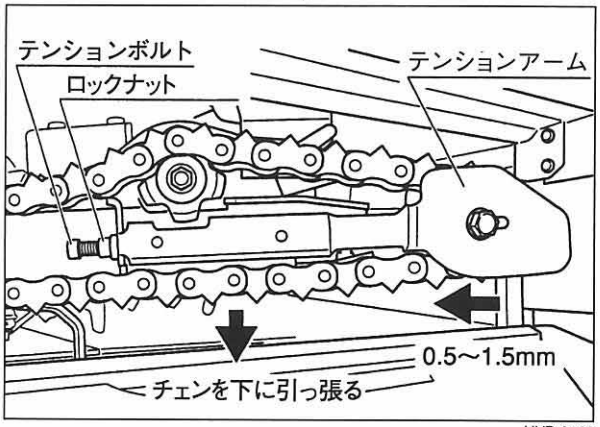
チェンを手で下に引いたときのテンションアームの動き量が0.5～1.5mmになるよう調整します。


HVB-0002A

■調整のしかた

1 ロックナットをゆるめます。

2 チェンを下に引っ張ったとき、テンションアームの動き量が0.5～1.5mmになるようにテンションボルトを回して調整します。

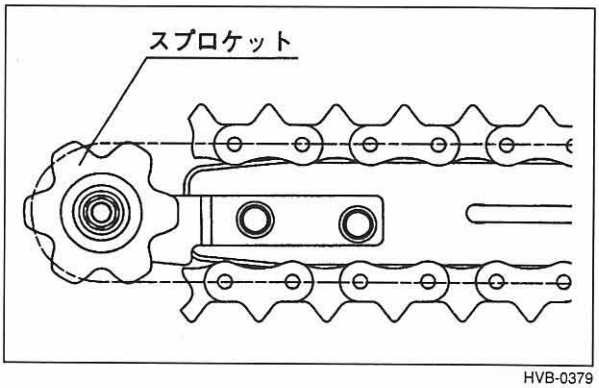


HVB-0143

3 ロックナットを締め付けます。

補　足

- **チェンの調節をするときは、前側のスプロケットを右図の位置にして行います。**



HVB-0379

11.5 ワイヤ・ロッドの点検と調整のしかた

⚠警告

平たんな場所で必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

取り外したカバー類は、必ず元の位置に組み付けてください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

⚠注意

ワイヤ・ロッドは、シーズン前に点検してください。
駐車ブレーキワイヤ、アクセルワイヤ、ブレーキ解除ワイヤは300時間ごとに交換してください。

11.5.1 ワイヤー覧表

ワイヤの種類	ワイヤの色	使用型式
駐車ブレーキワイヤ	赤	全型式
アクセルワイヤ	黒	全型式
穀粒排出クラッチワイヤ	白	G型、GZ型
刈取クラッチワイヤ	白（緑）	K型（A型）
刈取スライドワイヤ	シルバー	全型式
ブレーキ解除ワイヤ	黒	全型式

11.5.2 駐車ブレーキワイヤの点検

⚠警告

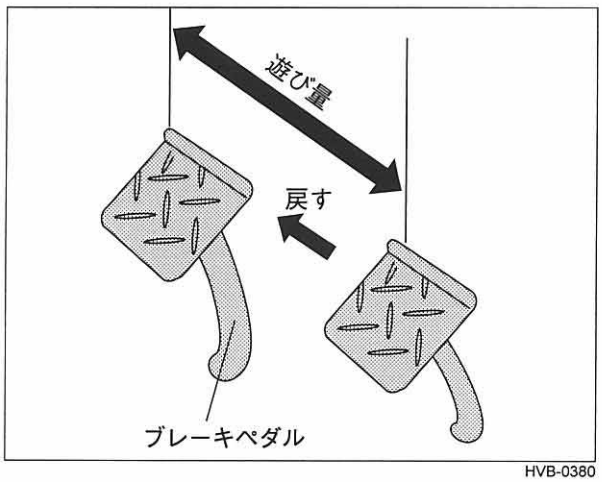
坂道で駐車ブレーキワイヤの点検を行なわないでください。
※ 機体が動き出し、衝突事故などを引き起こす原因となります。

■駐車ブレーキワイヤの点検のしかた

1 駐車ブレーキを解除した状態でブレーキペダル先端の遊び量（20～25mm）を点検します。遊び量を測定するときは、ブレーキペダルを戻す方向に動かします。

補 足

- **坂道などで駐車ブレーキレバーを「入」にしても、機体が完全に停止しない場合、調整が必要です。お買い上げ先に調整を依頼してください。**

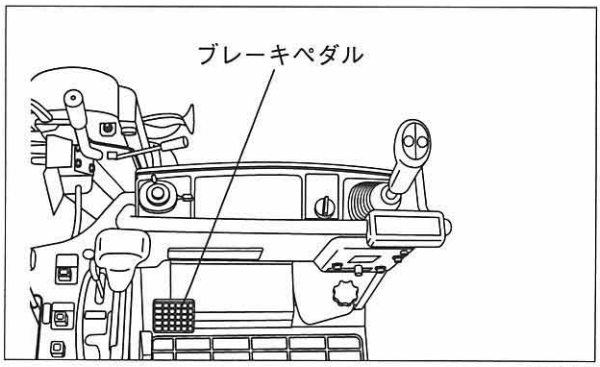


HVB-0380

11.5.3 駐車ブレーキの点検

(1) ブレーキペダルを踏み込むとブレーキが効きます。ブレーキの効きが悪い場合はお買い上げ先に調整を依頼してください。

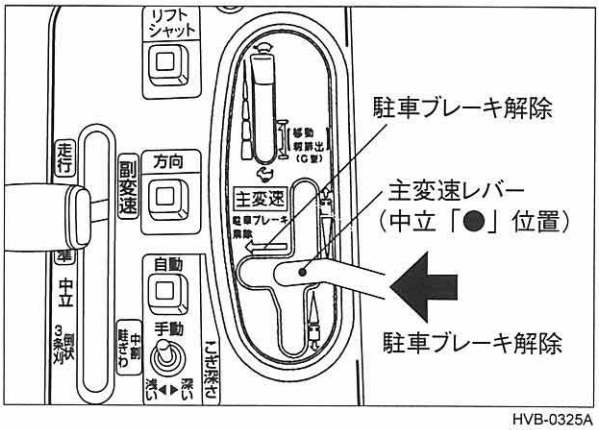
(2) ブレーキペダルを踏み込んだとき片効きになり左右に振られる場合、お買い上げ先に調整を依頼してください。



HVB-0381

11.5.4 駐車ブレーキ解除の点検

駐車ブレーキをかけた後、主変速レバー操作で、駐車ブレーキの解除（☞ 45ページ）が出来ない場合は、お買い上げ先に調整を依頼してください。



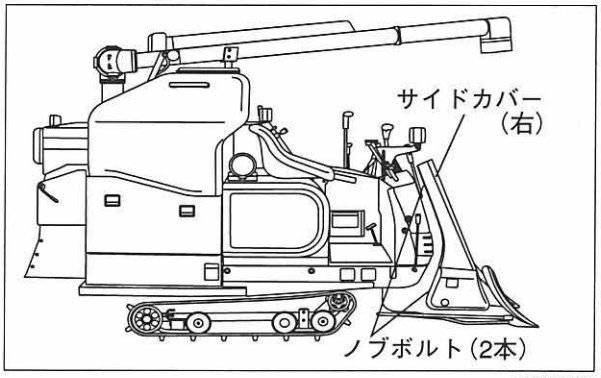
HVB-0325A

11.5.5 マルチステアリングロッドの点検

マルチステアリングレバーを操作すると、クラッチが作動し、ブレーキがきいて左右に旋回します。マルチステアリングレバーのききが悪いときは、お買い上げ先に調整を依頼してください。

11.5.6 刈取スライドワイヤの点検と調整

刈取スライドロックレバーを操作しても、ロックが外れなかったり、刈取部が固定されない場合には調整が必要です。



HVB-0329G

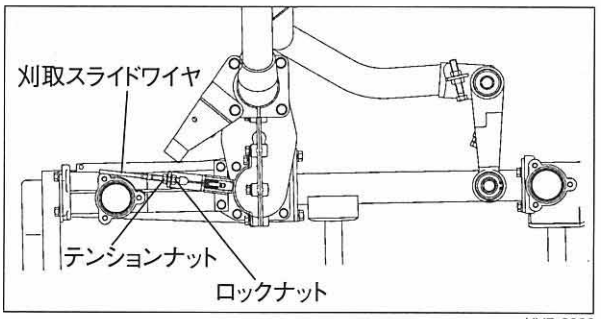
■調整のしかた

1. サイドカバー（右）を取り付けているノブボルト（2本）を外し、サイドカバー（右）を外します。
2. 刈取部が左右どちらの位置でも固定されていることを確認します。



HVB-0382

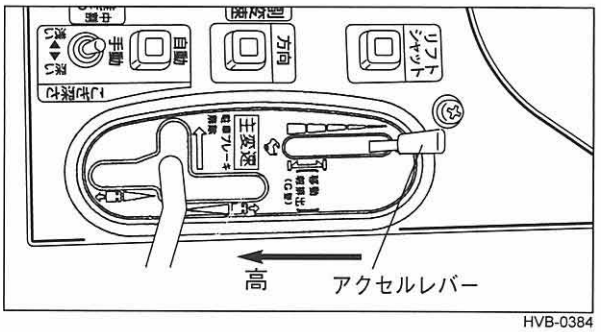
3. 刈取スライドロックレバー先端の遊びが1～3mmになるようにテンションナットとロックナットでワイヤを調整します。
4. サイドカバー（右）を取り付け、ノブボルト（2本）を締付けます。



HVB-0383

11.5.7 アクセルワイヤの点検と調整

アクセルレバーを一杯「高」にしても、メータの針が作業ゾーンまで上がらない場合には、調整が必要です。お買い上げ先に調整を依頼してください。



HVB-0384

11.5.8 穀粒排出クラッチワイヤの点検と調整（G型、GZ型）

グレンタンクベルトの点検と調整、及び脱穀関係・
作業機のベルトの点検と調整を参照してください。
（☞ 114ページ）

11.5.9 刈取クラッチワイヤの点検と調整（A型）

刈取ベルトがスリップした場合に調整してください。

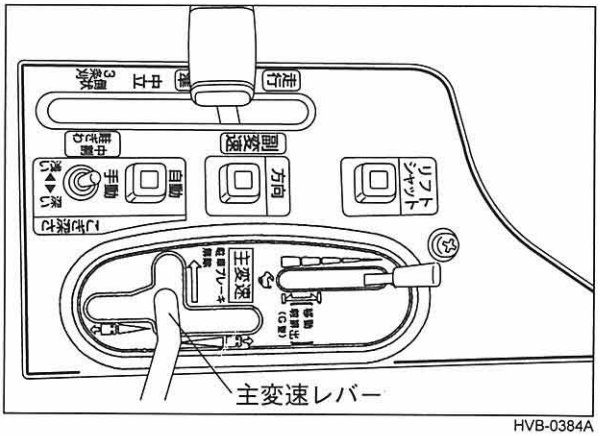
■調整のしかた

刈取ベルトの点検と調整を参照にしてください。
（☞ 111ページ）

11.5.10 主変速（HST）レバーの点検と調整

補 足

- **主変速レバーが「中立（「●」位置）」なのに機械が「前進」または「後進」してしまう場合は、調整が必要です。お買い上げ先に調整を依頼してください。**

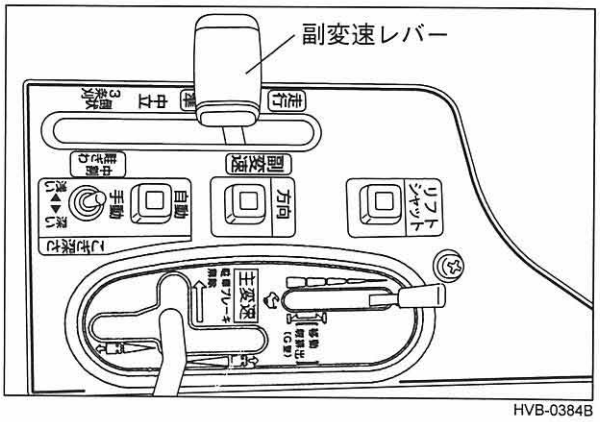


HVB-0384A

11.5.11 副変速レバーの点検と調整

補 足

- **副変速レバーを変速したときに、ラベル表示位置とレバー位置がズレている場合は、調整が必要です。お買い上げ先に調整を依頼してください。**

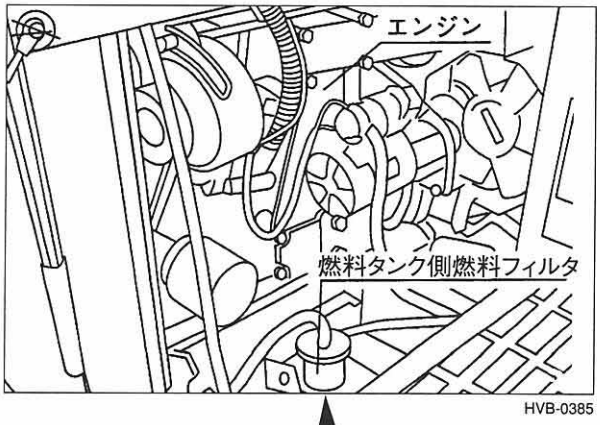


HVB-0384B

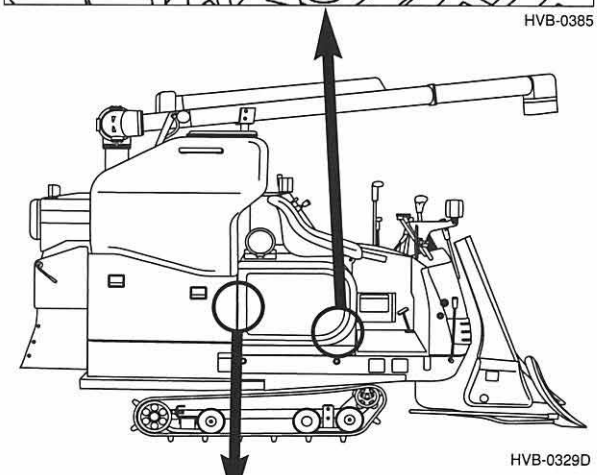
11.6 その他の点検と調整のしかた

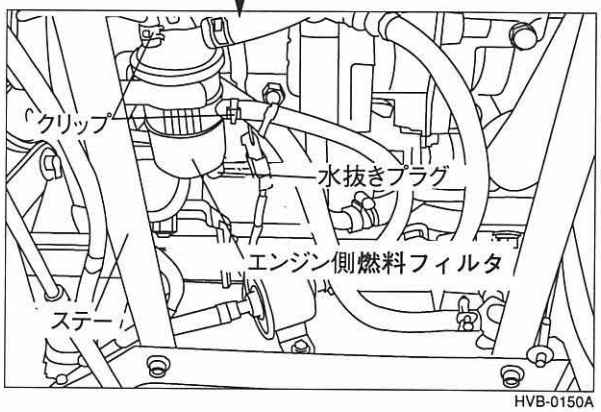
11.6.1 燃料フィルタの交換

燃料タンク側の燃料フィルタは、100時間ごとに交換してください。
エンジン側の燃料フィルタは400時間ごとに交換してください。



HVB-0385


HVB-0329D



HVB-0150A

■燃料タンク側の燃料フィルタの交換のしかた

1. エンジンカバーを開けます。(☞ 93ページ)
2. クリップ（2ヵ所）を外し、ホース（2本）を抜きます。
3. ステーから燃料フィルタを取り外します。
4. 組付は逆の手順で行います。

■エンジン側の燃料フィルタの清掃のしかた

1. グレンタンクを外します。(☞ 98ページ)
2. エンジンカバー(後)を外します。(ボルト4本) (☞93ページ)
3. 燃料フィルタ透明部に水やホコリが沈澱している場合は、水抜きプラグを抜き、不純物を出してから確実に締めます。
4. 組付は逆の手順で行います。

■エンジン側の燃料フィルタの交換のしかた

1. グレンタンクを外します。(☞ 98ページ)
2. エンジンカバー(後) を外します。(ボルト4本)
3. クリップ（3ヵ所）を外し、ホース（3本）を抜きます。
4. ステーから燃料フィルタを取り外します。
5. 組付は逆の手順で行います。

11.6.2 エンジンオイルフィルタの交換

⚠注 意

交換後エンジンオイルを給油し、エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけエンジンオイルが減ります。規定量だけエンジンオイルを補給してください。
オイルの種類、検油のしかた等については104ページを参照してください。

エンジンオイルフィルタは、1回目50時間、2回目からは100時間ごとに交換します。

■エンジンオイルフィルタの交換のしかた

1 エンジンカバーを開けます。(☞ 93ページ)

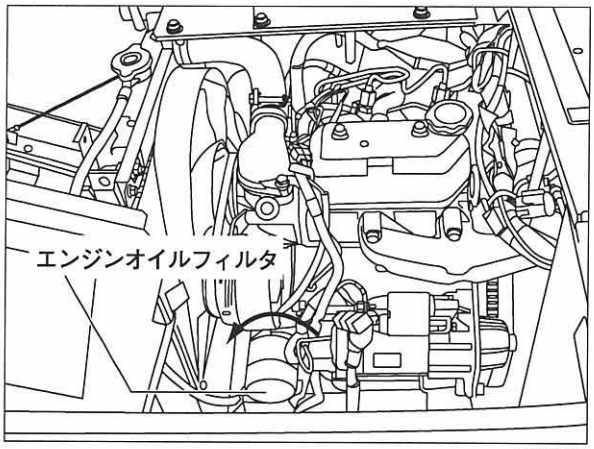
2 専用工具を使ってオイルフィルタを矢印方向に回して外します。

3 新しいフィルタと交換するとき、フィルタのゴムシール部にオイルを薄くぬり、元のように締め付けます。

4 エンジンカバーを閉めます。

補 足

- **取り外し、取り付けかたや専用工具については、お買い上げ先にご相談ください。**



HVB-0151

11.6.3 転輪・アイドルローラのグリースアップ

シーズン終了時、格納時には必ずグリースアップしてください。

■注入のしかた

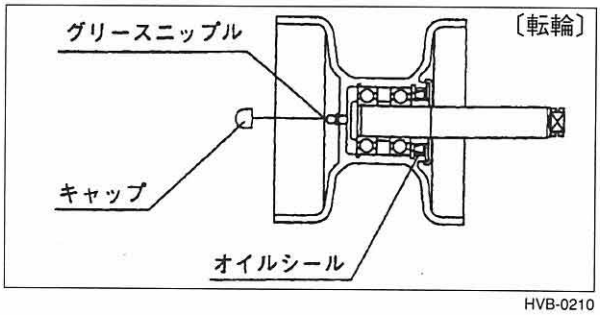
1 キャップを外して、グリースガンでグリースを注入してください。
(使用グリース：リチウムグリス#2)

2 裏側のオイルシールからグリースがわき出るまで封入します。

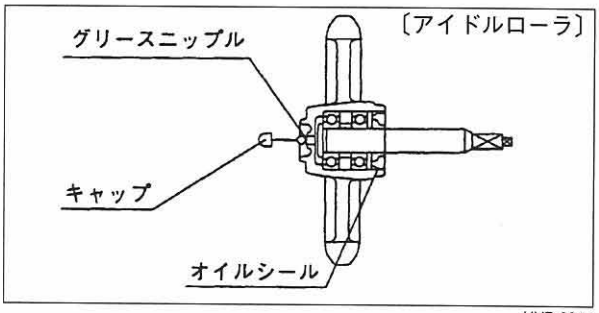
3 キャップを取り付けます。

補 足

- **輪転が泥につかる湿田作業をしたときも、グリースアップをしてください。**



HVB-0210



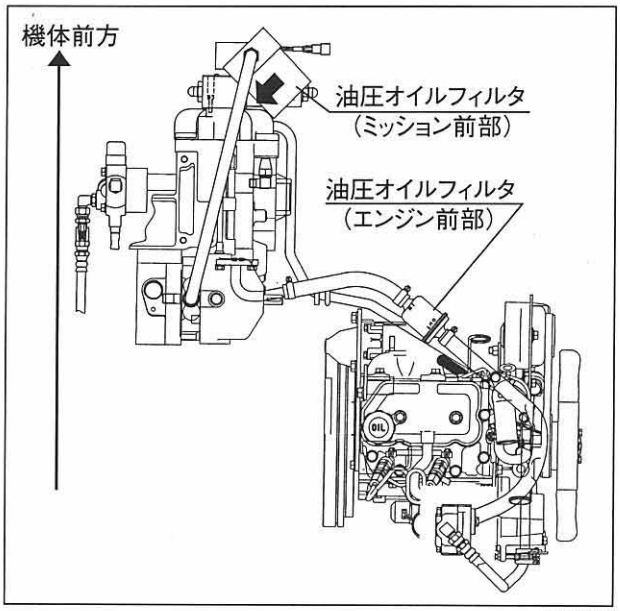
HVB-0211

11.6.4 油圧オイルフィルタの交換

⚠注意

交換後エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけ油圧オイルが減ります。規定量だけ油圧オイルを補給してください。
オイルの種類、検油のしかたは104,105ページを参照してください。

油圧オイルフィルタは、1回目50時間、2回目からは100時間ごとに交換します。



HVB-0386

■交換のしかた（エンジン前部）

1 バンドをゆるめてオイルフィルタを外します。

2 新しいフィルタと交換し、フィルタのゴムシール部にオイルを薄くぬり、元のように締め付けます。

3 オイルフィルタをバンドで締め付けます。

■交換のしかた（ミッション前部）

1 オイルフィルタを矢印方向にねじって外します。（反時計まわり）

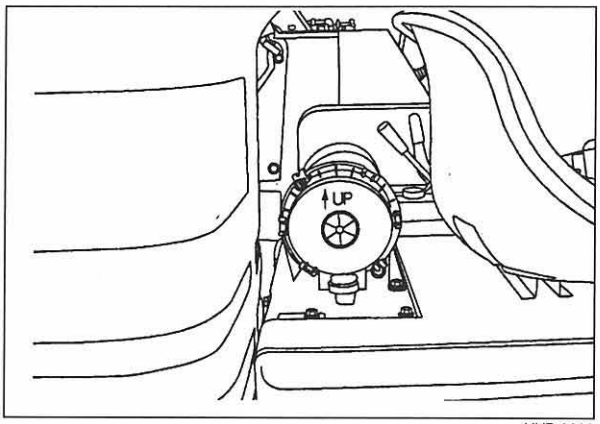
2 新しいフィルタと交換するとき、フィルタのゴムシール部にオイルを薄く塗り、元のように締め付けます。

11.6.5 エアクリーナの清掃と交換

注意

エレメントのホコリ溜りは、エンジン馬力低下の原因となります。ホコリが多い刈取作業時にはこまめに清掃してください。
エレメントを装着するまえにエアクリーナ本体・カバー内側の汚れをきれいに拭きとってください。
カバーの「↑UP」を上にしてください。

エアクリーナは、作業前に清掃し、100時間ごとにエレメントを交換します。



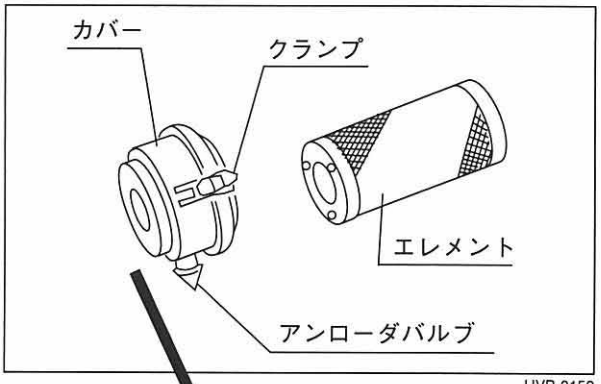
HVB-0388

■清掃・交換のしかた

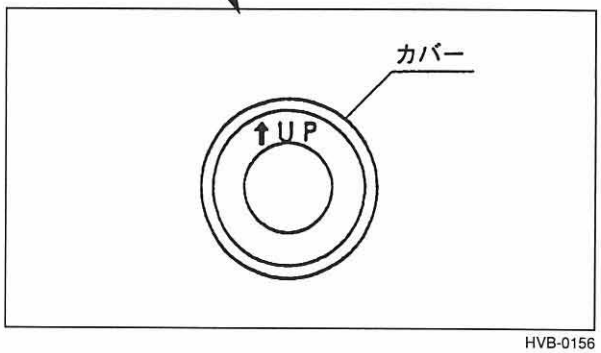
1 カバーを外し、エレメントを抜き取ります。（クランプ 2 ヵ所）

2 エレメントを手で持ち、軽くたたいてホコリを落します。
ホコリがひどい時はエメレント内部より空気を吹きつけます。

3 取り付けは、逆の順序で行います。



HVB-0150



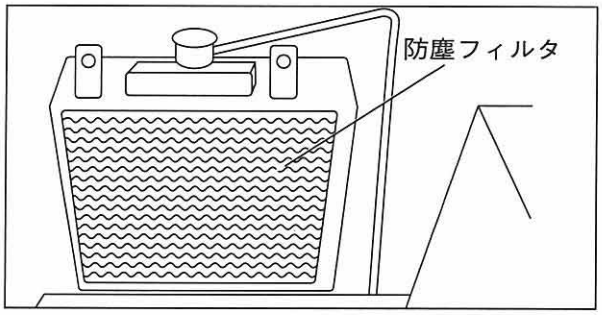
HVB-0156

11.6.6 ラジエータの清掃

1 エンジンカバーを開けます。（☞ 93ページ）

2 ラジエータ前面の防塵フィルタを外し、軽くたたいてホコリを落とします。

3 エンジンカバーを閉めます。



HVB-0021A

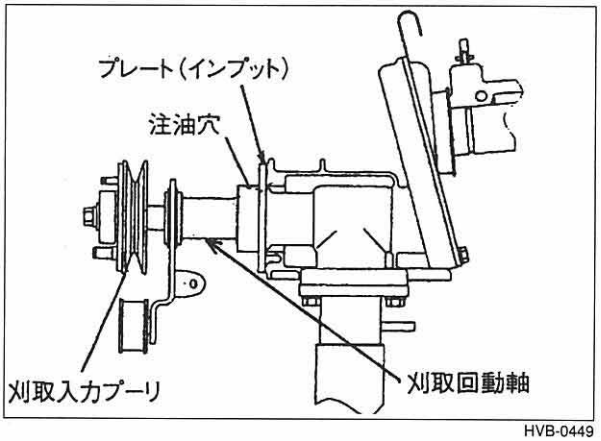
補 足

- **エンジン周辺へのゴミ溜りはオーバーヒートの原因となりますので毎作業ごと清掃します。**

11.6.7 刈取回動軸部の注油

■注油のしかた

シーズン前に、オイル差しで、プレート（インプット）の注油穴に注油します。



HVB-0449

11.6.8 ホース類の点検と交換

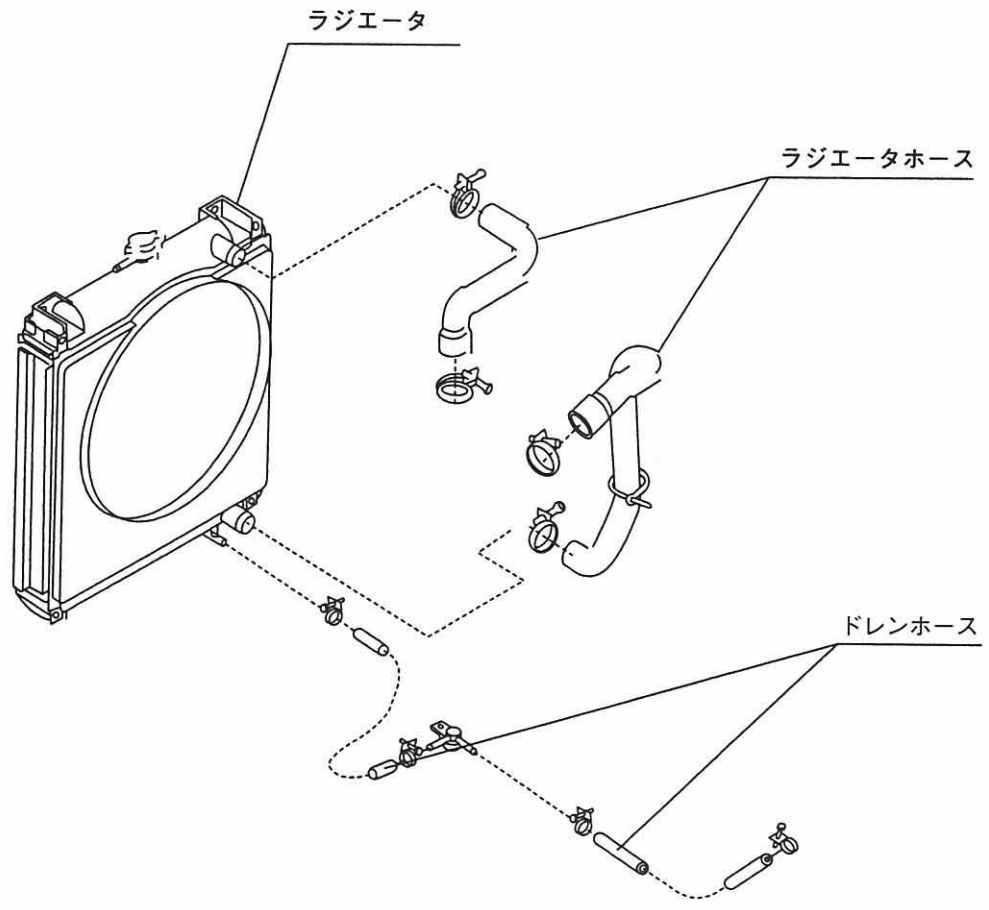
⚠危険

シーズン前には、締付バンドのゆるみ、ホースの傷を必ず点検し、2年ごとにお買い上げ先で交換してください。
燃料ホース、ラジエータホース等のゴムホースは使わなくても劣化します。
※ 爆発や火災などを引き起こす原因となります。

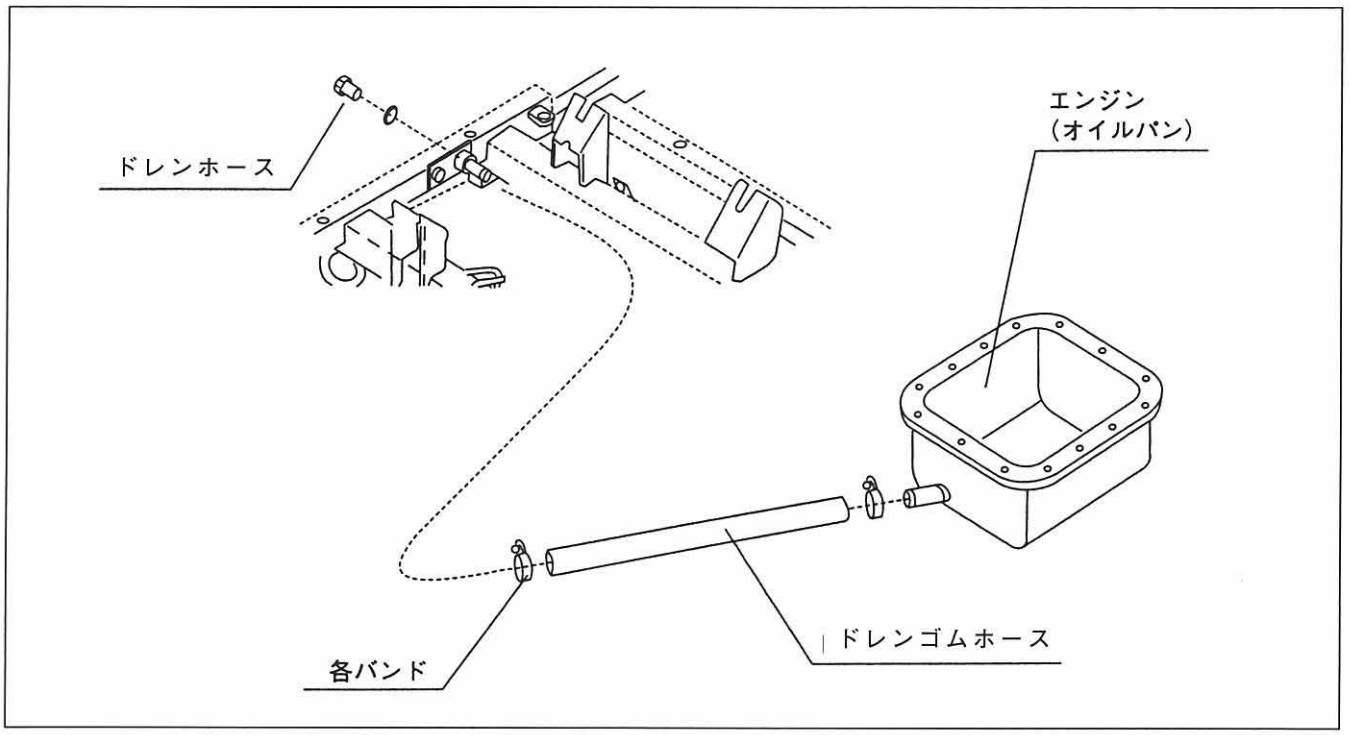
運転中にラジエータホースが破損すると熱湯が吹き出します。
※ やけどなどの原因となります。

注意

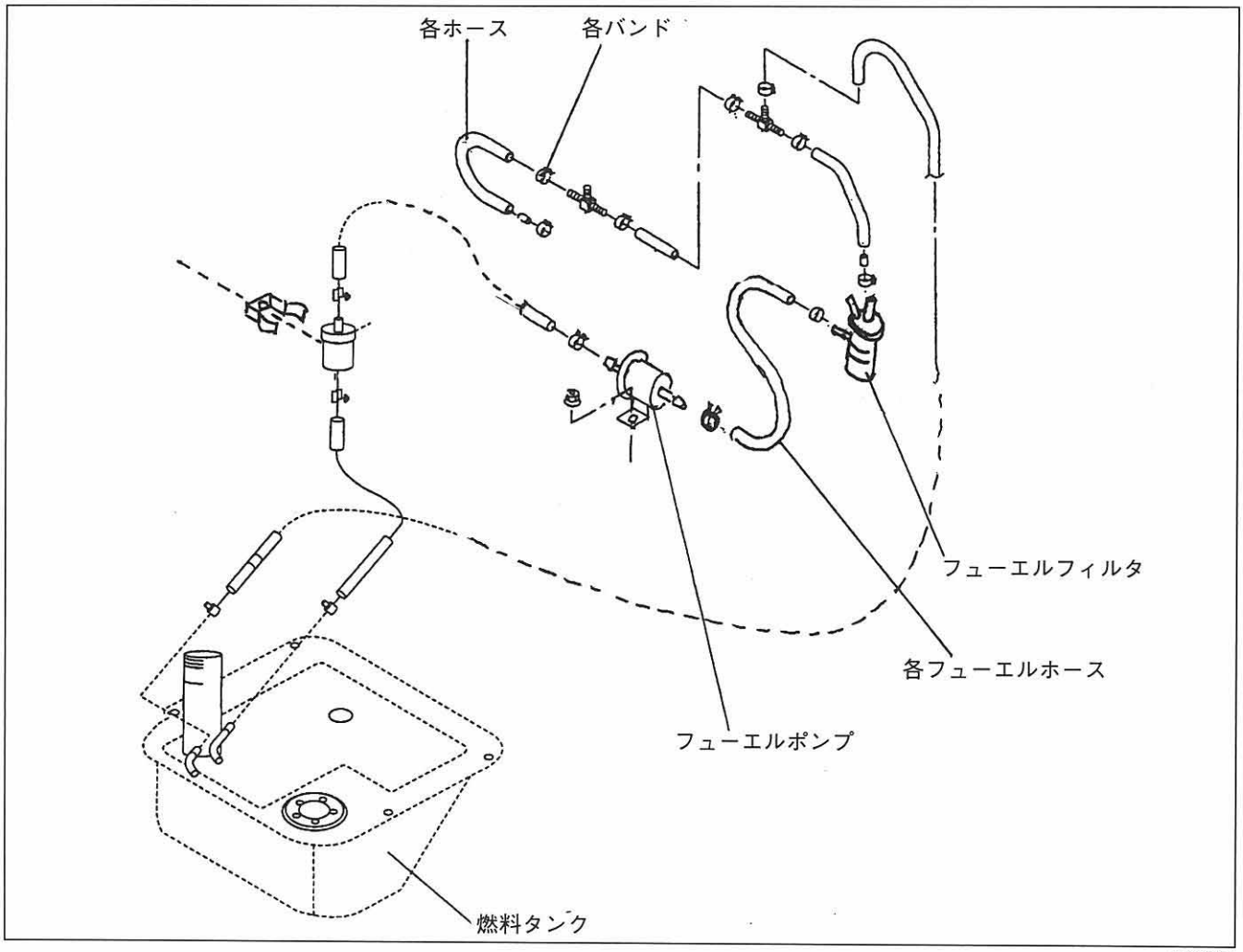
燃料ホースを交換する場合は、ホース内を軽油で洗ってから組み付けしてください。



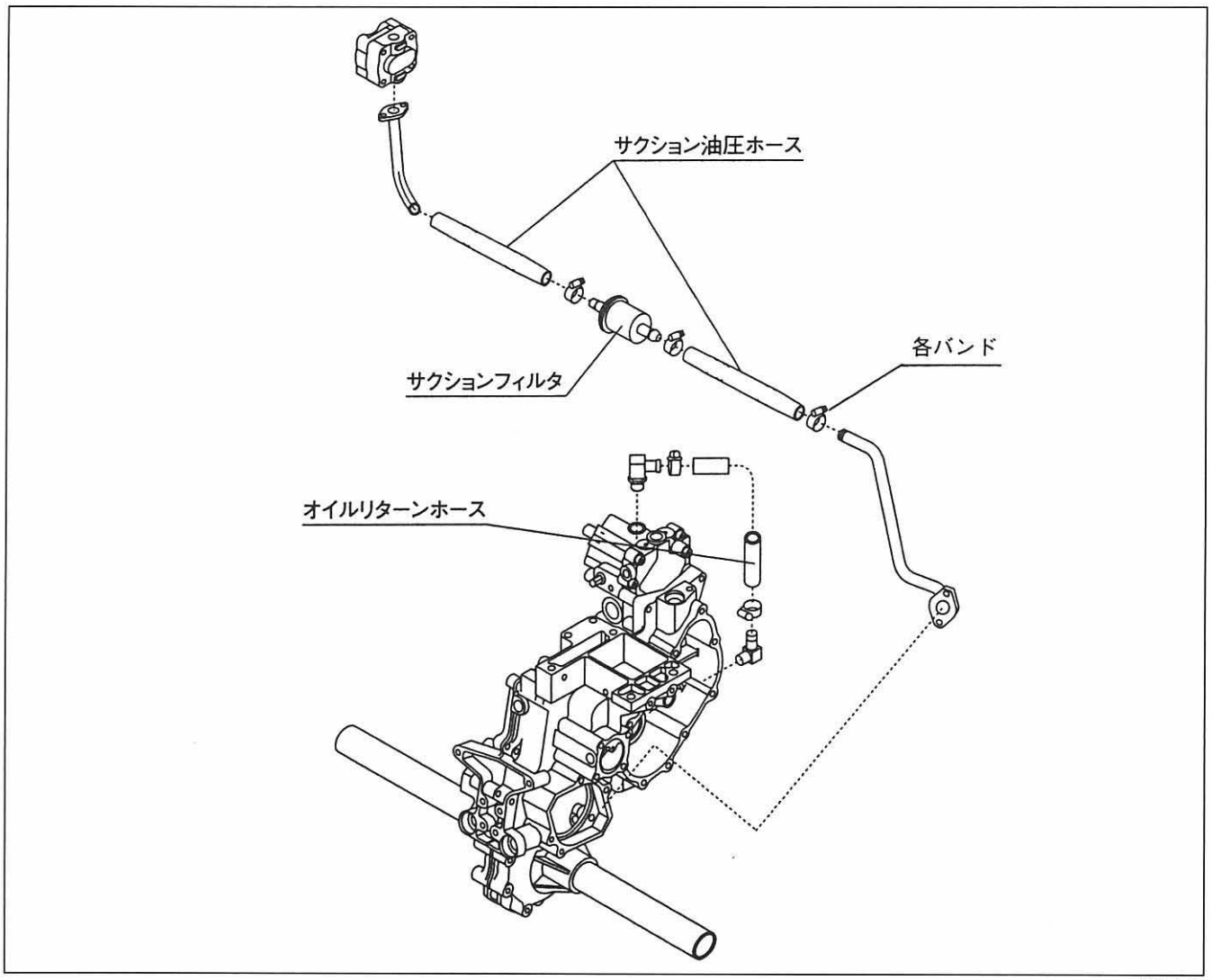
HVB-0157



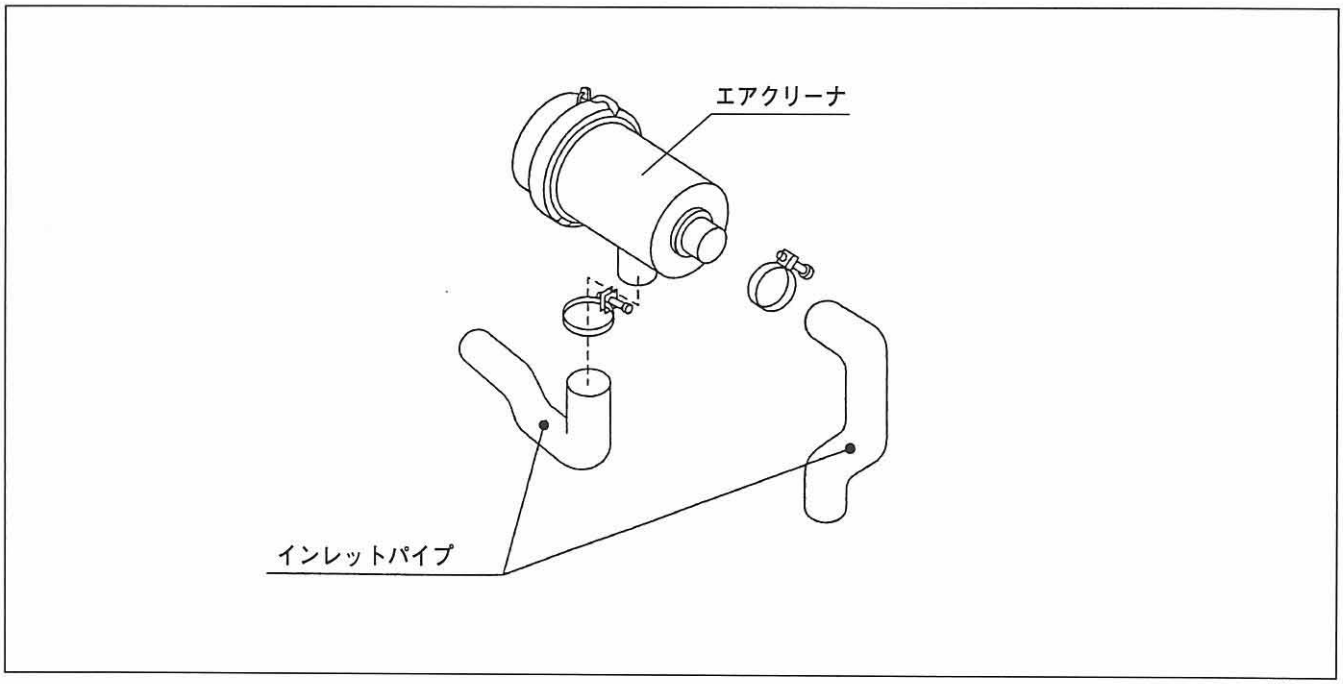
HVB-0158



HVB-0159



HVB-0160



HVB-0161

11.6.9 バッテリの点検と交換

⚠危険

バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。バッテリ液は希硫酸（劇薬）です
※ 万一体や服についた場合は、すぐ多量の水で洗ってください。

バツテリを取り外す時は必ずマイナスコードから外してください。
※ ショートによる火災の原因となります。

バツテリを取り付ける時は、プラスコード、マイナスコードを確認して間違わないようにし、必ずプラスコードから取付けてください。
※ ショートによる火災の原因となります。

バッテリの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを抜いてください。
※ 守らないと、電気部品を損傷したり、損傷事故を引き起こす恐れがあります。

バッテリの交換は、指定された容量のバッテリを使用してください。
バッテリ44B19L（32Ah）
※ 守らないと、ショートして、やけどや火災の原因になります。

充電や使用は通風のよいところで行い、火気を近づけないでください。
※ 引火爆発のおそれがあります。

ハイドロメータの色が透明のとき、補充電をしてエンジンを始動させないでください。
※ エンジン始動時にバッテリ内に火花が出て、バッテリ容器内のガスに引火し、破裂（爆発）の原因になります。

⚠警告

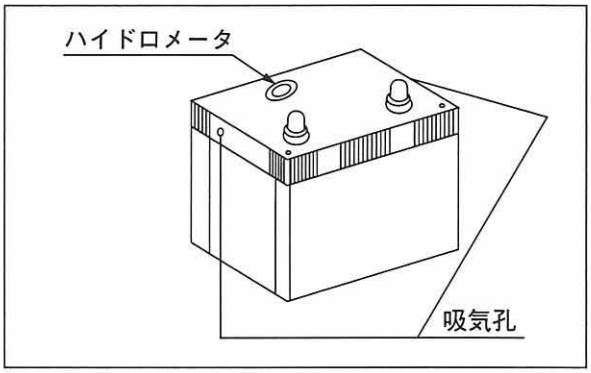
バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。
※ エンジン始動時にバッテリ内に火花が出て、バッテリ容器内のガスに引火し、破裂（爆発）の原因になります。

■点検のしかた

バッテリの状態をハイドロメータの色で確認します。

補 足

- **ハイドロメータを見るときは、機体が水平になる場所で、真上から見てください。**
- **ハイドロメータの色が、透明または薄い緑のときは、念のため軽くたたいて気泡が付いていないか確かめてから再度見てください。**



HVB-0162

■バッテリの取り扱い

(1) 本機に使用しているバッテリは、補水の必要がないバッテリです。(密閉形では寿命まで補水不要)
(2) 気温が低下すると、バッテリの性能も低下します。冬期は特にバッテリの管理に注意してください。
(3) バッテリは使用しなくても自己放電しますから、ハイドロメータの色が黒色のときは、補充電を行います。
(4) コンバインを長期格納する場合は、バッテリを外し日光の当たらない乾燥した場所に保存してください。どうしてもコンバインに取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（マイナス側）を外します。
(5) 新品のバッテリと交換する場合は必ず指定した型式（44B19L）のバッテリを使用します。

ハイドロメータの色	充電状態	必要処置
緑	正　常	使用可能
黒	放電している	補充電が必要
透　明	液減り	寿命ですので、バッテリを交換してください。

補　足

- **バッテリを廃棄するときは、お買いあげ先または、産業廃棄物処理業者等に相談し、規定にしたがって処理してください。**

■補充電について

(1) エンジンが始動しにくくなったり、ライトが暗くなってきた時は、補充電をしてください。
(2) 急速充電はしないでください。
(3) 長期間運転しない場合は、夏期2カ月、冬期3カ月ごとに、補充電をしてください。

11.6.10　配線類、バッテリコードの点検

⚠危険

配線類及び、バッテリコードの被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良がないか点検してください。
※　ろう電やショート（短絡）は火災を引き起こす原因となります。

配線類、バッテリ及びエンジン周辺部のワラくず、ゴミ等は取りのぞいてください。
※　怠ると火災の原因となります。

1年に1回、お買い上げ先での定期点検を受けてください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

配線類やバッテリコードはネズミのかじり等により損傷したり自然に劣化する事があります。
固定部や接続部のゆるみ、配線コードの傷を点検します。

11.6.11 ヒューズの点検と交換

⚠注 意

ヒューズを交換する場合は、必ずメインスイッチを「切」にしてください。
ヒューズを交換しても、すぐ切れる場合は、銀紙や針金などで代用せず、お買い上げ先で点検、修理してください。

ヒューズは、シーズン前に点検してください。

■点検のしかた

1 ヒューズボックスは運転席前にあります。

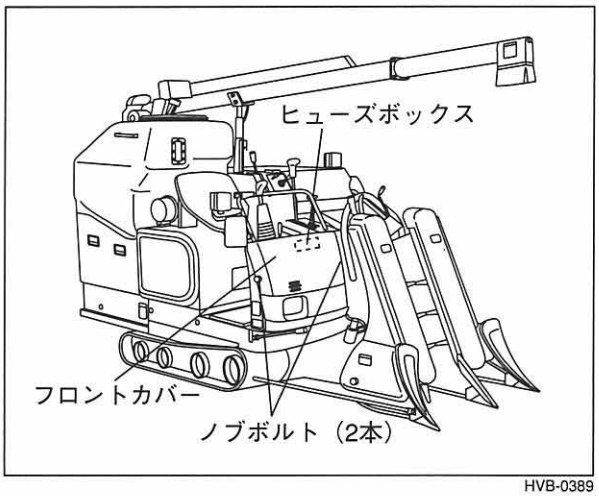
2 フロントカバーを外します。（ノブボルト2本）

3 ヒューズボックスフタを開けます。

4 各ヒューズが切れていないかどうかを確認します。

5 ヒューズが切れている場合は、表示アンペア数の等しいヒューズに交換します。

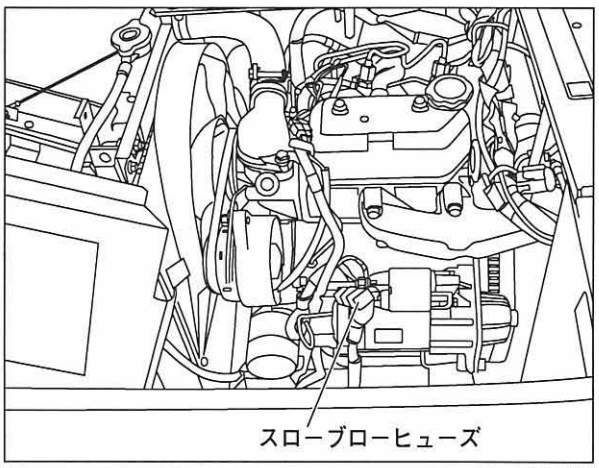
6 ヒューズボックスフタとフロントカバーを取付けます。



HVB-0389

■スローブローヒューズ

スローブローヒューズはハーネスに1個入っています。スローブローヒューズは、配線を保護するための部品で、切れるとすべての回路へ電流が流れません。
必ず切れた原因を調べて純正部品のスローブローヒューズと交換します。



HVB-0164

11.6.12 クローラの点検と調整

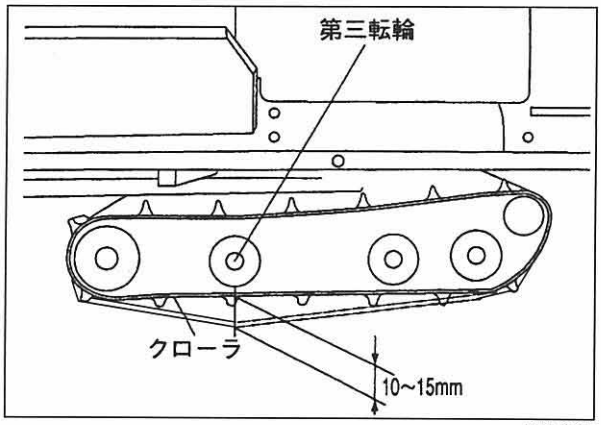
⚠ 警告

ジャッキアップは地面が硬く、平たんで水平な場所で作業してください。
※ 傷害事故を引き起こす原因となります。

ジャッキを架ける所は滑らないように注意してください。又、機体下側には体を入れないでください。
※ 傷害事故を引き起こす原因となります。

ジャッキは揚力1ton以上の物を使用してください。
※ 傷害事故や機械の損傷の原因となります。

クローラの張りは、シーズン前および200時間ごとに点検・調整してください。

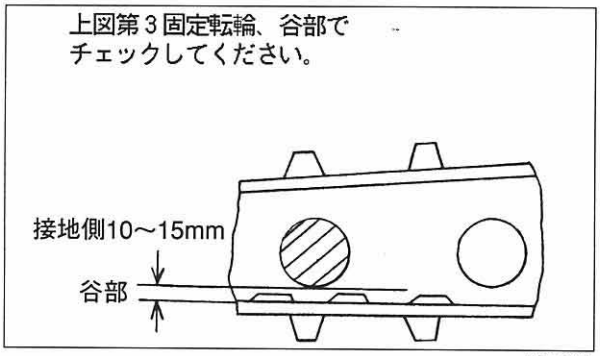


HVB-0165

■点検のしかた

1 機体を前進させ、クローラの接地側をゆるみ状態にします。

2 左右1箇所ずつ、サイドフレーム後部をジャッキアップし、機体を浮かせたとき、第三転輪で転輪とクローラのスキマが10～15mmになるように調整します。



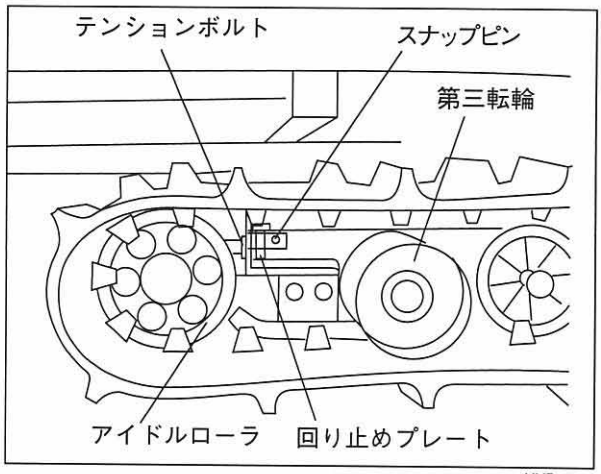
HVB-0166

■点検のしかた

1 スナップピンと回り止めプレートを外し、ジャッキアップします。

2 テンションボルトを回し、転輪とクローラのスキマを規定量に調節します。

3 ジャッキアップを解除し、機体を降ろして回り止めプレートとピンを取付けます。



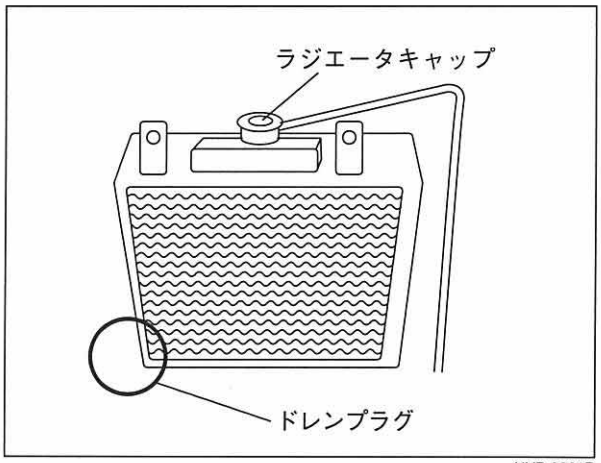
HVB-0167

11.6.13 冷却水の点検と交換

⚠警告

ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。
運転停止後よく冷えてから注意しながら開けてください。
※ 熱湯が噴き出してやけどをするおそれがあります。

冷却水は、作業前に点検し、シーズン終了後格納時には交換します。



HVB-0021B

冷却水量 3.5L

■冷却水の点検のしかた

1. エンジンカバーを開けます。(☞ 93ページ)
2. ラジエータキャップを外して冷却水があるか確認します。
3. 冷却水が少ないときは、給水口からあふれるまで補充します。
4. 点検、補充が終りましたらエンジンカバーを閉めます。

■冷却水の交換のしかた

1. ラジエータキャップを外した後ドレンを外して、冷却水を完全に抜きます。
2. きれいな水を給水口より入れ、ゴミやサビが出なくなるまで、ラジエータ内部を洗います。
3. ドレンプラグを締め付け、あらかじめ混合した不凍液を給水口からあふれるまで入れます。
4. ラジエータキャップをし、エンジンを5分程度運転後、エンジンを停止し、10分以上たち、よく冷えてから、ふたたびラジエータキャップを開け水位が下がった場合は補充します。
5. 補充が終りましたらラジエータキャップを取付けエンジンカバーを閉めます。

■不凍液について

(1) 工場出荷時には不凍性冷却液（ロングライフクーラント）を注入しておりますので、そのまま作業します。
(2) 冷却水交換時には、新たに不凍性冷却液を入れます。
(3) 不凍液の混合比は気温やメーカにより異なりますので、不凍液メーカの説明書に従います。

11.6.14 刈刃の点検と調整

⚠注 意

必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 機体が動き出し、衝突事故などを引き起こす原因となります。

刈取部を上げて点検・調整するときは、必ず刈取ロックし（☞ 60ページ）、さらに刈取部の下にスタンド等の台を置き、状態を確認して行ってください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

刈刃で手を切らないよう、手袋をして作業してください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

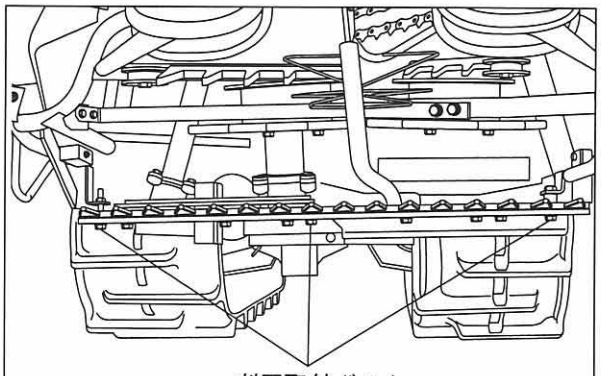
刈刃を左右に動かすときは、刃部にふれないでください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

2人で作業してください。
※ 機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

刈刃は、シーズン前および100時間ごとに点検、さらに200時間ごとに交換してください。

■外しかた

刈取部を上げ､左右及び中央の刈刃取付ボルトを外し、刈刃を外します。（☞ 60ページ）



刈刃取付ボルト

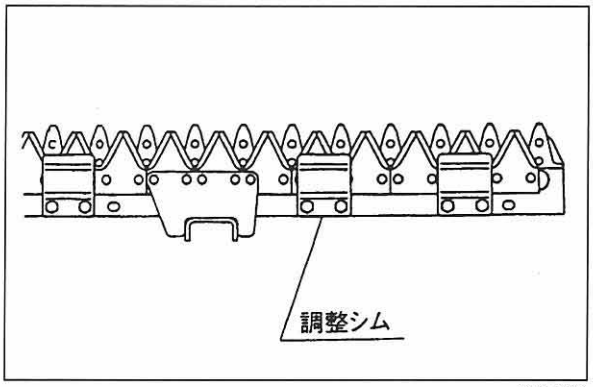
HVB-0334

■点検・調整のしかた

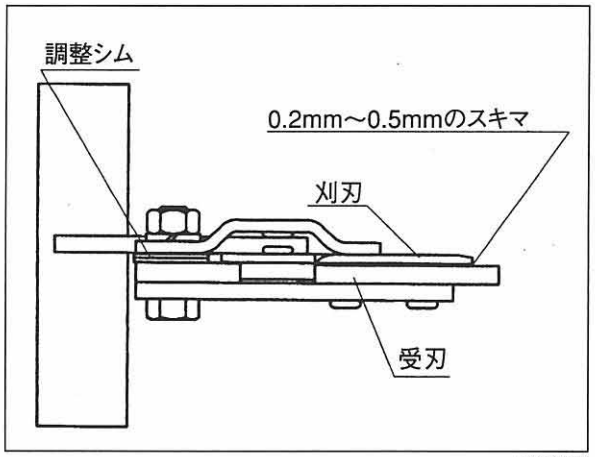
調整シム（4カ所）にて刈刃と受刃のスキマが0.2～0.5mmになるよう調整します。

補　足

- **調整後刈刃を手で動かし作動が重くないことを確認します。**
- **刈刃には十分注油してください。**



HVB-0391



HVB-0169

■取り付けかた

外すのと逆の手順で組み付けます。

11.6.15 脱穀切刃の点検と交換

⚠警告

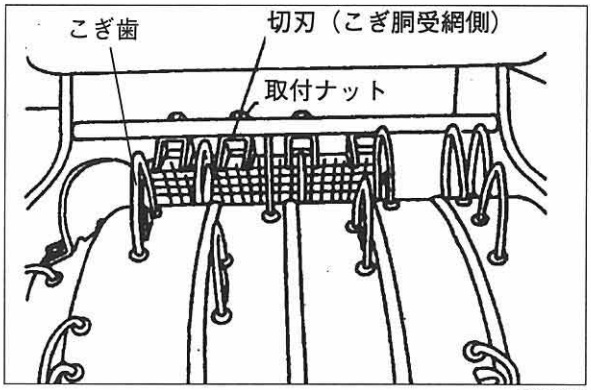
切刃で手を切らないよう、手袋をして作業してください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

刃部に手をかけないでください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

注意

取付け方向をまちがえると、こぎ胴・こぎ歯が変形する場合があります。

脱穀切刃はシーズン前に点検し、200時間ごとに交換してください。

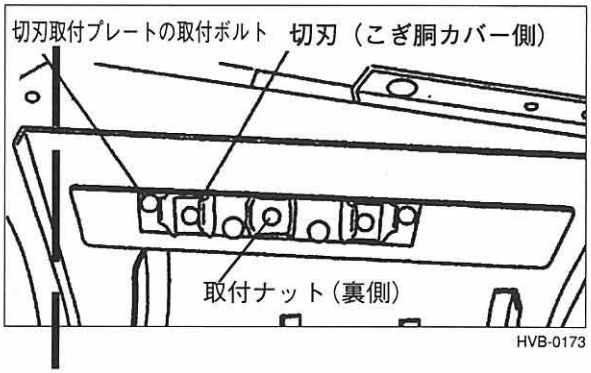


HVB-0172

■脱穀切刃の交換のしかた

（こぎ胴受網側）

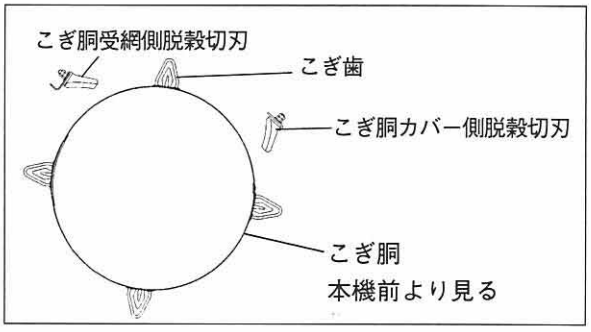
1. こぎ胴カバーを開けます。（☞ 97ページ）
2. 取付ナットを外し、切刃を取り外します。
3. 刃面が下側になるように取り付け、取付ナットを確実に締め付けます。
4. こぎ胴カバーを閉じます。



HVB-0173

（こぎ胴カバー側）

1. こぎ胴カバーを開けます。
2. 切刃取付プレートを切刃が付いたまま外します。（ボルト4本）
3. 取付ナットを外し、切刃を取り外します。
4. 切刃を交換した後、分解した逆の順で組み付けます。
   切刃は刃面が下側になるように取り付けます。
5. こぎ胴カバーを閉じます。



HVB-0173

11.6.16 伸縮ラセンの点検と清掃（GZ型）

⚠警告

必ず平たんな場所でエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いて行ってください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

注意

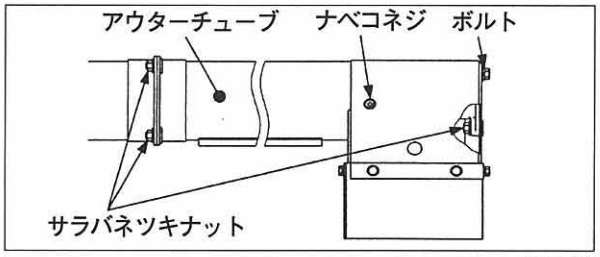
アウターチューブを外すときや伸縮ラセンを動かすときは、駆動シャフトが曲らないように注意してください。
※ 機体部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

■調整のしかた

オーガの伸縮速度が遅くなったとき、駆動シャフトの清掃を行ってください。
（オーガが水平時の最短状態から最長状態までの標準時間：9～13秒）

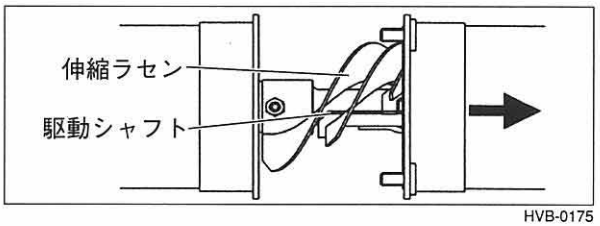
■点検のしかた

1 コンバインを水平な場所に設置し、オーガを自動張出で張出して、最も縮めて水平まで下げた状態にします。



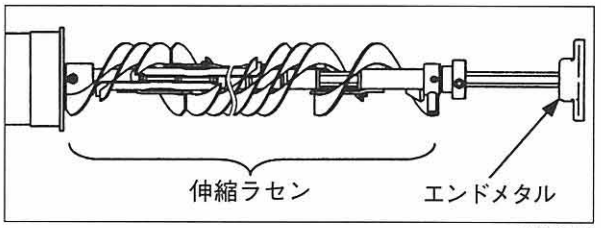
HVB-0174

2 サラバネツキナット5個、ボルト1本、ナベコネジ2本を外し、アウターチューブを前方へ抜きます。



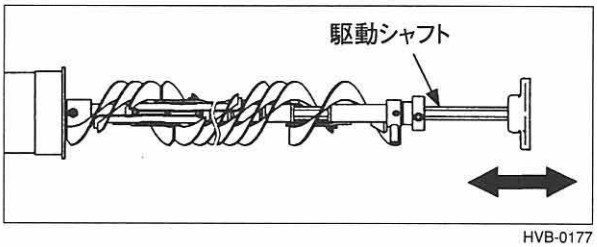
HVB-0175

3 エンドメタルを持って、伸縮ラセンを前方へ50cmほど引き出します。



HVB-0176

4 伸縮ラセンを動かしながら、エアーガン等で、伸縮ラセン・駆動シャフトに付着したホコリ・ゴミを取り除きます。

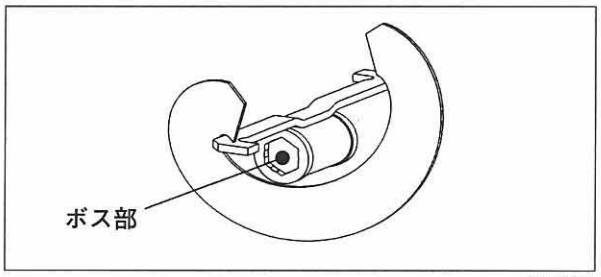


HVB-0177

5 エンドメタルを持って何度か伸縮ラセンを伸縮させます。まだ、ホコリが残っているならば、取り除きます。

6 伸縮ラセンを一番縮めた状態にしてから、外したときと逆の手順で、アウターチューブを取り付けます。

※上記を実施しても伸縮速度が遅いときは、伸縮ラセンを分解し、ラセンのボス部内部に貯まったホコリを除去してください。（お買い上げ先に整備の依頼をしてください。）



HVB-0178

11.6.17 伸縮ラセンの点検と清掃（G型）

⚠警告

必ず平たんな場所でエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いて行ってください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

注意

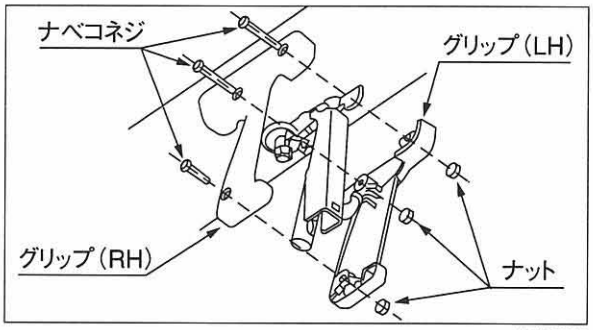
アウターチューブを外すときや伸縮ラセンを動かすときは、駆動シャフトが曲らないように注意してください。
※ 機体部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

排出オーガの伸縮荷重が重くなったとき（解除レバーを奥までしっかり握った状態で5kg以上）は、伸縮ラセン部の清掃を行ってください。

■清掃のしかた

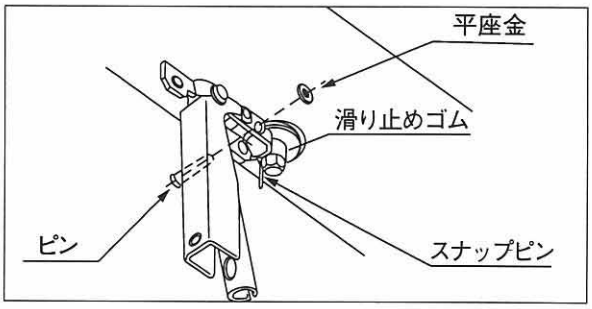
コンバインを水平な場所に設置し、排出オーガを後方へ張出して、5cm程度伸ばした状態で水平まで下げた状態にします。

1 ナベコネジ3本とナット3個を外し、グリップ（ＲＨ）とグリップ（ＬＨ）を取り外します。



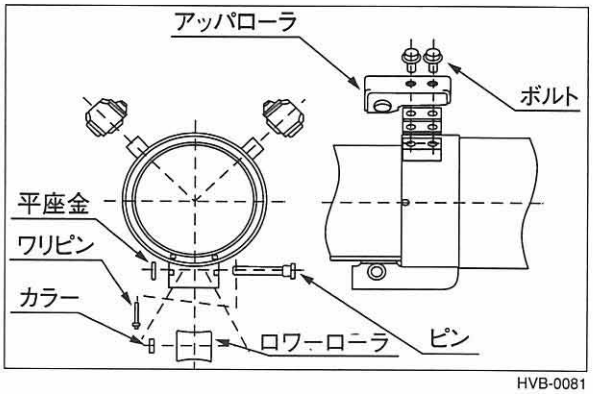
HVB-0079

2 スナップピンを外し、滑り止めゴムを開放します。



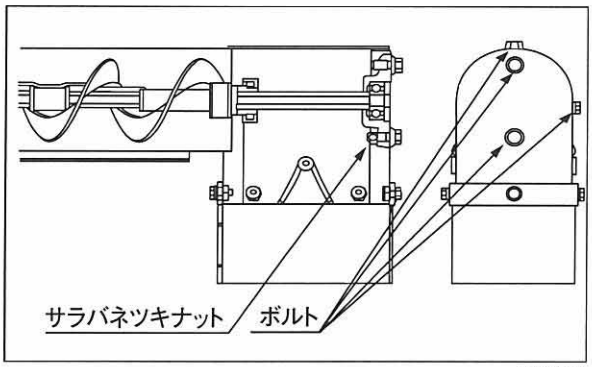
HVB-0080

3 ボルト4本を外してアッパローラを外します。次にワリピンを外してピンを抜き、ロワーローラを外します。



HVB-0081

4 オーガ先端部のボルト4本とサラバネツキナットを外します。

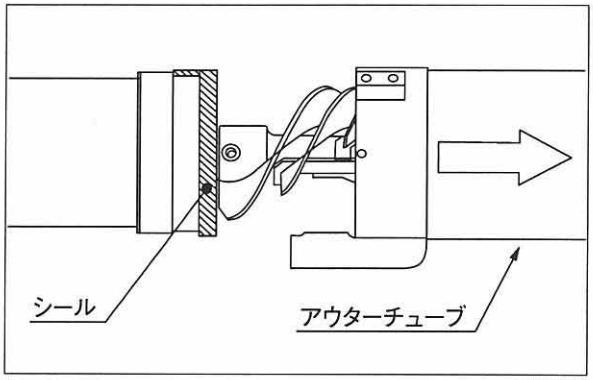


HVB-0082

5 アウターチューブを前方へ抜きます。

補　足

- **取り付け、取り外し時に、シールがめくれない様に注意してください。**

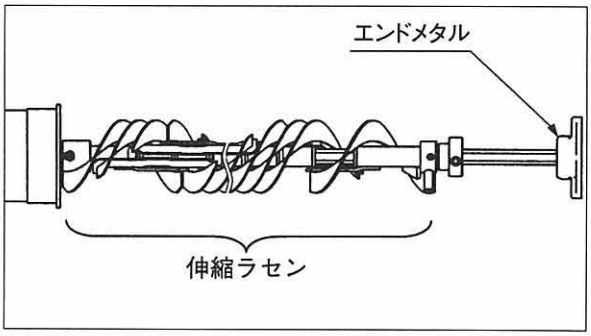


HVB-0183

6 先端のエンドメタルを持って、伸縮ラセンを前方へ約30～40cm引き出します。

7 伸縮ラセンをうごかしながら、伸縮ラセン・駆動シャフトに付着したホコリなどを取り除きます。

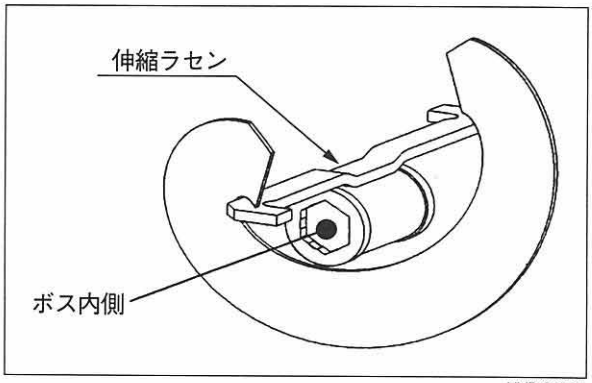
8 エンドメタルを持って、何度か伸縮ラセンを伸縮させます。このとき、伸縮ラセンがスムーズに動くか確認します。また、ホコリなどが残っている場合は取り除きます。



HVB-0176

9 伸縮ラセンを一番縮めた状態にしてから、外したときと逆の手順で組み立てます。

※上記を実施しても伸縮速度が遅いときは、伸縮ラセンを分解し、ラセンのボス部内部に貯まったホコリを除去してください。（お買い上げ先に整備の依頼をしてください。）



HVB-0178A

11.6.18 滑り止めゴムの清掃（G型）

注意

インナーチューブ下側のロッドで挟まれた部分やロワーローラ周辺にグリス等の油分が絶対に付かないように注意してください。

※ 機体部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

■清掃のしかた

1 コンバインを水平な場所に置き、排出オーガを後方へ張出して、オーガを一番縮めた状態で水平まで下げます。

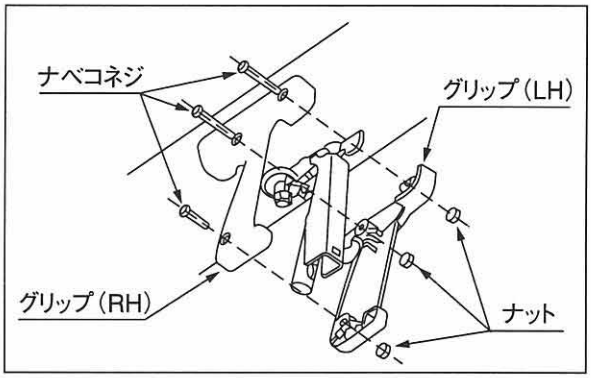
2 ナベコネジ3本とナット3個を外し、グリップ（RH、LH）を取り外します。

3 スナップピンを外し、滑り止めゴムを開放します。

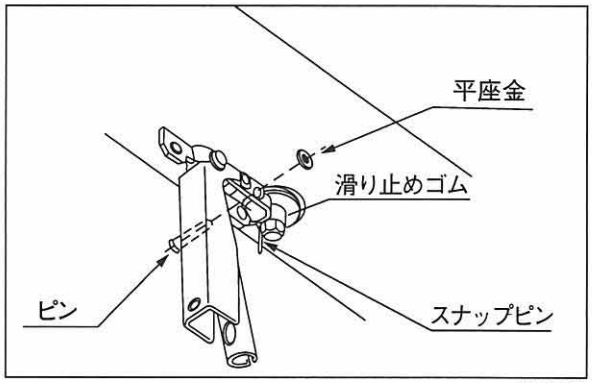
4 滑り止めゴムの表面に付いたゴミやホコリなどを完全に取り除きます。

5 インナーチューブ下側の2本のロッドで挟まれた間のゴミ・ホコリなどを完全に取り除きます。

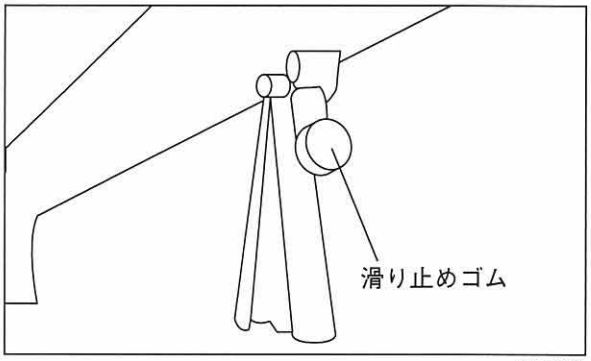
6 外したときと逆の順序で、組み立てます。



HVB-0179



HVB-0180



HVB-0184

11.6.19 カッタ刃の交換

⚠警告

平坦な場所で必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

カッタ刃で手を切らないよう、手袋をして十分注意して作業してください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

1人作業は危険です。2人で作業してください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

直接カッタ刃には触れないでください。
※ 傷害事故などを引き起こす原因となります。

カッタ刃の刃先が摩耗したり欠けていないか、また、ワラの巻き付がないか点検してください。
カッタ刃はシーズン前に点検し、200時間ごとに交換してください。

■交換のしかた

1 カッタを開けます。（☞ 100ページ参照）

2 プーリ、ギヤーなどの伝動部をギヤーのかみ合い部にドライバーをはさみ込んで外します。

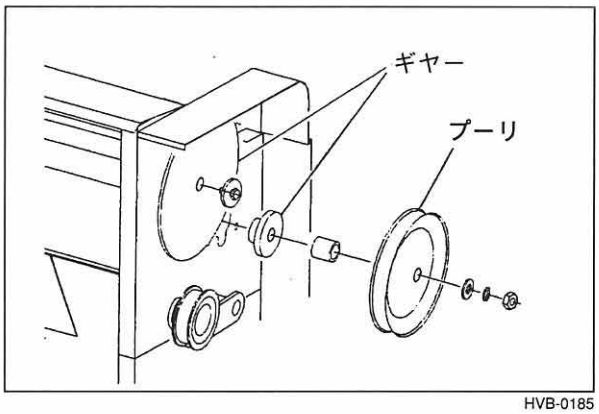
3 カバー（フロント）とカバー（R）を外します。

4 左右のセットボルト各3個をゆるめます。右側の3個を外した後で、軸左端を支えながら左側の3個をはずします。軸両端を2人で支えながら左側を矢印方向に移動させ抜き取ります。

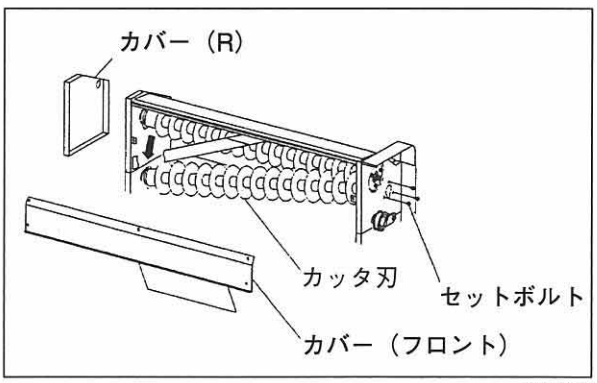
5 ロックナット、締付ナットを取り外し、カッタ刃を交換します。

6 次ページの軸の構成を参照して分解・組立を行います。

7 組み付けは逆の手順で行います。



HVB-0185



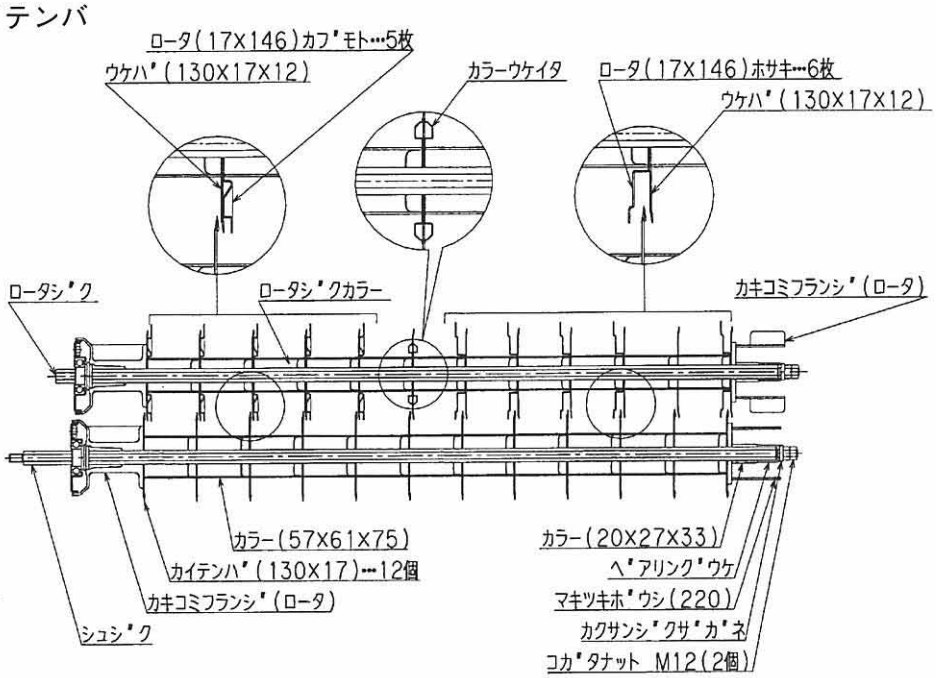
HVB-0186

- 軸の締付トルクは下記の通りです。
  締付ナット：39.2N・m～44.1N・m（400～450kgf・cm）
  ロックナット：68.6N・m～73.6N・m（700～750kgf・cm）
- 規定トルクで締め付けてください。
- お買いあげ先に交換の依頼をしてください。

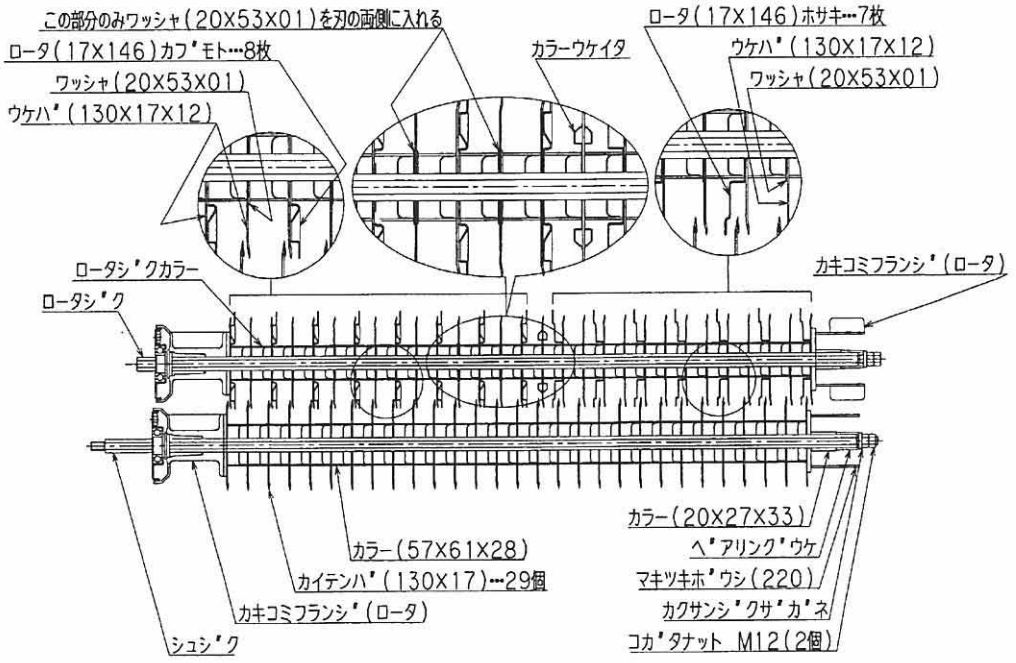
〈切断部の構成〉

カッタ刃＝カイテンバ

C215



CY215



HVB-0187

12. 格納時の手入れ

機械を長持ちさせるため、必ず手入れをしてください。

12.1 日常の格納

12.1.1 清掃について

動力散布機やコンプレッサ等を使い、きれいに清掃します。

⚠警告

清掃する場合は、必ず、平たんな場所エンジンを停止し駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて行ってください。
※　傷害事故などを引き起こす原因となります。

機体カバーは、エンジン、マフラーが冷えてからかけてください。
※　爆発や火災などを引き起こす原因となります。

格納は平たんな場所を選び、コンバインが動かないように車止めしてください。
※　傷害事故などを引き起こす原因となります。

⚠注意

各部脱着、開閉を行うときは本機を路面等平たんな場所に止めて行ってください。
※　傷害事故などを引き起こす原因となります。

取外した各部のカバー類は、忘れずに取り付けてください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

空運転を行うときは、カバー類を取り付けてください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

12.2 脱穀部の清掃のしかた

- 異なる品種の混合、稲・麦の混合を避けたい時や、シーズン終了後長期格納するときは脱穀部内の穀粒を取り除きます。
- コンプレッサーや動力散布機などを使ってきれいに清掃します。
- 各掃除口からエアーを吹きかけ、残粒、ワラ屑を上側から下側に順序よく取り除きます。

12.2.1 こぎ胴受網の抜きかた

注意

こぎ胴受網を組付けるときは、フックを確実にクリップに引掛けてください。
※ 機体部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

1 こぎ胴カバー・フィードチェンを開けます。
(☞ 97、99ページ)

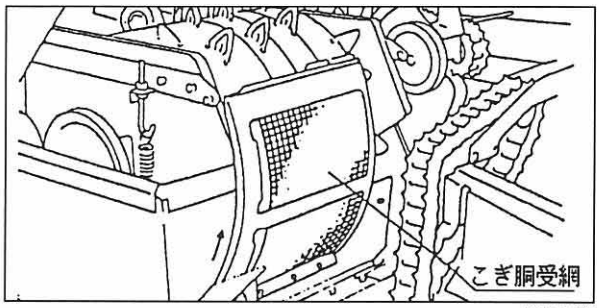
2 網押さえを外します。

3 こぎ胴受網をこぎ胴下側より取り出します。

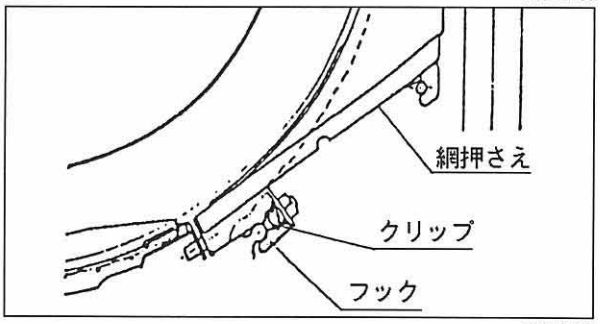
補 足

- **網押さえを取付ける場合は、前後4ヵ所のピンにフックを掛けてクリップは確実にピンに引掛けてください。**

4 組み付けは、逆の手順で行います。



HVB-0188



HVB-0189

12.2.2 揺動流板の掃除のしかた

1 こぎ胴カバー・フィードチェンを開けます。
(☞ 97、99ページ)

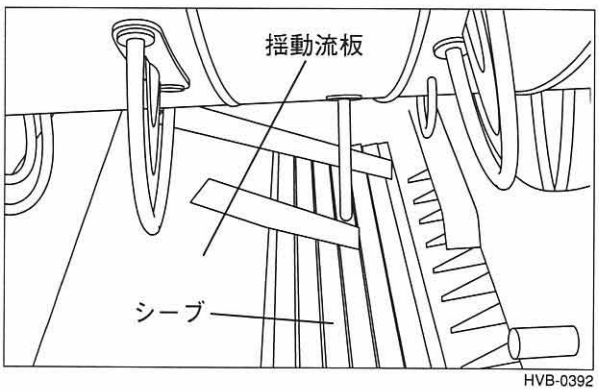
2 こぎ胴受網を抜きます。

3 揺動流板に手を入れて、ワラくずを取りのぞきます。

4 組み付けは、逆の手順で行います。

補 足

- **湿った作物を刈って、シーブが詰まったときは、シーブに詰まったワラくずを取りのぞきます。**

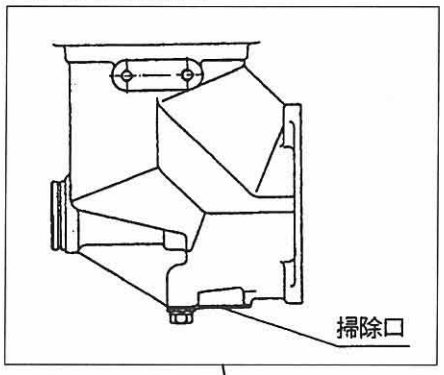


HVB-0392

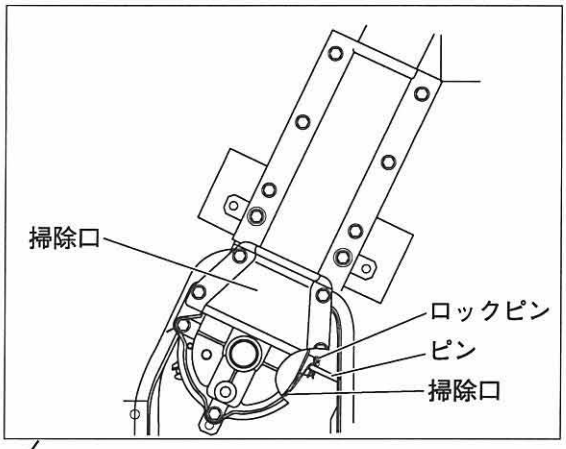
12.2.3 掃除口

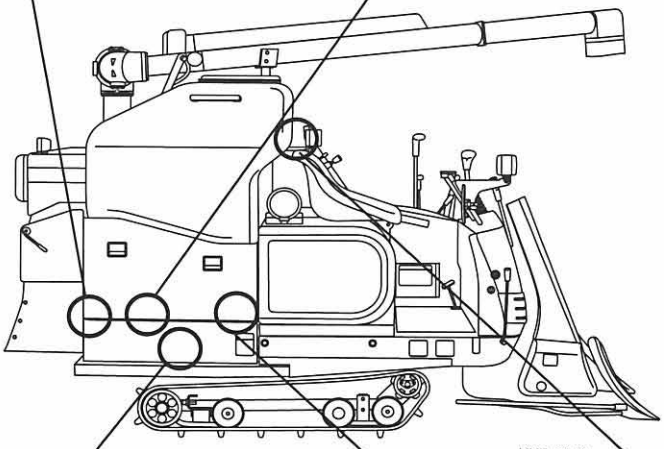
各掃除口を開け、清掃します。
清掃後は各掃除口を確実に閉めてください。

■メタル掃除口

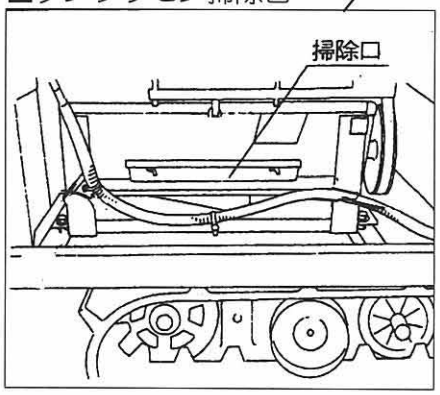


■2番揚穀筒掃除口

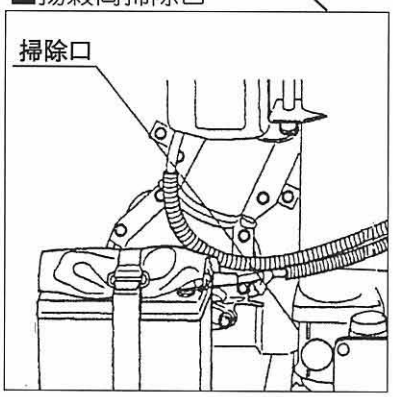


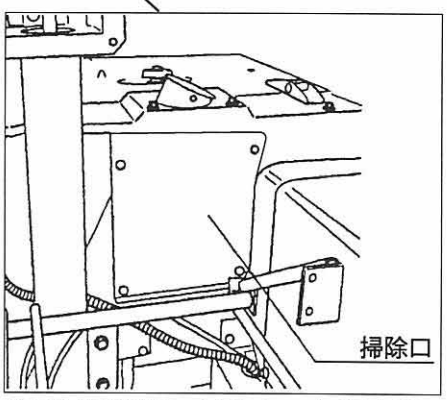


■タンクラセン掃除口



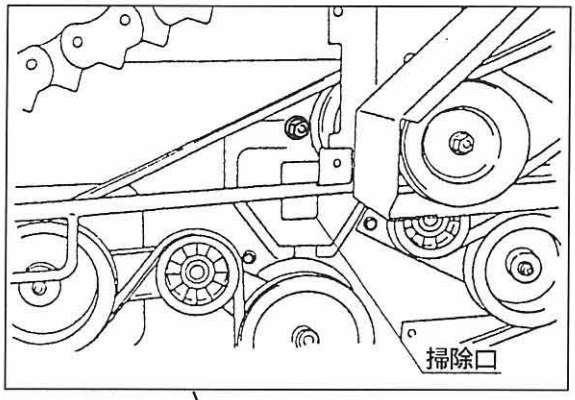
■揚穀筒掃除口



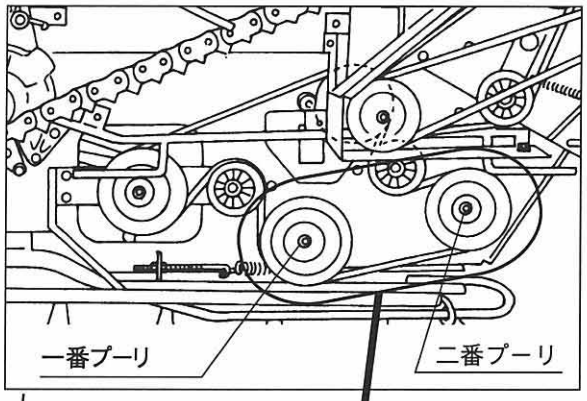


2番揚穀筒出口に詰まった場合は、
この掃除口を開けて掃除します。

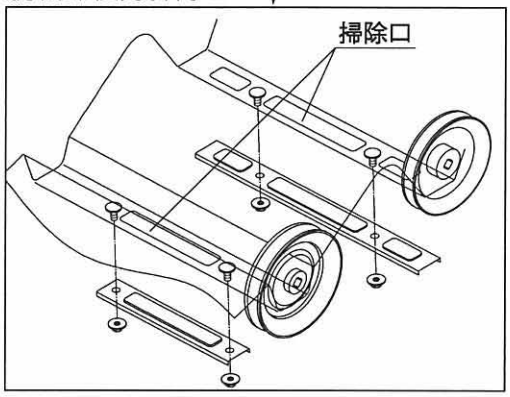
側板（左）掃除口

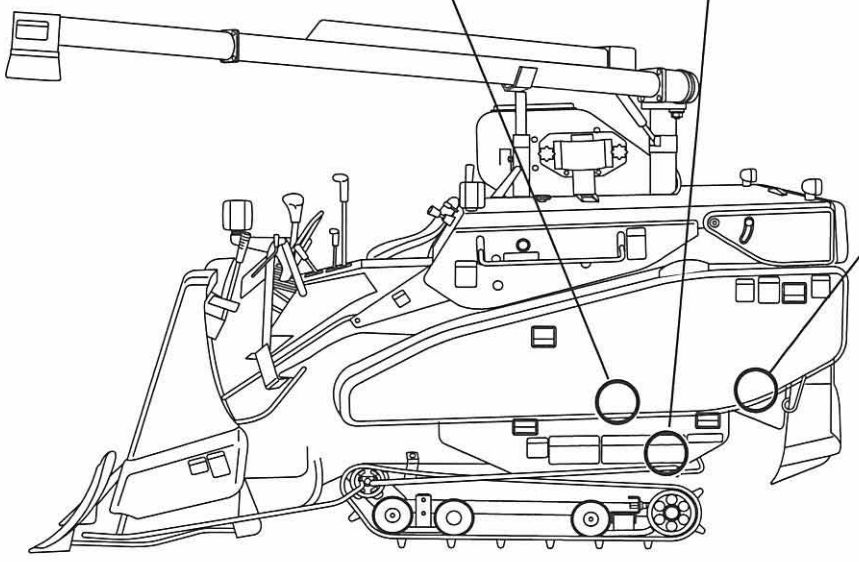


1番ラセン・2番ラセン掃除口

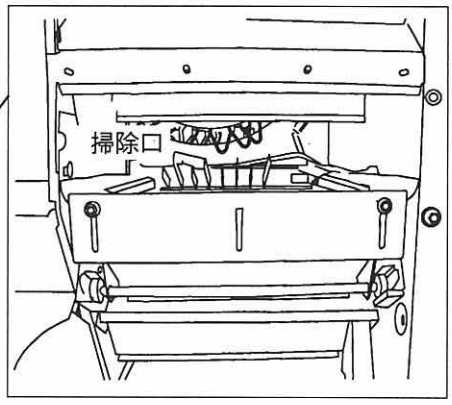


脱穀部後方掃除口





脱穀部後方掃除口



HVB-0394

12.3 長期の格納

各部についた泥やワラクズを取り除きます。

注意

脱穀内部、エンジン部、電装品などには、圧力水が直接かからないように注意してください。
※ 機体部品の破損、変形などを引き起こす原因となります。

12.3.1 エンジン関係の手入れのしかた

(1) 燃料タンクは、満タンにしてタンク内の錆の発生を防ぎます。
(2) アクセルレバーは、必ず「低」側に一杯戻します。
(3) 冷却水は、冬期は完全に抜くか、不凍液を満タンに入れます。

12.3.2 バッテリの保管

(1) バッテリを取りはずし、乾燥した日光の当たらない場所に保管します。
(2) バッテリのハイドロメータが黒色の場合には補充電をします。

12.3.3 長期格納時の注油

下記の箇所に注油します。
(1) 刈取各部のチェンおよび刈刃。(集中注油で注油します。)
(2) 脱穀各部のチェンおよび排ワラチェン。(オイル差しで注油します。)(☞ 53ページ)
(3) その他各レバーの支点部や各ベルトのテンションアーム支点部にも注油します。
(ベルトに油がかからないよう注意してください。)

12.3.4 長期格納時のグリースアップ

次の箇所に、グリースガンでグリースアップしてください。（☞ 128ページ）

(1) 転輪
(2) アイドルローラ

12.3.5 格納のしかた

(1) 湿気の少ない風通しの良い水平な場所に板をしいて、機械をのせます。
(2) 各レバーは「切」にします。
(3) 作業機切換レバーは「カッタ」位置にします。
(4) ナローガイド（左）を収納します。
(5) 燃料を満タンにします。
(6) バンパを取り付け、刈取部を一杯下げます。
(7) 車止めをかけ、駐車ブレーキレバーを解除します。
(8) メインスイッチを抜きます。
(9) シートを掛けたり、倉庫に格納するときはオーガ受けを格納位置にすると便利です。

13. 不調時の診断と処置

⚠警告

点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてから行ってください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

点検・整備は、広くて平たんな場所で行ってください。
※　傷害事故などを引き起こす原因となります。

点検・整備で取り外したカバー類は、必ず元のとおり取付けてください。
※　機械に巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす原因となります。

現　象	原　因	処　置	参照ページ
エンジンがかからない（セルモータが回らない場合）	ブレーキペダルを踏み込んでますか。	ブレーキペダルを踏み込んでください。	44
	脱穀クラッチレバーは「切」位置になっていますか。	脱穀クラッチレバーを「切」位置にしてください。	29
	バッテリが放電してハイドロメータが黒色または透明に変色していませんか。	黒色の場合は補充電、透明の場合はバッテリ交換する。	135
	バッテリの端子がゆるんでいませんか。	端子を清掃し、締め付けてください。	135
	スローブローヒューズが溶断していませんか。	交換して下さい。	136
エンジンがかからない（セルモータは勢い良く回るが、かからない場合）	燃料はありますか。	燃料を入れエアー抜きをしてください。	39
	燃料系統に水が混入していませんか。	燃料フィルタの水を抜いてください。	127
	ヒューズがきれていませんか。	ヒューズを交換してください。	137
株の引抜きがある	デバイダが株の根元に突込んでいませんか。	マルチステアリングレバーでデバイダの先端を少し上げてください。	61
		デバイダを条間に合わせてください。	61
	作業速度が速すぎませんか。	作物、ほ場の条件に合わせて適正な速度で刈ってください。	67
	刈刃がよく切れますか。	刈刃と受刃のスキマを調整してください。	140

現　象	原　因	処　置	参照ページ
作物を搬送しない・搬送姿勢が乱れる	泥や草などが通路にたまっていませんか。	取り除いてください。	—
	株が抜かれていませんか。	デバイダが地面にささらないように刈ってください。	61
	刈取ベルトがすべっていませんか。	刈取クラッチワイヤを張るか、交換してください。	111
	こぎ深さが深すぎか浅すぎになっていませんか。	こぎ深さ指示マークに正しく合わせてください。	58
刈あとが悪い	刈刃部に泥や草がたまっていませんか。	取り除いてください。	140
	刈刃が浮き上がっていませんか。	調整してください。	140
	刈刃がすり減っていませんか。	刈刃を交換してください。	140
	刈刃が折れていませんか。	刈刃を交換してください。	140
選別が悪い （青葉や稈切れが多い）	エンジンの回転が低すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	66
	トウミの風胴にワラ屑や籾がたまっていませんか。	ベルトカバーを開けて取り除いてください。	—
	吸引ファンの回転が低くないですか。	吸引ファンの回転を上げてください。	57
	作物が濡れていませんか。	乾いてから刈ってください。	—
	フィン調節レバーの位置は適正ですか。	作物条件に合わせてフィン調節レバーを調節してください。	55
	こぎ深さが深すぎませんか。	こぎ深さ指示マークに正しく合わせてください。	58
	レールガイドがフィードチェンから浮き上がっていませんか。	フィードチェンに接するまで下げてください。	—

13. 不調時の診断と処置

現　象	原　因	処　置	参照ページ
脱プ粒が多い	エンジンの回転が高すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	66
	フィン調節レバーの位置は適正ですか。	フィン調節レバーを「開く」側に動かしてください。	55
	吸引ファンの回転が高くないですか。	吸引ファンの回転を下げてください。	57
	籾排出時のエンジン回転数が高すぎませんか。（G型 GZ型）	回転計の「作業」ゾーン下限で使用してください。	66
	グレンタンクのシャッタの開度は適正ですか。（G型 GZ型）	グレンタンクのシャッタの開度を狭める方向に調節してください。	50
枝梗付着粒が多い	エンジンの回転が低すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	66
	フィン調節レバーの位置は適正ですか。	フィン調節レバーを「閉じる」側に動かしてください。	55
	排じん調節レバーの位置は適正ですか。	排じん調節レバーの位置を「少なくなる」側に動かしてください。	58
もみの飛散が多い	排じん調節レバーの位置は適正ですか。	排じん調節レバーの位置を「少なくなる」側に動かしてください。	58
	エンジンの回転数が高すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	66
	フィンが詰まっていませんか。	フィンに詰まったワラくずを取りのぞいてください。	151
	フィン調節レバーの位置は適正ですか。	フィン調節レバーを「開く」側に動かしてください。	55
	吸引ファンの回転が高くないですか。	吸引ファンの回転を下げてください。	57
	二番選別調節板の調節は適正ですか。	二番選別調節板を上げてください。	56
	作物が濡れていませんか。	乾いてから刈ってください。	—
こぎ残りが多い	こぎ深さが浅すぎませんか。	こぎ深さ指示マークに正しく合わせてください。	58
	エンジンの回転が低すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	66

現　象	原　因	処　置	参照ページ
こぎ室でゴトゴト音がして能率があがらない	作物が濡れていませんか。	乾いてから刈ってください。	—
	こぎ深さが深すぎませんか。	こぎ深さ指示マークに正しく合わせてください。	58
	排じん調節レバーの位置は適正ですか。	排じん調節レバーの位置を「標準」または「多なくなる」側に動かしてください。	58
	レールガイドがフィードチェンから浮き上がっていませんか。	フィードチェンに接するまで下げてください。	27
	脱穀切刃、こぎ胴の切刃が摩耗していませんか。	切刃を交換してください。	142
	エンジンの回転数が低すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	66
	こぎ胴カバーは完全に閉まっていますか。	こぎ胴カバーを確実に閉めてください。	97
こぎ深さ自動制御装置が正常に作動しない（こぎ深さ自動制御装置が作動しない場合）	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	137
	センサやスイッチが正常に作動していますか。	センサやスイッチを点検してください。	83
こぎ深さ自動制御装置が正常に作動しない（浅すぎ、深すぎになる場合）	株元センサ、穂先センサに草やワラが引っ掛かっていませんか。	取り除いてください。	83
	こぎ深さメインセンサに泥や草がひっかかっていませんか。	取り除いてください。	83
ワラが切れない（カッタ）	カッタ刃が摩耗、損傷していませんか。	カッタ刃を交換してください。	142
	こぎ深さが深すぎ、または浅すぎませんか。	こぎ深さ指示マークに正しく合わせてください。	58
	カッタ刃、ロータにワラが巻きついていませんか。	取り除いてください。	142
	カッタベルトがすべっていませんか。	カッタベルトを張るか、交換してください。	115
警報ブザーがならない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	137
	配線が外れていませんか。	配線類を点検してください。	136

13. 不調時の診断と処置

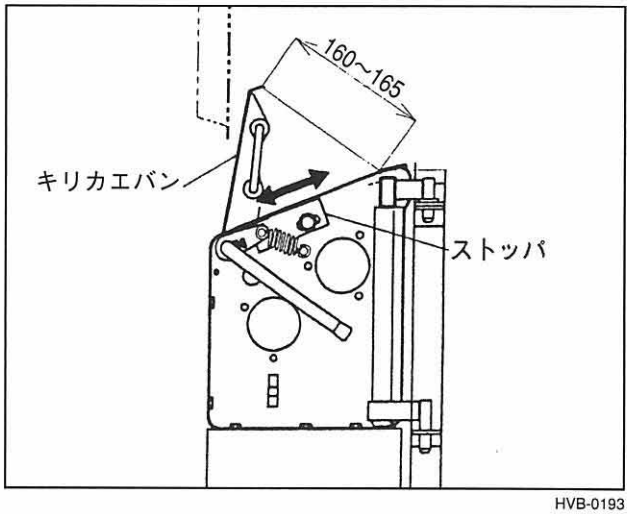
現　象	原　因	処　置	参照ページ
籾排出時に詰まる（G型、GZ型）	グレンタンクベルトがすべっていませんか。	グレンタンクベルトを張るか、交換してください。	114
	グレンタンクカウンタベルトがすべっていませんか。	グレンタンクカウンタベルトを張るか、交換してください。	114
	グレンタンクのシャッタの開度は適正ですか。	グレンタンクのシャッタの開度を狭める方向に調節してください。	114
	エンジンの回転が低すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーン下限で使用してください。	66
排出時間が長い（G型、GZ型）	グレンタンクベルトがすべっていませんか。	グレンタンクベルトを張るか、交換してください。	114
	グレンタンクカウンタベルトがすべっていませんか。	グレンタンクカウンタベルトを張るか、交換してください。	114
	タンク内やオーガ内にワラ屑がたまっていませんか。	取り除いてください。	98,143,145
	エンジンの回転が低すぎませんか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	66
排出オーガが動かない（G型、GZ型）	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	137
	センサやスイッチが正常に作動していますか。	センサやスイッチを点検してください。	85
	配線がはずれていませんか。	ハーネス、端子を点検してください。	136
排出オーガが異常に振動する（G型、GZ型）	エンジンの回転数が合っていますか。	回転計の「作業」ゾーンで使用してください。	66
	グレンタンクベルトが摩耗していませんか。	グレンタンクベルトを張るか、交換してください。	114
	グレンタンクカウンタベルトが摩耗していませんか。	グレンタンクカウンタベルトを張るか、交換してください。	114

13.1 カッタが不調のとき

⚠注意

不調時の点検・調整は、エンジンが停止し回転が確実に止まったことを確認してから、注意して行ってください。

ここを点検して	こう処置します
●ベルトはスリップしていませんか。	→ カッタベルトのテンションの調整をしてください。（☞ 115ページ）
●こぎ深さは適正ですか。	→ こぎ深さ指示マークに穂先が合うように調節してください。（☞ 58ページ）
●キリカエバンの開き高さは適正ですか。	→ キリカエバンが下図の寸法になるように、ストッパを調整してください。
●ワラ通路やカッタ内にワラ溜り、泥溜りはありませんか。	→ ワラ通路やカッタ内を掃除してください。



HVB-0193

●カッタ刃は摩耗していませんか。	→ 交換してください。
●カッタ刃へのワラの巻き付きはありませんか。	→ 切断部を掃除してください。（カッタオープンのしかた；☞ 100ページ）

13.2 バラ落としが不調のとき

ここを点検して	こう処置します
●キリカエバンは完全に閉まっていますか。（キリカエバンとフレームの間にワラ等がはさまっていませんか）	ワラ等を取り除き、切換板を完全に閉めてください。（☞65ページ）
●ワラ通路にワラクズ、草等のゴミはありませんか。	ワラの通路を掃除してください。

14. 付表

14.1 主要諸元

名称			三菱　VMB215		
区分			KC	AKC	YKC
機体寸法	全長	(mm)	2,865		
	全幅	(mm)	1,600		
	全高	(mm)	1,630		
機体質量（重量）		(kg)	790		855
エンジン	型式名		E269		
	種類		水冷4サイクル2気筒立形ディーゼル		
	総排気量	(L {cc})	0.688 {688}		
	出力／回転数	(kW{PS}/min^{-1})	10.7{14.5}／2,600		
	使用燃料		ディーゼル軽油JIS2号（寒冷時JIS3号）		
	燃料タンク容量	(L)	14		
	始動方式		セルモータ式		
	バッテリー	(V・Ah)	12・32		
走行部	クローラ 幅×接地長	(mm)	330×950		400×1080
	クローラ 中心距離	(mm)	780		760
	クローラ 平均接地圧	(kPa{kgf/cm^2})	12.4 {0.126}		9.7 {0.099}
	変速方式		HST（油圧無段変速）＋副変速3段		
	走行速度（m／sec）	前進	0〜0.52　0〜0.80　0〜1.47		
		後進	0〜0.39　0〜0.60　0〜1.10		
刈取部	刈幅	(mm)	800〜840		
	刈取装置形式		往復動刃式		
	刈取条数	(mm)	2		
	刃幅		800		
	刈取速度		車速同調		
	刈高さ範囲	(mm)	35〜150		
	こぎ深さ調節方式		電動式（自動・手動併用）		
脱穀選別部	脱穀方式		下こぎ軸流式		
	排わら方式		爪付チェン2連		
	こぎ胴 径×幅	(mm)	400×350		
	こぎ胴 回転数	(min^{-1})	560		
	揺動板の幅×長さ	(mm)	410×900		
穀粒処理部	穀粒処理方式		ホッパ袋詰方式		
	ホッパ容量	(L)	100		
	排出口数	(口)	2		
	グレンタンク容量	(L)	ー		
	排出高さ	(mm)	ー		
	排出距離	(mm)	ー		
自動化	自動こぎ深さ制御		○		
	その他の装置		ー	刈取・フィードチェン停止 方向自動制御 操舵微調整	ー
排わら処理方式			カッタ（C215）		
諸装置	警報装置		エンジンオイル、バッテリチャージ、水温、ホッパ満量、排わら詰まり、燃料		
	手こぎ時緊急エンジン停止		○		
	安全装置		エンジン始動セーフティ装置、排わら詰まり自動停止、バックブザー		
	脱穀クリーン装置		フィードチェンオープン、こぎ胴カバーオープン、カッタオープン		
	その他の装置		マルチステアリング、刈取集中注油、定点停止、レセルダマチック		
適用作物全長		(mm)	550〜1200		
倒伏適応性		(度)	追い刈り85・向い刈り70		
作業能率		(min/10a)	36〜96（稲）		
型式検査合格番号			ー		
安全鑑定番号			31080		
小型特殊型式認定番号			農3110		
運転免許			小型特殊自動車		

{ } 内は、SI単位を表示しています。　注.作業時の機体寸法はカッタ作業時の寸法を示す。この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

14. 付表

名称			三菱　VMB215G			
区分			GKC	GZKC	GZKCB	GZAKC
機体寸法	全長 (mm)		2,865			
	全幅 (mm)		1,600			
	全高 (mm)		1,860	1,880		
機体質量（重量）(kg)			870	880	885	880
エンジン	型式名		E269			
	種類		水冷4サイクル2気筒立形ディーゼル			
	総排気量 (L {cc})		0.688 {688}			
	出力／回転数 (kW{PS}/min⁻¹)		10.7{14.5}／2,600			
	使用燃料		ディーゼル軽油JIS2号（寒冷時JIS3号）			
	燃料タンク容量 (L)		14			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリー (V・Ah)		12・32			
走行部	クローラ 幅×接地長 (mm)		330×950			
	クローラ 中心距離 (mm)		780			
	クローラ 平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})		13.6 {0.139}	13.7 {0.140}	13.8 {0.141}	13.7 {0.140}
	変速方式		HST（油圧無段変速）＋副変速3段			
	走行速度 (m／sec)	前進	0〜0.52　0〜0.80　0〜1.47			
		後進	0〜0.39　0〜0.60　0〜1.10			
刈取部	刈幅 (mm)		800〜840			
	刈取装置形式		往復動刃式			
	刈取条数		2			
	刃幅 (mm)		800			
	刈取速度		車速同調			
	刈高さ範囲 (mm)		35〜150			
	こぎ深さ調節方式		電動式（自動・手動併用）			
脱穀選別部	脱穀方式		下こぎ軸流式			
	排わら方式		爪付チェン2連			
	こぎ胴 径×幅 (mm)		400×350			
	こぎ胴 回転数 (min⁻¹)		560			
	揺動板の幅×長さ (mm)		410×900			
穀粒処理部	穀粒処理方式		グレンタンク方式			
	ホッパ容量 (L)		—			
	排出口数 (口)		—			
	グレンタンク容量 (L)		400			
	排出高さ (mm)		665〜3,680	635〜3,750		
	排出距離 (mm)		2,450〜3,200	2,440〜3,300		
自動化	自動こぎ深さ制御		○			
	その他の装置		—			刈取・フィードチェン停止 方向自動制御 操舵微調整
排わら処理方式			カッタ (C215)		短寸切カッタ (CY215)	カッタ (C215)
諸装置	警報装置		エンジンオイル、バッテリチャージ、水温、籾タンク、排わら詰まり、燃料			
	手こぎ時緊急エンジン停止		○			
	安全装置		エンジン始動セーフティ装置、排わら詰まり自動停止、バックブザー			
	脱穀クリーン装置		フィードチェンオープン、こぎ胴カバーオープン、カッタオープン			
	その他の装置		マルチステアリング、刈取集中注油、定点停止、レセルダマチック			
適用作物全長 (mm)			550〜1200	600〜1200		
倒伏適応性 (度)			追い刈り85・向い刈り70			
作業能率 (min/10a)			36〜96（稲）			
型式検査合格番号			—			
安全鑑定番号			31082			
小型特殊型式認定番号			農3110			
運転免許			小型特殊自動車			

{ } 内は、SI単位を表示しています。

注　作業時の機体寸法はカッタ作業時の寸法を示す。この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

名称				三菱　VMB215G	
区分				GZYKC	GZYAKC
機体寸法	全長		(mm)	2,865	
	全幅		(mm)	1,600	
	全高		(mm)	1,880	
機体質量（重量）			(kg)	945	
エンジン	型式名			E269	
	種類			水冷4サイクル2気筒立形ディーゼル	
	総排気量		(L {cc})	0.688 {688}	
	出力／回転数		(kW{PS}/min⁻¹)	10.7{14.5}／2,600	
	使用燃料			ディーゼル軽油JIS2号（寒冷時JIS3号）	
	燃料タンク容量		(L)	14	
	始動方式			セルモータ式	
	バッテリー		(V・Ah)	12・32	
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	400×1080	
		中心距離	(mm)	760	
		平均接地圧	(kPa{kgf/cm²})	10.7 {0.109}	
	変速方式			HST（油圧無段変速）＋副変速3段	
	走行速度（m／sec）	前進		0～0.52　0～0.80　0～1.47	
		後進		0～0.39　0～0.60　0～1.10	
刈取部	刈幅		(mm)	800～840	
	刈取装置形式			往復動刃式	
	刈取条数			2	
	刃幅		(mm)	800	
	刈取速度			車速同調	
	刈高さ範囲		(mm)	35～150	
	こぎ深さ調節方式			電動式（自動・手動併用）	
脱穀選別部	脱穀方式			下こぎ軸流式	
	排わら方式			爪付チェン2連	
	こぎ胴	径×幅	(mm)	400×350	
		回転数	(min⁻¹)	560	
	揺動板の幅×長さ		(mm)	410×900	
穀粒処理部	穀粒処理方式			グレンタンク方式	
	ホッパ容量		(L)	—	
	排出口数		(口)	—	
	グレンタンク容量		(L)	400	
	排出高さ		(mm)	635～3,750	
	排出距離		(mm)	2,440～3,300	
自動化	自動こぎ深さ制御			○	
	その他の装置			—	刈取・フィードチェン停止
					方向自動制御
					操舵微調整
排わら処理方式				カッタ（C215）	
諸装置	警報装置			エンジンオイル、バッテリチャージ、水温、籾タンク、排わら詰まり、燃料	
	手こぎ時緊急エンジン停止			○	
	安全装置			エンジン始動セーフティ装置、排わら詰まり自動停止、バックブザー	
	脱穀クリーン装置			フィードチェンオープン、こぎ胴カバーオープン、カッタオープン	
	その他の装置			マルチステアリング、刈取集中注油、定点停止、レセルダマチック	
適用作物全長			(mm)	600～1200	
倒伏適応性			(度)	追い刈り85・向い刈り70	
作業能率			(min/10a)	36～96（稲）	
型式検査合格番号				—	
安全鑑定番号				31082	
小型特殊型式認定番号				農3110	
運転免許				小型特殊自動車	

{ } 内は、SI単位を表示しています。

注　作業時の機体寸法はカッタ作業時の寸法を示す。この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

■主要諸元

型　　式		C-VMB215	CB-VMB215
機体寸法	全　長（mm）	370	
	全　幅（mm）	1330	
	全　高（mm）	カッタ作業時　850	バラ落とし作業時　770
カッタ質量（重量）（kg）		43	47
切　断　方　式		両刃及びカキコミロータの併用	
刃の径（mm）	主　軸	φ130	
	ロータ軸	φ130	
刃の枚数（枚）	主　軸	12	29
	ロータ軸	12	29
カキコミロータの径（mm）		ロータカブモト……φ146	ロータホサキ……φ146
カキコミロータの枚数（枚）		ロータカブモト……5 ロータホサキ……6	ロータカブモト……8 ロータホサキ……7
切　断　長　さ（mm）		77	30
ワラの排出方式		切断排出及びバラ落とし	

14.2 推奨潤滑油一覧表

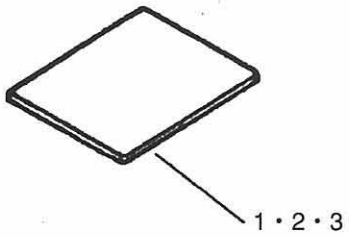
区分		商品名	SAE	API	出荷時充填油
ディーゼルエンジンオイル		ディーゼルエンジンオイル	10W-30	CC	○
ギヤオイル	走行メインギヤケース	U・T・Hオイル	80W		
		ドナックスTD（シェル石油）			○
	こぎ胴ギヤケースオイル	ハイポイドギヤオイル	90		○
一搬グリース		ユニルーフNo.2（協同油脂） 他有名メーカのリチューム系一般グリース			○
燃料		ディーゼル軽油 JIS2号～特3号（3号は厳寒時）			○
不凍液		モービルロングライフクーラント（L.L.C.）（モービル石油）			○
		アンチフリーズ（シェル石油）			
		他有名メーカー品を使用			

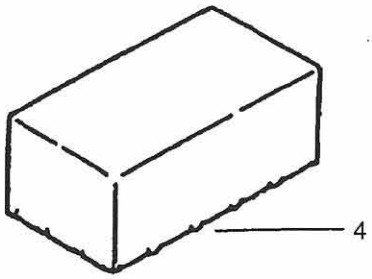
14.3 純正オイル一覧表

区分		商品名	SAE	API	容量	注文コード番号
ディーゼルエンジンオイル		スーパーマルチGDオイル	10W-30	SL/CF	20L	35201 50210
					4L	35201 50231
		スーパーマルチSTŌUオイル	10W-30	CD	20L	35201 50010
					4L	35201 50031
ギヤオイル	走行メインギヤケース	スーパーマルチGBオイル	80W	GL-4	20L	35201 50110
	こぎ胴ギヤケースオイル	スーパーマルチSHPオイル	90	GL-5	20L	35201 50310

14.4 付属工具一覧表

		品　　名	付属個数	備　　考
サービス品	1	取扱説明書	1	
	2	部品内容明細書	1	
	3	保証登録カード（保証書付）	1	
付属部品	4	機体カバー	1	
	5	スペアーキー	1	

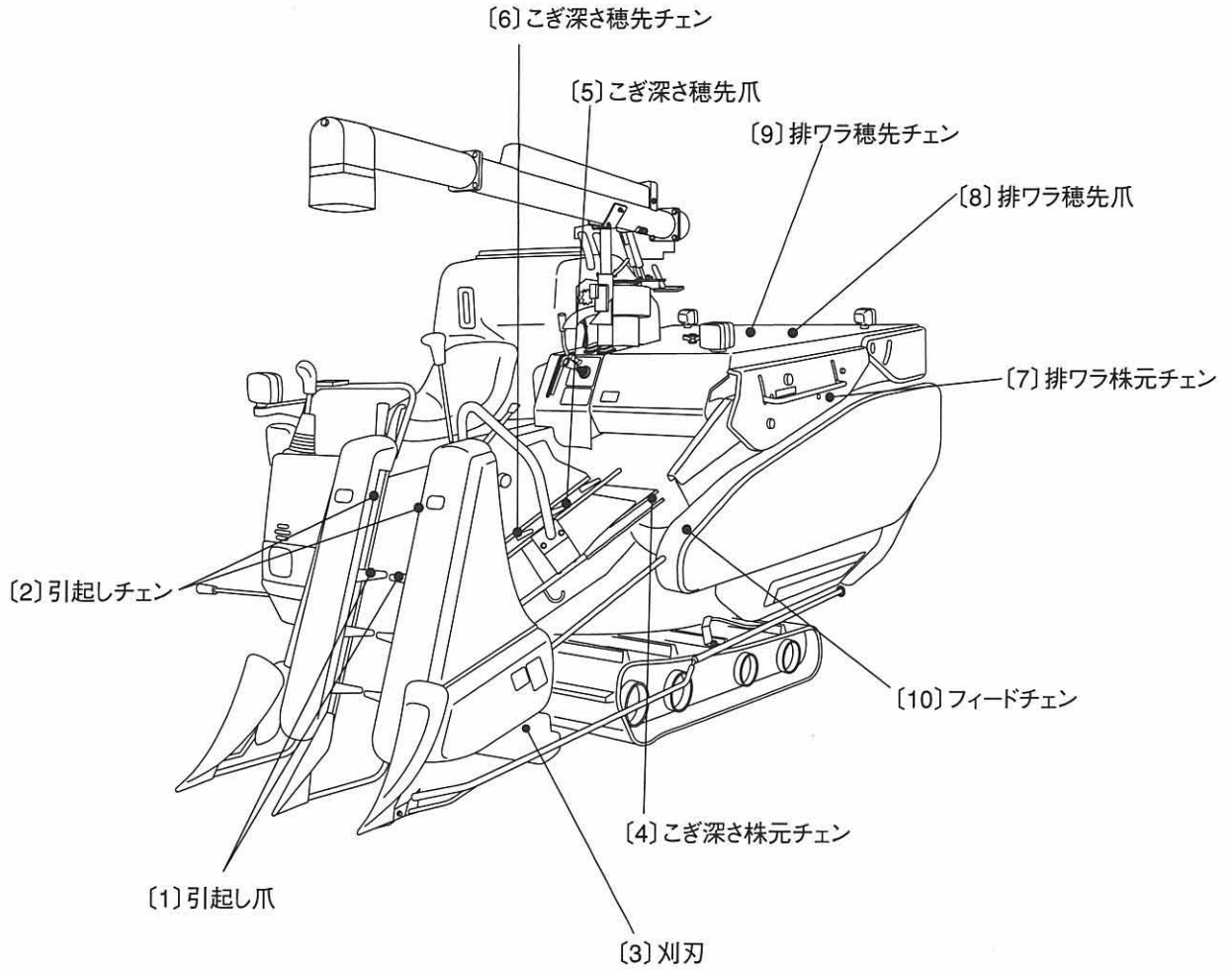






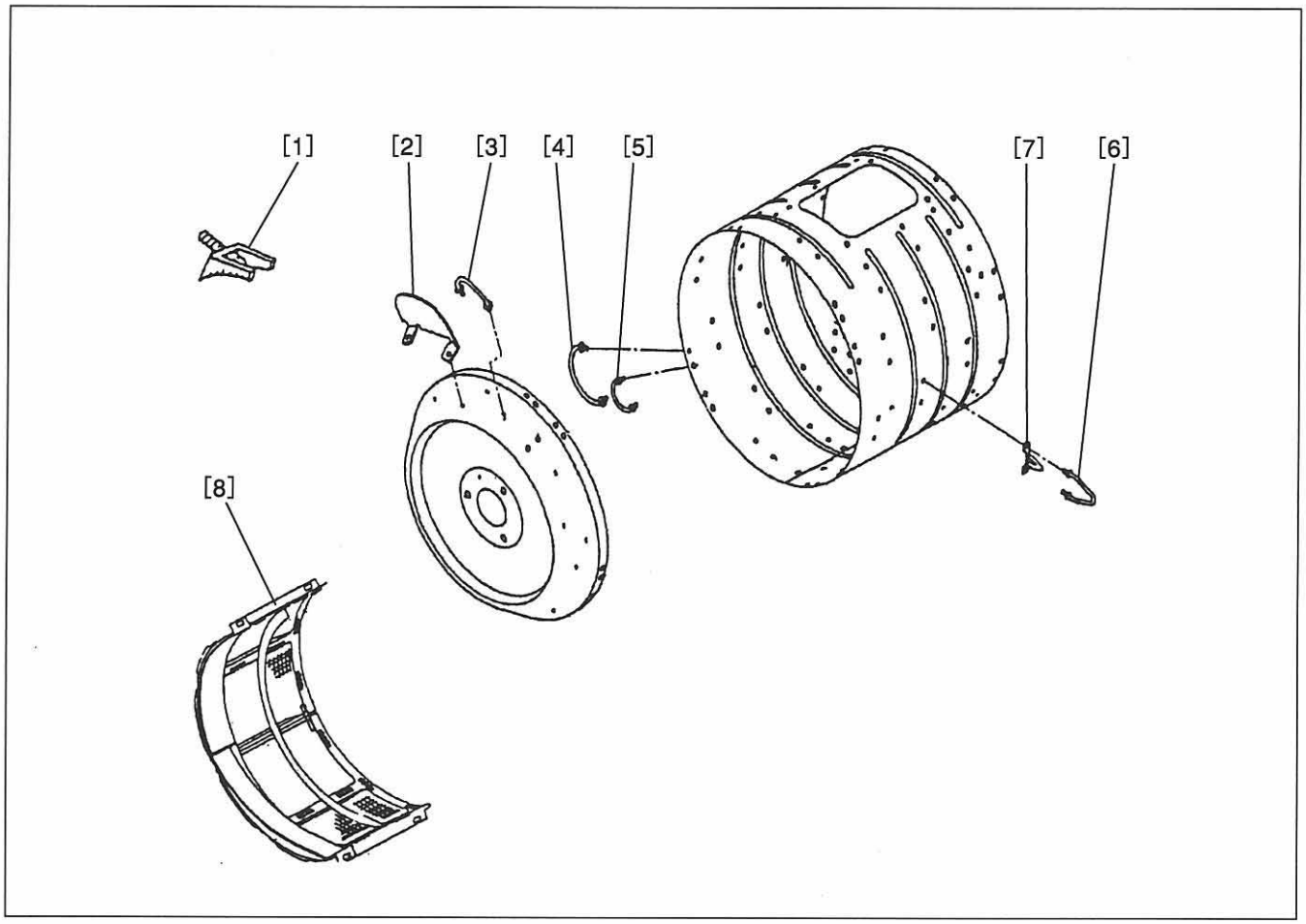
HVB-0395

14.5 主要消耗部品



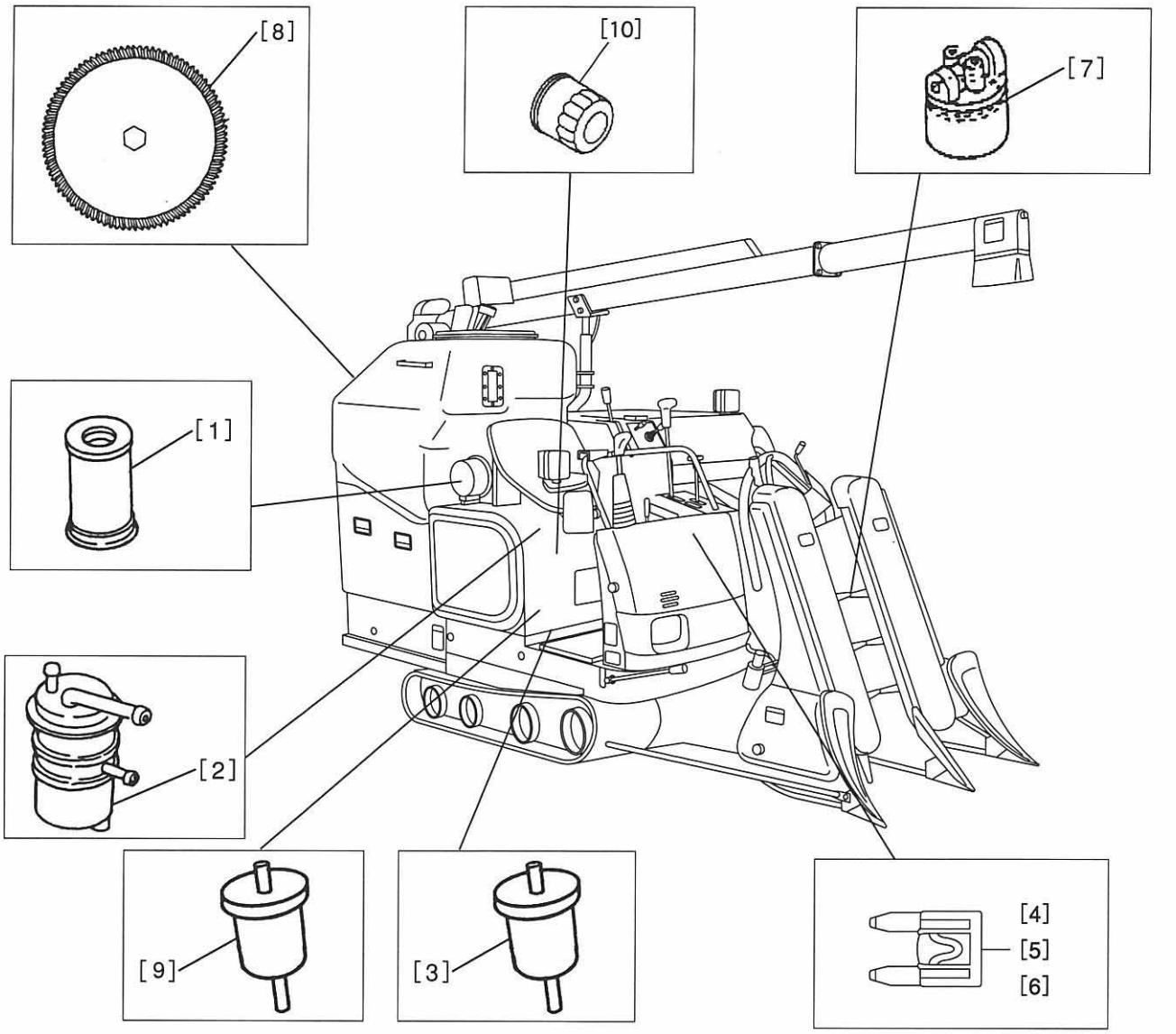
HVB-0396

No.	品　　名	注文コード番号	使用個数／台
[1]	ラグ（ヒキオコシ）	9731 0008 270	18
[2]	ラグ（ヒキオコシ）ASSY	9731 0000 510	2
[3]	ナイフASSY	3684 0000 150	1
[4]	チェン（フィード/33×48）ASSY	9731 0000 520	1
[5]	タイン	9731 0000 590	9
[6]	ラグ（ホサキ）ASSY	3683 0000 150	1
[7]	チェン（フィード/33×61）ASSY	3683 0000 070	1
[8]	タイン	3683 0000 110	10
[9]	チェン（ローラ/96）ASSY	3683 0000 100	1
[10]	チェン（フィード/33×82）ASSY	3684 0000 240	1



HVB-0196

No.	品　　名	注文コード番号	使用個数／台
[1]	キリハ　COMP	9731 0000 630	6
[2]	ツース　(No.2)	9731 0000 300	4
[3]	コギハ　(No.1)	9731 0000 060	4
[4]	コギハ　(No.3)	9731 0000 280	4
[5]	コギハ　(No.6)	9731 0000 290	4
[6]	コギハ　(No.5)	9731 0000 260	48
[7]	コギハ　(ナカ)	3684 0000 180	28
[8]	コンケープ　COMP	3683 0000 090	1



HVB-0397

No.	品　　名	注文コード番号	備　　考
[1]	エレメント　ASSY	9911 0000 750	
[2]	フィルタ（ヒューエル）　ASSY	9731 0000 040	エンジン側
[3]	フィルタ　ASSY	9731 0000 020	燃料タンク側
[4]	ヒューズ（ブレード／32V／10A）	9911 0000 830	
[5]	ヒューズ（ブレード／32V05A）	9950 0000 910	
[6]	ヒューズ（ブレード／32V20A）	9911 0019 040	
[7]	オイル（フィルタ）　ASSY	9731 0000 010	
[8]	カイテンバ（130×17）	9731 0000 680	
[9]	フィルタ（フューエル）ASSY	9731 0000 030	
[10]	カートリッジ（オイルフィルタ）	9911 0000 660	

14.6 オプション一覧

No.	作業機名称	注文コード番号	品名
[1]	補助デバイダ	37813 30030	SP-HS215
[2]	電動給油ポンプ	9731 0001 650	ポンプ（キュウユ）SET
[3]	ノッタ（標準結束）	37101 50010	KN-B215
[4]	ノッタ（穂先結束）	37101 50030	KN-BR215
[5]	スタンド装置	37101 50050	R-KSB215
[6]	ドロッパ	37801 40010	S-H211D
[7]	セーフテイーチャージャー	9731 0000 050	チャージャー（バッテリ／A）SET
[8]	のびーるオーガ先端操作装置	3683 0000 030	オーガ（リモート）SET
[9]	排ワラ延長部品	9731 0000 560	バラオトシ／ワラダシ SET

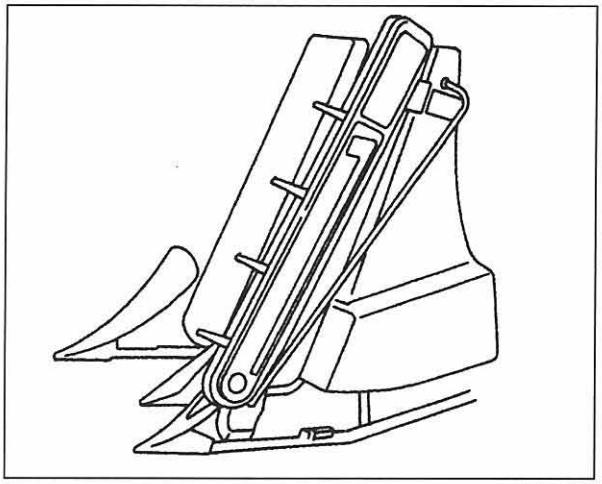
14.7 注文部品の紹介

◆スーパーデバイダ

●倒れた稲も、スイスイ作業できます。

●爪作用高さのワンタッチ切換レバーで
簡単に爪作用高さが換えられます。

注文部品名
SP-HS215

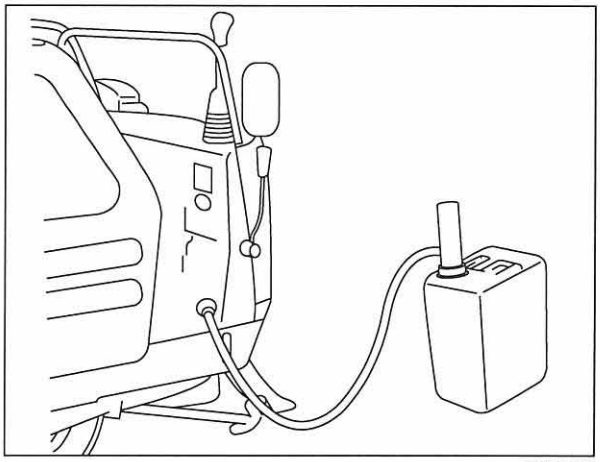


HVB-0398

◆電動給油ポンプ

●電動給油ポンプでらくに給油ができます。

注文部品名
ポンプ（キュウユ）SET

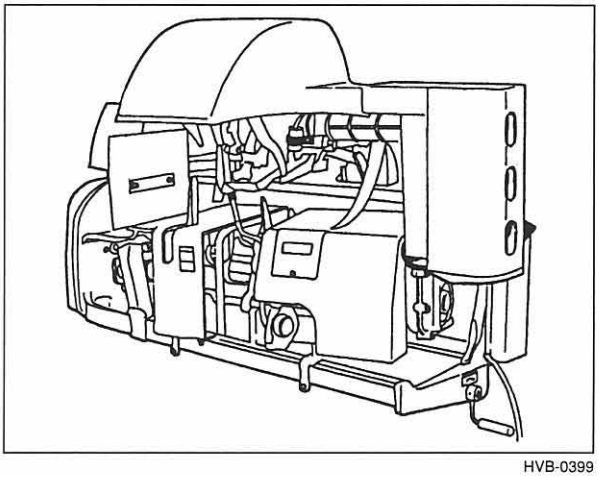


HVB-0199

◆コンバインノッタ（単体）
（標準結束）

束の大きさ	ひも周長480～600m
結束位置 （株元より）	250～550mm （草丈1m）
結束ひも （三菱指定）	ジュート、ＰＰ

注文部品名
KN-B215

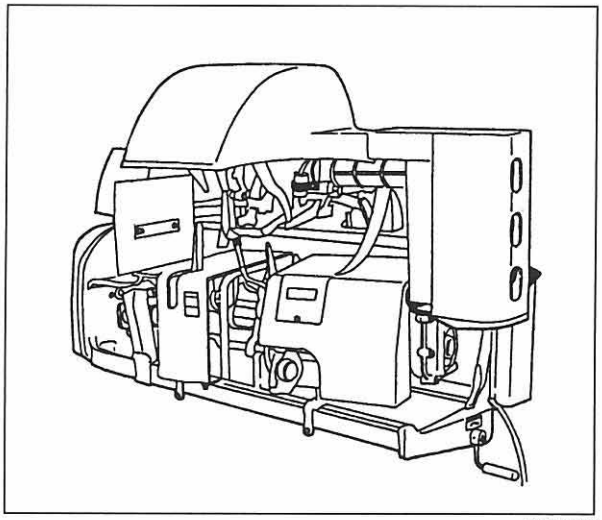


HVB-0399

◆コンバインノッタ（単体）
（穂先結束）

束の大きさ	ひも周長480～600m
結束位置 （株元より）	350～650mm （草丈1m）
結束ひも （三菱指定）	ジュート、ＰＰ

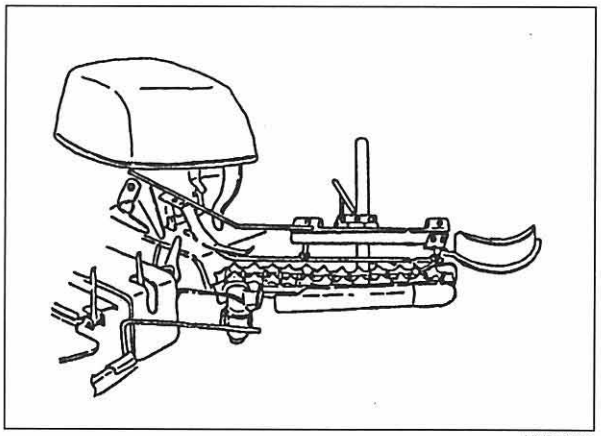
注文部品名
KN-BR215



HVB-0399

◆スタンド装置
KN-BR215型のみ装着可

注文部品名
R-KSB215

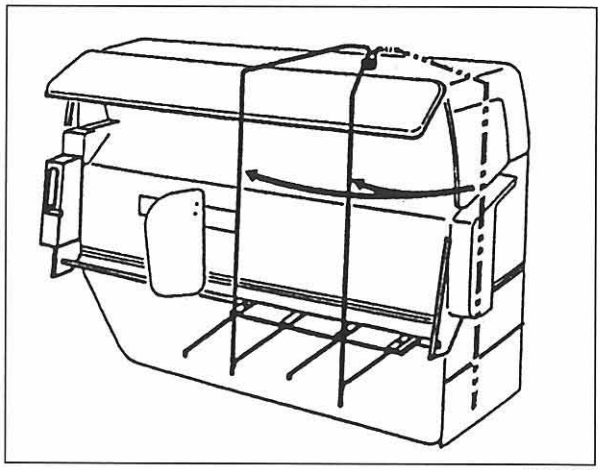


HVB-0400

◆ドロッパ（単体）

集　束　量	3～7kg

注文部品名
S-H211D

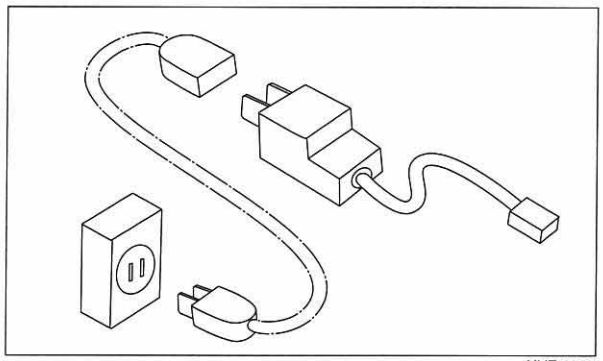


HVB-0200

◆セーフティーチャージャー

●本格収納時、家庭用電源（AC100V）を使用してバッテリに電流を供給し放電防止および穂充電ができます。

注文部品名
チャージャー(バッテリ／A)SET



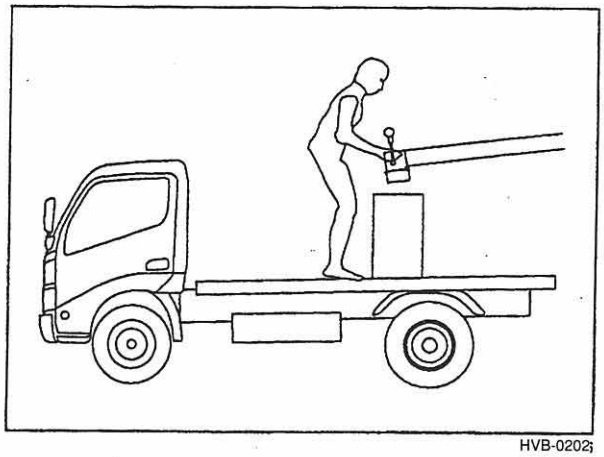
HVF-0287

◆のびーるオーガ先端操作装置

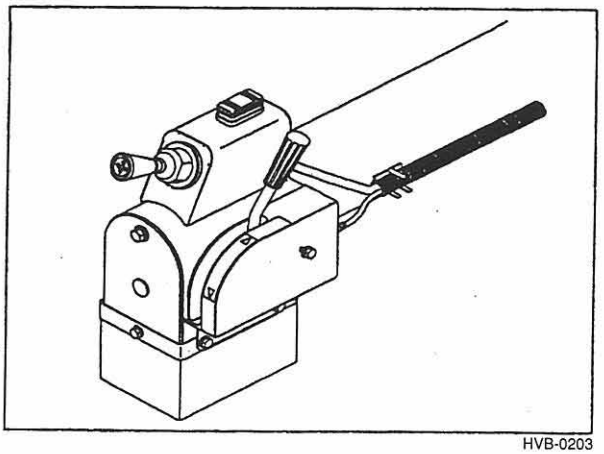
（電動のびーるオーガ仕様機のみ装着可）

電動のびーるオーガ先端部に、籾排出クラッチとオーガ上下、左右、伸縮スイッチを装着し、オーガ先端で籾袋取り作業が1人で行えます。

注文部品名
オーガ（リモート）SET



HVB-0202

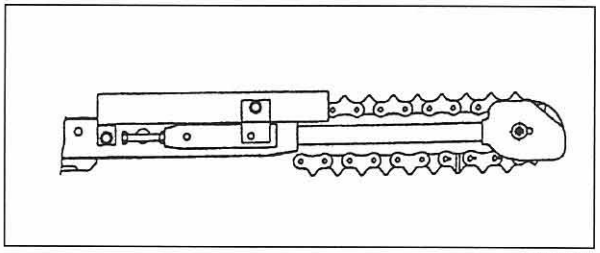


HVB-0203

◆排ワラ延長部品

長ワラ落下作業でワラ落下位置を右によせることができます。

注文部品名
バラオトシ／ワラダシSET



HVB-0204

純正部品を使いましょう。

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式 _____

機械番号(製造番号) _____

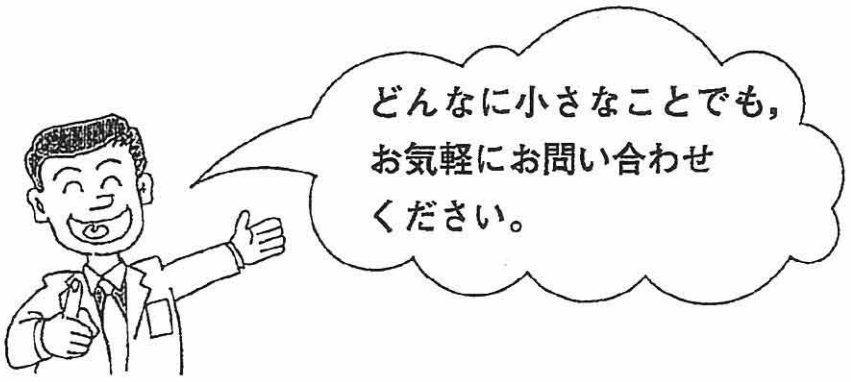
●ご使用状況は…？

(どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先 _____

TEL　　(　　) _____